

61 技—073

計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL (Basic Verbs)

—— 解 説 編 ——

昭和 62 年 3 月

情報処理振興事業協会
技 術 セ ン タ ー

まえがき

本書は「計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs) 辞書編」の枠組みを呈示するためのものである。

辞書の利用に必要な諸定義をできるだけ例をあげ解説的に書いたが、枠組みの理論的背景などについては本書では詳しく触れていない。関心のある方は巻末に掲げた参考文献をお読み頂きたい。特に、IPALを補完する文法規則については、「ソフトウェア文書のための日本語処理の研究 - 8 IPAL 補完文法」を御参照願いたい。

本書は下記の担当者が素案を作成し、WG 委員会で討論の上まとめたものである。

| | |
|--------------------|--------------|
| ・ 計算機用日本語基本辞書の概要 | 村田 賢一, 村木新次郎 |
| ・ 見出しに関する情報 | 村木新次郎, 橋本三奈子 |
| ・ 意味に関する情報 | |
| 意味記述, 関連語, シソーラス | 荻野 綱男, 野口美和子 |
| 意味分類 | 成田 徹男 |
| ・ 形態に関する情報 | 中道 知子, 清沢 美恵 |
| ・ 統語に関する情報 | 村木新次郎, 井口 厚夫 |
| ・ 動詞の文法的カテゴリに関する情報 | |
| ヴォイス | 外池 滋生, 山本 清隆 |
| テンス・アスペクト | 仁田 義雄, 栗木 勝規 |
| ムード | 久保 進, 堤 正典 |
| ・ その他の情報 | 橋本三奈子 |
| ・ 辞書の読み方 | 須田 直英, 山本 清隆 |
| ・ 見出し一覧 | 須田 直英 |

なお、出版にあたって、全体の調整を橋本三奈子と山本清隆が行った。

辞書のシソーラス記述にあたっては、大野晋・浜西正人著「角川類語新辞典」(角川書店)および国立国語研究所:林大他著「分類語彙表」(秀英出版)を参照させて頂いた。関係各位の御好意に、記して感謝の意を表したい。

本書および辞書編の出版に際しては、最善を尽し遺漏のないように努めたつもりではあるが、思わぬ不備や誤脱を免れないかと思う。今後の研究の発展のために、各位から忌憚のない御意見や御教示を賜われれば幸いである。

情報処理振興事業協会

技術センター

目次

まえがき

目次

| | |
|------------------------|----|
| ． 計算機用日本語基本動詞辞書の概要 | 1 |
| 1. 研究概要 | 1 |
| 2. 辞書記載項目 | 2 |
| ． 見出しに関する情報 | 3 |
| 1. エントリ | 3 |
| 2. サブエントリ | 3 |
| 3. 活用例 | 5 |
| 4. 語幹 | 5 |
| 5. 「見出しに関する情報」の記載例 | 5 |
| ． 意味に関する情報 | 6 |
| 1. 意味記述 | 6 |
| 2. 関連語 | 6 |
| 2. 1. 上位語 | 6 |
| 2. 2. 類義語 | 7 |
| 2. 3. 反義語 | 7 |
| 3. シソーラス (thesaurus) | 8 |
| 4. 動詞の意味的分類 | 10 |
| 4. 1. 分類名称とこの意味および分類基準 | 10 |
| 4. 2. 分類の原則 | 14 |
| 4. 3. 「動詞の意味的分類」の記載例 | 15 |
| 5. 「意味に関する情報」の記載例 | 15 |
| ． 形態に関する情報 | 16 |
| 1. 活用例 | 16 |
| 2. 語幹 | 18 |
| 3. 表記 | 19 |
| 4. 自動詞と他動詞 (自他) | 20 |
| 5. 異音同語 | 21 |
| 6. 派生 | 21 |
| 6. 1. 可能 | 21 |
| 6. 2. 使役 | 22 |
| 6. 3. 対応する自動詞と他動詞 | 22 |
| 6. 4. 転成 | 22 |
| 7. 「形態に関する情報」の記載例 | 23 |
| ． 統語に関する情報 | 25 |
| 1. 文型と文例 | 25 |
| 1. 1. 当辞書における文型 | 25 |
| 1. 2. 文型で扱う対象 | 25 |
| 1. 3. 格形式について | 26 |
| 1. 4. 係助詞・副助詞について | 26 |
| 1. 5. 格形式の交替 | 27 |
| 1. 6. 「と」について | 27 |
| 1. 7. 動詞の形態の制限 | 28 |
| 1. 8. 文例 | 28 |
| 1. 9. 「文型と文例」の記載例 | 29 |

| | |
|--|----|
| 2. 名詞句と意味素性 | 29 |
| 2.1. 名詞句 | 29 |
| 2.2. 名詞の意味素性 | 29 |
| 2.3. 意味素性間の包含関係（[COM][ABS]について） | 31 |
| 2.4. [DIV]について | 31 |
| 2.5. 「名詞句と意味素性」の記載法と記載例 | 31 |
| 3. 述語素 | 32 |
| 3.1. 述語素の概要 | 32 |
| 3.1.1. 動詞と名詞句との関係 | |
| 3.1.2. 名詞句同士の関係：全体一部分の関係 (N _j Ni) | |
| 3.1.3. 述語素とその意味 | |
| 3.2. 述語素の説明 | 35 |
| 3.2.1. 述語素の格形式による制限 | |
| 3.2.2. 述語素の定義 | |
| 3.2.3. 述語素とその文例 | |
| 3.2.4. 記述の実例 | |
| 3.3. 「述語素」の記載法と記載例 | 42 |
| 4. 「統語に関する情報」の記載例 | 44 |
| . 動詞の文法的カテゴリに関する情報 | 45 |
| 1. ヴォイス情報 | 45 |
| 1.1. ヴォイスとは | 45 |
| 1.2. 当辞書におけるヴォイス | 46 |
| 1.3. サセル形 使役 | 46 |
| 1.3.1. ヲ使役, 二使役 | |
| 1.3.2. ガ・ガ構文の使役 | |
| 1.3.3. 「サセル形」の記載法と記載例 | |
| 1.4. ラレル形 受動, 可能, 自発, 尊敬 | 48 |
| 1.4.1. 受動 直接受動, 間接受動 | |
| 1.4.2. 直接受動の主語 | |
| 1.4.3. 可能, 自発, 尊敬 | |
| 1.4.4. 「ラレル形」の記載法と記載例 | |
| 1.5. ヴォイスによる動詞の分類 形動, 相互, 中動, 受動 | 52 |
| 1.5.1. 分類の基準 | |
| 1.5.2. 能動 | |
| 1.5.3. 相互 | |
| 1.5.4. 受動 | |
| 1.5.5. 中動 | |
| 1.5.6. 「ヴォイスによる動詞の分類」の記載法と記載例 | |
| 1.6. 「ヴォイス情報」の記載例 | 55 |
| 2. テンス・アスペクト情報 | 56 |
| 2.1. テンスとは | 56 |
| 2.2. アスペクトとは | 56 |
| 2.3. 当辞書におけるテンス・アスペクト情報 | 57 |
| 2.4. ル形 テンス | 57 |
| 2.4.1. 現在, 未来 | |
| 2.4.2. 「ル形」の記載法と記載例 | |
| 2.5. テイル形 | 58 |
| 2.5.1. 単純状態, 進行, 結果残存, 経験・完了 | |
| 2.5.2. 「テイル形」の記載法と記載例 | |
| 2.6. その他のアスペクト形式 | 60 |
| 2.6.1. テイク形, テクル形, ツツアル形 | |
| 2.6.2. テシマウ形 | |
| 2.6.3. カケル形 | |

| | |
|------------------------------|----|
| 2.6.4. ハジメル形, ダス形 | |
| 2.6.5. ツツケル形 | |
| 2.6.6. オワル形 | |
| 2.6.7. テアル形 | |
| 2.6.8. 「その他のアスペクト形式」の記載例 | |
| 2.7. 「テンス・アスペクト」の記載例 | 65 |
| 3. ムード情報 | 65 |
| 3.1. ムードとは | 65 |
| 3.2. 当辞書におけるムード情報 | 66 |
| 3.3. 命令形(エ/ロ・ヨ) | 67 |
| 3.3.1. 命令, 願望 | |
| 3.3.2. 「命令形」の記載法と記載例 | |
| 3.4. 意思・推量形(ウ/ヨウ) | 69 |
| 3.4.1. 意思・勧誘, 推量 | |
| 3.4.2. 「意思・推量形」の記載法と記載例 | |
| 3.5. その他のムード形式 | 70 |
| 3.5.1. タイ・タガル形, ナサイ形, ナ形 | |
| 3.5.2. 「その他のムード形式」の記載法と記載例 | |
| 3.6. ムードによる動詞分類 1, 2, 3a, 3b | 71 |
| 3.6.1. 分類の基準 | |
| 3.6.2. 「ムードによる動詞の分類」の記載法と記載例 | |
| 3.7. その他 | 73 |
| 3.7.1. マス形, ナイ形 | |
| 3.7.2. 「その他」の記載法と記載例 | |
| 3.8. 「ムード情報」の記載例 | 74 |
| 4. 「動詞の文法的カテゴリに関する情報」の記載例 | 75 |
| . その他の情報 | 76 |
| 1. 慣用的表現 | 76 |
| 2. 備考1 | 77 |
| 3. 備考2 | 78 |
| 4. 「その他の情報」の記載例 | 79 |
| . 辞書の読み方 | 80 |
| 1. 記述内容一覧 | 80 |
| 2. 実際の例 | 82 |
| . 見出し一覧 | 84 |

参考文献

あとがき

．計算用日本語基本動詞辞書の概要

1. 研究概要

「計算機用日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic Verbs)」は特別認可法人情報処理振興事業協会 (I P A) 技術センター (所長 : 三宅信弘) における「ドキュメント作成のための日本語辞書の調査」および「計算機理解のための日本語辞書の調査」プロジェクトにおいて、計算機による日本語処理を目的として試作された辞書である。 I P A では、現在これをマシン・リーダブルな形にして、磁気テープ巻に収めたものを実費で提供している。

(注) I P A : Information-technology Promotion Agency, Japan
I P A L : I P A Lexicon of the Japanese Language for computers

このプロジェクトは、昭和 5 6 年に村田賢一特別研究員をプロジェクトリーダーとして開始された。村田は、辞書作成に必要な指導助言を行うと同時に、これと並行して行われた種々の調査研究の指揮の任にあたった。プロジェクトが進行する過程で、六条範俊 (昭和 5 7 年 9 月 ~ 6 0 年 8 月)、橋本三奈子 (昭和 5 9 年 7 月 ~)、須田直英 (昭和 6 0 年 9 月 ~) が研究員として村田を補佐した。

辞書の執筆項目、記述の枠組み、作業手順などの重要事項は、Working-Group 委員会 (W G 委員のほか研究員および臨時 W G 委員が参加し、月 1 回ないし 2 回の割合で開催) で討議を重ねて決定した。特に重要な動詞の執筆および校閲は、主として W G 委員が行った。執筆項目に関しては、W G 委員による分野担当という制度をとった。

W G 委員およびその主要およびその主要担当分野は以下の通りである。

村木 新次郎 (主査 , 国立国語研究所言語体系研究部第一研究室室長 :
統語に関する情報)
荻野 綱雄 (埼玉大学教養学部講師 : 意味情報)
久保 進 (松山商科大学経済学部助教授 : ムード情報)
外池 滋生 (明治学院大学文学部助教授 : ヴォイス情報)
中道 知子 (東京外国語大学非常勤講師 : 形態に関する情報 ,
昭和 5 8 年 1 2 月 ~)
成田 徹男 (名古屋市立保育短期大学講師 : 意味情報)
仁田 義雄 (大阪女子大学学芸学部国文科助教授 :
テンス・アスペクト情報)

さらに、I P A L 作成に伴う諸作業 執筆、校正、説明書の作成など は、以下の臨時 W G 委員が W G 委員の指導のもとに行った。

| | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 青山文啓 (昭和 5 9 年 3 月 ~) | 井口厚夫 (昭和 6 0 年 4 月 ~) |
| 出穂澄子 (昭和 6 0 年 2 月 ~ 8 月) | 加藤安彦 (昭和 5 9 年 7 月 ~ 9 月) |
| 清沢美恵 (昭和 6 0 年 3 月 ~) | 栗木勝規 (昭和 6 0 年 4 月 ~ 6 1 年 1 月) |
| 小島幸子 (昭和 5 7 年 6 月 ~) | 堤 正典 (昭和 5 9 年 7 月 ~) |
| 外池利幸 (昭和 5 7 年 6 月 ~ 5 9 年 7 月) | 永田高志 (昭和 5 9 年 9 月 ~ 6 0 年 6 月) |
| 沼田善子 (昭和 5 7 年 6 月 ~ 8 月) | 野口美和子 (昭和 5 9 年 7 月 ~ 6 1 年 9 月) |
| 森 由紀 (昭和 5 9 年 7 月 ~ 6 0 年 1 月) | 矢萩悦啓 (昭和 6 0 年 4 月 ~) |
| 山本清隆 (昭和 5 7 年 6 月 ~) | 吉野博子 (昭和 5 9 年 3 月 ~ 6 0 年 1 月) |

また、コンピューターのプログラミングと操作を、玉井陽子 (昭和 6 0 年 2 月 ~)、長島みどり (昭和 5 8 年 6 月 ~)、山田洋子 (昭和 6 0 年 5 月 ~) が担当した。

この他に、計算機入力をはじめとする各種の補助作業については、多数の学生諸氏 (延べ 1 5 名) の協力を得た。

I P A L の研究にあたっては、Consulting Group 委員会 (主査、水谷静夫東京女子大学教授) のご指導を賜った。また、林大先生 (前国立国語研究所所長) には、オプザーバーとして機会あるごとに貴重なご教示を頂戴した。その他にも、多くの方々にお世話になった。深甚なる敬意と謝意を表したい。

2. 辞書記載項目

I P A L は、日本語の動詞において語彙体系上ならびに使用頻度上重要であると考えられる基本的な和語動詞について、意味および統語的特長に基づいて下位区分し、それを一つの単位として、意味、形態、統語、文法的カテゴリ、慣用表現などに関わる情報を出来るだけ詳細に記述したものである。

記載項目については計算機による日本語処理に必要な不可欠なものを優先した。ただし、一部には探索的に取り上げた記載項目も含まれている。

I P A L に盛り込まれている情報は、表 1 「記載項目一覧」の通りである。各情報については ~ 章で詳しく説明する。

表 1 「記載項目一覧」

| | | |
|------------------|--|---|
| 1. 見出し情報 | <ul style="list-style-type: none"> <1> エントリ <2> 同音意義番号 <3> サブエントリ No | 動詞終止形のひらがなによる表記 同音意義語を区別するための番号 何番目の下位区分かを示す番号 |
| 2. 意味情報 | <ul style="list-style-type: none"> <4> 意味記述 <5> 関連語 <6> シソーラス <7> 意味分類 | 語彙的意味 上位語、類義語、反義語 既存のシソーラスの分類名称、コード 動詞の意味分類 |
| 3. 形態情報 | <ul style="list-style-type: none"> <8> 活用型 <9> 語幹 <10> 表記 <11> 自他 <12> 異音同語 <13> 派生 <14> 転成 | 語形変化の型 語幹のローマ字表記 漢字とおくり仮名による表記 自動詞、他動詞の区別 サブエントリの異形態 助動詞・接辞が接続した形 他の品詞への転成語 |
| 4. 統語情報 | <ul style="list-style-type: none"> <15> 文型 <16> 文例 <17> 述語素 <18> 意味素性 <19> 名詞句 | 動詞がとる格形式のパターン その文型の例文 動詞の統語的特長 名詞句の意味分類 名詞句の例 |
| 5. ヴォイス | <ul style="list-style-type: none"> <20> サセ形 <21> ラレ形 <22> 格形式の交替 <23> タイプ | ヲ使役、ニ使役の有無 ラレ形の有無とその意味 受動になる時の格形式の交替 ヴォイスによる動詞の分類コード |
| 6. テンス ・アスペクト | <ul style="list-style-type: none"> <24> ル形 <25> テイル形 <26> その他の形式 | ル形の有無とその意味 テイル形の有無とその意味 その他の形式の有無 |
| 7. ムード | <ul style="list-style-type: none"> <27> 命令形 <28> 意志形 <29> その他の形式 <30> タイプ | 命令形の有無とその意味 意志形の有無とその意味 その他の形式の有無 ムードによる動詞の分類コード |
| 8. その他の情報 | <ul style="list-style-type: none"> <31> 慣用 <32> 備考 1 <33> 備考 2 | 慣用的用法の他の情報 1. ~ 3. に関して特記すべきこと 4. ~ 7. に関して特記すべきこと |

見出しに関する情報

I P A L は、日本語の動詞のうちで語彙体系上ならびに使用頻度上重要であると考えられる基本的な和語動詞 861 語を取り上げた。

この辞書では、見出しに関して「エントリ」と「サブエントリ」という二つの用語を用いる。

1. エントリ

エントリとは、一般の辞書に示されている、いわゆる見出し語にあたるもので、ひらがな表記で記載してある。「あおぐ」「あむ」「あがる」「あげる」「あう」などが、それぞれエントリの例である。

エントリのたて方の原則は以下の通りである。

1. 同音異義語、例えば「しめる」における「締める」「湿る」「占める」は、一つのエントリとせず別エントリとして収録している。その場合、それぞれを区別するために、
、
、
... .. という番号をつけている（ただし、同音異義語のエントリがない場合、
はつけていない）。
2. 1. に対して、「締める」「閉める」「緊める」「絞める」「搾める」はある一つの語の異表記とみなし、一つのエントリとして収録している。

なお、このエントリのたて方に際しては、「新明解国語辞典」(三省堂)の見出し語のたて方を参考にした。

| (例) エントリ | 表 | 記 |
|----------|-----|-----------------|
| しめる | 締める | 閉める、緊める、絞める、搾める |
| しめる | 湿る | |
| しめる | 占める | |

エントリは、原則として五十音順に排列されているが、同一かなの中では次の排列に従っている。

- ・清音 濁音 半濁音
- ・直音 促音(「っ」)
- ・直音 拗音(「ゃ」「ゅ」「ょ」)

2. サブエントリ

エントリを、意味および統語的特徴に基づいて下位区分したものをサブエントリと呼ぶ。ここでいう、意味に基づく下位区分とは、個々の動詞がもっている複数の語彙的意味によってその動詞を分類することをさす。したがって、語彙的意味が異なれば、一つのエントリから複数のサブエントリが得られることになる。

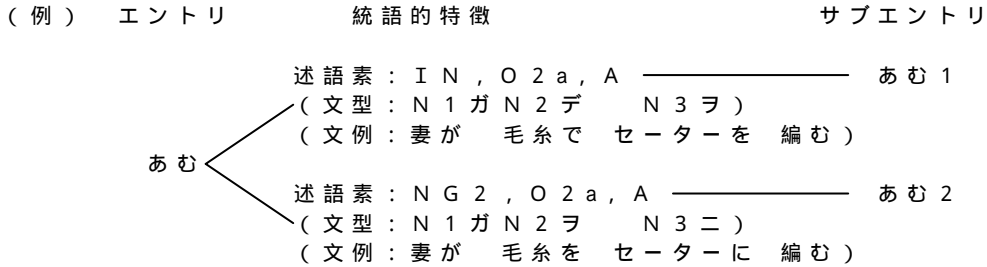
ここで「あおぐ(仰ぐ)」を例にとると、以下に示すように、四つの異なる意味が認められ、その結果、四つのサブエントリが得られる。この場合、それぞれを区別するために 1、2、3、... .. という番号をつける(複数のサブエントリがない場合でも、1 をつける)。

| (例) エントリ | 意味 | サブエントリ |
|-------------|-----------|--------|
| あおぐ (仰ぐ) | <みあげる> | あおぐ 1 |
| | <うやまう> | あおぐ 2 |
| | <もとめる> | あおぐ 3 |
| | <上をむいて飲む> | あおぐ 4 |

次に、統語的特徴とは、当該の動詞と共起する名詞の格形式(~ガ、 ~ヲ、 ~ニ など) をベースにして、それに名詞句や動詞の意味素性をかぶせて得られた「述語素」をさし、

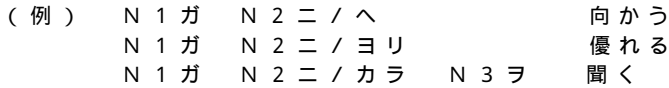
この「述語素」の組み合わせをもって、動詞の統語的特長を代表させる。(この「述語素」については、「統語に関する情報 3.述語素」で詳しく説明する)。

「あむ(編む)」という動詞を例にとると、その意味の一つに<細長いものを互い違いに組み合わせて形あるものをつくる>がある。ところが、この意味には以下に示すような二つの異なる統語的特徴(述語素)が認められ、その結果、二つのサブエントリが得られる。

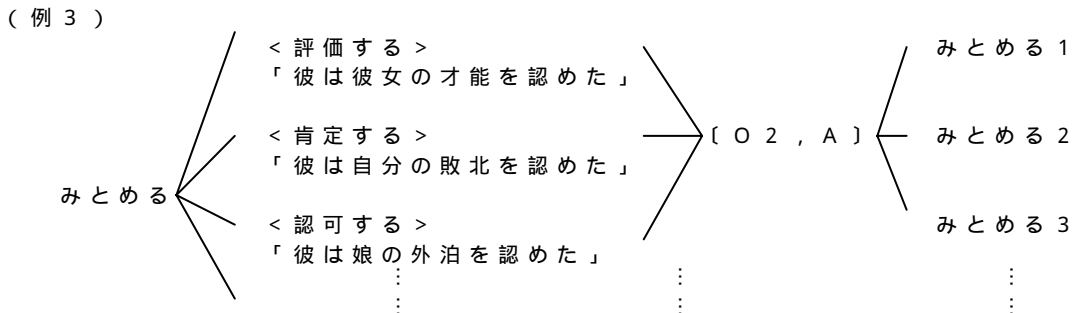
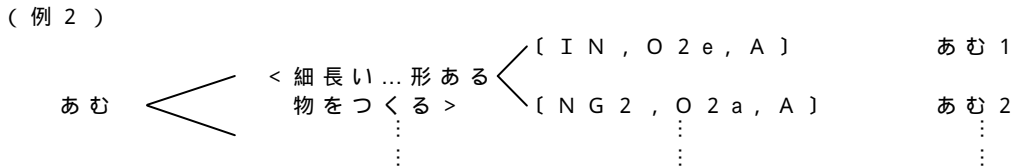
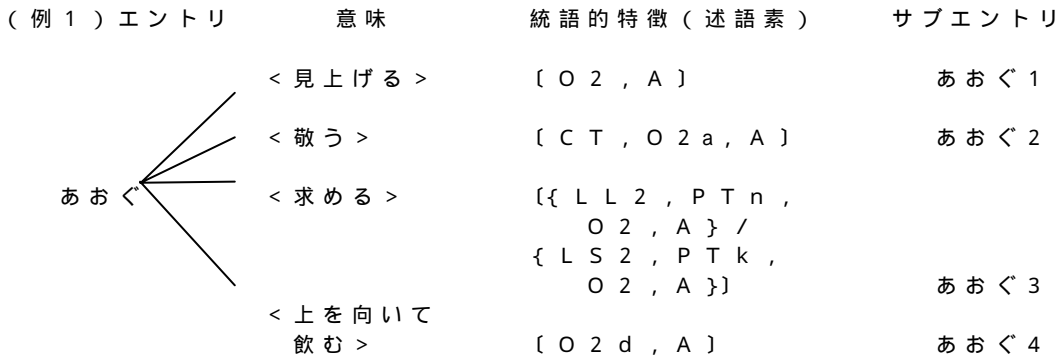


このように、個々のエントリについて、意味および統語的特徴の少なくともいずれか一方に相違が認められれば、別のサブエントリとなる。

ただし、動詞の意味が同一であって、共起する名詞のうち一つの名詞に限って格形式に交替がみられる、以下のような例については、二つの異なるサブエントリとはせず、一つのサブエントリとする(1.文型と文例参照)。



意味と統語的特徴は相互に依存し、一方の違いが他方の違いとして現われる場合(例1)もあれば、他から独立している場合、(例2、例3、)もある。



3 . 活用型

エントリの動詞の活用型を示す。これは本来、形態情報であるが、どのサブエントリにも共通するので、便宜上エントリと並べて記載してある。詳細な説明は、「 . 形態に関する情報 1. 活用型」参照のこと。

4 . 語幹

エントリの動詞の語幹をローマ字で示す。これも本来、形態情報であるが、どのサブエントリにも共通するので、便宜上エントリと並べて記載してある。詳細な説明は、「 . 形態に関する情報 2. 語幹」を参照のこと。

5 . 「見出しに関する情報」の記載例

見出しに関する情報は、当辞書では次のように記載されている。

| | |
|---------|---------------|
| 〔 記載例 〕 | |
| あやまる | 五段 ayamar |
| 1 | ----- 略 ----- |
| | |
| あやまる | 五段 ayamar |
| 1 | ----- |
| 2 | ----- |
| 3 | ----- |
| 4 | ----- |
| | |
| あらう | 五段 araw |
| 1 | ----- |
| | ----- |

意味に関する情報

1. 意味記述

この情報は計算機向けとしてではなく人間向けとして、サブエントリの意味を分かりやすく説明したものである。同一エントリ中のサブエントリそれぞれの意味を区別するために記述したもので、市販の国語辞書のように記述したものではない。動詞の意味は同じでも、格構造もしくは述語素が異なるためにサブエントリが二つ以上に分かれている場合(例2)については、意味が異なるためにサブエントリが分かれている場合(例1)と区別するために、意味記述の欄に同一の記述がしてある。

| | | | |
|------|----------|-----|---------------------|
| (例1) | 1(彼が二階に) | あがる | 生き物が上方に移動する。 |
| | 2(花火が) | あがる | 物が上方に移動する。 |
| | 3(試験で) | あがる | 興奮状態に陥る。 |
| | 4(昼食を) | あがる | 「食べる」「飲む」「喫う」の尊敬表現。 |
| | ⋮ | ⋮ | ⋮ |

| | | | |
|------|------------|----|-----------------|
| (例2) | 1(卵を) | 孵す | 卵からひな(子)を誕生させる。 |
| | 2(卵からひよこを) | 孵す | 卵からひな(子)を誕生させる。 |
| | ⋮ | ⋮ | ⋮ |

2. 関連語

サブエントリと意味的関連を持つ語として上位語・類義語・反義語を取り上げ、以下の方針に従って漢字仮名交じりで記載してある。漢字の読みの難しいものはカッコ内にその読みを示した。ただし、関連語の選択は厳密なものではなく、当該サブエントリの意味を特定するための手掛かりとして記載したものである。また、関連語が考えにくい場合には、無理に記載していない。

記載の原則は、以下の通りである。

1. 関連語として記載する品詞は原則として動詞に限定している。したがって、「ある」の反対語として「ない」を記載していない。
2. 関連語として記載する動詞は、当該サブエントリと自他が一致するものに限定している。
3. 当辞書のエントリだけではなく、エントリ以外の和語動詞、複合動詞、漢語サ変動詞なども記載の対象とする。ただし、文や慣用句などは記載していない。
4. 当該サブエントリの語義だけを考え、目的語などは考慮しない。したがって、例えば「つく」の一用法としての「帰途につく」の類義語として「帰る」は記載していない。これは、「帰る」が「つく」の類義語ではなく、「帰途につく」全体の類義語だからである。
5. 受身形や使役形はなるべく使わない。ただし、他に該当する動詞がない場合に限り、それらの形で記載していることがある。
6. 当該サブエントリに他の動詞を置き換えた場合に、当該サブエントリが取りうる名詞句の一部について共起が成立すれば、関連語として記載する。したがって、当該サブエントリが取りうる名詞句全体について、関連語とサブエントリの間で共起が成立するとは限らない。また、それらの名詞句の後ろにつく助詞も、サブエントリと関連語の間で、必ず一致するとは限らない。

2.1. 上位語

二つの語が相対的に包摂関係、すなわち「一般」対「特殊」の関係にあるとき、その二語は上下関係を構成する。そのときに、より一般的な広い意味を持つ語を上位語と呼

ぶ。

すなわち、上位語と下位語との間には、

下位語 上位語 + 限定・修飾・制約
ex. 謀殺する 殺す + 謀り事を用いて計画的に
歩く 移動する + 足を交互に動かして

という関係が成立する。このため、上下関係にある語を相互に置き換える際には、下位語 上位語の方向には置き換えがほとんど自由に行えるが、上位語 下位語の方向の置き換えについては、複数の下位語の中から上式中の(限定・修飾・制約)部分の内容と当該上位語の用いられている場面の条件とが一致する語を選択する必要がある。したがって、サブエントリと他の語とを相互に置き換える状況で、サブエントリからその語への置き換えは自由だが、その語からサブエントリへの置き換えは自由にはできないような場合には、その語をサブエントリの上位語として取り出す、などの方法を用いて該当語を捜した。

(例1) 彼は国王を謀殺した。 彼は国王を殺した。
* 彼は発作的に人を謀殺した。 彼は発作的に人を殺した。
上位語：殺す
下位語：謀殺する

(例2) 彼が廊下を歩く。 彼が廊下を移動する。
* ロケットが発射台へ歩く。 ロケットが発射台へ移動する。
上位語：移動する
下位語：歩く

また、「食べる」に対する「(口の中に食べ物を)入れる」、「(食べ物を)咀嚼する」、「(食べ物を)飲み込む」のような

一つの動詞 = 順序を持った複数の動詞の並び
食べる = (口の中に)入れる 咀嚼する 飲み込む

として捉えられるような場合には、これは全体/部分の関係と考え上位/下位の関係とは考えない。したがって、「入れる」、「咀嚼する」、「飲み込む」に対して「食べる」は上位語にはあたらない。

さらに、上位語が二つ以上あって、一方が他方の上位語と考えられる場合は、それを記載していない。すなわち、「上位語の上位語」は記載していない。

(例) (人々が)集まる <上> 移動する (「動く」は記載せず)

2.2. 類義語

サブエントリと同じであるか、もしくはサブエントリとよく似た概念を表わす語のことを類義語と呼ぶ。したがって、いわゆる同義語も類義語に含まれる。具体的には、サブエントリが文中に現れる位置に置き換えることが可能である表現かどうかなどから該当語を捜した。

また、「事務所/店/支店/塾/幕府を開く」という場合の「開く」の類義語として「開店する」が記載されているが、このように当該サブエントリが取りうる名詞句の一部についてのみ、そのサブエントリと共起しうるような動詞、すなわち、当該サブエントリよりも取りうる名詞句の制限の強い動詞も類義語の項に記載したため、事実上、「下位語」の一部が記載されていることがある。

(例) (時が)流れる <類> 過ぎる
(店/窓口が)開(あ)く <類> 開(ひら)く、始まる、開店する

2.3 反義語

サブエントリと表す概念のかなりの部分を共有しているが、ある点において対立する

関係にある語のことを反義語と呼ぶ。

(例) (時)が流れる <反> 止まる
 (氷/雪/鉄)が溶ける <反> 固まる、凍る、凍結する、氷結する

次にあげるような意味の対応関係などから該当語を搜した。

1. 広い意味で方向が正反対である。

(例) (階段を)あがる さがる
 (二階に)あがる おりる
 (人が) 生れる 死ぬ

2. 二つの概念で一つの意味分野を構成する場合における二つの概念相互の関係。

(例) (廊下を)歩く 走る
 (人が)生きる 死ぬ

(注)ただし、「泣く・笑う・怒る」など、意味分野を構成する語が三つ上だと、一意に定まらないこともある。

なお、「売る」に対する「買う」、「送る」に対する「受ける」など、一つの動作を別の観点から表現したものを対義語と呼び、これらの対義語は反義語には含めない。

3. シソーラス (thesaurus)

ここでは、既存のシソーラスである『分類語彙表』(国立国語研究所：林大他編)と『角川類語新辞典』(角川書店：大野晋・浜西正人著)を取り上げ、各サブエントリごとに各々対応する分類名称、コードを記入した。『分類語彙表』、『角川類語新辞典』の特徴は次の通りである。

表 2

| | 分 類 語 彙 表 | 角 川 類 語 新 辞 典 |
|--------|---|--|
| 見出し語の数 | 約 3 万 2600 | 約 6 万 |
| 見出しの単位 | (短い単位)が主。一部に複合語・慣用句があるが数は少ない。 | 単語に限定せず、複合語・連語・慣用句・ことわざ・故事成語を含む。 |
| 品詞の区分 | 大分類として、1=体、2=用、3=相、4=その他と区分する。 | 意味が共通するなら、品詞が異なっても同類とする。 |
| 分類項目数 | 4類 798項目。ただし、用・相は体に重なるので、実際は(体の類)545+(その他)23=578。さらにパラグラフごとに区分。 | 十進分類で1000項目。ただし、さらに a,b,c,...と下位区分されることが多いので実際は数千項目。 |
| その他の特徴 | 雑誌 90種調査の高頻度出現語の印がある。 | 読み・意味記述・使用文脈・位相などの情報があり、国語辞書的。 |

表 3

| サブエントリ | 国研『分類語彙表』 分類名称 : コード | 角川『類語新辞典』 分類名称 : コード |
|-------------------|--------------------------------------|---|
| (二階に)あがる | 上がり下がり : 2.1540 | 上り(登り)・下り : 311d |
| (花火が)あがる | 上がり下がり : 2.1540 | 上昇 : 217a |
| (物価/生産が) あがる | (増減 : 2.1580) | 騰貴 : 743a (増加 : 262a) |
| (家賃/スピードが) あがる | (増減 : 2.1580) | 騰貴 : 743a (増加 : 262a) |
| (成績/地位が) あがる | 上がり下がり : 2.1540 | 進歩 : 276, 栄達 : 779 |
| (小学校に)あがる | (祝福・出世 : 2.331) (進退 : 2.1526) | (学事 : 775) |
| (部屋に)あがる | (出入り : 2.1530) | (入り : 313b) |
| (風呂から)あがる | (出入り : 2.1530) | (出 : 313a) |
| (歓声が)あがる | (成立・発生 : 2.122) | (発生 : 272) |
| (利益/成果が) あがる | (損得 : 2.375) (所有・所得 : 2.370) | 収入 : 745a (所得 : 373a) |
| (候補に)あがる | (人事 : 2.363) | (推挙 : 778) |
| (犯人/証拠が) あがる | (試験・計量・探求・発 見 : 2.3062) | 検挙 : 736, (発見 : 426a) |
| (仕事/原稿)が あがる | 開始・終了 : 2.1502 (仕上げ : 2.123) | 終了 : 282a (成立 : 273a) |
| (会費が千円で) あがる | 開始・終了 : 2.1502 | (決着 : 282c) |
| (魚/バッテリーが)あ がる | (死 : 2.582) (破壊・切断など : 2.1571) | (死亡 : 071d), (枯死 : 071j), (弱化 : 258a) |
| (試験で)あがる | (感覚・疲労・睡眠な ど : 2.300) | 興奮 : 491a |
| (食事を)あがる | 生活・衣食住 : 2.333 | 食い : 354d |
| (相談に)あがる | (往復 : 2.1527) | 行き : 311a |

この辞書では、シソーラスは次のように記載している。

1. 国分の項に『分類語彙表』の分類名称とコードを、角分の項に『角川類語新辞典』の分類名称とコードを「：」で区切って記載している。
2. 各サブエントリごとに、その用法における意味と牽引を照らし合せ、意味が一致する場合はそれを記載する。意味が一致しない場合（サブエントリがシソーラスに登録されていない場合）は、複数の類義語を思い浮かべ、それらが同一カテゴリーに属していることを確認した上で、それら類義語の分類名称とコードをカッコで括って記載している。完全に合致する分類名称・コードがない場合でも、空欄にはせず一番近いと思われるものを記載している。その際、「分類語彙表」では、必ずコードが「2.…」で表される用の部から選んでいる。
またサブエントリが二つ以上のカテゴリーに属するような場合や、同じサブエントリでも名詞句によって異なるカテゴリーに属するような場合には、「，」で区切って併記している。
3. 『分類語彙表』では、分類コードは5桁目(2.1540の0)も大きな文字で2.1540のように記載している。『角川類語新辞典』では、名称・コードともa, b, も含め、なるべく下位分類のもの(細かいもの)を与えた。

例えば、「あがる」の各サブエントリに『分類語彙表』および『角川類語新辞典』の分類名称と分類コードを与えたものが前ページの表3である。

なお、シソーラスの記載が何に役立つかについて、ひとこと述べる。

1. 『分類語彙表』と『角川類語新辞典』における意味の下位分類の不足分を明らかにすることができる。
2. 今回の記述の整備が終了すれば、処理対象の文章で表現される話題を分類したり、文脈による(語句の)意味の多義性を解消したりすることの一助となる。
3. また、これらの作業によって、将来、計算機のための意味記述の一部をシソーラスという形で行うことが可能となると思われる。

4. 動詞の意味的分類

ここでは、動詞を意味によって下記のように分類し、各サブエントリ毎の用法の動詞がどのグループに属するかを示した。この分類は、従来から動詞の意味的なグループに用いられてきた名称を分類項目として、基本的な動詞がどの程度分類されうるか、精粗はどうか、などを考える資料作りを目的とする実験的なものである。同一の分類項目に属する動詞は(程度差はまちまちだが)類義性があると考えられる。また、サブエントリ毎にその意味によって項目が示してあるのでその意味の違いをみることも可能である。

4.1. 分類名称とその意味および分類基準

1. 状態

ル形(いわゆる終止形)で状態を表すもの、または、テイル形でしか用いられず状態を表すもの。前者にはテイル形を持たないものとテイル形でもル形と同じ状態を表すものがある(ル形とテイル形に関しては、「2.テンス・アスペクト情報」を参照)。

A 存在・所有

ある場所に何かがあることまたは何かを何かを所有する状態にあることを表すもの。

(例) (違いが)ある,(妻子が)ある,(ライオンや象が)居る,
(品の良さが)備わっている,(半分を)占める

B 関係認定

あるものがある基準に照らしてまたは別のあるものとどういう関係の状態にあるかを表すもの。

(例) (兄に)優る,(兄に)劣る,(理論が)当嵌る,(種類が)違う,
(兄に)あたる,(鑑賞に)堪える,(ビタミンを)含む,
(あの人には)負ける,(能力に)余る

C 単純状態

状態を表すが上記二項目に含まれないもの。

(例) (天守が)聳えている,(運転が)できる,(いたずらが)すぎる,
(山が)見える,(あの人は)変わっている,(音が)聞える,
(英語が)わかる

2. 動作(動き)

上記「1.状態」以外のすべての動詞。

A (抽象的)関係

二者をあるいはあるものをある規準と照らし合わせてその優劣をつけるような動きを表すもの

(例) (身長を)比べる,(相手に)勝つ,(相手に)負ける,(彼に)背く,
(事件に)関わる,(信頼を)裏切る,(会社を)しくじる,
(人生を)決める

B 時間

時間的側面に関わる動きを表すもの。ガ格またはヲ格の格形式に時間を表す名詞をとるものまたはことがらをガ格、ヲ格、二格のいずれかにとり、そのことがらの時間面について述べるもの。時点あるいは時間量を必須の要素とすることが多い。

(例) (三時に)始まる,(会議が)終わる,(春が)去る,(時が)経つ,
(三十分)遅れる,(完成を)急ぐ,(一週間)延びる,(夏休みを)過す,
(一生を)送る,(半日)潰す

C (状態)変化

ガ格またはヲ格のものが状態に変化を示すことを表すもの。以下の移動(位置変化)、出発・帰着、授受、出現・発生、消滅、生産、もようがえ、を下位項目として含む。それらに属さないものを(状態)変化として下に示す。

(例) (弁護士に)なる,(不機嫌に)なる,(流行が)変わる,(規約を)直す,
(大根を)煮る,(ビールを)冷やす,(空気を)汚す,(包帯が)緩む,
(スカートが)広がる,(本を)広げる,(羽を)たたむ,(立て札が)立つ,
(いすに)座る,(包みを)開く,(サンマを)焼く

移動(位置変化)

ガ格またはヲ格にたつものがまるごと場所を移ることを表す(位置変化)もの。以下の出発・帰着、授受の二項を含む。それらに属さないものを示す。

(例) (学校へ)行く,(台風が)来る,(坂道を)のぼる,(船が港へ)寄る,
(船が陸へ)近づく,(道を)歩く,(犬が)走る,(鳥が)飛ぶ,
(角を)曲がる,(海を)渡る,(峠を)越える,(行列が)通る,
(落し物を)届ける,(舟を)渡す,(客を)通す

a 出発・帰着

移動のうち、あるところから離れるまたはあるところに到着する動きを表すもの。出発点（ヲ格またはカラ格）もしくは目標（ヘノ二格）が強調される。

（例）（家を）出る，（東京を）発つ，（電車が）着く，（家へ）帰る，
（職員室に）戻る，（旅行に）出す，（本を）戻す

b 授受

所有権の移動を表すもの。抽象的な移動といってよい。「やりもらい」とも称される。

（例）（花に水を）やる，（プレゼントを）あげる，（ケーキを）くれる，
（時計を）貰う，（権利を）渡す

出現・発生

ものあるいはことがらが生ずることを表す。消滅の反対

（例）（歓声が）あがる，（玄関に）現れる，（喜びを顔に）表す，
（革命が）起こる，（爆発を）起す，（ひよこが）生まれる，
（子どもが）できる，（スピードを）出す，（興味が）湧く

消滅

ものあるいはことがらが消えてしまうあるいは減衰することを表す。機能破壊を表すものも含む。

（例）（笑顔が）消える，（人が）死ぬ，（姿を）消す，（木が）枯れる，
（町が）寂れる，（店を）たたむ，（店を）潰す，（苦痛が）去る，
（チャンスを）逃す，（雨が）止む

生産

結果としてあるものを作り出す動きを表すもの。作り出すことを目的とする動き。他動詞のみ。

（例）（小屋を）作る，（小説を）書く，（湯を）沸かす，（セーターを）編む，
（つぼを）焼く，（もちを）つく

もようがえ

AヲBデの文型で生産を表すものがBヲAニの文型で対象の状態変化を表すもの。またはAヲBニの文型で設置を表すものがBヲAデ（またはAヲBデ）の文型で対象の状態変化を表すもの。

（例）（さしみに）作る，（湯に）沸かす，（セーターに）編む，（壁を）塗る，
（部屋を）飾る，（布で）包む，（針で）刺す，（重箱を）詰める

D 設置（とりつけ）

あるところまたはものに何かを取り付けることを表すもの。取り付けるまでに何らかの移動と接触（場合によっては加力も）が前提とされており、取り付けた結果何らかの変化が生ずるが、そのいずれをも意味として含まないもの。

（例）（棚に）置く，（車に）乗る，（利子が）付く，（船を）付ける，
（自転車溝に）嵌る，（網戸を）はめる，（壁に）塗る，（部屋に）飾る，
（布に）包む，（針を）刺す，（鉄道を）敷く，（雪が）積もる

E 離脱（とりはずし）

あるところにまたはものから何かを取り外すことを表すもの（とりはずし）。取り外す前に接触していることが前提であり、取り外した動きには移動（出発）の側面もあり、結果として変化を生ずるが、そのいずれをも意味として含まないもの。設置の反対。

（例）（ボタンが）取れる，（汚れを）取る，（ポスターが）剥がれる，
（切手を）剥がす，（皮を）むく，（体温を）奪う

（衣服）着脱

設置・離脱の意味を表すもののうち衣服など身につけるもののぬぎきを表すもの。必ず、（状態）変化でもある。

（例）（服を）着る，（靴を）履く，（ネクタイを）締める，（服を）脱ぐ，
（イヤリングを）付ける

F 接触

何かと何かに触れ合うことを表すもの。触れ合う前提として何らかの移動があるがそれは意味に含まない。

（例）（肌に）触れる，（何かに）触る，（ボールを）当てる，（髪を）撫でる，
（ボールが）ぶつかる，（ほうきで）掃く

G 加力

接触したうえで何らかの力を加えることを表すもの。いわゆる打撃・支持を表すものも含む。

（例）（ボタンを）押す，（カーテンを）引く，（ドアを）叩く，（鼻を）つまむ，
（蛇口を）ひねる，（荷物を）持つ，（包みを）抱える，（ボールを）握る，
（棒で米を）搗く，（食べ物を）噛む，（足を）拭う

H 生理・心理

生理的に起こることがら、あるいは、感覚・感情を表すもの。または、それを引き起こす動きを表すもの。

（例）（汗を）かく，（目が）霞む，（体が）疲れる，（ニュースに）驚く，
（友人の成功を）羨む，（神仏を）敬う，（青春時代を）楽しむ，
（進学を）諦める，（酒を）好む，（人を）憎む，（過去を）悔やむ，
（大声で）笑う，（彼が）泣く，（彼の言葉を）怪しむ，（彼を）疑う，
（前途を）危ぶむ

I 知覚・思考

知覚すること、考えることを表すもの。知的な活動で人間の心的能力を要するものが多い。

（例）（海を）見る，（話を）聞く，（問題を）考える，（外泊を）認める，
（英語を）学ぶ，（昔のことを）忘れる

J 発見

何かを発見することを表すもの。二格やヲ格で見い出すところを表す。

（例）（誤植を）見付ける，（部屋を）探す

<以下の項目は、その他の項目と同列にはグループ化しにくい、意味的にまとまりの見られるものを1項目として取り出した。>

K 経済活動

人間の経済に関わる活動。

(例) (本を) 売る, (服を) 買う, (金を) 払う, (金を) 借りる,
(金が) 儲かる

L 社会活動

人間の社会的な活動

(例) (工場で) 働く, (ゲームで) 遊ぶ, (山奥に) 暮らす

M 言語活動

人間の言葉に関わる活動。結果として何らかの言語を生み出す諸活動。「～と」の形式でその内容を表しうることが多い。

(例) (意見を) 言う, (本を) 読む, (「はい」と) 答える, (彼を) 呼ぶ,
(大声で) 叫ぶ, (小説を) 書く

N 自然現象

人為的な働きかけと無関係に生ずる現象。人間の生理現象は除かれる。

(例) (星が) 光る, (音が) 鳴る, (花が) 匂う, (空が) 晴れる, (風が) 吹く

4.2. 分類の原則

分類は以下の原則によっている。

1. 各サブエントリには、まず、「状態」か「動作(動き)」のいずれかが記載してある。
2. 「状態」であれば、「存在・所有」か「関係認定」か「単純状態」のいずれかが記載してある。
3. 「動作(動き)」であれば、「(抽象的)関係」以下「発見」までの項目のうち該当すると思われる項目がすべて記載してある。
 - (a) 「移動(位置変化)」以下の「もようがえ」にいたるまでの項目は、いずれも「(状態)変化」の下位項目となるので、「(状態)変化」に続けて、該当項目が記載してある。
 - (b) 「出発・帰着」「授受」は「移動(位置変化)」の下位項目であるから、「(状態)変化」「移動(位置変化)」に続けて、該当項目が記載してある。
 - (c) 「(衣服)着脱」は「設置(とりつけ)」または「離脱(とりはずし)」に続けて記載してある。また、「(衣服)着脱」は必ず「(状態)変化」の後に記載してある。

(例) (学者に) なる 動作(動き), 状態(変化)
(家へ) 帰る 動作(動き), 状態(変化), 移動(位置変化), 出発・帰着
(イヤリングを) つける ... 動作(動き), 状態(変化), 設置(とりつけ), (衣服) 着脱

以上の(a)~(c)の場合を除いて、他の項目は原則として排他的に記載してある(例えば「棒で米をつく」のように「接触」はあっても「加力」は「接触」を前提とするので「加力」とする)が、複数取りうることを厳格に妨げるものではない。したがって、二つ以上の項目のいずれとも判断がつきにくい場合、あるいはいずれの意味も持っているとは判断される場合は、そのすべての項目が記載してある。

4. 「状態」「動作(動き)」いずれに分類した場合でも、「経済活動」以下「自然現象」までで該当する項目があればすべて記載してある。
 なお、例外として「みえる」「きこえる」「わかる」の3語については、「状態」動詞ではあるが「知覚・思考」が記載してある。
5. 適切な項目がない場合、あるいは与えられた項目以外の意味を持つと考えられる場合には、適切な名称をカッコで括って記入する。また、同一サブエントリにおいて、これらの分類名称とあらかじめ与えられた項目とが同時に選択されることもありうる。なお、当辞書においては、この項に該当する分類名称は、すべて「動作(動き)」の下位分類にあたるものであったため、これらを「動作(動き)」の下位項目に後続して記述した。

4.3. 「動詞の意味的分類」の記載例

動詞の意味的分類に関する情報は、当辞書では 分 の項に次のように記載されている。

| | |
|--------------|--------------------------|
| [記載例] | |
| 鯨が哺乳類に入る | 分 状態,存在・所有 |
| 彼の考え方は間違っている | 分 状態,関係認定 |
| 布団を日なたに干す | 分 動作(動き),(状態)変化,設置(とりつけ) |
| 雨が止む | 分 動作(動き),(状態)変化,消滅,自然現象 |

5. 「意味に関する情報」の記載例

「意味に関する情報」は、当辞書では、意 の項に次のように記載されている。

| | |
|----------|--|
| [記載例] | |
| ボールが風に当る | 《意》 意記 物や現象が何かに強く接触する。上接触する 類 触れる,ぶつかる 反 逸れる,外れる 国分 打ち・当たりなど: 2.1563 角分 衝突: 223a 分 動作(動き),接触 |
| 彼は客を送る | 《意》 意記 そこに残る人が去っていく人の姿を見守る。 類 見送る 反 迎える,出迎える 国分 (応接: 2.351) 角分 見送り: 784c 分 動作(動き),社会活動 |

形態に関する情報

形態情報のうち、「活用型」および「語幹」はすべてのサブエントリに共通する情報を持つので、エントリに並べて記載している。その他のものは、サブエントリ毎に異なる情報を持つので、各サブエントリの《形》の項に記載してある。

1. 活用型

活用とは、動詞、形容詞、形容動詞、助動詞が用法により語形を変えることをいう。動詞の活用型には五段活用、上一段活用、下一段活用、カ行変格活用、サ行変格活用の五つがある（表 4 参照）。

表 4

| 活用形 | 五段 (注 1) | 上一段 | 下一段 | カ変 | サ変 |
|--------------|---------------|--------------|--------------|----------------|----------------|
| 語幹 後続形式 | hazus- (外) | oki- (起) | uke- (受) | k- (来) | s- (す) |
| ナイ | -anai | -nai | -nai | -onai | -inai |
| サセ | -aseru | -saseru | -saseru | -osaseru | -aseru |
| ラレ | -areru | -rareru | -rareru | -orareru | -areru |
| マス(注 2) ル | -imasu -u | -masu -ru | -masu -ru | -imasu -uru | -imasu -uru |
| ナ | -una | -runa | -runa | -uruna | -uruna |
| エ / 口・ヨ | -e | -ro -yo | -ro -yo | -oi | -iro -eyo |
| ウ / ヨウ | -ou | -you | -you | -oyou | -iyou |
| テ(注 3) | -ite | -te | -te | -ite | -ite |

(注 1) 音便形に関しては【参考】参照。

(注 2) 「カケル」「ハジメル」「ダス」「ツツアル」「ツツケル」「オワル」「タイ」「タガル」「ナサイ」は「マス」と同じ接続になる。

(注 3) 「テイル」「テイク」「テクル」「テアル」「テシマウ」は「テ」で代表させてある。

例えば、「外す」の場合、語幹が[S]で終わっているので、サ行五段活用という。各エントリの活用型は、五段活用は「五段」、上一段活用は「上一」、下一段活用は「下一」、カ行変格活用は「カ変」、サ行変格活用は「サ変」と、活用型の欄に略記してある。

実際に用いられる活用形が予想される活用形と異なっている場合は、本来の活用形に加えて「特殊」とも記し、「特殊」と記した根拠および具体例をすべてのサブエントリの備考 1 の項に示してある(例 1~3)。また特定のサブエントリに限って特殊な形態があるものは、「(特殊)」とし、そのサブエントリの備考 1 の項に根拠と具体例を示してある(例 4)(. 2.備考 1 参照)。

(例1) エントリ 「ある」
活用型 五段,特殊
備考1 「あらない」という否定形は存在しないので、形容詞の「ない」
で代用する。

(例2) エントリ 「ゆく」
活用型 五段,特殊
備考1 音便形は「いった」、「いって」。

(例3) エントリ 「とう」
活用型 五段,特殊
備考1 「た」、「て」に接続する形は「問うた」、「問うて」。

(例4) エントリ 「くれる」
活用型 下一,(特殊)
サブエントリ1 (彼は私にケーキを)くれる
備考1> 命令形は現代語では「くれる」は用いず、「くれ」を用いる。

なお、特定サブエントリにおける、「命令形は用いない」、「受身形のみ(で用いる)」、「ル形のみ(で用いる)」などといった用法に関する情報は、<態> 時相
法 《備考2》の項に示されており、活用型の欄では「特殊」としていない(. 1.
7. 動詞の形態の制限 参照)。

【参考】 音便

発音の便宜上、ある音が元の音と違った発音をされることがあるが、それを音便という。イ音便、撥音便、促音便の三種類がある。

1. イ音便

カ行・ガ行五段活用の動詞が「て」、「た」、「たり」に続くときにイ音便となる。ガ行の場合は「て」、「た」、「たり」がそれぞれ「で」、「だ」、「だり」と濁音になる。

(例) 書きて 書いて
急ぎて 急いで

ただし、「行く」は促音便となる。

(例) 行きて 行って

ラ行五段活用の「いらっしゃる」など敬語表現を表す動詞に「ます」が続くとき、イ音便となる。

(例) いらっしゃります いらっしゃいます

また、「いらっしゃる」、「なさる」、「くださる」、「おっしゃる」の命令形(「エ/ロ・ヨ」)は「~い」となる。

(例) いらっしゃる いらっしゃい
くださる ください

2. 撥音便

ナ行・パ行・マ行五段活用の動詞が「て」、「た」、「たり」に続くときに撥音便になる。また、「て」、「た」、「たり」は濁音化してそれぞれ「で」、「だ」、「だり」となる。

(例) 飛びて 飛んで

3. 促音便

タ行・ラ行・ワ行五段活用の動詞や「行く」は、「て」、「た」、「たり」に続くときに促音便となる。

(例) 勝ちて 勝って
 取りたり 取ったり

2. 語幹

活用語において、活用に際して変化しない部分を「語幹」と呼ぶ。活用語は語幹と語尾により一語となる。五段活用、カ行変格活用、サ行変格活用の動詞の語幹は子音で終わり、上一段活用と下一段活用の動詞の語幹は母音で終わる。語幹は、ひらがなの正書法を念願において、表5に従ってローマ字表記してある。

| | エントリ | 活 用 例 | 語 幹 |
|-----|----------|-----------------------------------|---------|
| (例) | 書く(五段) | k a k - u , k a k - e | k a k |
| | 着る(上一段) | k i - r u , k i - t a | k i |
| | 食べる(下一段) | t a b e - r u , t a b e n a i | t a b e |
| | 来る(カ変) | k - u r u , k - o i | k |
| | 愛する(サ変) | a i s - u r u , a i s - u r e b a | a i s |

長音は、ひらがなの正書法に基づいてローマ字表記してある。すなわち、「お」はo、「う」はuと表記してある。

(例) 通る(とおる) t o o r
 生じる(しょうじる) s y o u z i

「使う」などは tuka-u、tukaw-anai のようにア行とワ行にわたって活用するが、このような場合、語幹に w を含めてある。

| | エントリ | 活 用 例 | 語 幹 |
|-----|------|---------------------------------------|-----------|
| (例) | 使う | t u k a w - a n a i , t u k a t - t a | t u k a w |
| | 笑う | w a r a w - a n a i , w a r a t - t a | w a r a w |

表 5

| | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| a | i | u | e | o | | | |
| ka | ki | ku | ke | ko | kya | kyu | kyo |
| sa | si | su | se | so | sya | syu | syo |
| ta | ti | tu | te | to | tya | tyu | tyo |
| na | ni | nu | ne | no | nya | nyu | nyo |
| ha | hi | hu | he | ho | hya | hyu | hyo |
| ma | mi | mu | me | mo | mya | myu | myo |
| ya | (i) | yu | (e) | yo | | | |
| ra | ri | ru | re | ro | rya | ryu | ryo |
| wa | (i) | (u) | (e) | (o) | | | |

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| ga | gi | gu | ge | go | gya | gyu | gyo |
| za | zi | zu | ze | zo | zya | zyu | zyo |
| da | di | du | de | do | dya | dyu | dyo |
| ba | bi | bu | be | bo | bya | byu | byo |
| pa | pi | pu | pe | po | pya | pyu | pyo |

1. はねる音「ン」はすべて n と書く。
2. はねる音を表す n と次にくる母音字または y とを切り離す必要がある場合には、n の次に ' を入れる。
3. つまる音は、最初の子音字を重ねて表す。

3. 表記

サブエントリに漢字表記のある場合、動詞の終止形が漢字ひらがな交じりで記載してある。ただし、サブエントリに漢字表記のない場合には、表記の欄にはひらがなのみを記載している。漢字表記に関しては常用漢字表に即し、さらに「新明解国語辞典」を拠りどころとしている。

- (例) (ひげを) のばす 【伸ばす】
(出発を) のばす 【延ばす】
(机を) ずらす 【ずらす】

表記は以下の原則によって記載してある。

1. サブエントリに対応する漢字が何種類かある場合は、原則として標準的な表記の順に並べて示してある。

- (例) (子供を) まもる 【守る, 護る】
(痛みに) たえる 【耐える, 堪える】
(鑑賞に) たえる 【堪える, 耐える】

2. 送り仮名のつけ方が何種類かある場合は、送り仮名の最も短い表記を最初に示してある。

- (例) (言葉で) あらわす 【表す, 表わす】

3. 送り仮名の組み合わせが何種類かある場合も、送り仮名の最も短い表記を最初に示してある。

- (例) (ラジオを) くみたてる 【組立てる, 組み立てる】

したがって、漢字と送り仮名の組み合わせが何種類かある場合には、次のようになっている。

- (例) (企画を) とりあげる 【取上げる, 取り上げる, 採上げる, 採り上げる】

また、次のような場合には 備考 1 の項に注記してある。

1. あて字がある場合。

- (例) (かぜが) はやる 【はやる】
《備考 1》「流行る」とも書く。

2. 特定の国語辞典だけが認めている漢字表記がある場合（辞書名の略号は「 .2. 備考1」参照）。

（例）（顔色を）うかがう 【窺う】
備考1 「学研」によれば「覗う」とも書く。

3. 名詞句によって漢字に使い分けがある場合。

（例）（刀で）きる 【切る, 斬る, 伐る, 截る】
《備考1》 「切る」は一般的に用い、「斬る」は人に、「伐る」は木に、「截る」は布・紙・板状のものに用いる。「類語」によれば、爪は「剪る」とも書く。

4. 自動詞と他動詞（自他）

当該のサブエントリが「自動詞」であるか「他動詞」であるかが記載してある。ここでは、目的語のヲ格を取る動詞を「他動詞」、取らない動詞を「自動詞」とする。

（例） 他動詞：（山を）見る 自動詞：（よく）眠る
 （本を）読む （空が）晴れる

「自動詞」は「自」、「他動詞」は「他」と表記の項の隣に示してある。

（例）（幕が）とじる 【閉じる】自
 （本を）とじる 【閉じる】他

ただし、次のようなヲ格は目的語とは認めず、したがってこのようなヲ格を取る動詞は「自動詞」とする。

1. 移動や離脱や通過の意味（物理的な動きとは限らない）を持つ動詞で、それぞれ、移動の場所、通過点、離脱点を表すヲ格を取るもの。

| | | |
|-----|--------------------------|-------|
| （例） | <u>山</u> を 歩く | 移動の場所 |
| | 稲妻が <u>夜空</u> を 走る | " |
| | タクシーが <u>市内</u> を 流す | " |
| | ボールが <u>左中間</u> を 抜く | " |
| | ヨットで <u>大西洋</u> を 渡る | " |
| | 彼は <u>その場</u> を 早々に ひきとる | " |
| | 祭の行列が <u>街</u> を 練る | " |
| | <u>峠</u> を 越す | 通過点 |
| | <u>三十度</u> を 越す | " |
| | 試合の終了が <u>9時</u> を まわる | " |
| | <u>部屋</u> を 出る | 離脱点 |
| | <u>予算</u> を 出る | " |

2. 時間を表すヲ格を取り、動詞の表す意味がそのヲ格の時間を過すことにあるもの。

（例）夏を 過す
海外で 夏休みを 送る
冬休みを スキーで 楽しむ

また、次の例のように文型でヲ格を取らなくても「スト」が必須の場合には、便宜上「他動詞」としてある（ .1.文型と文例 参照）。

| | | | |
|-----|-------|---|--------------------------------|
| | 文 型 | | 文 例 |
| （例） | N1ガスト | : | 私は <u>夏休みにハワイに行きたいと</u> 思っている。 |
| | | : | 彼は <u>自分が間違っていたと</u> 認めた。 |

N1ガN2ニスト : みんなが 彼女に どこから来たのかと 尋ねた。
 : 彼は 彼女に 「お国はどちらですか」と 聞いた。

このような動詞の例としてはほかに「言う」、「伺う」、「考える」、「聞く」、「決める」、「定める」などがある。

5. 異音同語

意味がほぼ同じで、音韻変化による形態の違いを持つ語がある場合は、異音同語の項にひらがなで記載してある。その場合、より一般的に使用される語の方をサブエントリとしてたててある。すなわち、下の例においては、「あたためる」の方が「あっためる」よりも一般的と考え、サブエントリとしている訳である。

| | | |
|-----|--------|-------|
| | サブエントリ | 異音同語 |
| (例) | あたためる | あっためる |
| | かぶる | かむる |

その際、意味・用法が同じであれば、活用型が異なっても異音同語として扱っている。

| | | |
|-----|----------|---------------|
| | サブエントリ | 異音同語 |
| (例) | 愛する(サ変) | あいず(五段) |
| | 信じる(上一段) | しんずる, しんず(サ変) |

なお、異音同語をサブエントリ単位で記載しているのは、同一エントリでもサブエントリによっては異音同語のないものもあるからである。したがって、あるサブエントリには異音同語の記載があっても、別のサブエントリには異音同語の記載がないことになる。

| | | |
|-----|----------|-------|
| | サブエントリ | 異語 |
| (例) | (財布を) 落す | おっこつす |
| | (命を) 落す | (無記載) |

6. 派生

派生とは、本来、単語の構成法として語基に接辞を接続することによって単語を構成する現象をさす。語基とは、語が構成される際にその中心部をなす形式のことである。

当辞書では派生語を広義の意味に用い、前述の狭義の派生語に加え、可能、使役、対応する自動詞または他動詞、転成の四種類を取り上げている。

なお、派生の項は、「転成その他」を除き、ひらがな表記で示してある。また該当する語がない場合、その項は記載していない。

6.1. 可能

〔語幹 + (r)eru〕の形をとり、可能の意味を表すものを「可能動詞」という(注4)。語幹が母音で終わっているもの(上一段活用、下一段活用)であれば〔-reru〕が、子音で終わっているもの(五段活用、サ行変格活用)であれば〔-eru〕が後接する。カ行変格活用では「来れる koreru」となる。

| | | | |
|-----|---------|-----------------|----------|
| (例) | 歩く(五段) | a r u k + e r u | あるける |
| | 書く(五段) | k a k + e r u | かける |
| | 見る(上一段) | m i + r e r u | みれる (注5) |
| | 出る(下一段) | d e + r e r u | でれる |

「可能動詞」は、ひらがなで次のように表記してある。

(例) (会社を) 起す 派可 おこせる
(めまいを) 起す (無記載)

(注4) 「切れる kir-eru」のように、〔語幹 + eru〕の形をとっても可能の意味を表さないものは「可能動詞」とはしない。

(注5) 「見れる」「出れる」という語形については、「見られる」「出られる」が正しい語形であり、“文法の乱れ”であるという意見がよく聞かれる。しかし、「可能動詞」の派生が五段活用の動詞のみならず、一段活用の動詞にまで勢力が及んだとみる見方もあり、当辞書ではこの立場をとった。ただし、すべての一段動詞やサ変動詞に「可能動詞」の派生がみられるわけではないので、現在一般に適用していると思われるものについてのみ記載してある。

| | | |
|---------|--------|--------|
| () 寝る | 寝れる | 派可 ねれる |
| 着る | 着れる | 派可 きれる |
| () 暖める | * 暖めれる | (無記載) |
| 揃える | * 揃えれる | (無記載) |

6.2. 使役

〔語幹 + (s)asu〕の形をとり、使役の意味を表すものを「使役動詞」という(注6)。語幹が母音で終わっているもの(上一段活用、下一段活用)であれば〔-sasu〕が、子音で終わっているもの(五段活用、サ行変格活用)であれば〔-asu〕が接続する。カ行変格活用では「来さす kosasu」となる。

(例) 見る(上一段) mi + s a s u みさす
歩く(五段) a r u k + a s u あるかす

「使役動詞」は、ひらがなで次のように表記してある。

(例)(彼が机を布で)覆う 派使 おおわす
cf. 彼に机を布で覆わす
(雪が富士を) 覆う (無記載)
cf. *雪に富士を覆わす

(注6) 「悩ます nayam-asu」のように〔語幹 + asu〕の形をとっても、使役の意味を表さないものは「使役動詞」とはしない。

6.3. 対応する自動詞と他動詞

サブエントリが自動詞の場合は対応する他動詞を(派他)の項に、他動詞の場合は対応する自動詞を 派自 の項に、ひらがなで表記してある。

(例) (お湯が)出る(自) 派他 だす
(お湯を)出す(他) 派自 でる

(例) (荷物を)落とす(他) (荷物が)落ちる(自) 派自 おちる
(命を)落とす(他) * (命が)落ちる 無記載

「閉じる」のように、自動詞と他動詞が同形の場合は、同一のエントリとして扱い、自動詞のサブエントリと他動詞のサブエントリをたててある。その場合、派自 派他 としては扱わない。

6.4. 転成

転生とは、普通、次の例のように品詞が変わるものについていう。

(例) 見送る(動詞) 見送り(名詞)

しかし、当辞書では、サブエントリの動詞の用法に対応する転成語として、名詞、形容詞、副詞のほかに、動詞も取り上げている。名詞は 転名 の項に、形容詞は 転形の項に、副詞は 転副 の項に、動詞は 転動 の項に、その他のものは 転他 の項に記載してある。なお、転成語はひらがなで表記してある。

(例) (子を)思う 転名 おもい

また、注意すべきことは、転成語としてあげている語は、サブエントリから直接に転成したものと限らないということである。例えば、次の例では、転成名詞として示した「ながれ」はサブエントリ「ながれる」から直接に転成したものと考えられる。

(例) (川が)流れる 転名 ながれ

しかし、下の例では、転成語として示した語は、サブエントリから直接に転成したものではない。

(例) (牧草地が)広がる 転名 ひろさ
転形 ひろい
転副 ひろびろと

「ひろさ」「ひろい」「ひろびろと」はサブエントリ「広がる」から転成したものではないが、いずれも「ひろ」という共通語根を持っているので、転成語として便宜的に取り上げている。

次の例でも、サブエントリから形容詞が転成されたという意味でなく、両者が共通語根を持つという意味で、転成語として「いたい」が取り上げてある。

(例) (頭が)痛む 転形 いたい

転成語の判断基準はゆるやかにし、なるべく多くの関連した語を取り上げるようにした。したがって、転他 の項には、転成語だけでなく、複合語および複合語を作る構成要素も記載してある。そのため、サブエントリ「あずける」に対し、名詞形として「あずけ」、「おあずけ」があるが、「あずけ」は 転名 の項に、接頭辞「お」を含む「おあずけ」は 転他 の項に記載してある。

なお、記述の際、語根の部分はひらがな表記にしてある。語根以外の部分に漢字表記があるときは、漢字を用いている。

「合わせる awaseru」から「合わせ酢 awasezu」という複合語が作られる場合のように、後の構成要素の最初の子音が濁音になる現象があるが、これを連濁という。このように、語根以外の部分が連濁を起こしている場合のみ、その読みを「あわせ酢(ず)」のようにカッコに入れて示してある。

また、複合語を作る構成要素が複数の要素と接続可能な場合は、接続する要素は「-」で表し、カッコ内にその例を示してある。

(例) (世間を)渡る 転他 せわたり
(海外に)渡る 転他 わたり - (わたり鳥(どり))
(学校に)行く 転他 ゆき - (ゆき違い), ゆく - (ゆく先、ゆく手)
(木の葉が)落ちる 転他 おち - (おち葉(ば)、おち穂(ほ))

なお、派可 派使 派自 派他 の項に記述した形は「転成」の項には示していない。

7. 「形態に関する情報」の記載例

「形態に関する情報」は、当辞書では《形》の項に次のように記載されている。

〔記載例〕

| | |
|-----------|--|
| 行列が橋の上を通る | とおる 五段 toor 1【通る】自 《形》派可 とおれる 派使 とおらす 派 他 とおす 転名 とおり 転他 おとおり, とおりー(とおりすぎり), -どおり(裏どお り) |
| 彼は客を部屋に通す | とおす 五段 toor 5【通す】他 《形》派可 とおせる 派自 とおる 転他 おとおし |
| 彼女は芸術に接する | せつする サ変 sess 1【接する】自 《形》異語 せつす |
| 彼は健康が優れない | すぐれる 下一 sugure 1【優れる,勝れる】自 《形》《文法》 (注7) |

(注7) 《形》の項に 異語 派可 派使 派自 派他 転名 転
形 転勤 転副 転他 の該当語がない場合は、「《形》」という
略語だけが記載される。

． 統語に関する情報

1. 文型と文例

1.1. 当辞書における文型

「文型」には、当該のサブエントリがどのような格形式のパターンをとるかが記載してある。例えば、「遊ぶ」という動詞は「誰が（何で）遊ぶ」という形で用いる。

(1) 子供が（トランプで）遊んでいる。

このようなパターンは一つの動詞に一つと決まっているわけではない。「遊ぶ」という動詞にしても、別の意味では異なるパターンをとる。

- (2) 彼が ドイツに 遊んだ。
(3) (会社を辞めて) 彼が 遊んでいる。
(4) 機械が 遊んでいる。

したがって、「遊ぶ」の文型は、下記のように記載してある。

| サブエントリ | 文 型 | 意 味 記 述 |
|-----------|-----------------|---------------------|
| (5) あそぶ 1 | N 1 ガ (N 2 デ) | 〔「何かをして楽しむ」の意味で〕 |
| あそぶ 2 | N 1 デ N 2 ニ | 〔「遠い所に行って学ぶ」の意味で〕 |
| あそぶ 3 | N 1 ガ | 〔「有益な事をしないで過す」の意味で〕 |
| あそぶ 4 | N 1 ガ | 〔「有効に使われない」の意味で〕 |

文型は次のように表記する。

1. 名詞句は N 1、N 2、... で表し、格形式はカタカナで表記する。
2. () で括ってあるものは任意的 (optional) な名詞句である。
3. 名詞句の順序は最も標準的とみなされる語順に従う。これは、後に述べるガーガ構文の時に最初と二番目のガを区別する上でも有益である。
4. 文型には、動詞は記述しない。
5. 格形式が交替可能な場合には、「 / 」で併記する (1.5. 格形式の交替 参照)。
6. 格形式が交替によって、文型そのものまで変換してしまう場合については、《備考 2》に注記する (1.5. 格形式の交替 参照)。

1.2. 文型で扱う対象

記述の対象は、原則として名詞句である。名詞句でも当該のサブエントリの意味を必要十分に満たすもののみを取り上げる。

| 文 例 | 文 型 |
|----------------------------------|-------------|
| (6) <u>太郎</u> が <u>そば</u> を 食べる。 | N 1 ガ N 2 ラ |

上の例「食べる」は「そば屋」という場所を表す名詞句を取りうるが、この種のものには「食べる」というサブエントリの意味に必要なものではない。このような名詞句は記述の対象外とし、文型にも記載しない。下の (7) ~ (10) がその例である。

- (7) そば屋で そばを 食べる。 [場所]
(8) 彼女と 映画に 行く。 [随伴者]
(9) 日曜日に 絵を 書く。 [時間]
(10) 三時から 会議が 始まる。 [時間 起点]

ただし、あるサブエントリの意味を説明するために必要な場合には、上記のような名詞句も記述の対象とする。したがって、文法でいう「文法格」よりは記述の範囲が広いことになる。

- (11) 進行係が 主催者と 日取りを 打ち合わせる [随伴者]
 (12) 江戸時代に 遡る。 [時間]
 (13) 良家から 嫁を 貰う。 [起点]

また、ここで記述の主な対象となるのはその名詞句の格形式であるので、名詞句内部の構造には関与しない。したがって、次のような名詞句はすべて同じガ格「箸が」として扱われる。

- (14) 木の 箸が 古い 箸が 茶碗と 箸が
私の 箸が 象牙で作った 箸が

なお、名詞句には、(15)のような文相当の形式、および(16)のような名詞と動詞の連用形からなる句を含む。

- (15) 彼女は 東京には空がないと 言う。
 (16) 彼は 本を買いに 行った。

(15)のように「...ト」などの文相当の形式がくる場合、文型では「N」とは表示せず、「S」とする。(16)のような「本を買い」、「映画を見」、「食事をし」などは名詞句扱いし、「N」と表示する(後述の述語素MTのものに限る)。

- | 文 例 | 文 型 |
|---|-----------------|
| (17) 彼は <u>隣にすわった人に</u> <u>「お国はどちらですか」と</u> 聞いた。 | N 1 ガ N 2 ニ S ト |
| (18) 彼は <u>彼女を誘いに</u> 来た。 | N 1 ガ N 2 ニ |

記述の対象は上述のように名詞句に限定されているので、副詞句など、他の品詞は考慮しない。このようなものに関しては、文例では記述しても文型に掲げることはしない。ただし、特に必要と思われる場合にはその旨を《備考2》で注記する。

- (19) 自動車がゆっくり 走る。
 (20) 論文をじっくり 読む。 (任意的なもの：文型に記載しない)
 (21) 富士山が美しく 見える。
 (22) 女らしく 振舞う。
 (23) 結果を不満に 思う。 (必須的なもの：備考2 に注記)
 (24) 戸が がたがた(と) 言う。

1.3. 格形式について

本辞書で扱う格形式は、次のものである。

ガ, ヲ, ニ, カラ, ヘ, ト, ヨリ, デ,

(注) 上記のは、「三千元 使う」「3日 掛かる」などのように格助詞を必ずしも必要としない数量の名詞を表示する「はだか格」を表す。

1.4. 係助詞・副助詞について

以下のような係助詞や副助詞などは文型には記載しない。これらは、文型では格形式「ガ」「ヲ」「ニ」などに直して記述してある。

- (25) a「は」 与作は山へ行く。 [「ガ」の代り]

- | | | |
|------|-------------------------|----------|
| b | 新聞は毎朝読んでいます。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| c | 富士山はもう登りましたか。 | 〔「ニ」の代り〕 |
| | (以下では一つの各形式で代表させて示す。) | |
| (26) | 「こそ」 君こそ行くべきだ。 | 〔「ガ」の代り〕 |
| (27) | 「だって」 プロレスだって社会に貢献している。 | 〔「ガ」の代り〕 |
| (28) | 「も」 もう一つの論文も見せて下さい。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (29) | 「さえ」 都会の子供は蛇さえ知らない。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (30) | 「でも」 チャンピオンは誰の兆戦でも受ける。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (31) | 「すら」 そんな事すら知らないのか。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (32) | 「まで」 ビールはおろか、焼酎まで値上りした。 | 〔「ガ」の代り〕 |
| (33) | 「だけ」 この点だけまだよくわかっていない。 | 〔「ガ」の代り〕 |
| (34) | 「ぐらい」 最近は英語ぐらい誰でも話す。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (35) | 「など」 お茶やコーヒーなどお出しする。 | 〔「ヲ」の代り〕 |
| (36) | 「ばかり」 あいつは嘘ばかりついている。 | 〔「ヲ」の代り〕 |

ただし、文例では文のすわりをよくするためにこれらの助詞（特に、「は」）を用いることがある（1.8.文例 参照）。

1.5. 格形式の交替

格形式が常に交替できるものについては、「ニ／ヘ」などのように併記する。

- | | | |
|------|--------------------------|------------------------------|
| | 文 例 | 文 型 |
| (37) | a 彼が夜道を駅から家 <u>に</u> 急ぐ。 | |
| | b 彼が夜道を駅から家 <u>へ</u> 急ぐ。 | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ N 4 ニ / ヘ |

格形式を併記する場合、その順序はニ／ヘ、ヘ／ニのように二通りにはせず、下に定める優先順に従って記入する。これは検索等を行う際の便宜のためである。

| |
|-----------------------------------|
| ガ > ヲ > ニ > カラ > ヘ > ト > ヨリ > デ > |
|-----------------------------------|

なお、格形式の交替に伴って文型にも変換が生じる場合がある。

- | | | |
|------|-----------|-----------------------|
| | 文 例 | 文 型 |
| (38) | a 彼は耳が動く。 | N 1 ガ N 2 ガ |
| | b 彼の耳が動く。 | N 1 ノ N 2 ガ (= N 2 ガ) |

このようなものについては、aの方を文型として掲げ、bについては《備考2》で注記する。（1.3.備考2 参照）。

1.6. 「と」について

「と」には二種類のものがある。

- | | | |
|------|---------------------------|-------------------|
| | 文 例 | 文 型 |
| (39) | a 彼が 太郎 <u>と</u> 花子を 招く。 | N 1 ガ N 2 ヲ |
| | b *彼が太郎を花子 <u>と</u> 招く | |
| (40) | a 公団が 本州 <u>と</u> 四国を 繋ぐ。 | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト |
| | b 公団が 本州を 四国 <u>と</u> 繋ぐ。 | |

(39)であげた、いわゆる「並列の『と』」は当辞書では格形式として扱わない。(40)のような「相手を表す『と』」に関して記述する。

1.7. 動詞の形態の制限

サブエントリによっては、以下の例に示すように使用形態がかなり制限されているものがある。これらについては、文型の項では一般的な記述を行い、形態の制限については《備考2》で注記する。

- (41) かんする 1
文 (N1ガ) N2ヲ「教育問題に関して論じる。」
《備考2》N2ニ関シテ、N2ニ関スルN1の形で。
- (42) つく 9
文 N1ガN2ヲ「彼は闇を突いて走った。」
《備考2》テ形のみ。
- (43) そびえる 1
文 N1ガ(N2ニ)「お城の天守が森の中に聳えている。」
《備考2》テイル形のみ。
- (44) およぶ 3
文 (N1ガ) N2ガN3ニ「彼は実力が彼女には及ばない。」
《備考2》否定形のみ。
- (45) しばる 3
文 N1ガN2ヲ「彼は仕事に縛られている。」
《備考2》受身形が多い。

1.8. 文例

文例の項には、各サブエントリの用法を表す文を三つを限度として記載している。文型の項の格形式に従った作例をあげたが、そのままでは不自然に響く文になってしまう場合には、文のすわりを良くするために「は」「も」などの係助詞を使用している。

- | サブエントリ | 文 例 |
|-------------|--|
| (46) はなれる 2 | 「話が本筋から離れている。」「首相の施策は党利を離れていない。」「報告書の数字は実態とは離れたものだ。」 |
| はなれる 3 | 「彼は田舎を離れた。」「彼は戦列から離れた。」 |

基本的には単文を用いているが、場合によっては複文や重文あるいは受動文なども用いている(1.7.動詞の形態の制限 参照)。なお、この場合はその理由を《備考2》で注記している。

- | サブエントリ | 文 例 |
|-------------|--|
| (47) はなれる 4 | 「彼は家族と離れて一人で暮している。」「翼が胴体と離れて飛び散った。」 《備考2》述語用法は稀。 |
| (48) おもう 4 | 「親が子を思う気持は人間も動物も変わらない。」「彼は彼女を思って夜も眠れないと言った。」 《備考2》言い切りは稀。 |
| (49) ひく 14 | 「彼は一目で彼女に惹かれた。」「二十世紀が丘」という名前に惹かれて土地を買った。」 《備考2》受身形のみ。 |

また、備考2で文型変換に関する注記があるものについては、必ず変換後の文例が記載してある。

- | サブエントリ | 文 型 | 文 例 |
|-------------|--------------------|--------------------------------------|
| (50) あらそう 2 | N1ガN2ト(N3デ) | 「兄が弟と遺産相続で争っている。」 「兄と弟が遺産相続で争った。」 |
| 備考2 | N1ガN2トはN1とN2ガと交替可。 | |

は人間や動物のような「有情物」に限られており、生命のない物体（本、箱等）は「いる」とはいえず、「ある」を用いなければならない。つまり、「いる」という動詞は「存在」という述語自体の意味的制限の他に、その対象に対して「有情物」である、という名詞句に関する制限も持っている。このような、名詞句に対する制限を「意味素性」と呼ぶ。下の表6が当辞書で採用した意味素性の一覧である。

表 6

| 略号 | FULL NAME | 素性名 | 例 |
|-------|-------------------------------|---------------|---------------------------|
| C O N | concrete | 具体名詞 | |
| A N I | animal<+con> | 動物 | 犬・馬・鳥・猿・コアラ |
| H U M | human<+con,+ani> | 人間 | 姉・先生・男性・学生 |
| O R G | organization<+con> | 組織・機関 | 国・企業・警察・研究所 |
| P L A | plant<+con> | 植物 | 花・桜・松・バラ |
| P A R | parts<+con> | 生物の部分 | 頭・足・腕・腰・根・羽 |
| N A T | natural<+con> | 自然物 | 山・空・石・川・丘 |
| P R O | products<+con> | 生産物・道具 | 紙・車・パン・布・鉄 |
| P H E | phenomenon | 現象名詞（自然 / 生理） | 光・音・火・風・雨・涙 声・匂い・病気・しわ |
| A B S | abstract | 抽象名詞 | |
| A C T | action | 動作・作用 | 勉強・練習・見学・散歩 |
| M E N | mental<+abs> | 精神 | 心・意識・思い出・悩み |
| L I N | linguistic products <+abs> | 言語作品 | 名前・ニュース・説教 |
| C H A | character<+abs> | 性質 | 美・欠点・みかけ・寛容 |
| R E L | relation<+abs> | 関係 | 縁・原因・条件・根拠 |
| L O C | location<+abs> | 空間・方角 | 外・公園・東・右 |
| T I M | time<+abs> | 時間 | 昨日・日曜日・夕方 |
| Q U A | quantity<+abs> | 数量 | 3日・3人・5kg・4m 全部・一人ずつ |
| D I V | diverse | (制限緩やか) | |

意味素性は次のように記載してある。

1. N1、N2などの一つのスロットに対応する意味素性は4つを限度として、略号で記載してある。
2. 文型におけるSの意味素性は[-]で記載してある。

ある名詞句がつねに一定の意味素性に対応するというわけではない。以下に示すような統語的環境において同一の名詞が複数の意味素性を持ちうる。

- (54) 学校に 通う [場所：LOC]
学校を 建てる [建物：PRO]
学校を 休む [動作：ACT]
学校が 校規を定める [組織：ORG]
- (55) 活字を 植える [物：PRO]
活字に 飢える [事柄：ABS]
- (56) 課長が 反対を した。 [人：HUM]
 彼は 課長に なった。 [事柄：ABS]
- (57) 雨が 降る。 [現象：PHE]
雨が 顔に 掛かる。 [物：CON]

2.3. 意味素性間の包含関係（[CON][ABS]について）

上の素性の中には一方が他方を含む関係にあるものがある。上の表中にもある通り、[HUM]は[ANI]に含まれ、[ANI]は[CON]に含まれる。このため、理屈からいえば、「姉（[HUM]）」は[HUM, ANI, CON]であり、「犬（[ANI]）」は[ANI, CON]であるわけなのだが、このような場合、その名詞句を最も狭く限定するもののみをいれてある。したがって、前例「姉」の場合であればただ単に[HUM]と表示して[ANI], [CON]を、「犬」の場合であれば[ANI]と表示して[CON]を含意する。

ただし、同一スロットに[CON]の下位素性が4つ以上くるような場合については、これらの素性を列挙しないで、[CON]としてまとめて示すようにした。

(58) [HUM / ANI / PRO / NAT / PRO] [CON]
(姉) (犬) (車) (石) (技)

また、「水」のように[NAT]とも[PRO]とも解釈しかねるような名詞については、上位の素性である[CON]とした。

したがって、意味素性欄に[CON]とあれば、

1. 下位素性[ANI, HUM, ORG, PLA, PAR, NAT, PRO]の4つ以上が当てはまる場合。(注1)
2. [CON]であるが、具体的な素性[ANI, HUM, ORG, PLA, PAR, NAT, PRO]のいずれかに特定できない場合。

の、いずれかである。[CON]だけでなく、他の包含関係にある意味素性、[ABS]と[ACT, MEN, LOC, ...]に関しても上記のような方針で記載する。

(注1) ただし、述語素がAであり、意味素性の欄に[HUM]とあった方が望ましい場合については、[CON]としてまとめずに[HUM]などを列挙した。

2.4. [DIV]について

動詞によっては、名詞句の制約がかなり緩やかな場合がある。そのような時は、次のような手段を取っている。

1. できるだけ素性を列挙する(4つまで)。
2. [CON], [ABS]の上位の素性を用いる。

ただし、[CON], [PHE], [ABS]のいずれの素性をも取りうる場合には、これら三つの素性を併記せずに[DIV](diverse:制限なし)という素性を用いる。

サブエントリ 文 型
(59) 合わせる N1 ガ N2 ヲ N3 ニノト
N2 ヲ :[DIV] 「靴、家具、生活、声」
[CON, ABS, PHE]
N3 ニノト :[DIV] 「服、壁の色、収入、ピアノの音」
[CON, ABS, PHE]

2.5. 「名詞句と意味素性」の記載法と記載例

名詞句と意味素性は 名1、名2、...の項に次のように記載してある。

1. 一つのスロットに意味素性が複数個以上ある場合、「 / 」で併記してある。
また、例としてあげる名詞句もそれに対応させて「 / 」で区切っている。

(60) 死ぬ 名 1 N 1 ガ [H U M / A N I] 患者、学生 / 魚、鳥

2. 一つの名詞句の意味素性が [X] と [Y] とも取れる場合、特にいずれかに限定しないで両者を並記する。また、名詞句もそれに対応させて名詞句の欄で重複して書くことがある。

(61) 堀がその城を囲んでいる 名 2 N 2 ヲ [P R O / L O C] 城、公園、日本 / 城、公園、日本、日本の周囲

[記載例]

あれる 2

N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ
母は水仕事で手が荒れた

名 1 N 1 ガ [H U M] 母親
名 2 (N 2 デ) [A C T] 水仕事、野良仕事、家事
名 3 N 3 ガ [P A R] 手、舌、肌、顔

やる 1

N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ
彼は息子を大学へやった

名 1 N 1 ガ [H U M / O R G] 彼、指令官 / 会社
名 2 N 2 ニ [H U M / O R G] 息子、係員 / 一個中隊
名 3 N 3 ヲ [L O C / O R G] 東京、現場、前線 / 大学

わすれる 1

N 1 ガ N 2 ヲ
老人は昔の事を忘れた

名 1 N 1 ガ [H U M / A N I] 学生、役者 / 犬
名 2 N 2 ヲ [D I V] 漢字、台詞、飼主、恩、事件、悲しみ、恩師の名前、友人の声

なぐさめる 1

N 1 ガ N 2 ヲ (S ト)
彼は友人をがなばれよと慰めた

名 1 N 1 ガ [H U M] 彼、
名 2 N 2 ヲ [H U M] 友人、子供、未亡人
名 3 (S ト) [-] がっかりするな、もう大丈夫だよ

3. 述語素

3.1. 述語素の概要

3.1.1. 動詞と名詞句との関係

名詞句は、動詞と結びついて次のような意味関係を持つ。

1. 直接的関係 (N_j) [後の表で関連する格助詞のパターンが N_j のみのもの]

同じ「娘」という名詞でも、動詞と関連して様々な役割を持つ。

- (62) a 娘が 走る。 (動作の主体)
b 娘が 罨にはまる。 (動作を受ける側)
c 娘が ピアニストになる。 (変化の主体)
d 娘が 彼のいところにあたる。 (関係する2つのうちの1つ)

また、同じ動詞の場合でも、(63)の文は「娘」は意図的な(わざと)動作の主体にも、また非意図的な(うっかりして)動作の経験者にもなりえる。このように、動詞と名詞句は文を形成する上で密接に絡み合っているのである。

(63) 娘が ハンカチを落す。

このようなものを区別するために、とりあえず大別して意図的な動作を行うものをA (Agent : 動作主)、そうでないものをO (Object : 対象)と、仮に区別することしよう。すると前述の文の持つ複数の意味は、

- (64) a 娘が (わざと)ハンカチを落す。
A
b 娘が (うっかり)ハンカチを落す。
O

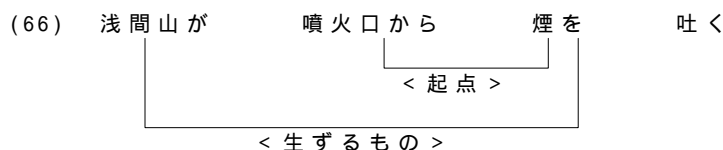
ということになる。なお、Oは更に細分化されるが、それは後に詳述する。

2. 間接的關係 (Nj Ni)

名詞句は、上のように動詞と直接関連せず、他の名詞句を介して当該の動詞と意味関係を持つこともある。後に述べる述語素は、これに対する記述が中心となる。
例えば、

(65) 浅間山が 噴火口から 煙を 吐く。

では、「煙」は「浅間山」が行う作用「吐く」の<対象>であり、かつ「浅間山」の「吐く」という作用の結果、<生ずるもの>である。また「噴火口」は「煙」を「吐く」<起点>になっている。したがって、(65)は、下図のように図示できる。



3.1.2. 名詞句同士の関係：全体 - 部分の関係 (Nj Ni)

(65)の文について、「噴火口」は「浅間山」の<一部>という関係を持つ。このような、名詞句同士の<全体 - 部分>の関係は動詞には直接関係していない点で上の例とは異なる。このような情報は名詞句間の意味構造を知る上で有益であるばかりではなく、ヴォイスにも関連する点で極めて重要である(. 1.ヴォイス 参照)。

(67) 娘が (自分の)髪を 染める

<部分>

3.1.3. 述語素とその意味

述語素は、1. 動詞と名詞句との関係、2. 名詞句同士の関係を同じに表そうとした試みである。以下にこの辞書で採用した具体的な述語素をあげる。

表 7

| | | |
|--------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 場所に関する述語素 | | |
| L L # | (locational locative) | 空間的場所 (注2) |
| N L # | (non-locational locative) | 非空間的場所 |
| L S # | (locational source) | 空間的起点 |
| L G # | (locational goal) | 空間的着点 |
| D R # | (directional) | 方向 |
| S P | (space) | 空間 |
| T M | (time) | 時間 |
| R A | (range) | 範囲 |
| 抽象的空間を表す述語素 | | |
| S Y # | (symmetrical) | 対称 |
| C C # | (concern) | 関連 |
| P T # | (partner) | 相手 |
| C P # | (comparative) | 比較 |
| Q U # | (quantitative) | 数量 |
| E S # | (essive) | 資格 |
| C T # | (content) | 内容 |
| 原因・目的に関する述語素 | | |
| A S | (ascriptive) | 起因 |
| M T # | (motive) | 動機 |
| 変化・作用に関する述語素 | | |
| A | (agent) | 動作主 |
| O | (object) | O #e (effective) 対象 (出現) |
| | | O #d (disappearance) 対象 (消滅) |
| | | O #c (change) 対象 (変化) |
| | | O #a (affective) 対象 (受影) |
| A T | (attitude) | 態度の対象 |
| N S # | (non-locational source) | 非空間的起点 |
| N G # | (non-locational goal) | 非空間的着点 |
| その他 | | |
| O # | | 対象 (上記 4 つ以外のもの) |
| I N | (instrumental) | 手段 |
| F C | (focus) | 焦点 |
| G G | (GA-GA) | (ガガ構文) |
| G N | (GA-NI) | (ガニ構文) |
| 全体 - 部分の関係 | | |
| P A # | (partitive) | 部分 |

(注2) 述語素の後の#は、当該の述語素が格形式によって細分化されることを示す。

3.2. 述語素の説明

3.2.1. 述語素の格形式による制限

3.1.3.の表7では述語素とその意味のみを述べたが、格形式によってある程度これを制限することができる。例えば、「動作主」は常にガ格であって、ガ格以外が「動作主」になることはない。このような制限を考慮に入れて、格形式と述語素との緊密な関係を示したのが下の表8である。述語素一つにつき複数の格形式が対応する場合は、原則として数字又は当該の格助詞の頭文字（例えばニであれば n）による添字をつけて区別する。

表 8 - 1 (アルファベット順)

| 記号 | 訳語 | 関連する格形式〔Ni, Nj〕 | Nj |
|-------|---------|-----------------|----|
| A | 動作主 | {ガ} | ガ |
| A S | 起因 | {ガ,ニ} | ニ |
| A T | 態度の対象 | {ガ,ニ} | ニ |
| C C 1 | 関連 | {ガ,ニ} | ニ |
| C C 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| C P 1 | 比較 | {ガ,ヨリ} | ヨリ |
| C P 2 | " | {ヲ,ヨリ} | ヨリ |
| C T 1 | 内容 | {ガ,ト} | ト |
| C T 2 | " | {ヲ,ト} | ト |
| C T s | " | {Sト} | ト |
| D R 1 | 方向 | {ガ,ヘ} | ヘ |
| D R 2 | " | {ヲ,ヘ} | ヘ |
| E S 1 | 資格 | {ガ,デ} | デ |
| E S 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| F C | 焦点 | {ガ,ガ'} | ガ' |
| G G | (ガガ) | {ガ,ガ'} | ガ' |
| G N | (ガニ) | {ガ,ニ} | ニ |
| I N | 手段 | {ガ,デ}{ヲ,デ} | デ |
| L G 1 | 空間的着点 | {ガ,ニ} | ニ |
| L G 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| L L 1 | 空間的場所 | {ガ,ニ} | ニ |
| L L 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| L S 1 | 空間的起点 | {ガ,カラ} | カラ |
| L S 2 | " | {ヲ,カラ} | カラ |
| M T 1 | 動機 | {ガ,ニ} | ニ |
| M T 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| M T 3 | " | {ガ,カラ} | カラ |
| M T 4 | " | {ヲ,カラ} | カラ |
| N G 1 | 非空間的着点 | {ガ,ニ} | ニ |
| N G 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| N L 1 | 非空間的場所 | {ガ,ニ} | ニ |
| N L 2 | " | {ヲ,ニ} | ニ |
| N S 1 | 非空間的起点 | {ガ,カラ} | カラ |
| N S 2 | " | {ヲ,カラ} | カラ |
| O 2a | 対象〔受影〕 | {ガ,ヲ} | ヲ |
| O 1c | 対象〔変化〕 | {ガ} | ガ |
| O 2c | " | {ガ,ヲ} | ヲ |
| O 1d | 対象〔消滅〕 | {ガ} | ガ |
| O 2d | " | {ガ,ヲ} | ヲ |
| O 1e | 対象〔出現〕 | {ガ} | ガ |
| O 2e | " | {ガ,ヲ} | ヲ |
| O 1 | 対象〔その他〕 | {ガ} | ガ |
| O 2 | " | {ガ,ヲ} | ヲ |

表 8 - 2

| 記号 | 訳語 | 関連する格形式〔Ni,Nj〕 | Nj |
|--------|----|----------------|----|
| P A gd | 部分 | 〔ガ,デ〕 | デ |
| P A gg | 〃 | 〔ガ,ガ'〕 | ガ' |
| P A gk | 〃 | 〔ガ,カラ〕 | カラ |
| P A gn | 〃 | 〔ガ,ニ〕 | ニ |
| P A go | 〃 | 〔ガ,ヲ〕 | ヲ |
| P T k | 相手 | 〔ガ,ヲ,カラ〕 | カラ |
| P T n | 〃 | 〔ガ,ヲ,ニ〕 | ニ |
| Q U 1 | 数量 | 〔ガ, 〕 | |
| Q U 2 | 〃 | 〔ヲ, 〕 | |
| P A | 範囲 | 〔ガ,ニ〕 | ニ |
| S P | 空間 | 〔ガ,ヲ〕 | ヲ |
| S Y 1 | 対象 | 〔ガ,ト〕 | ト |
| S Y 2 | 〃 | 〔ガ,ト〕 | ト |
| T M | 時間 | 〔ガ,ヲ〕 | ヲ |

1. ガ - ガ構文の二つのガを区別するために、2番目のガは便宜上〔ガ'〕と表示してある。
2. 関連する格形式が Nj のみのものは N と V との直接的関係を示す(3.1.1.動詞と名詞句との関係 参照)。
3. 「関連する格形式」であげた格は、あくまでも該当する述語素の範囲内で関連するもののみを抽出しただけである。〔文型〕の一部分に相当するものである。
4. Ni は Nj より上位の格形式である。Ni はガ、ヲの2つに限定してある。以下に格々の格形式の階層を示す。

| |
|------------------------|
| ガ > ヲ > ニ,カラ,へ,ト,ヨリ,デ, |
|------------------------|

【添字について】

O の添字は、a <affective>, c <change>, d <disappearance>, e <effective> というように意味を表している。PA などの述語素に見られる gg, gn などの添字は格形式にちなんで命名されている。たとえば gd はガ - デの形式をとるものであり、gg はガ - ガ、gk はガ - カラ、gn はガ - ニ、go はガ - ヲである。

3.2.2. 述語素の定義

関連する格形式ごとに分類した述語素(添字を含む)とそれぞれの定義を表 9 に示す。

表 9 - 1

| 述語素 | 定義 |
|------|--|
| 1. ガ | |
| A | Nj は意図的に V しうるもの |
| O 1e | Nj は V する結果、出現するもの |
| O 1d | Nj は V する結果、消滅するもの |
| O 1c | Nj は V する結果、変化するもの |
| O 1 | (ただし、O 1e、O 1d に該当するものは除く) 上記 A ~ O 1c の特徴を持たないもの |

表 9 - 2

| 述語素 | 定 義 |
|---|---|
| 2.1. ガ - ヲ | |
| S P T M O 2e O 2d O 2c O 2a O 2 | Nj は Ni が V する空間 Nj は Ni が V する時間 Nj は Ni が V する結果、出現するもの Nj は Ni が V する結果、消滅するもの Nj は Ni が V する結果、変化するもの (ただし、O 2e、O 2d に該当するものは除く) Nj は Ni の作用を受けて V するが、変化について無関心なもの 上記 S P ~ O 2a の特徴を持たないもの |
| 2.2. ガ - ニ, ヲ - ニ | |
| M T 1,2 L G 1,2 N G 1,2 L L 1,2 N L 1,2 C C 1,2 R A A S E S 2 A T G N | Nj は Ni が V する動機 Nj は Ni がそこへ向かって V する終点 Nj は Ni の終点となる状態、資格、属性、事柄 Nj は Ni の存在する具体的空間 Nj は Ni の存在する抽象的空間 Nj は Ni がそこに関係づけられる基準点 Nj はその点において Ni が V する範囲、領域 Nj はそれによって Ni が V する原因となるもの Nj は Ni の資格、状態 Nj は Ni が態度を示す対象 M T 1, L G 1, N G 1, L L 1, N L 1, C C 1, R A, A S, A T の特徴を持たないもの |
| 2.3. ガ - ヘ, ヲ - ヘ | |
| D R 1,2 | Nj は Ni がそこへ向かって V するところ |
| 2.4. ガ - カラ, ヲ - カラ | |
| M T 3,4 L S 1,2 N S 1,2 | Nj は Ni が V するための行為の完了 Nj は Ni がそこから V するところ Nj は Ni の起点となる状態、事柄、材料など |
| 2.5. ガ - ヨリ, ヲ - ヨリ | |
| C P 1,2 | Nj は Ni にとっての比較の対象 |
| 2.6. ガ - デ, ヲ - デ | |
| I N E S 1 | Nj は Ni が V するときに用いる手段、道具 または、それによって Ni が V する原因となるもの Nj は Ni の資格、状態 |
| 2.7. ガ - ト, ヲ - ト | |
| S Y 1,2 C T 1,2 C T S | Nj は Ni と義務的に共同で V するもの Nj は Ni の終点となる状態、資格、属性、事柄 S は Ni の終点となる状態、資格、特性、事柄 |
| 2.8. ガ - , ヲ - | |
| Q U 1,2 | Nj は Ni の部分的あるいは全体的量を表示する |

表 9 - 3

| 述語素 | 定 期 |
|----------------------|---|
| 3.1. ガ - ラ - ニ | |
| P T n | Nj は Ni が物品、情報などをやりとりする相手 |
| 3.2. ガ - ラ - カラ | |
| P T k | Nj は Ni が物品、情報などをやりとりする相手 |
| 4.1. ガ - ガ | |
| P A gg F C G G | Nj (ガ) は Ni (ガ) の部分である Nj (ガ) は Ni (ガ) の側面、状態、性質 F C の特徴をもたないもの |
| 4.2. ガ - ガ | |
| P A go | Nj (ヲ) は Ni (ガ) の部分である |
| 4.3. ガ - ニ | |
| P A gn | Nj (ニ) は Ni (ガ) の部分である |
| 4.4. ガ - カラ | |
| P A gk | Nj (カラ) は Ni (ガ) の部分である |
| 4.5. ガ - デ | |
| P A gd | Nj (デ) は Ni (ガ) の部分である |

3.2.3. 述語素とその文例

関連する格助詞ごとに分類した述語素とその文例を表 10 に示す。

表 10 - 1

| | 述語素 | 文 例 | 格形式の交替 |
|------|------|----------------------|--------|
| 1.1. | A | 馬が 走る 太郎が 泳ぐ | |
| | O 1e | セーターが できる 子供が 生れる | |
| | O 1d | あかりが 消える 汚れが 落ちる | |
| | O 1c | ガラスが 割れる 家具が 傷む | |
| | O 1 | 雪が 降る 山が ある | |

表 10 - 2

| | 述語素 | 文 例 | 格形式の交替 |
|------|-------|----------------------------------|---|
| 2.1. | S P | 彼女が 宇宙を 泳ぐ 彼女が 山道を 歩く | |
| | T M | 彼女が 夏休みを 過ごす 時計が 十時を 打つ | |
| | O 2e | 彼女が 服を 捲える 彼女が 子供を 産む | |
| | O 2d | 彼女が 火を 消す 彼女が 汚れを 落とす | |
| | O 2c | 彼女が ガラスを 割る 彼女が 部屋を 暖める | |
| | O 2a | 彼女が 足を 洗う 時計が 荷物を 持つ | |
| | O 2 | 彼女が 山を 見る 彼が 酒を 愛する | |
| 2.2. | M T 1 | 母が 買物に 出かける 友人を 見舞に 行く | ニ ノタメニ 母が買物の <u>ために</u> 出かける |
| | M T 2 | 息子を 修業に 出す 娘を 買物に やる | |
| | L G 1 | 父が 会社に 行く 生徒が 廊下に 出る | ニ ヘ (参照: D R 1) 父が会社 <u>へ</u> 行く |
| | L G 2 | 子供を 学校に やる 荷物を 二階に 上げる | ニ ヘ (参照: D R 2) 子供を学校 <u>へ</u> やる |
| | N G 1 | 氷が 水に なる 組合が ストライキに 入る | ニ ト (参照: C T 1) 氷が水 <u>と</u> なる |
| | N G 2 | 出発を 六時に 決める 毛糸を セーターに 編む | ニ ト (参照: C T 2) 出発を六時 <u>と</u> 決める ヲ デ、ニ ヲ 毛糸 <u>で</u> セーターを編む |
| | L L 1 | 庭に 木が ある 学生が 部屋に 残る | ニ ヲ (参照: S P) ひたい <u>を</u> 汗が流れる |
| | L L 2 | 手に 旗を 持つ 学生を 部屋に 残す | |
| | N L 1 | その子に 同情が 集まる 喜びが 彼の顔に 現れる | |
| | N L 2 | 大学に 委員会を 設ける 喜びを 顔に 現す | |
| | C C 1 | 彼は 私の叔父に 当たる この絨毯は となりの部屋に 合う | |

表 10 - 3

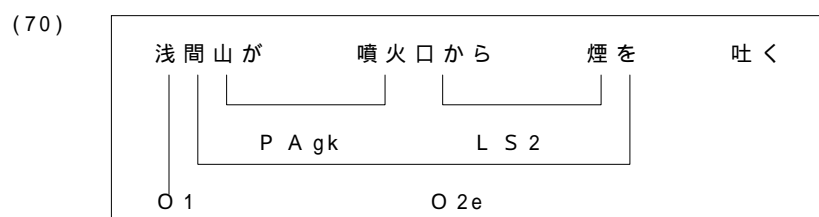
| | 述語素 | 文 例 | 格形式の交替 |
|------|-------|---|--|
| | C C 2 | 絨毯の色を 壁の色に 合せる 登場人物を 知人に 似せる | ニ ト (参照: S Y 2) 絨毯の色を壁の色と合せる |
| | R A | 彼は 計算能力に 優れる A社は 有能な人材に 富んでいる | ニ ノ点デ 彼は計算能力の <u>点</u> で優れる |
| | A S | 彼は 寒さに 震える 皆が 事件に 驚く | ニ デ (参照: I N) 彼は寒さ <u>で</u> 震える ニ ノタメニ 彼は寒さの <u>ため</u> に震える |
| | E S 2 | 知人を 助手に 雇う 彼を 代表に 出す | ニ トシテ 知人を助手と <u>して</u> 雇う |
| | A T | 子どもが 母親に 甘える 若者が アイドルに 憧れる | |
| | G N | 大臣が 質問に 応じる 彼の名が 社長候補に 上がる | |
| 2.3. | D R 1 | 兄が 図書館へ 通う 仏教が 日本へ 伝わる | へ ニ (参照: L G 1) 兄が図書館に <u>通</u> う |
| | D R 2 | 息子を 大学へ やる 仏教を 日本へ 伝える | へ ニ (参照: L G 2) 息子を大学に <u>や</u> る |
| 2.4. | M T 3 | 父が 旅行から 帰る 母が 買物から 戻る | |
| | M T 4 | 息子を 旅行から 返す | |
| | L S 1 | 荷物が 棚から 落ちる 全国から 会員が 集まる | |
| | L S 2 | 子どもを 膝の上から 下ろす 全国から 会員を 集める | |
| | N S 1 | ひなが 卵から 孵る 事故が 不注意から 起る | カラ ニヨッテ 誤解 <u>によ</u> って争いが生じる |
| | N S 2 | ひなを 卵から 孵す 話を 本筋から そらす | カラ ニヨッテ 誤解 <u>によ</u> って争いを生じる |
| 2.5. | C P 1 | 兄の体力は 弟より 勝っている この時計は 僕の腕時計より 進んでいる | ヨリ ニ (参照: C C 1) 兄の体力は弟に <u>勝</u> っている |
| | C P 2 | あの辞書より この辞書を 好む | |
| 2.6. | I N | 父が バスで 通う ボールペンで 字を 書く | |
| | E S 1 | 彼は (一生) 独身で 通す 彼は 律儀者で 通っている | |

表 10 - 4

| | 述語素 | 文 例 | 格形式の交替 |
|------|--------|-------------------------------------|---|
| 2.7. | S Y 1 | 学会の日取りが 祝日と ぶつかる 長嶋が 川上と 争う | ト ニ (参照: C C 1) 学会の日取りが祝日 <u>に</u> ぶつかる |
| | S Y 2 | 相手と 調子を 合せる 小皿と 大皿と 重ねる | ト ニ (参照: C C 2) 相手に調子を合せる |
| | C T 1 | 政府が税金問題と取り組む みぞれが雪となる | ト ニ (参照: N G 1) 政府が税金問題 <u>に</u> 取り組む |
| | C T 2 | 日本を 永住の地と 定める 先輩を 師と 仰ぐ | ニ ト (参照: N G 2) 日本を永住の地 <u>に</u> 定める |
| | C T s | 彼は母親から彼女が死んだと聞いた | |
| 2.8. | Q U 1 | 体重が 三キロ 増える 旅費が 五万円 浮いた | |
| | Q U 2 | 体重を 三キロ 増やす 会議を 一時間 延ばす | |
| 3.1. | P T n | 彼が 親に 小遣いを 貰う 彼が 彼女に 贈物を 渡す | ニ カラ (参照: P T k) 親 <u>から</u> 小遣いをもらう ガ カラ 彼 <u>から</u> 彼女に贈物を渡す |
| 3.2. | P T k | 学生が 教授から 本を 借りる 彼は 友人から その話を 聞いた | カラ ニ (参照: P T k) 教授 <u>に</u> 本を借りる |
| 4.1. | P A gg | 太郎が 腰が 痛む | |
| | F C | 彼は 音感が 優れている | |
| | G G | 太郎が 問題が わかる | |
| 4.2. | P A go | 太郎が 髪を 染める | |
| 4.3. | P A gn | 父親が 娘を ひざに 抱く | |
| 4.4. | P A gk | 浅間山が 噴火口から 煙を 吐く | |
| 4.5. | P A gd | 彼女が 顔を 両手で 覆う | |

3.2.4. 記述の実例

上で述べてきた述語素を使って(65)を記述すると(70)のようになる



1. 動詞と名詞句との関係

(a) 直接的関係（動詞と Nj の関係）

「浅間山」はそれ自体、「吐く」との関連で〈対象〉 O の意味を持つ。この場合、関与するのはガ格と動詞のみでヲ格名詞句は関係がない。また、「出現・消滅・変化・受影」のいずれの意味的特徴もないので、e, d, c, a の添字はつかない。

(b) 間接的関係（動詞と Ni - Nj の関係）

- ・「噴火口」は「煙」を「吐く」〈起点〉（空間的な）にあたるので、述語素は LS とし、核形式が〔ヲ、カラ〕なのでその添字は 2 である（LS1 は格形式が〔ガ、カラ〕のもの）。
- ・「煙」は「浅間山」の「吐く」〈対象〉であるから O である。O の中でも、「煙」は「吐く」結果〈生ずるもの〉であるから、添字は e である。また、格形式は〔ガ、ヲ〕なので、その形式からも数字の添字 2 をつけて O2e とする。

2. 名詞句動詞の関係：全体 - 部分の関係

「浅間山」と「噴火口」は〈全体 - 部分〉関係なので述語素として PA を選ぶ。格形式はガ、カラであるから、その添字（下位分類）として gk を選択する。

当辞書では 述 の項に並列的にこれらの述語素を並べてある（述語素の記載順序については、以下の 3.3. 述語素の記載法と記載例 参照）。

(71) 述 LS2, O2e, PA gk, O1

【付記】

本書には、各述語素の「認定の手順」を割愛してある。この「認定の手順」については、述語素を記述する際の問題点などとあわせて、「述語素について」（「ソフトウェア文書のための日本語研究 - 7」所収）に述べられているので、そちらを参照されたい。

3.3. 「述語素」の記載法と記載例

述語素は、以下の原則に従った順序で記載されている。

1. 大別すると次のような順に並んでいる。

| | | |
|--------------------------------|----------------------|-----------------------|
| Ni-Nj と動詞の関係 (LL, SY, AS 等) | <全体 - 部分> の関係 PA# | Nj と動詞の関係 (A, O1#) |
| (イ) | (ロ) | (ハ) |

2. 上の(イ), (ロ), (ハ)の中での順序は原則として表7(アルファベット順でないもの)で導入された順になっている。具体的に示すと、次のようになる。

- (イ) LL#, NL#, LS#, LG#, DR#, SP, TM, RA
SY#, CC#, PT#, CP#, QU#, ES#, CT#, AS,
MT#, O2#, AT, NS#, NG#, IN, FC, GG, GN
- (ロ) PA#
- (ハ) A, O1#

3. 上記のうち、添字#のついたものについては下記のように定める。

a. 添字が数字のものについては、1, 2, 3, 4の順とする。

b. その他の添字については、以下の如く定める。

P T n, P T k

P A gg, P A go, P A gn, P A gk, P A gd

O 1e, O 1d, O 1c, O 1

O 2e, O 2d, O 2c, O 2a, O 2

C T 1, C T 2, C T S

4. ただし、A / Bのように / がついている場合は、 / の前のものを基準にして順序を決定する。例えば、A, B, C, D, E, F, G ... の順のときは、

A, B, C, D, E / F, G ...

A, B, C, E, F, G / D ...

のようになる。(1.5.格形式の交替 参照。)

また、格形式の交替に伴って、述語素が次のように記載されることがある。

1. 「 / 」の使用

格形式の交替に伴って、ある述語素が交替するような場合には、述語素も格形式に対応させて「 / 」で区切って併記する。

(72) おくる 15

文型 : N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ

文例 : 彼はパケツを次の人に / ヘ送る

述語素 : O 2, N G 2 / D R 2, A

ヲ - ニと動詞との関係 N G 2

ヲ - ニと動詞との関係 D R 2

2. 「{ , } / { , }」の使用

格形式の交替に伴って、述語素の組み合わせが変わってしまうような場合は下のよ
うな表記でまとめる。

(73) ある 3

文型 : N 1 ガ / ニ N 2 ガ N 3

文例 : 彼は悩みが三つある。

この家には台所が二つある。

述語素 : {O 1, G G, Q U 1} / {N L 1, O 1, Q U 1}

N 1 ガ N 2 ガ N 3 の場合 O 1, G G, Q U 1

N 1 ニ N 2 ガ N 3 の場合 N L 1, O 1, Q U 1

3. 「()」の使用

文型欄の()は稀にしか現れることのない名詞句を指すが、それに対応する述語素に()をふることはしない。述語素欄では原則として()を用いないが、同一サブエントリ内でも名詞句によって P A #を取りうるような場合には、(P A #)と表示する。

(74) あらわす 2

文型 : N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ

文例 : 彼は喜びを顔に現した。

彼女は怒りを表情に現した。

名 3 : N 3 ニ { P A R / A B S } 顔 / 表情

述語素 : N L 2, O 2e, (P A gn), A

なお、ガ格がたたないなど、文型に特別の制限があって述語素を取れないものは、「-」と表示してある。

(75) おく 8

文型 : N 1 ヲ

文例 : 彼を措いてほかに適任者はいない。
 述語素 : -

| | |
|---|---|
| 〔 記載例 〕 | |
| おとす 2 N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は鍵をどこかに落した | 述 L G 2 / D R 2, O 2d, O 1 |
| とどける 1 N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ ファンが歌手に花束を届けた | 述 { L G 2, P T n, O 2, A } / { D R 2, O 2, A } |
| おさえる 2 N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はガーゼで傷口を押えた 彼は手で目頭を押えた | 述 O 2a, I N, (P A go), (P A gd), A |
| おうじる 3 N 3 ニ 個性に応じて進路を決める | 述 - |

4. 「統語に関する情報」の記載例

統語に関する情報は、当辞書では 統 の項に次のように記載されている。

| | |
|---------|---|
| 〔 記載例 〕 | |
| あおぐ 1 | 《 統 》 文 N 1 ガ N 2 ヲ 「 彼女は空を仰いだ。 」 述 O 2, A 名 1 N 1 ガ [H U M / A N I] 彼 / 狼 名 2 N 2 ヲ [C O N] 天、空、山頂、天井 |
| あおぐ 2 | 《 統 》 文 N 1 ガ [N 2 ニ / カラ] N 3 ヲ 「 課長は部長に指示を仰いだ。 」 述 { L L 2, P T 2, O 2, A } / { L S 2, P T k, O 2, A } 名 1 N 1 ガ [H U M / O R G] 新入社員 / 子会社 名 2 (N 2 ニ / カラ) [H U M / O R G] 課長、会長、来賓、名医 / 親会社 名 3 N 3 ヲ [A C T] 助力、指名、教え、寄付、裁下、臨席、診察 |
| あおぐ 3 | 《 統 》 文 N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 「 彼は先輩を師と仰いだ。 」 述 C T 2, O 2 a, A 名 1 N 1 ガ [H U M] 彼、娘 名 2 N 2 ヲ [H U M] 先輩、彼女、母 名 3 N 3 ト [A B S] 師、女の鑑、手本 |
| あおぐ 4 | 《 統 》 文 N 1 ガ N 2 ヲ 「 彼は毒杯を仰いだ。 」 述 O 2 a, A 名 1 N 1 ガ [H U M] 彼 名 2 N 2 ヲ [C O N] 毒、毒杯 |

動詞の文法的カテゴリに関する情報

1. ヴォイス情報

1.1. ヴォイスとは

動詞の統語的意味を構築する「動作主」、「対象」などの意味格のうち、どの要素に視点をあてて主語にするかにより述語の形式が異なったものとなる。

- (1)a John Killed Nancy.
b Nancy was killed by John.

- (2)a ジョンがナンシーを殺した。
b ナンシーがジョンに殺された。

aの文のように「動作主」を主語、「対象」を目的語とするのが通常の文法的手続きであるが、これを逆にしたb文を作り出すことが英語でも日本語でも可能である。その際に、述語が英語では〔V be V-ed〕、日本語では〔V-(r)u V-(r)areru〕という形態変化を起こす。以上のような文法的現象を「ヴォイス(voice)」（当辞書では〈態〉と表記）と呼ぶ。ところで、周知のように、英文法においてはヴォイスを「active voice (能動態)」と「passive voice (受動態)」の対立で捉えており(1a)が active voice、(1b)が passive voice、しかも「(原則として)他動詞においてのみこの現象がみられる」という非常に明確な体系を呈している。これに対して、日本語を同様な体系で捉えることはできない。というのは、第一に、これも周知のように日本語では自動詞も(3)のように(2b)と全く同じ形態的特徴を備えた受動文をかなり自由に作り出せるからである。

- (3) 彼は最愛の妻に死なれた。

(3)を(2a-b)とパラレルに対応させた能動文(4a)は非文であり、対応するとすれば(4b)がこれにあたる。この点では(2a-b)に見られる他動詞における対応とは異なっている。

- (4) a* 最愛の妻が彼を死んだ。
b 最愛の妻が死んだ。

このような受動文を「迷惑の受身」などと呼ぶことがある。

第二に、日本語では「対象」や「相手」だけではなく、「起点」、「随伴者」などを受動文の主語としてたてることが可能である。

- (5) a 学校が生徒から自由を奪った。
b 生徒は学校に自由を奪われた。
(6) a 彼女は彼と絶交した。
b 彼は彼女に/から絶交された。

第三として、日本語のヴォイスは〈受動〉だけではなく、〈使役〉、〈可能〉、〈自発〉などの問題も含めて論じられることが多い。これは、多分に〈受動〉との形態論的な繋がり 〈受動〉と同じ〔V+(r)areru〕という形態をとること、あるいは構文的手続きの類似 〈受動〉と同じような構文変換を起こすこと といった点によっているものと思われる。

- (7) a 彼女は彼と結婚した。
b 父親が彼女を彼と結婚させた。
(8) a 彼は娘を信じた。
b 彼は娘を信じられた。
c 彼には娘が信じられた。
(9) a 子供の頃の事を懐かしく思う。

- b 子供の頃の事が懐かしく思われる。

(7b)が<使役>、(8bc)が<可能>、(9b)が<自発>を表す。

ところで、ヴォイスには上のような「文法的ヴォイス」とは別に「語彙的ヴォイス」といわれるものがある。

- (10) a 伊藤先生が私に英語を教えた。
b 私は伊藤先生に英語を教えられた。
c 私は伊藤先生に英語を教わった。

「教わる」は「教える」の受動形である「教えられる」と全く同じ構文と意味であり、形態が異なっているだけである。換言すれば、「教えられる」が「教える」から直接派生し、かつ〔-(r)areru〕が文法的に生産的な要素であるのに対して「教わる」は「教える」からの直接派生ではなく、語彙的な繋がりしか認められない。しかし、その構文と意味を重視すれば「教わる」のようなものも広義にはヴォイスとして取り扱うべきものである。(注1)

以上がヴォイスに関する概略である。

(注1) この語彙的ヴォイスについては「1.5 ヴォイスによる動詞の分類」の<受動>で扱うことになっている。

1.2. 当辞書におけるヴォイス

当辞書ではヴォイスのカテゴリとして(7b)のようなサセル形の<使役>、(2b)、(3)、(5b)、(6b)のようなラレル形の<受動>を主に扱うが、先に述べた<受動>との形態論的かつ構文論的な繋がりから(8bc)のような<可能>、(9b)のような<自発>もヴォイスに含めている。また、本来はヴォイスのカテゴリに含めて論じられるものではないが、下の(11b)のようないわゆる<尊敬>も<受動>その他と同じラレル形であるという形態論的繋がりから、便宜的にヴォイス情報として扱っている。

- (11) a 社長が辞表を提出した。
b 社長が辞表を提出された。

1.3. サセル形 使役

1.3.1. ヲ使役, 二使役

<使役>とは「ある者(使役動作主)が他の者(動作主)の動作を強制したり許容したりする」意をいい、形態的には〔動詞の語幹(Vst) + (s)aseru〕 母音語幹には〔-saseru〕、子音語幹には〔-aseru〕が後接 という形式(サセル形)のものを、ここでは扱う。〔Vst + (S)asu〕という形式(サス形)も<使役>を表す場合があり、サス形はサセル形の短縮形であるとする見方もあるが、一般的には関西方言的な形式であるとされており、また、ここでいっている<使役>には必ずしもあてはまらない例が多いこと、サセル形ほど生産的ではないことなどから、ヴォイスからは一応除外して考えることにした。なお、このサス形については「 .形態に関する情報 6.派生 6.1 使役」で扱っている。

<使役>は次のような構文変換を起こす。(ローマ数字が構文変換の一般式を、アラビア数字がその具体的文例を表す。)

- I. a N1ガ N2ヲ(... ..) Vst-(r)u
b N0ガ N1ニ N2ヲ(... ..) Vst-(s)aseru

- (12) a 学生が原書を読む。
b 教授が学生に原書を読ませる。
c* 教授が学生を原書を読ませる。

- a N1ガ (... ..) Vst-(r)u
- b N0ガ N1ニ (... ..) Vst-(s)aseru
ヲ

- (13) a 桜が咲く。
b 花咲か爺さんが桜を咲かせる。
c* 花咲か爺さんが桜に咲かせる。

- (14) a 娘が買物に行く。
b 母親が娘を買物に行かせる。
c* 母親が娘に買物に行かせる。

上のように、元の文において「動作主」を表す名詞句をマークしている格形式ガが、使役文でヲと交替するかニと交替するかによって<使役>は二種類に分けられる。前者を<ヲ使役>、後者を<ニ使役>と呼ぶことにする。<ヲ使役>と<ニ使役>は原則的には

元の文にヲ格がある場合には、それが他動詞のヲ格であるか自動詞のヲ格であるかに関わらず、「動作主」の名詞句(N1)は使役文ではニによってマークされる(上記(12b)参照)。

元の文にヲ格がない場合には、N1は使役文では通例ヲによってマークされる(上記(13b)(14b)参照)。しかし、ニによってマークされてもニュアンスの違いはあるが不自然ではない場合もある(上記(14c)参照)。(注2)

という使い分けがある。

- (注2) <ヲ使役>と<ニ使役>の違いは「動作主」の意志が存在するか否かによって説明される。すなわち、<ヲ使役>では「動作主」の意志の有無が問題とならないのに対して、<ニ使役>では「動作主」の意志があることを前提としている、といえる。

1.3.2. ガ・ガ構文の使役

いわゆるガ・ガ構文「N1ガ N2ガ(... ..) V」における<使役>は、次のような構文変換を起こす。

- a N1ガ N2ガ(... ..) Vst-(r)u
- b N0ガ N1ニ N2ヲ(... ..) Vst-(s)aseru

- (15) a 彼女がコーヒーで目が冴えた。
b 母親が彼女にコーヒーで目を冴えさせた。

このガ・ガ構文の<使役>については、N1のとる格形式に着目し、<ニ使役>として処理する。

また、同じガ・ガ構文でも「N1ガ/ニ N2ガ(... ..) V」という構文もあるが、これも同様に<ニ使役>として処理する。

- (16) a 彼(に)はこの問題が判った。
b 先生は彼にこの問題を判らせた。

1.3.3. 「サセル形」の記載法と記載例

サセル形に関する情報は、当辞書では 態 の項の第一要素として、次のように記載されている。

| | |
|--------------------|------------------|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | 使役文を形成しない |
| < ヲ使役 > | ヲ使役文を形成する |
| < ニ使役 > | ニ使役文を形成する |
| < ヲ使役, ニ使役 > | ヲ使役文およびニ使役文を形成する |
| 〔記載例〕 | |
| 身長が伸びる | |
| * 身長を伸びさせる | |
| * 身長に伸びさせる | x |
| 花が咲く | |
| 花を咲かせる | |
| * 花に咲かせる | ヲ使役 |
| 彼女が名前を書く | |
| * 彼女を名前を書かせる | |
| 彼女に名前を書かせる | ニ使役 |
| 子供が遊ぶ | |
| 子供を遊ばせる | |
| 子供に遊ばせる | ヲ使役, ニ使役 |

1.4. ラレル形 受動, 可能, 自発, 尊敬

1.4.1. 受動 直接受動, 間接受動

< 受動 > とは「ある者(物)が他の者(物)の動作・作用の影響を直接的あるいは間接的に被る」ことをいい、形態的には〔動詞の語幹(Vst) + (r)areru〕 母音語幹には〔-rareru〕、子音語幹には〔-areru〕が後接 という形式(ラレル形)のものゝさす。

< 受動 > は次のような構文変換を起こす。

$$\begin{array}{l}
 \text{a} \\
 \text{N1 ガ} \left\{ \begin{array}{l} \text{N2 ヲ} \\ \text{N2 ニ} \\ \text{N2 ト} \\ \text{N2 カラ} \end{array} \right\} (\dots\dots) \text{Vst}-(\text{r})\text{u} \\
 \\
 \text{b} \\
 \text{N2 ガ} \quad \text{N1} \left\{ \begin{array}{l} \text{ニ} \\ \text{ニヨッテ} \\ \text{カラ} \\ \text{デ} \end{array} \right\} (\dots\dots) \text{Vst}-(\text{r})\text{areru}
 \end{array}$$

- (17) a 父親が子供を助ける。
 b 子供が父親に助けられる。
- (18) a 猫が子供に噛み付く。
 b 子供が猫に噛み付かれる。
- (19) a 彼女が彼と絶交する。
 b 彼が彼女に / から絶交される。
- (20) a 泥棒が彼から金を奪う。
 b 彼が泥棒に金を奪われる。

- (21) a デマが国民を惑わす。
 b 国民がデマに / によって / で惑わされる。

- . a N1ガ (... ..) Vst-(r)u
 b N0ガ N1ニ (... ..) Vst-(r)areru

- (22) a 隣の子供がピアノを弾く。
 b 私が隣の子供にピアノを弾かれる。

- . a N1ガ N0ノN2ヲ (... ..) Vst-(r)u
 b N0ガ N1ニ N2ヲ (... ..) Vst-(r)areru

- (23) a 彼が私の腕を折る。
 b 私が彼に腕を折られる。

上のような受動化の違いにより、<受動>も二種類に分けられる。(17)～(21)のようなく受動>を<直接受動>、(22)(23)のようなく受動>を<間接受動>と呼ぶ。両者の違いは次のように定義できる。

直接受動 能動文の「対象」、「相手」、「起点」、「随伴者」のいずれかが受動文の主語になったもの。(注3)

間接受動 能動文にはもともと存在しなかった名詞句(例えば(22)における「私」、あるいは能動文中の名詞句の一部分(例えば(23)における「私」)が受動文の主語となったもの。

なお、<直接受動>と<間接受動>とは相補的なものではなく、一つの能動文から直接能動文と間接能動文を作り出せる場合がある。

- (24) a 警察が私の妻を犯人ではないかと疑った。
 b 私の妻が警察に / から犯人ではないかと疑われた。
 c 私は警察に妻を犯人ではないかと疑われた。

(24b)が<直接受動>、(24c)が<間接受動>である。

(注3) <間接受動>が「迷惑の受身」と一般に呼ばれているものに相当するが、「まともの受身」(ここでいう<直接受動>)にも迷惑のニュアンスが伴う場合があること、また、次の(ic)のように<間接受動>が必ずしもいつも迷惑の意味を持つとは限らないことなどから、(22)、(23)のようなく受動>を「迷惑の受身」と呼ぶことはここでは採らないことにする。

- (i) a. 吉田さんが加藤さんの娘をほめた。
 b. 加藤さんの娘が吉田さんにほめられた。<直接受動>
 c. 加藤さんが娘を吉田さんにほめられた。<間接受動>

1.4.2. 直接受動の主語

<直接受動>については、ある一文の「対象」、「相手」、「起点」、「随伴者」のうち複数のものが受動文の主語となりうる場合がある。

- (25) a 伊藤先生が彼女に英語を教えた。
 b 彼女が伊藤先生に英語を教えられた。
 c 英語が伊藤先生によって彼女に教えられた。

どの名詞句が受動文の主語になりやすいかということについては、一応の傾向が認められる。すなわち、[HUM]という意味素性をもつ名詞句がその他の意味素性(例えば[PRO])などをもつ名詞句よりも、受動文の主語になりやすいといえる。

- (26) a 彼が彼女にお金を預けた。

- b 彼女が彼に / からお金を預けられた。
 - c お金が彼から彼女に預けられた。
- (27) a 父親が彼女を金で大学に入れた。
 b 彼女が父親によって金で大学に入れられた。
 c 大学が父親によって彼女を金で入れられた。
- (28) a 掏撲が刑事から財布をすった。
 b 刑事が掏撲に財布をすられた。
 c 財布が掏撲によって刑事からすられた。
- (29) a 彼女が妹とお菓子に分けた。
 b 妹が彼女からお菓子に分けられた。
 c お菓子が彼女によって妹と分けられた。

また、[H U M] の名詞句が複数個ある場合には、「相手」や「起点」の方が「対象」よりも受動文の主語になりやすい。

- (30) a 娘が母親に子供を預けた。
 b 母親が娘に / から子供を預けられた。
 c 子供が娘によって母親に預けられた。
- (31) a 彼が前妻から子供を奪った。
 b 前妻が彼に子供を奪われた。
 c 子供が彼によって前妻から奪われた。

しかし、複数の名詞句のどちらにも [H U M] のものがない場合には、例えば「対象」と「相手」とでは「対象」の方が受動文の主語になりやすい。

- (32) a 本社が支社にテレックスを打った。
 b テレックスが本社から / によって支社に打たれた。
 c 支社がテレックスを本社に / から打たれた。

ただし、このような傾向も一般的なものではなく、例えば(30)と同じ格パターンをとるものでも、「売る」などは「相手」よりも「対象」の方が受動文の主語になりやすい。(注4)

- (33) a 店員が客に車を売った。
 b 車が店員によって客に売られた。
 c 客は店員から車を売られた。

したがって<直接受動>の主語化については、個別的に情報を与えるのが有益であると思われる。当辞書では、このような理由で上記の事象についても記述の対象とした(1.4.4.ラレル形の記載法と記載例 参照)。

(注4) 「相手」を主語にした(33c)は「迷惑」のニュアンスが強い。

1.4.3. 可能, 自発, 尊敬

ラレル形がいわゆる(学校文法でいうところの)<可能><自発><尊敬>を表す場合についても、当辞書では記述対象とした。

<可能>を表す[-(r)areru]は、現代語では五段活用以外の動詞の語幹に接続する。五段活用の動詞には語幹に[-eru]が接続し、いわゆる「可能動詞」を形成する。

- (34) a 寝る(下一段) ne - ru ne - ra re ru
- b 読む(五段) yo m - u yo m - e ru (可能動詞)

ヴォイスの欄で扱う<可能>は、ラレル形のものであり、可能動詞については、「形態に関する情報 6.派生 6.1可能」で扱う。

1.4.4. 「ラレル形」の記載法と記載例

ラレル形に関する情報は、当辞書では 態 の項の第二要素として、以下のように記載されている。

なお、<直受>が可能な場合には、格形式についての情報が次のように記載されている。

1. <直受>が可能な場合には、能動文のどの格形式が直接受動文の主語になりえるかを示す。次に、能動文の主語が受動文においてどの格形式に交替するかが、<直受>と記載した後に「;」で区切って記載してある。

- (35)a 上司が部下に目をかける。
 b 部下は上司に目をかけられる。
 c 部下は上司から目をかけられる。 直受二;二,カラ

2. 直接受動文の主語になる名詞句の格形式が複数ある場合、より自然な直接受動文を形成する格形式が最初に記載してある。そして、それに比べると直接受動文の主語になる度合いが少ない格形式が「|」で区切った後に記載してある。

- (36)a 親は娘に期待を掛ける。
 b 娘は親に/から期待を掛けられる。
 c 期待が親から/によって娘に掛けられる。 直受二;二,カラ|
 ヲ;カラ,ニヨッテ

〔記載法〕

| | | |
|--------|-------|--------------|
| < x > | | ラレル形を取らない |
| < 直受 > | | 直接受動を形成する |
| < 間受 > | | 間接受動を形成する |
| < 可能 > | | ラレル形の可能表現を表す |
| < 自発 > | | 自発表現を表す |
| < 尊敬 > | | 尊敬表現を表す |

〔記載例〕

| | | |
|-------------------------|---|------------|
| 太陽が輝く | | |
| * 太陽が/ <u>に輝かれる</u> | x | |
| ダムが洪水を防ぐ | | |
| 洪水がダムによって/ <u>で防がれる</u> | | 直受ヲ;ニヨッテ,デ |
| 息子が入試に落ちる | | |
| 私が息子に入試に <u>落ちられる</u> | | 間受 |
| この劇場が1万人いれる | | |
| この劇場が1万人 <u>いられる</u> | | 可能 |
| 彼が失敗を恨む | | |
| 失敗が恨ま <u>れる</u> | | 自発 |
| 先祖がこの墓地に眠る | | |
| 先祖がこの墓地に眠ら <u>れる</u> | | 尊敬 |
| 雨が頬を叩く | | |
| 頬が雨に叩か <u>れる</u> (直受) | | |
| 雨に頬を叩か <u>れる</u> (間受) | | 直受ヲ;二,間受 |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| 彼は田舎を離れる | | |
| 彼に田舎を離れ <u>られる</u> (間受) | | |
| 彼が田舎を離れ <u>られる</u> (可能, 尊敬) | | |
| 彼に田舎が離れ <u>られる</u> (可能) | | 間受, 可能, 尊敬 |
| 彼女が叔母に子供を預ける | | |
| 叔母が彼女に / から | | |
| 子供を預け <u>られる</u> (直受) | | |
| 子供が彼女から / によって | | |
| 叔母に預け <u>られる</u> (直受) | | |
| 彼女に叔母に子供を | | |
| 預け <u>られる</u> (間受) | | |
| 彼女が叔母に子供を | | |
| 預け <u>られる</u> (可能, 尊敬) | | |
| 彼女に叔母に子供が | | |
| 預け <u>られる</u> (可能) | | 直受二; 二, カラ ヲ; カラ, ニヨッテ, 間受, 可能, 尊敬 |

1.5. ヴォイスによる動詞の分類 能動, 相互, 中動, 受動

1.5.1. 分類の基準

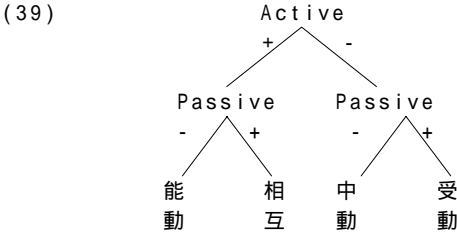
当辞書では、ヴォイスのあり方によって当該動詞を < 能動 > < 相互 > < 中動 > < 受動 > の四つのカテゴリに分類している。ただし、ここでいうヴォイスとは、1.1. - 1.4. までのヴォイスすなわち「文法的ヴォイス」とは異なり、1.1. でふれた「語彙的ヴォイス」のことを指している。つまり、動詞自体が本来的に有する語彙的なヴォイス性によって四類に分類する訳である。(注5)

この分類の基準として、能動 [±Active] と受動 [±Passive] という素性をたてる。各素性の定義は次の通りである。

- (37)a [+Active] : 動詞の表す行為 (あるいは関係) が主語から発し、他に及んでいる
- b [-Active] : 動詞が主語から発し、他に及ぶ行為 (あるいは関係) を表していない
- c [+Passive] : 動詞の表す行為 (あるいは関係) が他から発して、主語に及んでいる
- d [-Passive] : 動詞が他から発し、主語に及ぶ行為 (あるいは関係) を表していない

この [±Active] と [±Passive] の二種の素性を組み合わせることによって、次のような分類が得られる。

- (38)a [+Active, -Passive] < 能動 >
- b [+Active, +Passive] < 相互 >
- c [-Active, -Passive] < 中動 >
- d [-Active, +Passive] < 受動 >



各分類の具体的説明は次項目以下で行う。

(注5) このカテゴリの詳細については、当協会の報告書「ソフトウェア文書のための日本語処理の研究 - 5」所収の「態を軸とした動詞分類試案」(外池滋生 1983)を参照されたい。

1.5.2. 能動

<能動>の動詞は、「その動詞の表す行為(あるいは関係)が主語から発し、他に及ぶ」ものであり、次のような動詞がその具体例である。

(40) 助ける、殺す、教える、見付ける、つかまえる etc.

実際の判定においては、<直接受動>になりえる動詞を<能動>とした。

(41)a 秀吉が大坂城を築いた。
b 大坂城は秀吉によって築かれた。 <能動>

そのために、意味的には(37)および(38)の定義からして<能動>と考えられる動詞であっても、何らかの理由で<直接受動>になりえないものは<中動>に分類されている場合がある。

(42)a 彼はバラの香を嗅いだ。
b* バラの香が彼によって嗅がれた。 <中動>

1.5.3. 相互

<相互>の動詞は、「主語から行為(あるいは関係)が発し、同時に行為(あるいは関係)が主語に及ぶ」ものであり、次のような動詞がその具体例である。

(43) (～と)結婚する、争う、並ぶ、反目する etc.

実際の判定においては、文型が「N1ガN2ト(... ..)」および「N1トN2ガ(... ..)」の形をしており、トが義務的であれば<相互>とした。また、ガ格が複数主体である場合も、上記の文型に変換しうるものであれば<相互>としてある。

(44)a 彼が彼女と結婚する。
b 彼と彼女が結婚する。
c 二人が結婚する。 <相互>

ところで、(38)の定義からして<能動>と<相互>が同時に成立することはありえないことになるが、判定の基準からすると<能動>かつ<相互>という場合が生じる。この場合には、「能動、相互」と併記してある。

(45)a 山田と田中が契約を交した。
b 契約が山田と田中によってノの間で交された。 <能動,相互>

1.5.4. 受動

<受動>の動詞は、「他から発する行為(あるいは関係)が、主語に及ぶ」ものである。実際の判定では、<能動>に分類された動詞以外の動詞で、文型が「N1ガN2ニ/カラ(... ..)」の形をとり、N2を主語とする意味的に対応する能動文を作ることができれば、その動詞を<受動>とした。(注6) ただし、「犬が物音に驚く」「物音が犬を驚かす」のように、N2ニ/カラが原因を表す場合は除く。

(46)a 泥棒が警察に捕まる。 <受動>
b 警察が泥棒を捕える。

- (47) a 学生が教授から言語学を習う。 < 受動 >
 b 教授が学生に言語学を教える。

< 受動 > の動詞には、上の例も含めて次のようなものがある。

- (48) 捕まる、教わる、習う、見付かる etc.

(注6) ここでいう< 受動 >とは、いうまでもなく、ラレル形の< 受動 >すなわち「文法的ヴォイス」ではなく「語彙的ヴォイス」のことである。また、「対応する能動文を作ることができれば」という基準を広く解釈すれば、「台風で木が倒れた」「台風が木を倒した」のような原因を表す「で」を含む、動詞の自他の交替をもたらす対応の場合の自動詞も< 受動 >と考えられるが、ここでは狭くとらえることとしたため、このようなものは< 受動 >としていない。

1.5.5. 中動

< 中動 > の動詞は、「主語から発して他に及ぶ行為(あるいは関係)も、他から発して主語に及ぶ行為(あるいは関係)も表さない。」ものである。実際の判定の際には、< 能動 > < 相互 > < 受動 > のいずれにも属さない動詞を、< 中動 > の動詞とした。< 中動 > は通常の自動詞がその典型である。

- (49) 走る、寝る、休む、破れる、壊れる etc.

また、他動詞でも「(自分の)足を折る」のような再帰的用法は、この< 中動 > に含める。(注7)

- (50) a 子供が(自分の)足を折った。 < 中動 >
 b* (子供の)足が自分によって折られた。

(注7) 「(他人)の足を折る」という場合の「折る」は< 能動 >である。
 (i) 彼が子供の足を折った。 < 能動 >
 (ii) 子供の足が彼に折られた。

1.5.6 「ヴォイスによる動詞の分類の記載法と記載例

上記のような手順によって、動詞が有する「語彙的なヴォイス」のあり方によって、全動詞を四つのタイプに分類した。それに関する情報は、当辞書では 態 の項の第三要素として最後の欄(「:」の後ろ)に次のように記載されている。

| | |
|-----------------------|--|
| 〔記載法〕 | |
| < 能動 > | 直接受動になりえる |
| < 相互 > | 文型が「N1がN2ト...」の形をしているか、ガ格が複数主体である |
| < 受動 > | 文型が「N1ガN2ニ/カラ...」の形をしていて、N2を主語とする意味的に対応する能動文をつくることのできる |
| < 中動 > | < 能動 > < 相互 > < 受動 > のいずれでもない |
| 〔記載例〕 | |
| 救助隊が遭難者を <u>助ける</u> | |
| 遭難者が救助隊に助け <u>られる</u> | 能動 |
| 二人の歩調が <u>揃う</u> | 相互 |

| | |
|---|--------|
| 彼は英国人から英語を <u>習う</u> 英国人が彼に英語を <u>教える</u> | 受動 |
| 紙が <u>破れる</u> | 中動 |
| 彼は息子と服の色を <u>揃える</u> 息子は彼に / から服の色を 揃え <u>られる</u> 服の色は彼から / によって 息子と揃え <u>られる</u> | 能動, 相互 |

1.6. 「ヴォイス情報」の記載例

したがって、当辞書では 態 の項全体は次のように記載されることになる。

| | |
|--|---|
| 〔記載例〕 | |
| この草は解熱剤になる * この草を / に解熱剤になら <u>せる</u> * この草は解熱剤になら <u>れる</u> | 態 x, x : 中動 |
| 鍵と鍵穴が <u>合う</u> * 鍵と鍵穴を / に <u>合わせる</u> * 鍵と鍵穴が <u>合われる</u> | 態 x, x : 相互 |
| 緊張感が会議に <u>漂う</u> 緊張感を会議に <u>漂わせる</u> * 緊張感に会議に <u>漂われる</u> | 態 ヲ使役, x : 中動 |
| 太陽が大地を <u>熱する</u> * 太陽に大地を <u>熱させる</u> 大地が太陽に / によって <u>熱される</u> 太陽に大地を <u>熱される</u> | 態 x, 直受ヲ: 二, ニヨツテ, 間受: 中動 |
| 彼はゴミを川へ <u>投げる</u> 彼にゴミを川へ <u>投げさせる</u> ゴミが彼によって川へ <u>投げられる</u> 彼にゴミを川へ <u>投げられる</u> 彼がゴミを川へ <u>投げられる</u> 彼にゴミが川へ <u>投げられる</u> | 態 二使役, 直受ヲ: 二, ニヨツテ, 間受, 可能, 尊敬: 能動 |
| 巨人は阪神に / と <u>当る</u> 巨人を阪神に / と <u>当らせる</u> 巨人に阪神 (に /) と <u>当らせる</u> 阪神が巨人に <u>当られる</u> 巨人に阪神 (に /) と <u>当られる</u> 巨人が阪神に / と <u>当られる</u> | 態 ヲ使役, 二使役, 直受ニノト; 二, 間受, 尊敬: 能動, 相互 |

〔補注〕 態 にある情報が名詞句の欄に記載してあるすべての名詞句にあてはまるとは限らない。その際には、なるべく変更箇所を《備考2》に注記した。

2. テンス・アスペクト情報

2.1. テンスとは

テンスとは、時の流れを、言語の、特に文法上の存在・区別として認識したものである。日本語においては、動作や状態の発話者・認定者に対する時間的關係（基準時点より前であるか、後であるか、同時であるか）を表現する動詞・形容詞・述語名詞の形態論的および意味論的あり方である。

テンスに關与する動詞の形態は、「ル形」と「タ形」の二類に分類される。ル形とは「食べる・遊ぶ・飲む」など動詞そのままの形（いわゆる終止形）のことで、(1)のように<現在>もしくは<未来>を表し、タ形とは「食べた・遊んだ・飲んだ」など動詞の連用形に「タ」の付いた形で、(2)のように<過去>を表す。（注1）

- (1) a 机の上に本がある。 <現在>
b グランドを走る。 <未来>
- (2) a 机の上に本があった。 <過去>
b グランドを走った。 <過去>

当辞書では、テンスとしてル形のみを扱い、ル形が発話と同時（<現在>）を表すのか、あるいは発話以後（<未来>）を表すのかを記載している（2.4.ル形 テンス参照）。

（注1） ただし、ル形やタ形がテンスのみを表すわけではない。

- (i) 早く食べる。 （命令）
(ii) 私は必ず一等をとる。 （意志）
(iii) さあ、こっちへ来た。 （命令）

2.2. アスペクトとは

アスペクトとは、動詞の表す動作・作用の全過程のどの部分に焦点をおいて動作・作用を把握・表現するかの違いをいう動詞の形態論的および意味論的あり方である。例えば、「読みはじめる」は、読む〔動作の始まる〕ことを、「読んでいる」は、読む〔動作が進行中である〕ことを、「読んでしまう」は、〔動作の実現〕を表す。日本語のアスペクト表現は一定のアスペクト形式を動詞に接続することによって担われるが、用法の点から見るとテイル形とその他の形式 オワル形、ハジメル形、ツツケル形などの大きく二つに分かれる。

まず第一に、テイル形は用法が多様で「有る、居る、（注目に）値する」といった時間が問題にならない場合の存在・状態・性質といったものを表す動詞には接続しない。また、一様にテイル形をとるといっても、(3)のように通常テイル形でしか使わず〔単に状態を表す〕もの（<単純状態>）、(4)のように動詞の表す〔動作が一定時間維持すること（<進行>）を表すもの、(5)のようにある状態から他の状態への〔変化の結果の状態が維持されている〕こと（<結果残存>）を表すもの、(6)のように〔以前に行われた動作を経験や経歴として、あるいは単に以前に行われたこととして表す〕もの（<経験・完了>）などがある。

- (3) a 彼の顔はきつねに似ている。
b この絵の出来映えはすぐれている。 <単純状態>
c 山がそびえている。
- (4) a 午前中から原稿を書いている。
b もう三時間も原稿を読んでいる。 <進行>
c まだ走っている。
- (5) a 道端に人が死んでいる。
b 既に離婚している。 <結果残存>
c 灯が消えている。

- (6) a 彼は毎年よい作品を書いている。
 b 彼は過去に一度離婚している。 < 経験・完了 >
 c 彼がその遺跡を発見している。

さらに、(4a)(6a)「書いている」および(5b)(6b)「離婚している」に見るように同一の動詞であっても ambiguous な例がある一方で、(6c)「発見している」は < 経験・完了 > の意しか表さない。

当辞書では、当該動詞がテイル形をもつかもたないか、テイル形をもつ場合は < 単純状態 > < 進行 > < 結果残存 > < 経験・完了 > のうちのどの意をもつかを記載している(2.5.テイル形 参照)。

テイル形の多様性に対し、それ以外のアスペクト形式の意味は動詞に接続するそれぞれの形式の意味により多くを負っている。(7)にあげたものが主たる例である。

- (7) a 虫に刺された所がだんだん腫れてきた。
 b 彼は彼女に次第に引きつけられていった。
 c 長年風雨にさらされて、その看板の字は消えつつあった。
 d 彼は一晩中酒を飲みつづけても平気だった。
 e 芝居を見終ってから、六本木に向かった。
 f 最近急に太りだして困っている。
 g 手紙を書き始めたら、客が来た。
 h 去年彼は一度死にかけたが、どうにかもち直した。
 i せっかく植え直したのに、その木はすぐに枯れてしまった。
 j 宝石は金庫にしまってあるから大丈夫だ。
 k 新鮮な空気を入れるために、窓を開けておいた。

当辞書では、(7a)-(7j)の10項目についてそれぞれのアスペクト形式が動詞に接続可能かどうかを記載している(2.6.その他のアスペクト形式 参照)。

2.3. 当辞書におけるテンス・アスペクト情報

テンス情報は「ル形」に関して記載し、アスペクト情報は〔ル形+アスペクト形式〕に関して記載してある。したがって、以下のようなル形をもたない例では動詞はテンス・アスペクトをもたないとみなし、テンス・アスペクトの項のすべての情報にわたって「x」と記載してある。

1. テ形など特殊な形でしか現れない例

- (8) a 一家を挙げて海外に移る。
 b 彼は誤って人を傷つけた。
 c 教育問題に関して論ずる。

2. 否定形でのみ現れる例

- (9) a 辞任するには当たらない。
 b 罪は彼だけに留まらない。
 c チームは士気が奮わなかった。

3. 自発用法でのみ現れる例

- (10) 彼の話ぶりから彼の人が窺われる。

2.4. ル形 テンス

2.4.1. 現在, 未来

動詞にル形があるかないか、あるならば < 現在 > < 未来 > のいずれを表すかを記載している。

< 現在 > < 未来 > それぞれは以下の特徴をもつ。

1. 副詞「今」と共起した時、

| | | |
|--------|-------|--------------------------|
| < 現在 > | | 発話時に事象が成立する |
| < 未来 > | | 発話時に事象が未成立（すなわち発話時以後に成立） |

2. 副詞「現在」あるいは「目下」と共起が

| | | |
|--------|-------|--------|
| < 現在 > | | 可能である |
| < 未来 > | | 不可能である |

ただし、次のような場合は記述から除く。

3. < 現在 > を表す動詞が、未来を表す「時の副詞」と共起したことにより < 未来 > を表す例。

- (8) a 明日部屋にいる。
- b 来週運動会がある。

4. < 未来 > を表す動詞が、次の例におけるような意味で < 現在 > を表す例。

- (9) a 彼女はよくしゃべる。.....（性質規定）
- b 彼は毎日牛乳を飲む。.....（習慣・繰り返し）
- c 水は百度で沸騰する。.....（真理）

2.4.2. 「ル形」の記載法と記載例

ル形に関する情報は、当辞書では 時相 の項の第一要素として、次のように記載されている。

| | |
|---------------------------|--------------------------|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | ル形がない |
| < 現在 > | ル形があり、< 現在 > の意を表す |
| < 未来 > | ル形があり、< 未来 > の意を表す |
| 〔記載例〕 | |
| * 森の中に天守閣が <u>聳える</u> | x |
| 彼は彼女と好み <u>が違<u>う</u></u> | 現在 |
| 彼はグラウンドを <u>走る</u> | 未来 |

2.5. テイル形

2.5.1. 単純状態, 進行, 結果残存, 経験・完了

動詞にテイル形の接続が可能であるかないか、可能であるならば < 単純状態 > < 進行 > < 結果残存 > < 経験・完了 > のうちのどの意を表すかを記載している。< 単純状態 > < 進行 > < 結果残存 > < 経験・完了 > は、以下の意味で用いる。

1. < 単純状態 >
動きの契機を一切もたず単に状態を表す。
2. < 進行 >
動きが始まって終わるまでの動きの最中の状態に主体（ 「男が走る」「子

供が生れる」のようなガ格（主格）の名詞（ ）があることを表す。なお、反復的な動きも(11a-c)のように単一主体・単一事象で用いられている場合には<進行>とするが、(11d)は複数主体なので<進行>とはしない。

- (11)a 体が震えている。
- b 男が戸を叩いている。
- c 独楽が回っている。
- d アフリカでは毎日多くの人が死んでいる。(複数主体・事象)

3. <結果残存>

動きが終わり、その結果、生じた新しい状態が主体に今現に存在・接続していることを表す。「新しい状態が生ずる」とは(12a)のような主体の様そのものの変化のみならず、(12b)のような空間的位置変化をも含む。

- (12)a 手が濡れている。
- b 彼はアメリカへ行っている。

4. <経験・完了>

動きが終わり、その影響が単に現在に残っているだけで、直接的に現在の主体の状態を規定していない場合を表す。ただし、辞書で<経験・完了>と記載されるのは、<経験・完了>以外のいずれの意も表さない場合に限られる。例えば、(13)の「結婚する」のように<結果残存><経験・完了>の意味に関して ambiguous である場合は<結果残存>と記載され、一方(14)「さずかる」のように<経験・完了>以外の意味は表さない場合は、<経験・完了>と記載される。

- (13)a 彼は結婚している。 <結果残存>
- b 彼は三度結婚している。 <経験・完了>
- (14)a 彼女は女の子をさずかっている。 <経験・完了>
- b 彼女は三度女の子を授かっている。 <経験・完了>

5. <進行,結果残存>

<進行><結果残存>の意味に関して ambiguous である場合は<進行,結果残存>と併記して記載される。

- (15)a 今、雁がシベリアへ渡っている。 <進行>
- b 今はもう、雁はシベリアへ渡っている。 <結果残存>
<進行,結果残存>

それぞれのテイル形の意味素性は以下の特徴をもつ。

- 1. 「過去ニ～タ、故ニ～テイル」という推論関係（当該事象が既に生起し終わったということに言及しているかどうかということ）が
 - <単純状態><進行> …… 成立しない
 - <結果残存><経験・完了> …… 成立する
- 2. 副詞「現在」「今」と
 - <進行> …… 共起する
 - <単純状態><経験・完了> …… 共起しない
- 3. 「今ハモウ～テイル」と
 - <結果残存> …… 言える
 - <単純状態><経験・完了> …… 言えない

2.5.2. 「テイル形」の記載法と記載例

テイル形に関する情報は、当辞書では 時相 の第二要素として、下のよう記載されている。

〔 記載法 〕

| | |
|-------------------|------------------------------|
| < x > | テイル形がない |
| < 単純状態 > | テイル形が < 単純状態 > を表す |
| < 進行 > | テイル形が < 進行 > を表す |
| < 結果残存 > | テイル形が < 結果残存 > を表す |
| < 経験・完了 > | テイル形が < 経験・完了 > を表す |
| < 進行・結果残存 > | テイル形が < 進行 > < 結果残存 > の両方を表す |

〔 記載例 〕

| | | |
|-----------------------|---|----------|
| 運動会有一些 | | |
| * 運動会が <u>あっている</u> | x | |
| * 彼は音感が優れる | | |
| 彼は音感が <u>優れている</u> | | 単純状態 |
| 彼女は野原の花を摘む | | |
| 彼女は野原の花を <u>摘んでいる</u> | | 進行 |
| 潮風で風が湿る | | |
| 潮風で風が <u>湿っている</u> | | 結果残存 |
| 政府は見通しを誤る | | |
| 政府は見通しを <u>誤っている</u> | | 経験・完了 |
| 彼女は髪を茶色に染める | | |
| 彼女は髪を茶色に <u>染めている</u> | | 進行, 結果残存 |

2.6. その他のアスペクト形式

テイク形、テクル形、ツツアル形、テシマウ形、カケル形、ハジメル形、ダス形、ツツケル形、オワル形、テアル形の各アスペクト形式が動詞に接続できるかどうか記載してある。

2.6.1. テイク形, テクル形, ツツアル形

動詞に以下の意味でテイク形、テクル形、およびツツアル形を接続できるかどうかを記載している。

| | | |
|------|-------|------------------------|
| テイク | | 話し手の基準時点からの動きの進展を表す。 |
| テクル | | 話し手の置いた基準時点への動きの進展を表す。 |
| ツツアル | | 変化の進展を表す。 |

- (16) a 時が流れていった。
 b 船が岸から離れていった。
 c 領土はますます拡大していった。
- (17) a 彼女はこのごろ段々やせてきた。
 b 瘤がますます腫れてきた。
 c 話が現実味を帯びてきた。

- (18) a 彼女は段々太りつつある。
 b 波が高まりつつある。
 c 煤煙が空気を汚しつつある。

これらのアスペクト形式を接続できる動詞は、「ダンダン」「マスマス」「次第二」「徐々二」の副詞と共起可能であることを特徴とする。

ただし、次のような場合は記述から除く。

1. 「テクル」「テイク」の空間移動・運動を表す用法（＝「戻ってくる／行く、帰ってくる／行く」の意）の例
2. ツツアル形の動作の開始へ至る過程を表す用法（＝「～シヨウトシテイル」）の例。(20)(21)は、この意味では正しいが、当辞書では扱わない。

- (19) だんだん枯れつつある。
 (20) * だんだん本を読みつつある。
 (21) * 彼女は次第に死につつある。

2.6.2. テシマウ形

動詞に以下の意味でテシマウ形を接続できるかどうかを記載している。

テシマウ …… 動きが実現することを表す。

- (22) a その木は枯れてしまった。
 B 壁にひびが入ってしまった。

このアスペクト形式を接続できる動詞は「急二」「突然」「トウトウ」「ツイニ」といった動詞と共起可能であることを特徴とする。

なお、(23a)は、何かを確実・完全にし終えるという意で、(23b)は予期しない好ましくない結果になるという意で、意味が異なるが、辞書ではテシマウ形が接続できるかどうかのみを記載している。

- (23) a (本を) 読んでしまう。
 b (歌詞を) 忘れてしまう。

また、「テシマウ」は、ある種の情意的な意味合いを帯びる場合が多く、そのことによってテシマウ形の接続が不可能になる場合がある。動詞の語義と「テシマウ」の情意的な意味との齟齬の著しい場合は、接続が不可能としてある。

2.6.3. カケル形

動詞に以下の意味でカケル形を接続できるかどうかを記載している。

カケル …… 動きに取りかかること・移行することを表す。

- (24) a 去年一度彼は死にかけた。
 b 電車に傘を忘れかけた。
 c 彼は石につまずきかけた。

このアスペクト形式が接続可能な動詞は、動きの起こり・始まりに至るまでの時間的なあり方を示す副詞類「突然」「急二」と共起可能であることを特徴とする。

なお、(25a)は、風呂には入ろうとしたが、実際には入らなかったという意を表すが、一方(25b)は、本を読もうとしたが実際には読まなかったという意の他に、本を読み出しはしたが、途中でやめたの意も表す。辞書では、これらの違いは問わない。

- (25) a 風呂に入りかけた。
b 本を読みかけた。

2.6.4. ハジメル形, ダス形

動詞に以下の意味でハジメル形、ダス形を接続できるかどうかを記載している。

ハジメル, ダス 始まりの段階の動きを行うこと、動きを始めることを表す。

- (26) a 戸がしまりはじめた。
b 彼は焦りはじめた。
c 足下が夜露で濡れはじめた。

- (27) a 彼は手紙を書きだした。
b 風で窓が軋みだした。
c 馬が暴れだした。

なお、辞書では、単一主体・単一事象でハジメル形・ダス形が動詞に接続可能かどうかを扱う。したがって以下のような場合は除いた。

- (28) a たくさんの人が結婚しはじめた。
b* 彼女は結婚しはじめた。

- (29) a 人々が次々と立ちだした。
b* 彼は立ちだした。

また、ダス形の接続については、始動といったアスペクト的意義にのみ注目し、語感・文体等から来る接続の悪さについては無視してある。

2.6.5. ツツケル形

動詞に以下の意味でツツケル形を接続できるかどうかを記載している。

ツツケル 動きや状態が続いていること、接続中の動きや状態を維持することを表す。

- (30) a 湖の水が増えつづけた。
b 彼は良い夫でありつづけた。
c 警察は警報を出しつづけた。

このアスペクト形式を接続できる動詞は、時間的継続を表す「長時間」「ズット」といった副詞と共起可能であることを特徴とする。

なお、辞書では、単一主体・単一事象に関し、ツツケル形が動詞に接続可能かどうかのみを扱う。よって、以下の例は除く。

- (31) 次から次へと荷物が届きつづけた。
(32) 彼は何本もの万年筆をなくしつづけた。

2.6.6. オワル形

動詞に以下の意味でオワル形を接続できるかどうかを記載している。(注2)

オワル 動きが完成・終了すること、完成・終了段階の動きを行うことを表す。

- (33) a やっと本を読みおわった。
 b 事故の原因を調べおわった。
 c 部屋を片づけおわった。

このアスペクト形式を接続できる動詞は、始動点および終結点の双方に対する命令が可能であることを特徴とする。(34)に対応する命令文(35)に関して、(a)はまだ読み始めている人間に対しても、また既に読み出した人間に対しても使える。一方、(b)は始動点に対する命令の意しか表さない。

- (34) a やっと本を読みおわった。
 b* 友達を八子公の前で待ちおわった。

- (35) a 早く本を読め。
 b 八子公の前で友達を待て。

なお、以下のような量限定を加えて成立する例および複数主体・複数事象の例は除く。

- (36) a 運動場を二周走りおわった。
 b やっと走りおわった。

- (37) a 踊りを一曲舞いおわった。
 b* やっと舞いおわった。

- (38) a 生徒たちは次々バスに乗りおわった。
 b* 彼はバスに乗りおわった。

(注2) オワル形の接続可能性は、ヲ格等に来る名詞によって大きく影響される。

- (i) a* 彼は海を見おわった。
 b 彼は芝居を見おわった。
 (ii) a* 男は女のほほを打ちおわった。
 b 二人は墓を打ちおわった。

こういった現象は、同じ語義を有していると考えられる(したがって同一のサブエントリに属している)場合にも、しばしば起こる。こういった現象は、オワル形の接続可能性を動詞に十分に指定しておくことの困難さを示している。したがって、オワル形についての情報は一応の目安であって、ヲ格等に来る名詞いかんで接続可能性の変わることがある。

2.6.7. テアル形

動詞に以下の意味でテアル形が接続できるかどうかを記載している。

テアル 変化状態の維持を表す。(注3)

- (39) a 壁に絵がかけてある。
 b 花瓶に花が活けてある。
 c 窓が開けてある。

なお、(40a)に対して動詞にテアル形を接続した文は(40b) になり文型が変わるが、その点は問わない。

- (40) a 花をいける。
 b 花がいけてある。

(注3) 当辞書でのテアル形の分析は不十分である。テアル形には、「変化状態の維持」以外に、次のような「準備的な動作」を表す用法がある。

- (i) このところ充分走りこんであります。
 大きく「変化状態の維持」として纏めることができるにしても、次の(ii)と(iii)とは少し異なっている。
 (ii) 窓が開けてある。

(iii) 御飯が炊いてある。
 こういった細かい異なりについては、分析されていない。したがって本辞書でのテアル形への情報は、暫定的な性格を有する。

2.6.8. 「その他のアスペクト形式」の記載法と記載例

当辞書では、当該アスペクト形式が接続可能な場合は 時相 の項の第三要素（または第四要素）以降にその形式をそれぞれ列挙し、いずれの形式も接続できない場合は「x」と記載している。

| | |
|----------------------|---|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | テイク, テクル, テアル, テシマウ, カケル, ハジメル, ダス, ツツアル, ツツケル, オワルのいずれも後接しない |
| < テイク > | テイクが後接する |
| < テクル > | テクルが後接する |
| < テアル > | テアルが後接する |
| < テシマウ > | テシマウが後接する |
| < カケル > | カケルが後接する |
| < ハジメル > | ハジメルが後接する |
| < ダス > | ダスが後接する |
| < ツツアル > | ツツアルが後接する |
| < ツツケル > | ツツケルが後接する |
| < オワル > | オワルが後接する |
| 〔記載例〕 | |
| 彼の言葉で店員は態度が変わる | |
| ~ 変わ <u>って</u> いく | |
| ~ 変わ <u>って</u> くる | |
| * ~ 変わ <u>って</u> ある | |
| ~ 変わ <u>って</u> しまう | |
| ~ 変わ <u>り</u> かける | |
| ~ 変わ <u>り</u> はじめる | |
| ~ 変わ <u>り</u> だす | |
| ~ 変わ <u>り</u> つつある | |
| * ~ 変わ <u>り</u> つづける | |
| * ~ 変わ <u>り</u> おわる | テイク, テクル, テシマウ, カケル, ハジメル, ダス, ツツアル |
| 彼が親に悲しい目を見せる | |
| * ~ 見 <u>せ</u> ていく | |
| * ~ 見 <u>せ</u> てくる | |
| * ~ 見 <u>せ</u> てある | |
| * ~ 見 <u>せ</u> てしまう | |
| * ~ 見 <u>せ</u> かける | |
| * ~ 見 <u>せ</u> はじめる | |
| * ~ 見 <u>せ</u> だす | |
| * ~ 見 <u>せ</u> つつある | |
| * ~ 見 <u>せ</u> つづける | |
| * ~ 見 <u>せ</u> おわる | x |

2.7. 「テンス・アスペクト情報」の記載例

したがって、当辞書では 時相 の項全体は次のように記載されることになる。

| | |
|---------------------|--|
| 〔記載例〕 | |
| 経済問題に <u>関して論じる</u> | 時相 x, x, x |
| 机の上に本が <u>ある</u> | 時相 現在, x, x |
| 壺が飾り棚に <u>収まる</u> | 時相 未来, 進行, x |
| 彼は彼女と席を <u>変わる</u> | 時相 未来, 結果残存, テシマウ, カケル |
| 彼が電車に <u>乗る</u> | 時相 未来, 進行, 結果残存, テシマウ, カケル, ハジメル, ダス, ツツケル |
| 彼は浴槽に水を <u>張る</u> | 時相 未来, 進行, テイク, テクル, テアル, テシマウ, カケル, ハジメル, ダス, ツツアル, ツツケル, オワル |

【付記】感情動詞・思考動詞について

感情動詞・思考動詞には、ル形が通常用いられないものがあったり、テイル形が他の動きを表す動詞のように典型的な進行や結果残存とは趣を異にするものが少なくない。感情動詞・思考動詞のテンス・アスペクトについては、さらに分析が必要である。本辞書での感情動詞・思考動詞についての情報は暫定的なものである。

3. ムード情報

3.1. ムードとは

ムード法は、発話の内容と聞き手に対する話し手の心的態度により、言語形式を分類するカテゴリである。発話の内容に対する話し手の心的態度とは、例えば、断定したり、推量したりすることなどであり、聞き手に対する話し手の心的態度とは、命令したり、勧誘したりすることなどである。

日本語における動詞の基本的活用形式と主な助動詞・終助詞の表すムードを表11に示す。

表 11 - 1

| 形 式 | | ム ー ド | 文 例 |
|------|---------|-----------------|-------------------------------------|
| 活用形式 | ル | 〔断定〕 | 本を閉じ <u>る</u> 。 |
| | タ | 〔断定〕 | 雨が降 <u>った</u> 。 |
| | エ / ロ・ヨ | 〔命令〕 〔願望〕 | 本を閉じ <u>ろ</u> 。 雨が降 <u>れ</u> 。 |
| | ウ / ヨウ | 〔意志・勧誘〕 〔推量〕 | 本を閉じ <u>よう</u> 。 雨が降ろ <u>う</u> 。 |

表 11 - 2

| 形 式 | | ム ー ド | 文 例 |
|-------------|-----|-----------------|------------------------|
| 助 動 詞 | ダ | 〔 断 定 〕 | 明日は晴天 <u>だ</u> 。 |
| | デス | 〔 断 定 (丁 寧) 〕 | 明日は晴天 <u>です</u> 。 |
| | ラシイ | 〔 推 量 〕 | 明日は雨 <u>らしい</u> 。 |
| | マイ | 〔 推 量 (否 定) 〕 | 雨は降る <u>まい</u> 。 |
| | タイ | 〔 希 望 〕 | 私達は休み <u>たい</u> 。 |
| | タガル | 〔 希 望 〕 | 彼は仕事を休み <u>たがる</u> 。 |
| | ソウダ | 〔 伝 聞 〕 | 彼女は結婚する <u>そうだ</u> 。 |
| | ソウダ | 〔 様 態 〕 | 仕事は完成し <u>そうだ</u> 。 |
| | ヨウダ | 〔 比 況 〕 | 話し方が怒っている <u>ようだ</u> 。 |
| 終 助 詞 | ナ | 〔 命 令 (否 定) 〕 | 外へ行くな <u>な</u> 。 |
| | カ | 〔 疑 問 〕 | 明日は授業がありますか <u>か</u> 。 |

なお、表 11 に示した文法的形式の他に次のような語句もムードを表すといえる。

- | | | |
|-------|------------------------------|-------|
| (1) a | あの人はきつと来る <u>だらう</u> 。 | ダロウ |
| b | 早く書き終えな <u>さい</u> 。 | ナサイ |
| c | 5 時には帰るに <u>ちがいない</u> 。 | チガイナイ |
| d | 集まる人数は少ないか <u>もしれない</u> 。 | シレナイ |
| e | 今日は早く帰っても <u>よい</u> 。 | ヨイ |
| f | ぼくの本も買って来て <u>ほしい</u> 。 | ホシイ |
| g | そんなことをしては <u>いけない</u> 。 | イケナイ |
| h | もっと努力せねば <u>ならない</u> 。 | ナラナイ |
| i | ほんの少し手伝ったに <u>すぎない</u> 。 | スギナイ |
| j | 来週にでも出発する <u>つもりだ</u> 。 | ツモリダ |
| k | 彼は長男の <u>はずだ</u> 。 | ハズダ |
| l | どうりで上手な <u>わけだ</u> 。 | ワケダ |
| m | 彼等のおかげで仕事も完成する <u>しだいだ</u> 。 | シダイダ |
| n | 知らなければ聞いてみる <u>ものだ</u> 。 | モノダ |
| o | ゆっくり休む <u>ことだ</u> 。 | コトダ |
| p | これは周知の <u>事実なのだ</u> 。 | ノダ |

上のように日本語ではムードが様々な形式で表される。

3.2. 当辞書におけるムード情報

当辞書には、ムードに関して以下の項目が記載してある。

1. 命令形 (エ / ロ・ヨ) の有無および意味
2. 意志・推量形 (ウ / ヨウ) の有無および意味
3. タイ・タガル形, ナサイ形, ナ形の後接可能性
4. 動詞分類 < 1, 2, 3 a, 3 b >

上の 1.～3.では、3.1.にあげたようなムードを表す諸形式のうちで、動詞に直接接続しないものやあらゆる動詞に後接可能なものを除き、個々の動詞の特徴づけとなるようなものを取り上げた。また、4.はムードによる動詞分類の結果を類型化したものである。

なお、各サブエントリは動詞の意味および統語的特徴によって分けられているので、そのサブエントリの各格形式が取りうる全名詞句についてムード情報の記載事項が必ずしも当てはまるわけではない。記載事項からもれるものについては備考2に注記している。(3.6.2.「ムードによる動詞の分類」の記載法と記載例参照)。

3.3. 命令形(エ/ロ・ヨ)

3.3.1. 命令, 願望

ここでは当該の動詞が命令形で用いられるかどうか、そして、用いられる場合にそれは<命令>を意味することができるか、または、<願望>のみを意味するのかの判定を示す。

動詞が命令形で用いることができる場合、その命令形の実際の発話は、通例、〔命令行為〕または、〔願望行為〕のどちらかの行為である。その命令形の発話行為が〔命令行為〕であるか、〔願望行為〕であるかにより、その命令形の使用を<命令>/<願望>と区別している。

〔命令行為〕は、話し手にとって、発話の受け手に命令内容を遂行させることを目的としている。したがって、受け手にその命令内容の遂行能力がある場合にのみ、〔命令行為〕は成立する。一方、〔願望行為〕は話し手が自らの願望を発話するのみであり、話し手にとってその願望する内容が受け手によって遂行されることは目的ではない。したがって、〔願望行為〕は受け手に遂行能力がなくとも成立する。このことから、<命令>と<願望>とは、発話の受け手にその内容の遂行能力があるか否かにより区別できることになる。すなわち、遂行能力があれば<命令>、なければ<願望>である。ただし、<命令>を表す命令形は<願望>をも表しうる。なお、発話の受け手とは、命令文を平叙文にしたときのガ格名詞句により表される対象である。

遂行能力が認められるのは、意図的に行いうる動作、すなわち、自分の意志で制御できる(自制的 self-controllable)動作についてである。

次の(2a)では「メロス」が「走る」という動作を意図的に遂行できると考えられる。したがって、「メロス」を受け手とした場合、「走れ」は<命令>である。一方、(3a)では「雨」が「降る」という動作を意図的に遂行できるとは考えられない。したがって、「降れ」は<願望>である。

- (2)a メロスが走る。
b 走れ。 <命令>

- (3)a 雨が降る。
b 降れ。 <願望>

同じ「走る」でも意味・用法が異なり、(4)のようにガ格に「稲妻」がたつと、<命令>ではなく<願望>となる。これは「稲妻」にとって「走る」という動作は意図的ではないからである。

- (4)a 稲妻が走る。
b 走れ。 <願望>

多くの場合、〔命令行為〕が成立するのは、上で示したような受け手に遂行能力があると考えられる場合であるが、一部には、命令の受け手に遂行能力がなくとも〔命令行為〕と認められる場合がある。

- (5)a 選手がライバルに勝つ。
b 勝て。 <命令>

- (6)a 息子が試験に合格する。
b 合格しよ。 <命令>

上の例で、「(ライバルに)勝つ」ことや「(試験に)合格する」ことについては、受け手に必ずしも遂行能力があるとは限らない。しかし、これらを命令形で発話したとき、それぞれは受け手に「(ライバルに)勝つ」、「(試験に)合格する」ような努力を命じているのであり、〔命令行為〕が成立している。当辞書では、このようなものを〔努力命令〕とし、<命令>に含めている。

〔願望行為〕は、受け手に遂行能力がない場合のみならず、ある場合にも成立する。つまり、<命令>で用いられる動詞は、<願望>でも用いられるのである。したがって、命令形がある動詞は、すべて<願望>で用いられ、そのうちの〔意志動詞〕(3.6.1.分類の基準 参照)のみが<命令>で用いられることになる。

実際の言語使用において命令形で用いられても、<命令>あるいは<願望>の用法とは考えにくいもの、特に受け手に対する〔呪文〕の解釈でしかその命令形が可能でないものについては、当辞書では、他の命令形で用いられない動詞と同等に命令形がないものとみなしている。(3.6.1.分類の基準 参照)。

- (7)a 盗難にあう。
 b * 盗難にあえ。 (呪文の解釈のみ可)

- (8)a 試験であがる。
 b * 試験であがれ。 (呪文の解釈のみ可)

命令で用いられない動詞の用法は、〔呪文〕の場合のほかに、例えば、次のような場合がある。

- (9) 関係:(おじに)あたる,(血が)つながる
 属性:(彼は信用するに)たりる
 可能:(球場が三万人を)容れる
 慣用表現:(予定/生計が)たつ
 修辞表現:(説教を)垂れる
 ル形のない動詞(テ形・テイル形などで用いられる):(人ごみを)縫って

3.3.2. 「命令形」の記載法と記載例

命令形に関する情報は、当辞書では 法 の項の第一要素として、次のように記載されている。

| | |
|----------------|---------------------|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | 命令形がない |
| < 願望 > | 命令形が< 願望 >のみを表す |
| < 命令 > | 命令形が< 命令 >< 願望 >を表す |
| 〔記載例〕 | |
| 花は桜に限る | |
| * 桜に限 <u>れ</u> | x |
| 雨が降る | |
| 降 <u>れ</u> | 願望 |
| メロスが走る | |
| 走 <u>れ</u> | 命令 |

3.4. 意志・推量形（ウ／ヨウ）

3.4.1. 意志・勧誘, 推量

ここでは当該の動詞が意志・推量形で用いられるかどうか、そして、用いられる場合に、それが<意志・勧誘>を意味するか、<推量>のみを意味するかの判定を示す。

<意志・勧誘>は、〔話し手の動作遂行の意志〕および〔聞き手への動作遂行の勧誘〕を表す。意志・推量形を<意志・勧誘>の意味で用いるときは、話し手の念頭に動作主による動作の遂行が置かれている。したがって、意志・推量形で<意志・勧誘>を意味するのは、「動作主」となる〔話し手〕や〔聞き手〕に遂行能力が認められる動作を表す動詞である。つまり、この意味で用いられるのは、意図的に行いうる動作を表す動詞である。

(10b)の「走ろう」は<推量>（＝「走るだろう」）を意味する。しかし、「走る」の同じ意味・用法で、この「走ろう」を「私が～」（話し手の意志）や「私と一緒に～」（聞き手への勧誘）などの文脈においても用いることができる。<意志・勧誘>として用いるのは、このような動詞である。一方、(11b)の「降ろう」は<推量>（＝「降るだろう」）の意味でのみ用いられ、<意志・勧誘>の意味では用いられない。こちらのよ様な動詞は<推量>としている。意志・推量形で用いられない動詞は、多くの場合、ル形で用いられない動詞である。(12b)はテイル形でのみ、(13b)は連用表現でのみ用いられる動詞である。

- (10) a メロスが走る。
b メロスが走ろうう。 <推量>
c 私と一緒に走ろうう。 <意志・勧誘>

- (11) a 雨が降る。
b 雨が降ろうう。 <推量>

- (12) a 彼の話は馬鹿げている。 (馬鹿げる)
b* 彼の話は馬鹿げようう。

- (13) a 彼は人ごみを縫って歩いていった。
b* 彼は人ごみを縫おうう。

「走る」のように、<意志・勧誘>の意味で用いられる動詞は、通例、<推量>の意味でも用いられる。つまり、命令形の場合と同様に、意志・推量形がある動詞は、すべて<推量>で用いられ、そのうちの〔意志動詞〕のみが<意志・勧誘>で用いられる。

3.4.2. 「意志・推量形」の記載法と記載例

意志・推量形に関する情報は、当辞書では 法 の項の第二要素として、次のように記載されている。

| | |
|------------------------------|---------------------|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | 意志・勧誘形がない |
| < 推量 > | 意志・勧誘形が<推量>のみを表わす |
| < 意志・勧誘 > | 意志・勧誘形が<意志・勧誘>をも表わす |
| 〔記載例〕 | |
| 君の推察は誤っている * 誤ろう <u>う</u> | × |
| 予測が当たる 当ろう <u>う</u> | 推量 |

兄は大学進学を諦める
大学進学を諦めよう

意志・勧誘

3.5. その他のムード形式

3.5.1. タイ・タガル形, ナサイ形, ナ形

ここでは当該の動詞に(14)の各形式が後接可能かどうかの判定を示す。

- (14) a タイ・タガル [希望]
b ナサイ [丁寧命令]
c ナ [禁止(否定命令)] / [願望(否定願望)]

次の例で、(15)はタイ・タガルが後接する動詞、(16)は後接しない動詞である。

- (15) a 私 / メロスが走る。
b 私は走りたい。
c メロスは走りたがる。

- (16) a 雨が降る。
b* 雨は降りたい。
c* 雨は降りたがる。

また、(17)はナサイが後接する動詞、(18)(19)は後接しない動詞である。

- (17) a メロスが走る。
b 走りなさい。

(18) a 太郎が本をくれる。
b* 本をくれなさい。

(19) a 雨が降る。
b* 降りなさい。

ナ形の意味には〔禁止(否定命令)〕と〔願望(否定願望)〕の二つがある。この区別は、命令形の<命令> / <願望>の区別に準ずる。すなわち、受け手による動作の意図的な回避が可能なら〔禁止(否定命令)〕、不可能なら〔願望(否定願望)〕である。

- (20) a メロスが走る。
b 走るな。 [禁止(否定命令)]

(21) a 雨に会う。
b 会うな。 [願望(否定願望)]

ナ形にも〔努力命令〕がある。(22)は必ずしも意図的に回避出来るとはかぎらないが、受け手に回避努力を命じているので、このようなものは命令形の場合と同様に〔禁止(否定命令)〕に含める。

- (22) a 失敗を恐れる。
b 失敗を恐れるな。 [禁止(否定命令)]

また、命令形が〔呪文〕の意味でしか用いられないために、<命令>あるいは<願望>のいずれにも入らず命令形なしとされた動詞は、通例、ナを後にとると、〔禁止(否定命令)〕もしくは、〔願望(否定願望)〕になる。

なお、一般に、〔禁止(否定命令)〕で用いられる動詞が、〔願望(否定願望)〕でも用いられるのも、命令形の場合と同様である。

3.5.2. 「その他のムード形式」の記載法と記載例

タイ・タガル形、ナサイ形、ナ形に関する情報は、当辞書では 法 の項の第三要素として次のように記載されている。後接可能のものが複数ある場合にはそれらを列挙している。

| | |
|---------------------------|--------------------------|
| 〔記載法〕 | |
| < x > | タイ・タガル, ナサイ, ナのいずれも後接しない |
| < タイ・タガル > | タイ・タガルが後接する |
| < ナサイ > | ナサイが後接する |
| < ナ (願望) > | ナが後接し、〔願望 (否定願望)〕のみを表す |
| < ナ (禁止) > | ナが後接し、〔禁止 (否定命令)〕をも表す |
| 〔記載例〕 | |
| 発表は 30 分に収まる | |
| * 発表は 30 分に収まり <u>たい</u> | |
| * 発表が 30 分に収まり <u>たがる</u> | |
| * 30 分に収まり <u>なさい</u> | |
| * 30 分に収まる <u>な</u> | x |
| あの選手がヒットを打つ | |
| 私はヒットを打ち <u>たい</u> | |
| 彼がヒットを打ち <u>たがる</u> | |
| ヒットを打ち <u>なさい</u> | |
| ヒットを打つ <u>な</u> | タイ・タガル, ナサイ, ナ (禁止) |
| 体が宙に浮く | |
| * 体は宙に浮き <u>たい</u> | |
| * 体は宙に浮き <u>たがる</u> | |
| * 宙に浮き <u>なさい</u> | |
| * 宙に浮く <u>な</u> | ナ (願望) |

3.6. ムードによる動詞分類 1, 2, 3 a, 3 b

3.6.1. 分類の基準

動詞は、「動作主」によって意図的に行い動作を表す〔意志動詞〕と、「動作主」による意図的な動作を表してはいない〔無意志動詞〕とに分けることができる。

特徴として〔意志動詞〕は、命令形が< 命令 >を表し、意志・推量形が< 意志・勧誘 >を表す。命令形が< 願望 >を表すものや意志・推量形が< 推量 >を表すものは、〔無意志動詞〕である。当辞書では、「3.3.1. 命令・願望」で述べた命令形の用法により、〔意志動詞〕と〔無意志動詞〕を表 12 のように分類している。

タイプ< 1 > および< 2 > は、〔無意志動詞〕である。これらのタイプの動詞は、「動作主」による意図的な動作を表してはいない。〔無意志動詞〕には以下のようなものがある。

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| (23) 自然現象 | (星が) 光る, (水が) 凍る, |
| 非情物の動き・状態 | (ビルが) そびえる, (卵が) 腐る, |
| 有情物の生理現象 | (歯が) 痛む, (傷口が) 疼く, |
| 可能動詞 | (本が) 読める, (米が) 食べられる, |

なお、〔無意志動詞〕で、その命令形が〔呪分〕の意味にしか解釈できないものはタイプ<1>に入れられている(3.3.1.命令,願望 参照)。

表 12

| タイプ | 命令形の用法 | 例 | |
|-----|-----------------------|-----------------------|-------|
| 1 | 命令形なし | (話が)馬鹿げる (ビルが)そびえる | 無意志動詞 |
| 2 | 〔願望〕のみを表す | (桜が)咲く (雨が)降る | |
| 3a | 〔命令〕をも表す <無意志用法あり> | (ボールを)落す (人が)集まる | 意志動詞 |
| 3b | 〔命令〕をも表す <意志用法のみ> | (本を)捜す (戦を)求める | |

タイプ<3>は、〔意志動詞〕である。このタイプの動詞は、「動作主」による意図的な動作を表す。ただし、タイプ<3>の動詞においても、同一シート内の意味・用法で〔無意志動詞〕としても用いられる場合がある。

- (24) 弟は二階からボールを落した。
(25) 弟は図書館で本を捜した。

(24)で、「落した」は、「わざと落した」というような意志的な動作とも、「うっかり落してしまった」というような無意志的な動作とも理解される。一方、(25)の「捜した」は、無意志的な動作とは考えにくく、一般に意志的な動作と理解される。(24)のような〔意志動詞〕と〔無意志動詞〕との両方で用いられるものをタイプ<3a>とし、(25)のように〔意志動詞〕としてのみ用いられるものをタイプ<3b>としている。

また、〔意志動詞〕の中で、連用表現でのみ用いられる動詞(3.3.1.命令,願望 参照)はタイプ<1>としている。

ちなみに、述語素との関係で述べると、ガ格にAをとる動詞は〔意志動詞〕であるが、そのうち<3a>の動詞と<3b>の動詞ではAの意味が異なることになる。すなわち、<3a>は〔無意志動詞〕としても用いられることからAはO1の意味を含むことを表すが、<3b>は〔意志動詞〕としてのみであるからO1の意味を含まないAを表している(注1)。

- (注1) 述語素にAをとる動詞のみが〔意志動詞〕ではない。<命令>で用いられる動詞は〔意志動詞〕であるが、〔努力命令〕の場合はO1も含む。

3.6.2. 「ムードによる動詞の分類」の記載法と記載例

ムードによる動詞の分類に関する情報は、当辞書では 法 の項の第三要素(「:」の後ろ)として、次のように記載されている(注2)。

| 〔記載法〕 | |
|-------|---------------------------|
| <1> | 命令形がない無意志動詞 |
| <2> | 命令形(<願望>)がある無意志動詞 |
| <3a> | 無意志動詞としても用いられる意志動詞 |
| <3b> | 無意志動詞としても用いられない意志動詞 |

〔 記載例 〕

| | | |
|--------------------------|------------|----|
| 運動会がある * <u>あれ</u> | (命令形なし) | 1 |
| 月が雲で隠れる 雲で隠れ <u>る</u> | (< 願望 >) | 2 |
| 人が集まる 集ま <u>れ</u> | (< 命令 >) | |
| < 無意志動詞用法あり > | | 3a |
| 弟が本を探す 捜 <u>せ</u> | (< 命令 >) | |
| < 意志動詞用法のみ > | | 3b |

(注 2) 名詞句や意味素性によっては記載事項から逸脱する場合がある。動詞分類に関して例をあげると、下のように、カ格の述語素が O1 で、その意味素性に〔 H U M 〕とその他(例えば〔 A B S 〕など)がある場合、〔 H U M 〕とその他でムード情報が異なってしまう。

(i) 保つ

文 N1 ガ N2 ヲ「社長は 体面を 保った。」「この部屋が一定の温度を 保っている。」

述 O2, O1

名 1 N1 ガ〔 H U M / O R G / L O C / A B S 〕社長 / チーム / この部屋 / 割引料金

第 1 の文例から命令形「保て」が形成された場合、それは< 命令 (努力命令) > であり、その動詞分類は< 3 a > である。しかし、第 2 の文例の場合は命令形は< 願望 > であり、動詞分類は< 2 > である。このサブエントリでは〔 H U M 〕以外の名詞句がくる場合の方が多数なので、第 1 の文例の用法を例外として、動詞分類には< 2 > と記載し、< 3 a > ともなりうる事を《備考 2 》に注記している。

3.7. その他

3.7.1. マス形, ナイ形

当辞書では、3.2. で示した動詞分類のための主要なムード情報の他に〔丁寧〕を表すマスおよび〔否定〕を表すナイの後接可能性についても取り上げている。

- (26) a 桜が咲く。
b 桜が咲きます。
c 桜が咲かない。
- (27) a 本がある。
b 本があります。
c* 本があらない。

3.7.2. 「その他」の記載法と記載例

マス形、ナイ形に関する情報は、当辞書では 法 の項の最終要素として最後の欄 (「 | 」 の後ろ) に次のように記載されている。

〔 記載法 〕

< × > …… マス, ナイのいずれも後接しない
 < マス > …… マスが後接する
 < ナイ > …… ナイが後接する

〔 記載例 〕

彼は愛に飢えている (注3)
 * 彼は愛に飢えます
 * 稀は愛に飢えない ×

桜が咲く
 桜が咲きます
 桜が咲かない マス, ナイ

本がある
 本があります
 * 本があらない マス

(注3) テイル形のみで用いるなど、通例ル形を用いない動詞はマス形・ナイ形双方なし「×」としている。

3.8. 「ムード情報」の記載例

したがって、当辞書では 法 の項全体は次のように記載されることになる。

〔 記載例 〕

一家を挙げて(海外に移る)
 * 挙げろ
 * 一家を挙げよう
 * 一家を挙げたい・挙げたがる
 * 一家を挙げなさい
 * 一家を挙げるな
 * 一家を挙げます
 * 一家を挙げない 法 ×, ×, ×: 1 | ×

引越で家具が傷む
 * 傷め
 引越で家具が傷もう
 * 引越で傷みたい・傷みたがる
 * 引越で傷みなさい
 引越で傷むな
 引越で家具が傷みます
 引越で家具が傷まない 法 ×, 推量, ナ(願望): 1 | マス, ナイ

豹が人に馴れる
 人に馴れろ
 豹が人に馴れよう
 * 人に馴れたい・馴れたがる
 * 人に馴れなさい

| | |
|--------------------------------|--|
| * 人に馴れる <u>な</u> | |
| * 豹が人に馴れ <u>ます</u> | |
| * 豹が人に馴れ <u>ない</u> | 法 願望, 推量, x : 2 マス, ナイ |
| 彼は文才を誇っている | |
| 文才を誇れ <u>な</u> | |
| 文才を誇ろ <u>う</u> | |
| 文才を誇り <u>たい</u> ・誇り <u>たがる</u> | |
| 文才を誇り <u>なさい</u> | |
| 文才を誇る <u>な</u> | |
| 彼は文才を誇り <u>ます</u> | |
| * 彼は文才を誇ら <u>ない</u> | 法 命令, 意志・勧誘, タイ・タガル, ナサイ, ナ(禁止): 3a マス |
| 彼は言葉を慎む | |
| 言葉を慎め <u>な</u> | |
| 言葉を慎も <u>う</u> | |
| 言葉を慎み <u>たい</u> ・慎み <u>たがる</u> | |
| 言葉を慎み <u>なさい</u> | |
| 言葉を慎む <u>な</u> | |
| 彼は言葉を <u>慎みます</u> | |
| 彼は言葉を <u>慎まない</u> | 法 命令, 意志・勧誘, タイ・タガル, ナサイ, ナ(禁止): 3b マス, ナイ |

4. 「動詞の文法的カテゴリに関する情報」の記載例

「動詞の文法的カテゴリに関する情報」は、当辞書では 文法 の項に次のように記載されている。

| | |
|--------------|--|
| 〔記載例〕 | |
| ノートに横線が入っている | 《文法》 態 x, x : 中動 時相 x, 単純状態, x 法 x, x, x : 1 |
| 食事が始まる | 《文法》 態 x, 間受 : 中動 時相 未来, 結果残存, テシマウ, カケル 法 願望, 推量, ナ(願望): 2 マス, ナイ |
| 生徒が校庭に白線を引く | 《文法》 態 二使役, 直受ヲ : ニヨッテ, 間受, 尊敬 : 能動 時相 未来, 進行, テアル, テシマウ, ハジメル, ダス, ツツケル, オウル 法 命令, 意志・勧誘, タイ・タガル, ナサイ, ナ(禁止): 3b マス, ナイ |

その他の情報

1. 慣用的表現

動詞の用法の中には、ある特定の名詞句（一つ、あるいは二つ以上）と固定的な結びつきをするものがある。「うまが合う」「道草をくう」「板につく」「あぶない橋を渡る」のような慣用句がその例である。こうした慣用句は、意味のうえでは、それを構成している要素に分解できない点、形態かつ統語上の拘束が強い点で、一般の統語法則から逸脱した性格をもっている。慣用句はそれ自体がレキシコンの単位となるべきものであり、個々の慣用句はそれぞれエントリまたはサブエントリの資格をもつものであるが、当辞書では、これらを《慣》の項に一括して記載した。

また、《慣》の項にはよく使われる言い回しや慣用表現なども含めて列挙してある。

記載は次の原則によっている。

1. 意味・用法の最も近いサブエントリの《慣》の項に記載してある。同一の表現が複数のサブエントリに記載されていることはない。

また、区切りには「。」を用いている。

(例)(帽子を)かぶる 《慣》仮面を～。猫を～。
(罪を)かぶる 《慣》どろを～。

2. 動詞は「～」で略記することを原則としている。言い切りの場合は動詞全体が「～」に、その他の場合は動詞の語幹部分などが「～」に相当する。

(例)(ひびが)いる 《慣》気に～。堂に～た…。
(希望が)叶う 《慣》ねがったり～たり。
(花子が)泣く 《慣》～てもらう。

ただし、「～」では分かりにくいものや、エントリと活用型が異なっているものは「～」を用いていない。

(例)(道を)急ぐ 《慣》善は急げ。
(船を)押す 《慣》押せ押せになる。
(身長を)比べる 《慣》くらぶべくもない。

3. 前後に文脈を補う必要がある場合は、その部分を「…」で示してある。

(例)(職を)ふる 《慣》…を棒に～。

4. 原則として意味は記述していない。ただし、意味を取りにくいものについては、「(= 意味)」の形で適宜示してある。

(例)(癌が肺を)冒す 《慣》性を～(= 今までの性を捨てて他人の性を新しく名乗る)。

5. 同一の表現に対して意味が二つ以上ある場合は、以下の書式で記載してある。

(例)(頭を)うつ 《慣》手を～(= 1. 妥協する 2. 状況に応じた処理をする。)

6. 文章による説明が必要な場合は、[]で囲んで記述してある。

また、表記の項にない文字を用いたり、表記の項にあげられている文字のうち一部のものが用いないなど表記にあげられている文字とずれがある場合は、その旨を以下の書式に従って示してある。

(例)(頭が)冴える 《慣》[周囲の状況が]～ない。
(判決を)下す 《慣》虫を～〔〔瀉す〕とも書く〕

7. 『分類語彙表』、『類語新辞典』では見出しとしてたててあるが、IPALでは

それに対してサブエントリをたてず、《慣》の項に入れてある場合には以下の書式で示してある。(辞書の略号は「2.備考1」参照。)

(例)(会場を)うめる 《慣》風呂を～ [『類語』混合221]。

8. 同一表現で名詞句の交替がありうる場合は、「・」を用いて以下の書式で示してある。

(例)(成績を)あげる 《慣》男・男ぶりを～。
(人を)疑う 《慣》目・耳を～。

9. 格形式の交代がある場合には、「/」を用いて以下の書式で示してある。

(例)(人口が)減る 《慣》口が/の～ない。

10. 慣用的な言い回しなどで例があったほうが良いと思われるものについては、「(ex. 例)」の形で示してある。

(例)(帳簿を)締める 《慣》～て… (ex. しめて千円だ)。

11. 専門用語は、その分野を< >で囲んで示してある。

(例)(人を)刺す 《慣》<野球用語>走者を～。

12. 必須ではないが伴いやすい要素は、「(*)」の形で示してある。

(例)(注目を)集める 《慣》寵愛を(*一身に)～。

2. 備考1

意味に関する情報および形態に関する情報に関して、例外事項や説明が必要なものがあれば《備考1》に記載してある。《備考1》には次のようなものがある。

(例)(彼が犬を)苛める 表記 【苛める】
《備考1》『学研』によれば「虚める」とも書く。

(池に水が)満ちる 活用型 上一, (特殊)
《備考1》否定形は「満チナイ」ではなく「満タナイ」を使うことが多い。

辞書を参照している場合には、表13の略号を用いている。

表 1 3

| 略号 | 辞書名 | 編者 | 出版社 |
|-------|----------------|----------------|-------|
| 『学研』 | 『学研国語大辞典』初版第1刷 | 金田一春彦 池田弥三郎 | 学習研究社 |
| 『新明解』 | 『新明解国語辞典』第三版 | 山田忠雄 他 | 三省堂 |
| 『三国』 | 『三省堂国語辞典』第三版 | 見坊豪紀 他 | 三省堂 |
| 『例解』 | 『例解新国語辞典』机上版 | 林四郎 他 | 三省堂 |
| 『類語』 | 『角川類語新辞典』初版第6刷 | 大野晋 浜西正人 | 角川書店 |
| 『分類』 | 『分類語彙表』 23版 | 国立国語研究所 | 秀英出版 |

3. 備考 2

統語に関する情報および動詞の文法的カテゴリに関する情報に関して、例外事項や説明が必要なものがあれば《備考 2》に記載してある。

例えば次のようなものである。

(例) 文 N 1 ガ N 2 ガ 「この絵はタッチが凝っている。」
《備考 2》テイル形のみ。

文 N 1 ガ N 2 ニ 「彼は知識に飢えている。」 「彼は愛に飢えている。」
《備考 2》文末ではテイル形が多い。

文 N 1 ガ N 2 ガ 「この湖が水が濁っている。」
《備考 2》N 1 ガ N 2 ガは N 1 ノ N 2 ガと交替可。

文 (N 1 ガ) N 2 ガ (N 3 デ) 「彼女は髪が夜霧で濡れた。」 「彼女の頬は涙に濡れた。」 「赤ちゃんのおしめが濡れている。」
《備考 2》N 1 ガ N 2 ガは N 1 ノ N 2 ガと交替可。N 3 デは N 3 ニと一部交替可。

(注) 「一部」というのは、ある名詞句の場合に交替可能となるという意味。

その他に、次のような場合がある。

1. 意味や文型は同じだが、名詞句によって述語素が異なってくるので、本来は異なるサブエントリに分類するべきだが、該当する名詞句が少数であり、一つのサブエントリをたてるには及ばないと判断して、同じサブエントリに入れてしまっている場合。
2. 同じ名詞句でも解釈によっては、1.と同じことが該当する場合。
3. 意味も統語的特徴(述語素)も同じで、サブエントリを分ける必要はないが、特定の名詞句によって、例外的に文法的にカテゴリに関する情報が異なる場合。

上のような場合には、多数の名詞句に対して各情報を記載している。そのために、《備考 2》には、その情報の変更箇所を次のように簡略化して記載してある。

(例 1) ひく 4 【引く, 惹く】

文 N 1 ガ N 2 ヲ 「彼は彼女の気を惹いた。」 「一枚の写真が彼の注意を引いた。」

述 O 2, O 1

名 1 N 1 ガ [D I V] 彼, 彼のふるまい, 態度, 写真, 広告, 大きな音

名 2 N 2 ヲ [M E N] 人の注意, 彼女の気

法 願望, 推量, ナ(願望) :

態 x, 間受, 中動

備考 2 N 1 が H U M の時、述語素 : A、ムード : 命令, 意志・勧誘, タイ・タガル, ナサイ, ナ(禁止), 3 a、ヴォイス : 尊敬あり。

(例 2) うつ 1 【打つ】

文 N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 「私はラケットでボールを打った。」

述 O 2a, I N, A

名 1 N 1 ガ [H U M] 彼

名 2 (N 2 デ) [C O N] ばち, 扇子, 棒, ...

名 3 N 3 ヲ [C O N / L O C] 太鼓, 子供, 飼い犬, 鐘, ボール, ...

自相 未来, 進行, テシマウ, カケル, ハジマル, ダス, ツツケル

備考 2 テンス・アスペクト : N 3 が 「太鼓, 鐘」の時、オワル可。

(例 1)(例 2)では、備考 2 はそれぞれ(例 1')(例 2')のように解釈する。

- (例 1') 文型中の N 1 の位置に、意味素性「HUM」に対応する名詞句(ここでは「彼」)が入ると、解釈によって各情報は次のように変更することもある。
- ・ 述のうちの「O1」は「A」に変わる。
 - ・ 法は命令,意志・勧誘,タイ・タガル,ナサイ,ナ(禁止): 3 a に変わる。
 - ・ 態に「尊敬」が追加される。(ラレ形は尊敬の意味を持つ)

(例 2') 文型中の N 3 の位置に名詞句「太鼓」または「鐘」が入ると、時相に「オワル」が追加される。つまりオワル形の後続が可能となる。

4. 「その他の情報」の記載例

「その他の情報」は、当辞書では《慣》《備考 1》《備考 2》の項に次のように記載されている。

| | |
|--|--|
| 〔記載例〕 | |
| ふるう 4 【奮う,振う,振るう】 N 1 ガ N 2 ガ 彼は成績が振わない | 《慣》～ている。～た... (= 奇抜でおもしろい...)。勇を～ (= 心をわきたたせる)。《備考 1》『学研』によれば、「揮う」とも書く。《備考 2》否定形が多い。N 1 ガ N 2 ガは N 1 ノ N 2 ガと交替可。 |
| わかる 6 N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 出資者が利益を分けた | 《慣》のれんを～。《備考 2》N 1 ガは N 1 デと交替可。N 1 は複数主体。 |

辞書の読み方

1. 記述内容一覧

各見出し語に対する記述内容の一覧を出現順に表 14 に示す。

A 欄に のある項目は、項目の説明中の [] 内からその内容が選択される項目であることを示す。[] の中に a / b と示されているのは、「a」か「b」かのいずれかが選択されることを示す。a | b と示されているのは、「a」か「b」か「aおよびb」かのいずれかが選択されることを示す。

B 欄に のある項目は、一つだけでなく二つ以上の記述が該当する場合もある項目であり、その場合は「,」か「、」で区切られている。

C 欄に のある項目は、そのサブエントリにおいて該当する記述内容がない場合もある項目である。

各項目の内容の詳細な説明は、表の中に示された各章を参照のこと。

表 14 - 1

| 項目名 | A B C | 項目の説明 | 章 |
|---|-------|---|---|
| 見出し 通番 活用 語幹 | | エントリ ひらがな表記 同音異義語を区別するための番号 活用型 [五段 / 上 - / 下 - / サ変 / カ変 特殊 / (特殊)] 語幹 ローマ小文字表記 | .1. .1. .3., .1. .4., .2 |
| サブエントリ番号 表記 自他 | | 同一見出しの何番目のサブエントリかを示す番号 サブエントリの漢字仮名表記 自動詞、他動詞の区別 [自 / 他] | .2. .3. .4 |
| 《統》 文 述 名 1 名 2 ~ 名 6 | | 統語に関する情報 文型 (格形式のパターン) と代表的な文例 述語素 文型の中で 1 番目に出現する名詞の意味素性 文型の中で 1 番目に出現する名詞の例 文型の中で 2 ~ 6 番目に出現する名詞の意味素性 文型の中で 2 ~ 6 番目に出現する名詞の例 | .1. .3. .2. .2. .2. .2. |
| 《意》 表記 上 類 反 国分 角分 分 | | 意味に関する情報 意味記述 簡単な語釈 上位語 類義語 反義語 国立国語研究所「分類語彙表」の分類名称および分類コード 「角川類語新辞典」の分類名称および分類コード 意味分類名称 [状態 存在・所有 関係認定 単純状態 / 動作 (動き) (抽象的) 関係 時間 (状態) 変化 移動 (位置変化) 出発・帰着 授受 出現・発生 消滅 生産 もようがえ 設置 (とりつけ) 離脱 (とりはずし) (衣服) 着脱 接触 加力 生理・心理 知覚・思考 発見 (その他) 経済活動 社会活動 言語活動 自然現象] | .1. .2.1. .2.2. .2.3. .3. .3. .4. |

表 14-2

| 項目名 | A B C | 項目の説明 | 章 |
|---|-------|--|---|
| 《形》 異語 派可 派使 派自 派他 転名 転形 転動 転副 転他 | | 形態に関する情報 異音同語 派生語 可能動詞 派生語 使役動詞 派生語 対応する自動詞 派生語 対応する他動詞 派生語 転成名詞 派生語 転成形容詞 派生語 転成動詞 派生語 転成副詞 派生語 その他の転成語 | .5. .6.1. .6.2. .6.3. .6.3. .6.4. .6.4. .6.4. .6.4. .6.4. |
| 《文法》 態 時相 法 | | 文法的カテゴリに関する情報 サセ形の有無とその意味 [二使役 フ使役 / ×] ラレ形の有無とその意味 [直受 間受 可能 自発 尊敬 / ×] 直受の意味をとる場合、直接受動文の主語の能動文での格形式 その1 直受の意味をとる場合、能動文の主語の直接受動文での格形式 その1 直受の意味をとる場合、直接受動文の主語の能動文での格形式 その2 ヴォイスによる動詞の分類コード [能動 相互 / 中動 / 受動] ル形の有無とその意味 [現在 / 未来 / ×] テイル形の有無とその意味 [単純状態 / 進行 結果残存 / 経験・完了 / ×] その他のアスペクト形式の接続の有無 [テイク テクル テアル テシマウ カケル ハジメル ダス ツツアル ツツケル オワル / ×] 命令形の有無とその意味 [命令 / 願望 / ×] 意志・勧誘形の有無とその意味 [意志・勧誘 / 推量 / ×] その他のムード形式の接続の有無 [タイ・タガル ナサイ ナ(禁止) ナ(願望) / ×] ムードによる動詞の分類コード [1 / 2 / 3a / 3b] マス、ナイの接続の有無 [マス ナイ / ×] | .1.3. .1.4. .1.4. .1.4. .1.4. .1.4. .1.5. .2.4. .2.5. .2.6. .3.3. .3.4. .3.5. .3.6. .3.7. |
| 《慣》 | | 慣用的表現 | .1. |
| 《備考1》 | | 形態,意味に関する情報についての特記事項 | .2. |
| 《備考2》 | | 統語,文法的カテゴリに関する情報についての特記事項 | .3. |

2. 実際の例

あげる 下一 age

- (1) (2) (3) (4)
 1【上げる, 揚げる】他《統》文 N1ガN2ヲ(N3カラ)(N4ニ/ヘ)「彼は本
 (5) (6) (7) (8) (9)
 を棚の上に上げた。」「父親は子供を二階に上げた。」述 L S 2, L G 2 / D R 2,
 (10)
 O 2 c, A 名1 N1ガ〔HUM〕彼 名2 N2ヲ〔CON〕子供、品物、本、布
 (11) (12)
 団、凧、花火 名3 (N3カラ)〔LOC〕一階、地下、土手 名4 (N4ニ/ヘ)
 (13) (14)
 〔LOC〕二階、上、屋根裏《意》意記 何かを上方に移す。上 選ぶ 反 下ろ
 (15) (16) (17) (18)
 す 国分 上がり下がり：2 . 1 5 4 0 角分 上昇：2 1 7 a 分 動作(動き),
 (19) (20) (21)
 (状態)移動(位置変化), 出発・帰着《形》 派自 あがる 転他 凧あげ
 (22) (23) (24)
 《文法》 態 二使役, 直受ヲ; 二, 二ヨツテ, 間受, 可能, 尊敬: 能動 時相 未来,
 (25) (26) (27)
 進行, テアル, テシマウ, カケル, ハジメル, ダス 法 命令, 意志・勧誘, タイ・タ
 (28)
 ガル, ナサイ, ナ(禁止): 3 b | マス, ナイ《慣》床を～。看板を～。杯を～。祝杯
 (29)
 を～。のろしを～。棚に～。アドバルーンを～。一旗～。みこしを～。《備考1》N1
 (30)
 が“凧、花火”などの場合、「揚げる」と書く。

項目名 読み方

- (1) 見出し(エントリ)... ・「あげる」
 (2) 通番... ・当見出し語は同音意義語のうち 番目のものである。
 (3) 活用... ・当見出し語の活用の際の活用型は「下一」である。
 (4) 語幹... ・語幹はローマ字表記で「age」である。
 (5) サブエントリ番号... ・当見出し語の第1番目のサブエントリである。
 (6) 表記... ・当サブエントリの漢字仮名交じりによる表記は「上げる、揚げる」である。
 (7) 自他... ・当サブエントリは他動詞である。
 (8) 《統》... ・統語に関する情報。
 (9) 文... ・当サブエントリは、「N1ガN2を(N3カラ)(N4ニ/ヘ)」という文型(格形式のパターン)をとる。
 ・代表的な文例:「彼は本を棚の上に上げた。」「父親は子供を二階に上げた。」
 (10) 述... ・統語素は「L S 2, L G 2 / D R 2, O 2 c, A」である。
 (11) 名1... ・「N1ガ」の名詞句に対する意味素性は「HUM」であり、名詞の例としては「彼」があげられる。
 (12) 名2... ・「N2ヲ」の名詞句に対する意味素性は「CON」であり、名詞の例としては「子供、品物、本、布団、凧、花火」があげられる。
 (13) 名3... ・「N3カラ」の名詞句に対する意味素性は「LOC」であり、名詞の例としては「一階、地下、土手」があげられる。
 (14) 名4... ・「N4ニ/ヘ」の名詞句に対する意味素性は「LOC」であり名詞の例としては「二階、上、屋根裏」があげられる。
 (15) 《意》... ・意味に関する情報
 (16) 意記... ・当サブエントリの語義は「何かを上方に移す。」である。

- (17) 上 ・上位語は「運ぶ」である。
- (18) 反 ・反義語は「下ろす」である。
- (19) 国分 ・『分類語彙表』では当サブエントリは、分類名称「上がり下がり」、分類番号「2.1540」のカテゴリに分類されている。
- (20) 角分 ・『角川類語新辞典』では当サブエントリは、分類名称「上昇」、分類番号「217a」のカテゴリに分類されている。
- (21) 分 ・当サブエントリは「動作(動き)」、(状態)変化、移動(位置変化)、出発・帰着」という意味分類のカテゴリに分類される。
- (22) 《形》..... ・形態に関する情報
- (23) 派自 ・当サブエントリに対応する自動詞は「あがる」である。
- (24) 転他 ・転成語として「凧あげ」がある。
- (25) 《文法》..... ・文法的カテゴリに関する情報
- (26) 態 ・ヴォイス情報
 ・二使役文を形成する。
 ・直接受動文を形成し、能動文のヲ格の名詞句が直接受動文の主格になり易い。また、能動文の主格が直接受動文において格形式二ないしは二ヨツテと交替する。
 ・ラレル形式が「間受」「可能」「尊敬」を表す。
 ・ヴォイスによる動詞分類は「能動」である。
- (27) 時相 ・テンス・アスペクト情報
 ・ル形が「未来」の意を表す。
 ・テイル形が「進行」の意を表す。
 ・アスペクト形式「テアル、テシマウ、カケル、ハジマル、ダス」が後接可能である。
- (28) 法 ・ムード情報
 ・命令形が「命令」の意をも表す。
 ・意志・勧誘形が「意志・勧誘」の意をも表す。
 ・ムード形式「タイ・タガル、ナサイ、ナ」が後接可能である。また「ナ」が後接した場合「禁止」の意をも表す。
 ・ムードによる動詞分類は「3b」である。
 ・「マス、ナイ」が後接可能である。
- (29) 《慣》..... ・慣用的表現としては、「床をあげる」「看板をあげる」「杯をあげる」「祝杯をあげる」「のろしをあげる」「棚にあげる」「アドバルーンをあげる」「一旗あげる」「みこしをあげる」がある。
- (30) 《備考1》..... ・形態に関する情報、意味に関する情報について特記すべきこととして「N1が“凧、花火”などの場合、『揚げる』とも書く。」がある。

見出し一覧

本辞書の見出し一覧を示す。

凡例

| | |
|-----|---|
| 見出し | ひらがなによる見出し |
| 番号 | 同音異義判別番号（同音異義語を区別するための番号）およびサブエントリ番号（同一見出し内の何番かを示す番号） |
| 表記 | 漢字による表記の例（注） |
| 文型 | 当該の動詞がとりうる名詞句の格形式のパターン |
| 文例 | 当該の動詞を用いた文の例 |

（注） 文例における動詞の表記は、その文脈で一般的に使用されると思われるものを示した。表記欄の表記は、紙面の制約上、「計算機紀要日本語基本動詞辞書 I P A L (Basic verbs) 辞書編」中の表記の項の先頭にあるもの、つまりそのサブエントリに対応する表記のうち、一番標準的で送り仮名の短い漢字表記、を記載している。したがって、表記欄の表記と文例中の動詞の表記が異なる場合がある。

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|--------------------------------|--|
| あいする | 1.1 | 愛する | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は妻と子を愛している。 |
| | 1.2 | 愛する | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は酒を愛する。 |
| あう | 1.1 | 合う | N 1 ガ 雄型と雌型がぴったり合った。 |
| | 1.2 | 合う | N 1 ガ 二つの川がこの地点で合う |
| | 1.3 | 合う | N 1 ガ 二人の考えが合った。 |
| | 1.4 | 合う | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 私はあの人と話が合う。 |
| | 1.5 | 合う | N 1 ガ N 2 ニ このネクタイは私の好みに合う。 |
| | 1.6 | 合う | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼の言うことは道理に合っている。 |
| | 1.7 | 合う | N 1 ガ N 2 ニ ガラスの靴はシンデレラの足にぴったり合った。 |
| | 1.8 | 合う | N 1 ガ N 2 ニ この靴は今日の服装に合っている。 |
| | 1.9 | 合う | N 1 ガ 答が合っている。 |
| | 1.10 | 合う | N 1 ガ N 2 ガ このスカートはサイズが合わない。 |
| あう | 2.1 | 会う | N 1 ガ N 2 ニ / ト 私は先日知人に会った。 |
| | 2.2 | 会う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は帰る途中で夕立に遭った。 |
| あおぐ | 1.1 | 仰ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は空を仰いだ。 |
| | 1.2 | 仰ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼は先輩を師と仰いだ。 |
| | 1.3 | 仰ぐ | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) N 3 ヲ 課長は部長に指示を仰いだ。 |
| | 1.4 | 仰ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は毒杯を仰いだ。 |
| あがる | 1.1 | 上る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 一行は階段を一階から五階に上がった。 |
| | 1.2 | 上る | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 水銀柱が三十度に上がった。 |
| | 1.3 | 上る | N 1 ガ N 2 ガ 会社は生産が上がった。 |
| | 1.4 | 上る | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 ニ / ヘ) N 4 ガ (N 5) 国鉄は初乗り運賃が120円から140円に上がった。 |
| | 1.5 | 上る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) N 4 ガ 彼は係長から課長へ地位が上がった。 |
| | 1.6 | 上る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 娘は今年小学校に上がった。 |
| | 1.7 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 落語家が高座に上がる。 |
| | 1.8 | 上る | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 ニ / ヘ) 子供が風呂から上がった。 |
| | 1.9 | 上る | N 1 ニ N 2 ガ 会場に歓声が上がった。 |
| | 1.10 | 上る | N 1 ガ こうすれば利益が上がる。 |
| | 1.11 | 挙る | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 ガ) 彼は次期社長の候補に名前が上がる。 |
| 1.12 | 挙る | N 1 ガ 証拠が挙がった。 | |
| 1.13 | 上る | N 1 ガ 夕立が上がった。 | |
| 1.14 | 上る | N 1 ガ N 2 デ 会費が4000円で上がった。 | |
| 1.15 | 上る | N 1 ガ (N 2 デ) 赤潮で魚が上がった。 | |
| 1.16 | 上る | N 1 ガ (N 2 デ) 私は入試で上がってしまった。 | |
| 1.17 | 上る | N 1 ガ N 2 ヲ ビールを上げりませんか。 | |
| 1.18 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ 私がお届けに上がります。 | |
| あきらめる | 1.1 | 諦める | N 1 ガ N 2 ヲ 兄は大学進学を諦めた。 |
| | 1.2 | 諦める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼は全てを運命と諦めた。 |
| あきる | 1.1 | 飽きる | N 1 ガ N 2 ニ 子供は積木遊びに飽きた。 |
| あきれる | 1.1 | 呆れる | N 1 ガ N 2 ニ 老人は今の若者に呆れている。 |
| | 1.2 | 呆れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼のその事件に呆れた。 |
| あく | 1.1 | 開く | N 1 ガ 裏木戸が音もなく開いた。 |
| | 1.2 | 開く | N 1 ニ N 2 ガ 着物に穴が開いた。 |
| | 1.3 | 空く | N 1 ニ N 2 ガ A大学は法学部の助手のポストが空いている。 |
| | 1.4 | 空く | N 1 ガ アイロンはもうじき空きます。 |
| | 1.5 | 空く | N 1 ガ 夕方6時まで時間が開いている。 |
| | 1.6 | 開く | N 1 ガ デパートは夜7時まで開いている。 |
| | 1.7 | 空く | N 1 ガ 前の席が空いた。 |
| | 1.8 | 空く | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ その家具は壁と間隔が空いている。 |
| | 1.9 | 空く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は前の人との間隔が空いてしまった。 |
| | 1.10 | 開く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は口を開いて眠っていた。 |
| あける | 1.1 | 明ける | N 1 ガ 夜が明けた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|--------------------------------|--|
| 見出し | 1.2 | 空ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はたんすと壁の間にすきまを空けた。 |
| | 1.3 | 空ける | N 1 ガ N 2 ヲ スポーツ大会の役員は危険防止のため選手のスタート時間の間隔を空けた。 |
| | 1.4 | 開ける | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ ねずみが壁に穴を開けた。 |
| | 1.5 | 開ける | N 1 ガ 二人の考えが合った。 |
| | 1.6 | 開ける | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 私はあの人と話が合う。 |
| | 1.7 | 開ける | N 1 ガ N 2 ニ このネクタイは私の好みに合う。 |
| | 1.8 | 空ける | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼の言うことは道理に合っている。 |
| | 1.9 | 空ける | N 1 ガ N 2 ニ ガラスの靴はシンデレラの足にぴったり合った。 |
| | 1.10 | 空ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はやかんのお湯をポットに空けた。 |
| | 1.11 | 空ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は友人と会うため時間を2時間空けた。 |
| | あげる | 1.1 | 上げる |
| 1.2 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は両手を頭の上に上げた。 |
| 1.3 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 会社は生産を上げた。 |
| 1.4 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) (N 5) 彼は部屋の温度を5度から15度に上げた。 |
| 1.5 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 教授会は助手を講師に上げた。 |
| 1.6 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は娘を今年一流大学に上げた。 |
| 1.7 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼女は子供を部屋に上げた。 |
| 1.8 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼らは海底に沈んでいた船を陸に揚げた。 |
| 1.9 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 斥候兵が合図ののろしを上げた。 |
| 1.10 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は歓声を上げた。 |
| 1.11 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は優れた業績を上げた。 |
| 1.12 | | 挙げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 選考委員会は彼の作品を芥川賞候補に上げた。 |
| 1.13 | | 挙げる | N 1 ガ N 2 ヲ 警察は犯人を挙げた。 |
| 1.14 | | 挙げる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は何人かの名前を挙げた。 |
| 1.15 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はもう仕事を上げた。 |
| 1.16 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は旅行の費用を5万円で上げた。 |
| 1.17 | | 上げる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女に誕生日のプレゼントを上げた。 |
| 1.18 | | 上げる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は仏前にお燈明を上げた。 |
| 1.19 | | 挙げる | N 1 ガ N 2 ヲ 二人は昨年華燭の典を上げた。 |
| 1.20 | | 挙げる | N 1 ヲ 一家を挙げて海外に移る。 |
| 1.21 | 上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 赤ん坊がさっき飲んだミルクを上げた。 | |
| あげる | 2.1 | 揚げる | N 1 ガ N 2 ヲ 母親が天ぷらを揚げています。 |
| あこがれる | 1.1 | 憧れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼はまだ見ぬ土地に憧れた。 |
| あじわう | 1.1 | 味わう | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は久しぶりの解放感を味わった。 |
| | 1.2 | 味わう | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の作った料理を味わった。 |
| | 1.3 | 味わう | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は李白の詩を味わった。 |
| あずかる | 1.1 | 預る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 私は彼から書類を預かった。 |
| | 1.2 | 預る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼は主任からその部署を預かっている。 |
| | 1.3 | 預る | N 1 ガ N 2 ヲ 私がそのケンカを預かろう。 |
| あずける | 1.1 | 預ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は銀行に金を預けた。 |
| | 1.2 | 預ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 乗客はパイロットにその生命を預けている。 |
| | 1.3 | 預ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は相手に体を預けた。 |
| あせる | 1.1 | 焦る | N 1 ガ 監督は焦った。 |
| あそぶ | 1.1 | 遊ぶ | N 1 ガ (N 2 デ) 子供達はファミコンで遊んでいる。 |
| | 1.2 | 遊ぶ | N 1 ガ N 2 ニ 彼は安井息軒の門に遊んだ。 |
| | 1.3 | 遊ぶ | N 1 ガ 彼は会社を辞めて遊んでいる。 |
| | 1.4 | 遊ぶ | N 1 ガ たくさんの土地が遊んでいる。 |
| あたえる | 1.1 | 与える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 政府はY氏に国民栄誉賞を与えた。 |
| | 1.2 | 与える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 借金取りは彼に3日の猶予を与えた。 |
| | 1.3 | 与える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 司会者は解答者にヒントを与えた。 |
| | 1.4 | 与える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 台風21号は近畿地方に大きな損害を与えた。 |
| あたためる | 1.1 | 暖める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ めんどりが卵を暖めている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|---------------------------------|---|
| | 1.2 | 暖める | N 1 ガ N 2 ヲ 地熱が大気を暖める。 |
| | 1.3 | 暖める | N 1 ガ N 2 ヲ その作家は長篇小説を暖めていた。 |
| | 1.4 | 暖める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はストーブで手を暖めた。 |
| | 1.5 | 温める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は電子レンジでシチューを温めた。 |
| | あたる | 1.1 | 当る |
| 1.2 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 彼が火鉢に当たっている。 |
| 1.3 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ / ト 雇うが一体となって与党に当たった。 |
| 1.4 | | 当る | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 ニ 彼は理解できない言葉を字引に当たった。 |
| 1.5 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 彼はフグに当たった。 |
| 1.6 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は私のおじに当たる。 |
| 1.7 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 彼のした事は非難するには当たらない。 |
| 1.8 | | 当る | N 1 ガ 予測が当たった。 |
| 1.9 | | 当る | N 1 ガ 芝居が当たった。 |
| 1.10 | | 当る | N 1 ガ / ニ N デ N 3 ガ 彼は宝くじで特等が当たった。 |
| 1.11 | | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 当方が問題の解決に当たります。 |
| 1.12 | 当る | N 1 ガ N 2 ニ 職場の不満から彼は家族の者に当たった。 | |
| あつかう | 1.1 | 扱う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は複雑な機械を片手で扱う。 |
| | 1.2 | 扱う | N 1 ガ N 2 ヲ 各新聞はいっせいにその問題を扱った。 |
| | 1.3 | 扱う | N 1 ガ N 2 ヲ 90才の父親は60才にもなる息子をまだ子供として扱っている。 |
| あつまる | 1.1 | 集る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ 会議の出席者が全国から集まった。 |
| | 1.2 | 集る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ ここには全国から情報が集まってくる。 |
| | 1.3 | 集る | N 1 ニ N 2 ガ その子にみんなの同情が集まった。 |
| | 1.4 | 集る | N 1 ガ もう随分切手が集まった。 |
| | 1.5 | 集る | N 1 ガ N 2 ニ 霞ヶ関には官庁が集まっている。 |
| | 1.6 | 集る | N 1 ガ N 2 ニ 市民団体が抗議に集まってきた。 |
| あつめる | 1.1 | 集める | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ その事件は世界中から注目を集めた。 |
| | 1.2 | 集める | N 1 ガ (N 2 ニ) (N 3 カラ) N 4 ヲ その私立高校は全国から有能な教師を集めている。 |
| あつらえる | 1.1 | 誂える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は背広を誂えた。 |
| あてはまる | 1.1 | 当嵌る | N 1 ガ N 2 ニ この理論は欧州には当て嵌らない。 |
| あてはめる | 1.1 | 当嵌める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 学者はその理論を実例に当て嵌めた。 |
| | 1.2 | 当嵌める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 子供はクロスワードパズルに字を当て嵌めた。 |
| あてる | 1.1 | 当てる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 子供は壁にボールを当てた。 |
| | 1.2 | 当てる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は頭に手拭いを当てた。 |
| | 1.3 | 当てる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は濡れた衣服を風に当てている。 |
| | 1.4 | 当てる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ト 運営委員会はAチームを初戦でBチームに当てた。 |
| | 1.5 | 充てる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ニ 彼らは行動を主会場に充てた。 |
| | 1.6 | 当てる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 明治人は外国語に日本語を当てていた。 |
| | 1.7 | 宛てる | N 1 ガ N 2 ニ 子供がサンタクロースに宛てて手紙を書いた。 |
| | 1.8 | 当てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の年を当てた。 |
| | 1.9 | 当てる | N 1 ガ N 2 デ 彼は芝居でうまく当てた。 |
| | 1.10 | 当てる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は宝くじで特賞を当てた。 |
| | 1.11 | 当てる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ 首相は機動隊を官邸の警備に当てた。 |
| | 1.12 | 当てる | N 1 ガ N 2 ヲ 私達は新郎新婦に当てられた。 |
| あなどる | 1.1 | 侮る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ト) 彼は敵を若輩と侮った。 |
| あばれる | 1.1 | 暴れる | N 1 ガ 中学生が教室で暴れた。 |
| | 1.2 | 暴れる | N 1 ガ 彼は新天地で大いに暴れた。 |
| あびる | 1.1 | 浴びる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / カラ) 彼は頭からシャワーを浴びた。 |
| | 1.2 | 浴びる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / カラ) 犬は頭から泥水を浴びた。 |
| | 1.3 | 浴びる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) 名優は満場から拍手喝采を浴びた。 |
| あふれる | 1.1 | 溢れる | N 1 ガ N 2 ニ 水が水槽に溢れている。 |
| | 1.2 | 溢れる | N 1 ガ (N 2 デ) 川が豪雨で溢れた。 |
| | 1.3 | 溢れる | N 1 ガ N 2 カラ 米が升から溢れている。 |
| | 1.4 | 溢れる | N 1 ニ N 2 ガ 会場に聴衆が溢れている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-----|---|
| | 1.5 | 溢れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は自信に溢れている。 |
| | 1.6 | 溢れる | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 彼の胸は感謝の念で溢れている。 |
| あまえる | 1.1 | 甘える | N 1 ガ N 2 ニ 犬は飼主に甘えた。 |
| | 1.2 | 甘える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は友達の親切な言葉に甘えた。 |
| あまる | 1.1 | 余る | (N 1 ニ) N 2 ガ テーブルの上に料理が余っている。 |
| | 1.2 | 余る | N 1 ガ N 2 ニ 年齢は六十に余る。 |
| | 1.3 | 余る | N 1 ガ N 2 ニ その大役は彼の能力にあまる。 |
| | 1.4 | 余る | N 1 ガ 十を三で割ると一が余る。 |
| あやしむ | 1.1 | 編む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女が編み棒で毛糸のセーターを編んでいる。 |
| | 1.2 | 編む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は木綿糸を帽子に編んだ。 |
| | 1.3 | 編む | N 1 ガ N 2 ヲ 仲間がその友人の遺稿を編んだ。 |
| | 1.4 | 編む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が旅行計画を編んだ。 |
| あやしむ | 1.1 | 怪しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 仲間が彼の言葉を怪しんだ。 |
| | 1.2 | 怪しむ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ト) 子供が彼を誘拐犯と怪しんだ。 |
| | 1.3 | 怪しむ | N 1 ガ ス ト 皆が彼は正気かと怪しんだ。 |
| あやつる | 1.1 | 操る | N 1 ガ N 2 ヲ 船頭が巧みに櫂を操った。 |
| | 1.2 | 操る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は金で女を操る。 |
| あやぶむ | 1.1 | 危ぶむ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は息子の前途を危ぶんでいる。 |
| | 1.2 | 危ぶむ | N 1 ガ ス ト 委員長は会議が開催できるだろうかと危ぶんだ。 |
| あやまる | 1.1 | 謝る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女に思い違いを謝った。 |
| あやまる | 2.1 | 誤る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は判断を誤った。 |
| | 2.2 | 誤る | N 1 ガ N 2 ヲ そのような教義は人を誤る虞がある。 |
| | 2.3 | 誤る | N 1 ガ 君の推察は誤っている。 |
| | 2.4 | 誤る | N 1 ガ 彼は誤って人を傷付けた。 |
| あらう | 1.1 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女は川の水で大根を洗った。 |
| | 1.2 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女は石けんで体をよく洗う。 |
| | 1.3 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女はたわしで大根の土をざっと洗った。 |
| | 1.4 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ 雨が木々を洗った。 |
| | 1.5 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ わが社はM氏を徹底的に洗った。 |
| | 1.6 | 洗う | N 1 ガ N 2 ヲ 少女の言葉に人々の心が洗われた。 |
| あらす | 1.1 | 荒す | N 1 ガ N 2 ヲ 子供達がすいか畑を荒らした。 |
| | 1.2 | 荒す | N 1 ガ N 2 ヲ 暴力団が相手の縄張りを荒らした。 |
| あらそう | 1.1 | 争う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 3チームが優勝を争った。 |
| | 1.2 | 争う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 兄が弟と遺産相続で争っている。 |
| あらたまる | 1.1 | 改まる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ) 法律が旧法から新法に改まった。 |
| | 1.2 | 改まる | N 1 ガ (N 2 ガ) 彼は先生を前にすると急に態度が改まる。 |
| あらためる | 1.1 | 改める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ) 彼らは制度を新しいものに改めた。 |
| | 1.2 | 改める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は心を改めた。 |
| | 1.3 | 換める | N 1 ガ N 2 ヲ 車掌は乗客の切符を改めた。 |
| | 1.4 | 改める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は衣服を改めた。 |
| あらわす | 1.1 | 現す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 男が奥から玄関に姿を現した。 |
| | 1.2 | 表す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は喜びを顔に表している。 |
| | 1.3 | 表す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は感謝の気持を言葉で表した。 |
| | 1.4 | 表す | N 1 ガ N 2 ヲ 名は体を表す。 |
| | 1.5 | 著す | N 1 ガ N 2 ヲ 例の学者が専門書を著した。 |
| あらわれる | 1.1 | 現れる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 彼が奥の部屋から玄関に現れた。 |
| | 1.2 | 現れる | N 1 ガ (N 2 ニ) 喜びが彼の顔に現れている。 |
| ある | 1.1 | 在る | N 1 ニ N 2 ガ 東京には高層ビルがある。 |
| | 1.2 | 在る | N 1 ガ 賛成する人があった。 |
| | 1.3 | 有る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ (N 3) 彼には子供が二人ある。 |
| | 1.4 | 有る | N 1 ニ N 2 ガ 彼の顔には昔の面影がある。 |
| | 1.5 | 在る | N 1 ガ N 2 ニ 近年少年犯罪は増加の傾向にある。 |
| | 1.6 | 有る | N 1 ニ N 2 ガ 二人の間には大きな開きがある。 |
| | 1.7 | 有る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ A選手はB選手と実力差がある。 |
| | 1.8 | 有る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ニ N 4 ガ 彼は弟と性格に大きな違いがある。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|---|
| | 1.9 | 有る | N 1 ガ N 2 ニ / ト N 3 ガ 彼女はその事件に関係がある。 |
| | 1.10 | 有る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ この薬は疲労回復に効目がある。 |
| | 1.11 | 有る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ バンダはみんなに人気がある。 |
| | 1.12 | 有る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 私はあの人に恨みがある。 |
| | 1.13 | 有る | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 この機械は重さが 1 2 5 k g がある。 |
| | 1.14 | 在る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は会長の職にある。 |
| | 1.15 | 有る | N 1 ガ 市民運動会がある。 |
| あるく | 1.1 | 歩く | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 少年が田舎道を歩いている。 |
| | 1.2 | 歩く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) (N 4 デ) 彼はあちこちを宣伝に歩いた。 |
| あれる | 1.1 | 荒れる | (N 1 デ) N 2 ガ 台風で海が荒れている。 |
| | 1.2 | 荒れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 母は水仕事で手が荒れてしまった。 |
| | 1.3 | 荒れる | (N 1 デ) N 2 ガ 戦争で国土が荒れた。 |
| | 1.4 | 荒れる | (N 1 デ) N 2 ガ エラーの続出で試合は荒れた。 |
| あわせる | 1.1 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ 両力士は胸を合わせた。 |
| | 1.2 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は手を合わせた。 |
| | 1.3 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ 薬剤師は 3 種類の薬を合わせた。 |
| | 1.4 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは話を合わせた。 |
| | 1.5 | 合せる | N 1 ガ N 2 ニ / ト N 3 ヲ 彼は相手に調子を合わせた。 |
| | 1.6 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ト) 彼は答案を正解と合わせた。 |
| | 1.7 | 合せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ト 彼女は家具を壁の色に合わせた。 |
| | 1.8 | 合せる | (N 1 ガ) N 2 ヲ 2 と 5 を合わせると 7 になる。 |
| あわてる | 1.1 | 慌てる | N 1 ガ N 2 ニ / デ 彼は不気味な物音に慌てた。 |
| あんじる | 1.1 | 案じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は一計を案じた。 |
| | 1.2 | 案じる | N 1 ガ N 2 ヲ 夫は妻の病気を案じた。 |
| いう | 1.1 | 言う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト (N 4 デ) 人は酒を百薬の長という。 |
| | 1.2 | 言う | N 1 ガ 風がびゅうびゅうと言う。 |
| | 1.3 | 言う | N 1 ガ N 2 ニ (S ト) N 3 ヲ 彼女は弟に早く結婚しなさいと意見を言った。 |
| | 1.4 | 言う | N 1 ガ N 2 ヲ この記事はうちの会社のことを言っている。 |
| | 1.5 | 言う | (N 1 ガ) S ト ここは戦国時代の城跡だと言う。 |
| | 1.6 | 言う | N 1 ガ (N 2 ニ) S ト 彼は彼女にピュッフェの絵が好きだと言った。 |
| | 1.7 | 言う | N 1 ガ N 2 ヲ S ト 皆が彼のことを立派な人だと言う。 |
| | 1.8 | 言う | N 1 ガ N 2 ト 私は鈴木と言います。 |
| | 1.9 | 言う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 江戸っ子は「ひびや」を「しびや」と言う・ |
| いかす | 1.1 | 生かす | N 1 ガ N 2 ヲ 父は釣った魚を生かしておいた。 |
| | 1.2 | 活かす | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は仕事に自己の才能を充分活かしている。 |
| | 1.3 | 活かす | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はこの調理法で素材のうま味を活かした。 |
| いきる | 1.1 | 生きる | N 1 ガ (N 2) 亀は 1 0 0 年ぐらい生きる。 |
| | 1.2 | 生きる | N 1 ガ (N 2 ニ) 庶民は下町に生きている。 |
| | 1.3 | 生きる | N 1 ガ N 2 ヲ 現代人は忙しい社会を生きている。 |
| | 1.4 | 生きる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は将棋に生きた。 |
| | 1.5 | 生きる | N 1 ガ この規則はまだ生きている。 |
| | 1.6 | 生きる | N 1 ガ N 2 デ その一語で文章が生きる。 |
| いじめる | 1.1 | 苛める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が犬を苛めた。 |
| いそぐ | 1.1 | 急ぐ | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼女は夜道を駅から急いだ。 |
| | 1.2 | 急ぐ | N 1 ガ N 2 ニ 従業員が仕事に急いでいる。 |
| | 1.3 | 急ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は準備を急いだ。 |
| いたむ | 1.1 | 痛む | (N 1 ガ) N 2 ガ それを聞いて私は心が痛んだ。 |
| | 1.2 | 傷む | (N 1 デ) N 2 ガ 引越で家具が傷んだ。 |
| | 1.3 | 悼む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友の死を悼んだ。 |
| いたわる | 1.1 | 労る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は老人を優しい言葉で労った。 |
| いつわる | 1.1 | 偽る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は年令を偽っていた。 |
| | 1.2 | 偽る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 司会者は解答者にヒントを与えた。 |
| | 1.3 | 偽る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 画商が偽物の絵を本物と偽った。 |
| | 1.4 | 偽る | N 1 ガ N 2 ト 彼は自分は社長の息子だと偽った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|---|
| いとなむ | 1.1 | 嘗む | N 1 ガ N 2 ヲ 友人は旅館を嘗んでいる。 |
| | 1.2 | 嘗む | N 1 ガ N 2 ヲ 長男が法事を嘗んだ。 |
| | 1.3 | 嘗む | N 1 ガ N 2 ヲ 二人は新婚生活を嘗んでいる。 |
| いのる | 1.1 | 祈る | N 1 ガ ス ト (N 2 ニ) 彼女は子供が無事であるようにと神に祈った。 |
| | 1.2 | 祈る | N 1 ガ (N 2 ニ) (N 3 ヲ) 彼は神に幸せを祈った。 |
| いましめる | 1.1 | 戒める | N 1 ガ (ス ト) N 2 ヲ 父親はそんな事をするものではないと息子を戒めた。 |
| | 1.2 | 戒める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は子供の言葉遣いを戒めた。 |
| | 1.3 | 戒める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 岡っ引は盗人を縄で縛めた。 |
| いる | 1.1 | 居る | N 1 ニ N 2 ガ アフリカにはライオンや象がいる。 |
| | 1.2 | 居る | N 1 ニ N 2 ガ (N 3) 彼には娘と息子が2人ずついる。 |
| | 1.3 | 居る | N 1 ガ お父さんがいたら喜ぶだろう。 |
| いる | 2.1 | 射る | N 1 ガ N 2 ヲ 矢が的を射た。 |
| | 2.2 | 射る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は矢で敵将を射た。 |
| | 2.3 | 射る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は3 4 ポンドの弓で2 6 インチの矢を射た。 |
| | 2.4 | 射る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼が的に矢を射た。 |
| いる | 3.1 | 入る | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ガ 彼は鎖骨にひびが入った。 |
| いる | 4.1 | 要る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ (N 3) 字引作成には時間がかかる。 |
| いれる | 1.1 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は財布をポケットに入れた。 |
| | 1.2 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は姪を自分の会社に入れた。 |
| | 1.3 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 この容器は3リットル入れる事が出来る。 |
| | 1.4 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はコーヒーに砂糖を入れた。 |
| | 1.5 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 大学は計算機センターに大型コンピュータを入れた。 |
| | 1.6 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ 本屋は新刊本を入れた。 |
| | 1.7 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ (N 4) 彼は大家に家賃を6万円入れた。 |
| | 1.8 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 会社はビルに冷房を入れた。 |
| | 1.9 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 彼女は風を部屋の中に入れた。 |
| | 1.10 | 淹れる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 秘書が客にお茶を入れた。 |
| | 1.11 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は魚に包丁を入れた。 |
| | 1.12 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はノートに罫を入れた。 |
| | 1.13 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 昔の人は鯨を魚の仲間に入れていた。 |
| | 1.14 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は天候を考慮に入れて旅行を企画した。 |
| | 1.15 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は報告書に自分の意見を入れた。 |
| | 1.16 | 入れる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は聞いた事をしっかりと頭に入れた。 |
| | 1.17 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は仕事に身を入れた。 |
| | 1.18 | 容れる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は相手の要求を容れた。 |
| | 1.19 | 入れる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 彼は妻に今日は遅くなるという電話を入れた。 |
| いわう | 1.1 | 祝う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は息子の門出を祝った。 |
| | 1.1 | 植える | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 生徒達が校庭に記念樹を植えた。 |
| うえる | 1.2 | 植える | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 工員が髪に毛を植える。 |
| | 1.3 | 植える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 医者は子供に種痘を植えた。 |
| | 2.1 | 飢える | (N 1 デ) N 2 ガ 食糧不足で多くの人々が飢えている。 |
| うえる | 2.2 | 飢える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は知識に飢えている。 |
| | うかがう | 1.1 | 伺う |
| 1.2 | | 伺う | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 私は先生のお宅で奥様にお話を伺いました。 |
| 1.3 | | 伺う | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ (N 4 デ) 学生が教授に教授の都合を電話で伺った。 |
| 1.4 | | 伺う | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 明日3時に使いの者がお宅へ伺います。 |
| 1.5 | | 窺う | (N 1 ガ) N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 最近の側近の動きから首相の退陣が窺われた。 |
| 1.6 | | 窺う | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼はドアの陰からじっと外を窺った。 |
| 1.7 | | 窺う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はそっと夫の顔色を窺った。 |
| 1.8 | | 窺う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はじっと復讐の機会を窺った。 |
| うかぶ | 1.1 | 浮ぶ | N 1 ガ N 2 ニ 青空に気球が浮んでいる。 |
| | 1.2 | 浮ぶ | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼の目に涙が浮んだ。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-------|--|
| | 1.3 | 浮かぶ | N 1 ガ N 2 ニ 容疑者が捜査線上に浮かんだ。 |
| | 1.4 | 浮かぶ | N 1 ガ (N 2 ニ) 母の面影がまぶたに浮かんだ。 |
| 浮かべる | 1.1 | 浮かべる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 子供が流れに笹舟を浮かべた。 |
| | 1.2 | 浮かべる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は口元に微笑を浮かべた。 |
| うく | 1.3 | 浮かべる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 新入生は先輩の言葉を心に浮かべた。 |
| | 1.1 | 浮く | N 1 ガ N 2 ニ 体が宙に浮いた。 |
| | 1.2 | 浮く | N 1 ガ (N 2 カラ) スキーの金具が板から浮いている。 |
| | 1.3 | 浮く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 一度沈んだ体が水面に再度浮いた。 |
| | 1.4 | 浮く | N 1 ニ N 2 ガ 肌に脂が浮いている。 |
| うけいれる | 1.5 | 浮く | N 1 ガ (N 2) 旅費が三万円浮いた。 |
| | 1.1 | 受け入れる | N 1 ガ N 2 ヲ あの小学校は 帰国子女を受け入れている。 |
| | 1.2 | 受け入れる | N 1 ガ N 2 ヲ 銀行強盗は母親の説得を受け入れた。 |
| うけお | 1.1 | 請負う | N 1 ガ N 2 ヲ A 社がそのマンションの建築を請け負った。 |
| うけつける | 1.1 | 受け付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 市役所は消費者の苦情を受け付けている。 |
| うけとる | 1.1 | 受取る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ (N 4 ニ) 両親は子供から成績表を受け取った。 |
| | 1.2 | 受取る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼はこの沈黙を同意と受け取った。 |
| うけもつ | 1.1 | 受持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は国籍学の講義を受け持っている。 |
| | 1.2 | 受持つ | N 1 ガ N 2 彼は一人で二役受け持っている。 |
| うける | 1.1 | 受ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は油を皿に受けた。 |
| | 1.2 | 受ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は陽光を背に受けている。 |
| | 1.3 | 受ける | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼は周りから攻撃を受けた。 |
| | 1.4 | 受ける | N 1 ガ N 2 ヲ その部屋は西日をまともに受ける。 |
| | 1.5 | 受ける | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は市から功労賞を受けた。 |
| | 1.6 | 受ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は国家試験を受けた。 |
| | 1.7 | 受ける | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ A 建設が県からその工事を請けた。 |
| | 1.8 | 受ける | N 1 ガ (N 2 ニ) その芝居は老人に受けた。 |
| | 1.9 | 受ける | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 私は見合いの相手から好印象を受けた。 |
| うごかす | 1.1 | 動かす | N 1 ガ N 2 ヲ 委員会が政府を動かした。 |
| | 1.2 | 動かす | N 1 ガ N 2 ヲ その言葉は皆の心を動かした。 |
| | 1.3 | 動かす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 彼は机を北の部屋から南の部屋に動かした。 |
| うごく | 1.1 | 動く | N 1 ガ モーターが動いている。 |
| | 1.2 | 動く | N 1 ガ N 2 ガ 彼は耳が動く。 |
| | 1.3 | 動く | N 1 ガ (N 2 ニ) 振り子が左右に動いている。 |
| | 1.4 | 動く | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は気持ちが悪く動いた。 |
| | 1.5 | 動く | N 1 ガ その決定はもう動かない。 |
| | 1.6 | 動く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 車が往来を東から西へ動いている。 |
| うしなう | 1.1 | 失う | N 1 N 1 ガ N 2 ヲ 彼は財布を失った。 |
| | 1.2 | 失う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は外国に行くチャンスを失った。 |
| | 1.3 | 失う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は友人を交通事故で失った。 |
| うずまる | 1.1 | 埋まる | N 1 ガ N 2 ニ / デ 家が雪に埋まった。 |
| | 1.2 | 埋まる | (N 1 デ) N 2 ガ (N 3 ニ) 集中豪雨で道路が土砂に埋まった。 |
| うずめる | 1.3 | 埋まる | N 1 ガ N 2 デ スタンドは群集で埋まっていた。 |
| | 1.1 | 埋める | N 1 ガ N 2 ヲ 群集が広場を埋めた。 |
| | 1.2 | 埋める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は部屋を本で埋めた。 |
| | 1.3 | 埋める | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 子供が庭に宝物を埋めた。 |
| うたう | 1.4 | 埋める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 子供が母の胸に顔を埋めた。 |
| | 1.1 | 歌う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 母が子供に歌を歌った。 |
| | 1.2 | 詠う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 詩人が恋の悲しみを詠う。 |
| | 1.3 | 謳う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 両国は条約に平和の実現を謳った。 |
| うたがう | 1.4 | 謳う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 世間はその戦闘機を世界最強を謳う。 |
| | 1.1 | 疑う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は報告書の数字を疑った。 |
| | 1.2 | 疑う | N 1 ガ S ト 太郎は次郎が犯人ではないかと疑っている。 |
| | 1.3 | 疑う | N 1 ガ N 2 ヲ S ト 太郎は次郎を犯人ではないかと疑っている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|--------|------|-----------|---------------------|------------------------|
| うちあわせる | 1.1 | 打合せる | N1ガN2ヲN3ニノト | 彼は石を鉄に打ち合わせた。 |
| | 1.2 | 打合せる | N1ガN2ヲ | 彼らは時間を打ち合わせた。 |
| うちきる | 1.1 | 打切る | N1ガN2ヲ | 彼は5時で仕事を打ち切った。 |
| うちけす | 1.1 | 打消す | N1ガN2ヲ(N3ト) | 彼は噂を事実無根と打ち消した。 |
| うつ | 1.1 | 打つ | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 私はラケットでボールを打った。 |
| | 1.2 | 打つ | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 咄家は扇子で軽く頭を打った。 |
| | 1.3 | 打つ | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 彼は机の角で頭を打ってしまった。 |
| | 1.4 | 打つ | N1ガN2ヲ | 雨が激しく窓を打っている。 |
| | 1.5 | 打つ | N1ガN2ヲ | あの選手はよくヒットを打つ。 |
| | 1.6 | 打つ | N1ガN2ヲ | 居間の柱時計が十時を打った。 |
| | 1.7 | 打つ | N1ガN2ヲ | 彼はワープロを打っている。 |
| | 1.8 | 打つ | N1ガN2ヲ | 先生の言葉は私の胸を強く打った。 |
| | 1.9 | 打つ | N1ガN2ヲ | アの男はしょっちゅうばくちを打っている。 |
| | 1.10 | 撃つ | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 猟師は鉄砲できじを撃った。 |
| | 1.11 | 撃つ | N1ガN2ヲ | 彼はピストルを撃った。 |
| | 1.12 | 討つ | N1ガN2ヲ | 遺子が見事に親の仇を討った。 |
| | 1.13 | 打つ | N1ガN2ヲ | 刀鍛冶は一心不乱に刀を打っていた。 |
| | 1.14 | 打つ | N1ガN2ヲ | 農夫が田を打っている。 |
| | 1.15 | 打つ | (N1ガ)N2ニN3ヲ | 彼はそのページに覚えのための番号を打った。 |
| 1.16 | 打つ | N1ガN2ニN3ヲ | 猟師は海に網を打った。 | |
| 1.17 | 打つ | N1ガN2ニN3ヲ | 父は毎朝庭に水を打つ。 | |
| 1.18 | 打つ | N1ガN2ニN3ヲ | 彼は柱に釘を打った。 | |
| 1.19 | 打つ | N1ガN2ヲ | 組合側はゼネストを打った | |
| 1.20 | 打つ | N1ガN2ニN3ヲ | 医者は患者の腕に太い注射を打った。 | |
| 1.21 | 打つ | N1ガN2ヲ | 貴ノ花は小手投げを打った。 | |
| 1.22 | 打つ | N1ガN2ニN3ヲ | 次郎は妹に電報を打った。 | |
| 1.23 | 打つ | N1ガ(N2ヲ) | 心臓がゆっくりと脈を打っている。 | |
| うつす | 1.1 | 写す | N1ガ(N2カラ)(N3ニノヘ)N4ヲ | 彼は本からノートに問題を写した。 |
| | 1.2 | 映す | N1ガN2ヲN3ニ | 彼はニュース映画をスクリーンに映した。 |
| | 1.3 | 写す | N1ガN2ヲ(N3デ)N4ニ | 彼はその風景をカラーフィルムで写真に写した。 |
| | 1.4 | 写す | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 彼は赤外線カメラで写真を写した。 |
| | 1.5 | 映す | N1ガN2ニN3ヲ | 富士は湖水に全貌を映している。 |
| | 1.6 | 写す | N1ガN2ヲ(N3ニ) | 彼は幻想の世界を詩に写した。 |
| うつす | 2.1 | 移す | N1ガN2ヲ(N3カラ)N4ニノヘ | 教師が生徒を教室からグラウンドに移した。 |
| | 2.2 | 移す | N1ガN2ヲN3ニ | 彼は舞台の上座に視線を移した。 |
| | 2.3 | 移す | N1ガN2ヲN3ニ | 彼は彼女に風邪を移した。 |
| | 2.4 | 移す | N1ガN2ヲN3ニ | 政府は法案を審議に移した。 |
| うったえる | 1.1 | 訴える | N1ガN2ニ | 彼女の主張は多くの人々の理性に訴えた。 |
| | 1.2 | 訴える | N1ガN2ニ | 彼はすぐ腕力に訴える。 |
| | 1.3 | 訴える | N1ガN2ニN3ヲ | 犬は飼主に空腹を訴えた。 |
| | 1.4 | 訴える | N1ガN2ニN3ヲ | 陳情団が代議士に米値上げを訴えた。 |
| | 1.5 | 訴える | N1ガN2デN3ヲ(N4ニ) | 彼は婚約者を詐欺で裁判所に訴えた。 |
| うつる | 1.1 | 映る | N1ニN2ガ | テレビに事故現場が映った。 |
| | 1.2 | 写る | N1ガN2ニ | 彼の姿が私の目に映る。 |
| | 1.3 | 写る | N1ガ | この写真はよく写っている。 |
| | 1.4 | 映る | N1ガ(N2ニ) | 彼の変わり身の速さは滑稽に映る。 |
| | 1.5 | 映る | N1ガN2ニ | そのアクセサリーは青い服によく映る。 |
| うつる | 2.1 | 移る | N1ガ(N2カラ)N3ニノヘ | 会場が市内から郊外に移った。 |
| | 2.2 | 移る | N1ガ(N2ヲ)N3カラN4ニノヘ | 彼は技術部から営業部に移った。 |
| | 2.3 | 移る | N1ガ(N2カラ)N3ニノヘ | 話題が文学から音楽に移った。 |
| | 2.4 | 移る | N1ガN2ニ | 計画は実行に移った。 |
| | 2.5 | 移る | N1ガ(N2カラ)(N3ニノヘ) | 季節が春から夏に移った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|-----|---|
| うながす | 1.1 | 促す | N 1 ガ N 2 ヲ 酪農が村の発展を促した。 |
| | 1.2 | 促す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 妻は夫に反省を促した。 |
| | 1.3 | 促す | N 1 ガ N 2 ニ S ト 母親は子供に「もう帰りましょう」と促した。 |
| うばう | 1.1 | 奪う | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 部隊はついに敵から敵地を奪った。 |
| | 1.2 | 奪う | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 回りの雪が徐々に体から体温を奪っていった。 |
| うまる | 1.1 | 埋る | N 1 ガ N 2 デ 広場が見物人で埋った。 |
| | 1.2 | 埋る | N 1 ガ N 2 ニ / デ 道路が泥に埋った。 |
| | 1.3 | 埋る | (N 1 デ) N 2 ガ (N 3 ニ) 豪雨で線路が土砂に埋まった。 |
| | 1.4 | 埋る | N 1 ニ N 2 ガ 万博会場にタイム・カプセルが埋まっている。 |
| | 1.5 | 埋る | N 1 ガ N 2 デ 赤字が臨時収入で埋まった。 |
| うまれる | 1.1 | 生れる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 デ) ひよこは卵から生まれた。 |
| | 1.2 | 生れる | N 1 ニ N 2 ガ (N 3) 姉夫婦に女の子が生まれた。 |
| | 1.3 | 生れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は名家に生まれた。 |
| | 1.4 | 生れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は総理の娘に生まれた。 |
| | 1.5 | 生れる | N 1 ガ (N 2 デ) 新しい国家が革命で生まれた。 |
| | 1.6 | 生れる | N 1 カラ N 2 ガ 貧困から悪が生まれる。 |
| | 1.7 | 生れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼は心に新しい希望が生まれた。 |
| うむ | 1.1 | 産む | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 鮭は卵を産む。 |
| | 1.2 | 生む | N 1 ガ N 2 ヲ 努力が天才を生む。 |
| うめる | 1.1 | 埋める | N 1 ガ N 2 ヲ ファンが会場を埋めた。 |
| | 1.2 | 埋める | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 自衛隊員は土砂で道路の亀裂を埋めた。 |
| | 1.3 | 埋める | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 母が庭にゴミを埋めた。 |
| | 1.4 | 埋める | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 主婦はアルバイトで赤字を埋めた。 |
| うやまう | 1.1 | 敬う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は神仏を敬う。 |
| | 1.2 | 敬う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ト) 彼女は祖母を女の鑑と敬っている。 |
| うらぎる | 1.1 | 裏切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は味方を裏切った。 |
| | 1.2 | 裏切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友人の信頼を裏切った。 |
| うらなう | 1.1 | 占う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はトランプで運勢を占った。 |
| うらむ | 1.1 | 恨む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の冷たい態度を恨んだ。 |
| | 1.2 | 恨む | N 1 ガ N 2 ヲ 全日本チームの詰めの甘さが恨まれる。 |
| うらやむ | 1.1 | 羨む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友人の成功を羨んだ。 |
| うる | 1.1 | 売る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4 デ) 不動産屋は客に法外な値段で土地を売った。 |
| | 1.2 | 売る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は友を敵に売った。 |
| | 1.3 | 売る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は暴力団にけんかを売ってしまった。 |
| | 1.4 | 売る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) (N 4 デ) ホンダはその技術で世界中に名を売った。 |
| うるおう | 1.1 | 潤う | (N 1 デ) N 2 ガ 久しぶりの雨で田畑が潤った。 |
| | 1.2 | 潤う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は臨時収入で懐が潤った。 |
| えがく | 1.1 | 描く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はその場の情景を心に描いた。 |
| | 1.2 | 描く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / デ 彼は自らの体験を小説に描く。 |
| | 1.3 | 描く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 ニ) 彼は風景をパステルで画用紙に描いた。 |
| えぐる | 1.1 | 抉る | N 1 ガ N 2 ヲ 悲しみが彼の心を抉った。 |
| | 1.2 | 抉る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はナイフで果物の芯を抉った。 |
| | 1.3 | 抉る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 新聞記者たちは矢継ぎ早の質問で問題の核心を抉った。 |
| えらぶ | 1.1 | 選ぶ | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ N 4 ニ 審査員は多くの応募作品の中から彼の作品を最優秀賞に選んだ。 |
| | 1.2 | 選ぶ | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 審査員は多数の候補作の中から最優秀作を選んだ。 |
| | 1.3 | 選ぶ | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ N 4 ニ 市民は三人の候補者の中から新人を新市長に選んだ。 |
| | 1.4 | 選ぶ | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 市民は三人の中から市長を選んだ。 |
| える | 1.1 | 得る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はその作品で芥川賞を得た。 |
| | 1.2 | 得る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は心痛のあまり病を得た。 |
| | 1.3 | 得る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 知事は県民から圧倒的な支持を得た。 |
| | 1.4 | 得る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼はその本から多くの知識を得た。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|-----|--|
| | 1.5 | 得る | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 彼は彼女の「頑張ってね」という一言に力を得た。 |
| えんじる | 1.1 | 演じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は主役を演じている |
| | 1.2 | 演じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は醜態を演じた。 |
| おう | 1.1 | 追う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は必死で先頭を追った。 |
| | 1.2 | 追う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女ははかない夢を追う。 |
| | 1.3 | 追う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は牛を追った。 |
| | 1.4 | 追う | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は目で彼女の後ろ姿を追った。 |
| | 1.5 | 追う | (N 1 ガ) N 2 ヲ 会は回を追うごとに盛大になってくる。 |
| | 1.6 | 逐う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 野党の指導者は大統領に国を追われた。 |
| | 1.7 | 追う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は仕事に追われている。 |
| おう | 2.1 | 負う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が荷物を負った。 |
| | 2.2 | 負う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は頭部に重傷を負った。 |
| | 2.3 | 負う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は心に重荷を負っている。 |
| | 2.4 | 負う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼の成功はその半ば以上を彼の兄に負っている。 |
| おうじる | 1.1 | 応じる | N 1 ガ N 2 ニ 会社は需要に応じて増産に踏み切った。 |
| | 1.2 | 応じる | N 1 ガ N 2 ニ 大臣が質問に応じた。 |
| | 1.3 | 応じる | N 1 ニ 学校は個性に応じて生徒の進路を考える。 |
| おえる | 1.2 | 終える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は学期末の試験を終えた。 |
| おおう | 1.1 | 覆う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 母がテーブルを白い布で覆う。 |
| | 1.2 | 覆う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼女は目の前で起きた事故に目を覆った。 |
| | 1.3 | 覆う | N 1 ガ N 2 ヲ 雪が富士山を覆った。 |
| | 1.4 | 覆う | N 1 ガ N 2 ヲ 事実を覆っておく事はできない。 |
| おかす | 1.1 | 犯す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は禁を犯した。 |
| | 1.2 | 犯す | N 1 ガ N 2 ヲ その男は罪を犯した。 |
| | 1.3 | 犯す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女を犯した。 |
| | 1.4 | 冒す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は自己矛盾を冒している。 |
| | 1.5 | 冒す | N 1 ガ N 2 ヲ その発言は神の名を冒すものだ。 |
| | 1.6 | 冒す | N 1 ガ N 2 ヲ 船は風雨を冒して出航した。 |
| | 1.7 | 冒す | N 1 ガ N 2 ヲ 癌が既に彼を冒していた。 |
| | 1.8 | 侵す | N 1 ガ N 2 ヲ A国はB国の領土を侵した。 |
| | 1.9 | 侵す | N 1 ガ N 2 ヲ 新案は彼等の権限を侵すものだ。 |
| おぎなう | 1.1 | 補う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は分かりやすくするために言葉を補った。 |
| | 1.2 | 補う | N 1 ガ N 2 ヲ 外人選手の採用がチームの短所を補っている。 |
| | 1.3 | 補う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 老夫婦は家計の不足を内職で補った。 |
| おきる | 1.1 | 起きる | N 1 ガ 麦の種が起きる。 |
| | 1.2 | 起きる | N 1 ガ 彼は六時に起きた。 |
| | 1.3 | 起きる | N 1 ニ N 2 ガ イランに革命がおきた。 |
| おく | 1.1 | 置く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は本を棚の上に置いた。 |
| | 1.2 | 置く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼らは組合に書記を置いた。 |
| | 1.3 | 置く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 社長は彼を自分の支配下に置いた。 |
| | 1.4 | 置く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 会長は直属の部下を役員に置いた。 |
| | 1.5 | 置く | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 政府は地元住民との話し合いに冷却期間を置いた。 |
| | 1.6 | 置く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は特に環境汚染に力点を置いた。 |
| | 1.7 | 置く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 政府は国際情勢の厳しさを念頭において外交を進めた。 |
| | 1.8 | 措く | N 1 ヲ 彼を措いてほかに適任者はいない。 |
| | 1.9 | 置く | N 1 ガ (N 2 ニ) 葉末に白露が置いた。 |
| おくる | 1.1 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は玄関で来客を送った。 |
| | 1.2 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ / ヘ 彼は彼女を車で自宅に送った。 |
| | 1.3 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は海外で夏休みを送った。 |
| | 1.4 | 送る | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ヲ 先生がその漢字に正しい送り仮名を送った。 |
| | 1.5 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 カラ) N 5 ニ / ヘ 彼は荷物を宅急便で故郷から自分の下宿先に送った。 |
| | 1.6 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ 彼は大量の洗濯物を宅急便で妻に送った。 |
| | 1.7 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ / ヘ 政府は調査団を被災地に送った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|---|
| | 1.8 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 秀吉は使者を家康に送った。 |
| | 1.9 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 カラ N 5 ニ / ヘ 駐在員が報告書をテレックスで現地から本国へ送った。 |
| | 1.10 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ / ヘ 軍司令部は指令を無線で前線部隊に送った。 |
| | 1.11 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 労働組合は代表者を審議会に送った。 |
| | 1.12 | 送る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は友人に声援を送った。 |
| | 1.13 | 贈る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 政府は彼の功績に国民栄誉賞を贈った。 |
| | 1.14 | 歩く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女にプレゼントを贈った。 |
| | 1.15 | 送る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼はバケツを次の人に送った。 |
| おくれる | 1.1 | 遅れる | N 1 ガ N 2 開花が二三日遅れる |
| | 1.2 | 遅れる | N 1 ガ N 2 この時計は1日3分遅れる。 |
| | 1.3 | 遅れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼らは学問の進歩に遅れている。 |
| | 1.4 | 遅れる | N 1 ガ N 2 ヨリ (N 3) 彼はトップより5メートル遅れている。 |
| | 1.5 | 遅れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼は発育が遅れている。 |
| おこす | 1.1 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が転んだ彼女を起こした。 |
| | 1.2 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は身を起こした。 |
| | 1.3 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 母親は寝ていた子供を起こした。 |
| | 1.4 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が畑を起こしている。 |
| | 1.5 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 友人が会社を東京に起こす。 |
| | 1.6 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は腹痛を起こした。 |
| | 1.7 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ 浅間山が爆発を起こした。 |
| | 1.8 | 起す | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 群集はパニックを起こした。 |
| | 1.9 | 起す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) 彼が文章を起こした。 |
| おこたる | 1.1 | 怠る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は多忙で論文の提出を怠っている。 |
| | 1.2 | 怠る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は見通しの甘さから対策を怠った。 |
| おこなう | 1.1 | 行う | N 1 ガ N 2 ヲ 委員会は4時から会議を行います。 |
| おこる | 1.1 | 起る | N 1 ニ N 2 ガ 関東地方に地震が起こった。 |
| | 1.2 | 起る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 彼にめまいが起こった。 |
| | 1.3 | 起る | N 1 ガ N 2 カラ 戦争は誤解から起こる。 |
| | 1.4 | 起る | N 1 ニ N 2 ガ その国に革命が起こった。 |
| | 1.5 | 起る | N 1 ニ N 2 ガ 会場にどよめきが起こった。 |
| おこる | 2.1 | 怒る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はささいな事で弟を怒った。 |
| | 2.2 | 怒る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ 野党は食糧問題で政府の処置に怒った。 |
| おさえる | 1.1 | 押える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は左手で紙を押えた。 |
| | 1.2 | 押える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はハンカチで目を押えた。 |
| | 1.3 | 抑える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は怒りを抑えた。 |
| | 1.4 | 押える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友達の弱点を押えている。 |
| | 1.5 | 押える | N 1 ガ N 2 ヲ 警官隊が暴徒を抑えた。 |
| | 1.6 | 押える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ ピッチャーはヒット6本に抑えた。 |
| | 1.7 | 抑える | N 1 ガ N 2 ヲ 警察は容疑者の身柄を押えた。 |
| | 1.8 | 抑える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はライバルを押えて優勝した。 |
| | 1.9 | 押える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は会議場を押えた。 |
| おさまる | 1.1 | 治まる | N 1 ガ 世の中が治まった。 |
| | 1.2 | 収まる | N 1 ガ N 2 ニ 家具が家に収まった。 |
| | 1.3 | 収まる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は海外出張から戻って元の職場に収まった。 |
| | 1.4 | 収まる | N 1 ガ N 2 ニ この壺は床の間にうまく収まった。 |
| | 1.5 | 収まる | N 1 ガ 怒りが収まった。 |
| | 1.6 | 納まる | N 1 ガ N 2 ニ 注文の品が店に納まった。 |
| | 1.7 | 収まる | N 1 ガ N 2 ニ その論文の要旨は200字以内に収まっている。 |
| おさめる | 1.1 | 治める | N 1 ガ N 2 ヲ 将門は関東一円を治めた。 |
| | 1.2 | 修める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は柔術を修めた。 |
| | 1.3 | 納める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼女は楽器をケースに収めた。 |
| | 1.4 | 納める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は学校に授業料を納めた。 |
| | 1.5 | 収める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 男は権力を一手に収めた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|---------------------------|---|
| | 1.6 | 収める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ (N 4) 彼は彼女の姿をカメラに収めた。 |
| | 1.7 | 収める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は学校で立派な成績を収めた。 |
| | 1.8 | 収める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ S 先生は論文を規定枚数以内に収めた。 |
| おしえる | 1.1 | 教える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ (N 4 デ) 彼は老人に駅へ行く道を地図で教えた。 |
| | 1.2 | 教える | N 1 ガ N 2 ヲ 先生がたくさんの生徒を教えている。 |
| | 1.3 | 教える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ この労働争議は我々に教訓を教えた。 |
| | 1.4 | 教える | N 1 ガ N 2 ニ S ト 住職は皆に「人はほめ合わねばならん」と教えた。 |
| おしむ | 1.1 | 惜しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 評論家は天逝した詩人の才能を惜しんだ。 |
| | 1.2 | 惜しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼と恋人は別れを惜んでいる。 |
| | 1.3 | 惜しむ | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 政府は交渉妥結に努力を惜しまない。 |
| おす | 1.1 | 押す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 船頭は棹で船を推した。 |
| | 1.2 | 押す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は指で軽くボタンを押した。 |
| | 1.3 | 押す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 子供達は絵葉書に記念スタンプを押した。 |
| | 1.4 | 押す | N 1 ガ N 2 ヲ その試合では味方チームが最初から相手チームを押していた。 |
| | 1.5 | 押す | N 1 ヲ その選手は怪我を押して出場した。 |
| おそう | 1.1 | 襲う | N 1 ガ N 2 ヲ 暴風が船を襲った。 |
| | 1.2 | 襲う | N 1 ガ N 2 ヲ 眠気が突然彼を襲った。 |
| おそれる | 1.1 | 恐れる | N 1 ガ N 2 ヲ 保健所は病気の蔓延を恐れている。 |
| | 1.2 | 恐れる | N 1 ガ N 2 ヲ 子供は闇を怖れる。 |
| | 1.3 | 畏れる | N 1 ガ N 2 ヲ 人は神を畏れている。 |
| おちつく | 1.1 | 落ち着く | N 1 ガ 騒動が落ち着いた。 |
| | 1.2 | 落ち着く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 彼らは新居に落ち着いた。 |
| | 1.3 | 落ち着く | N 1 ガ N 2 ニ / デ 結論は現状維持に落ち着いた。 |
| | 1.4 | 落ち着く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は薬で気分が落ち着いた。 |
| おちる | 1.1 | 落ちる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 物が階上から床に落ちた。 |
| | 1.2 | 落ちる | N 1 ガ (N 2 カラ) 化粧が肌から落ちる。 |
| | 1.3 | 落ちる | N 1 ガ (N 2 カラ) 彼の名前がリストから落ちている。 |
| | 1.4 | 落ちる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 彼の職位が課長から課長補佐に落ちる。 |
| | 1.5 | 落ちる | N 1 ガ 彼の人気はこのところ落ちた。。 |
| | 1.6 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ヲヨリ この商品は見本より落ちる。 |
| | 1.7 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ニ その品物は人手に落ちた。 |
| | 1.8 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ヲ / カラ (N 3 ニ / ヘ) 清盛は一族郎党を連れて都を落ちた。 |
| | 1.9 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ニ 月影が湖面に落ちた。 |
| | 1.10 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はS大学を落ちた。 |
| 1.11 | 落ちる | N 1 ガ N 2 ニ 姉は志望校の試験に落ちた。 | |
| おとす | 1.1 | 落す | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 ニ / ヘ) N 4 ヲ 彼は二階の窓から包みを落とた。 |
| | 1.2 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は鍵をどこかに落としてしまった。 |
| | 1.3 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ) 前の車はスピードを60キロに落とした。 |
| | 1.4 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ その植字工は送りがなを落してしまった。 |
| | 1.5 | 落す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 私の叔父は第二次世界大戦で命を落とした。 |
| | 1.6 | 落す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4) 彼はシンナーでペンキを落とした。 |
| | 1.7 | 落す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ チームはセッターのミスで大事な試合を落としてしまった。 |
| | 1.8 | 落す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 警察は不祥事で信用を落とした |
| | 1.9 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は飲食費を会社の交際費で落とした。 |
| | 1.10 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は膝の上に眼を落とした。 |
| | 1.11 | 落す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 電球がその周りにほの暗い光を落としていた。 |
| | 1.12 | 落す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は参考資料から大事な文献を落としてしまった。 |
| | 1.13 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女をついに落とした。 |
| 1.14 | 落す | N 1 ガ N 2 ヲ 反乱軍が首都を落とした。 | |
| おとる | 1.1 | 劣る | (N 1 ガ) N 2 ニ 漢字は文法に劣らず難しい。 |
| | 1.2 | 劣る | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 ニ / ヲヨリ 日本のカメラは世界のどの国のカメラにも劣らない。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|--|
| おどる | 1.3 | 劣る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ / ヨリ 兄は体力で弟に劣っている。 |
| | 1.1 | 躍る | N 1 ガ 子供達が踊っている。 |
| | 1.2 | 躍る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は喜びで胸が躍っている。 |
| おとろえる | 1.3 | 踊る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼女はトウシューズでバレエを踊った。 |
| | 1.1 | 衰える | N 1 ガ 台風 3 号は日本海で衰えた。 |
| おどろかす | 1.2 | 衰える | N 1 ガ N 2 ガ 彼はめっきり健康が衰えた。 |
| | 1.1 | 驚かす | N 1 ガ N 2 ラ 猫がねずみを驚かした。 |
| おどろく | 1.1 | 驚く | N 1 ガ N 2 ニ 私はそのニュースに驚いた。 |
| おびやかす | 1.1 | 脅かす | N 1 ガ N 2 ラ 核が世界の平和を脅かしている。 |
| おびる | 1.1 | 帯びる | N 1 ガ N 2 ラ 水は電気を帯びる。 |
| | 1.2 | 帯びる | N 1 ガ N 2 ラ 代表が全権を帯びている。 |
| | 1.3 | 帯びる | (N 1 ガ) N 2 ガ N 3 ラ 彼女は顔が丸味を帯びている。 |
| おぼえる | 1.4 | 帯びる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ラ 彼は胸に勲章を帯びている。 |
| | 1.1 | 覚える | N 1 ガ N 2 ラ 学生が英単語を本一冊分覚えた。 |
| | 1.2 | 覚える | N 1 ガ N 2 ラ 見習いコックが仕事のコツを覚えている。 |
| おぼれる | 1.3 | 覚える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 私は彼の意見に共感を覚えた。 |
| | 1.1 | 溺れる | N 1 ガ 幼い子が溺れた。 |
| おもう | 1.2 | 溺れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は酒に溺れた。 |
| | 1.1 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼らはその結果を不満に思った。 |
| おもむく | 1.2 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ 私は毎晩故郷のことを思う。 |
| | 1.3 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ 親というものは子供の事を思うものだ。 |
| | 1.4 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ 親が子を思う気持ちは人間も動物も変わらない。 |
| | 1.5 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ 彼は自分の将来を思った。 |
| | 1.6 | 思う | N 1 ガ ス ト 私はきっとこういうことになるだろうと思っていた。 |
| | 1.7 | 思う | N 1 ガ ス ト 私は近いうちに引越そうと思っています。 |
| | 1.8 | 思う | N 1 ガ ス ト 僕は夏休みにハワイに行きたいと思っている。 |
| | 1.9 | 思う | N 1 ガ ス ト 母は僕が本当に一人で東京へ行けるかと思ったそうです。 |
| | 1.10 | 思う | N 1 ガ ス ト 僕は明日は雨だと思う。 |
| | 1.11 | 思う | N 1 ガ N 2 ラ ス ト 君はあいつを嘘つきだと思うかい。 |
| | およぐ | 1.1 | 赴く |
| 1.2 | | 赴く | N 1 ガ N 2 ニ 病気は快方に赴いた。 |
| およぶ | 1.1 | 泳ぐ | N 1 ガ N 2 ラ 彼がその川を泳いだ |
| | 1.2 | 泳ぐ | N 1 ガ N 2 ラ 彼は巧みに財界を泳いだ。 |
| およぼす | 1.1 | 及ぶ | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ニ 停電が東京都から埼玉県に及んだ。 |
| | 1.2 | 及ぶ | N 1 ガ N 2 ニ 被害は全国に及んだ。 |
| | 1.3 | 及ぶ | (N 1 ガ) N 2 ガ N 3 ニ 彼は実力は彼女には及ばない。 |
| およぼす | 1.1 | 及す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 集中豪雨が全国に影響を及ぼした。 |
| おりる | 1.1 | 下りる | N 1 ガ (N 2 ラ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 鶴が天から地上の池に降りた。 |
| | 1.2 | 下りる | N 1 ガ (N 2 カラ) 幕が天井から下りている。 |
| | 1.3 | 降りる | N 1 ガ N 2 ラ 彼らはバスを降りた。 |
| | 1.4 | 降りる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は主役を降りた。 |
| | 1.5 | 下りる | N 1 ニ N 2 カラ N 3 ガ 老人に厚生省から恩給が降りる。 |
| | 1.6 | 降りる | (N 1 ニ) N 2 ガ 今朝関東地方に霧が降りた。 |
| おる | 1.1 | 折る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼女は千代紙を鶴の形に折った。 |
| | 1.2 | 折る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼は膝を折った。 |
| | 1.3 | 折る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼は交通事故で足の骨を折った。 |
| | 1.4 | 折る | N 1 ガ N 2 ラ 彼は野球のバットを折った。 |
| | 1.5 | 折る | N 1 ガ N 2 ラ 彼は話の腰を折った。 |
| おる | 2.1 | 織る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 女工員が機械で布を織る。 |
| | 2.2 | 織る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 工員が機械で羊毛を織っている。 |
| おれる | 1.1 | 折れる | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 デ) あの花は子供のいたずらで茎が折れてしまった。 |
| | 1.2 | 折れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ マストが落雷で真二つに折れた。 |
| | 1.3 | 折れる | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は道を左に折れた。 |
| | 1.4 | 折れる | N 1 ガ N 2 ニ その門で道は左に折れる。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|---|
| おろす | 1.5 | 折れる | N 1 ガ N 2 ニ 会社側の態度に組合側が折れた。 |
| | 1.1 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ (N 4 ニ / ヘ) 彼は本を棚から床へ下ろした。 |
| | 1.2 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は手を下に下ろした。 |
| | 1.3 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 係が幕を下に下ろした。 |
| | 1.4 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 彼らは彼女を委員から降ろした。 |
| | 1.5 | 下す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 母は仏前から供物を下ろした。 |
| | 1.6 | 卸す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は大根を卸した。 |
| | 1.7 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は子供を下ろした。 |
| | 1.8 | 下す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は新しい靴を下ろした。 |
| | 1.9 | 下す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は郵便局から貯金を下ろす。 |
| | 1.10 | 下す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ (N 4 ニ) 運転手が荷台から荷物を道路に降した。 |
| おわる | 1.1 | 終る | N 1 ガ 一年があつという間に終った。 |
| | 1.2 | 終る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は調べを終わった。 |
| | 1.3 | 終る | N 1 ガ N 2 ニ 計画は失敗に終わった。 |
| かう | 1.1 | 買う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が車を買った。 |
| | 1.2 | 買う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は娘にプレゼントを買った。 |
| | 1.3 | 買う | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ / カラ) N 4 ヲ 彼は愛人問題で妻から恨みを買った。 |
| かえす | 1.4 | 買う | N 1 ガ N 2 ヲ 社長は彼の熱意を買った。 |
| | 1.1 | 反す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は座布団を返した。 |
| | 1.2 | 反す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は掌を返した。 |
| | 1.3 | 返す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は本を棚に返した。 |
| | 1.4 | 返す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女に借金を返した。 |
| | 1.5 | 返す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は友人に挨拶を返した。 |
| | 1.6 | 帰す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 先生は生徒を練習から帰した。 |
| | 1.7 | 孵す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 親鳥は幾日間も暖めて卵を孵した。 |
| かえりみる | 1.1 | 顧る | N 1 ガ N 2 ヲ 母親は後ろに子供を顧た。 |
| | 1.2 | 顧る | N 1 ガ N 2 ヲ 老人は人生を顧た |
| | 1.3 | 顧る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼ははたの迷惑を顧ない。 |
| かえる | 1.1 | 返る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 忘れ物が持ち主に返った。 |
| | 1.2 | 返る | (N 1 カラ) N 2 ガ こだまが返った。 |
| | 1.3 | 返る | N 1 ガ ズボンの裾が返っている。 |
| | 1.4 | 帰る | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 カラ (N 4 ニ / ヘ) 彼は夜道を学校から家へ帰った。 |
| | 1.5 | 帰る | N 1 ガ N 2 カラ 彼は旅行から帰った。 |
| | 1.6 | 孵る | N 1 ガ N 2 カラ 二十日目に卵からひなが孵った。 |
| | 1.7 | 孵る | N 1 ガ かえるの卵が孵った。 |
| | 1.8 | 返る | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は正気に返った。 |
| かえる | 2.1 | 代える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は小切手を現金に替えた。 |
| | 2.2 | 代える | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 彼は隣の人と席を代えた。 |
| | 2.3 | 代える | N 1 ガ N 2 ヲ 姉と妹はお互いの服を換えた。 |
| | 2.4 | 代える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が水槽の水を換えた。 |
| | 2.5 | 代える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 大学はレポート提出を試験に代えた。 |
| | 2.6 | 変える | N 1 ガ N 2 ヲ 父は仕事を変えた。 |
| | 2.7 | 変える | N 1 ガ N 2 ヲ それを聞いたとたん彼女は顔色を変えた。 |
| | 2.8 | 変える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 魔術師はハンカチを鳩に変えた。 |
| | 2.9 | 変える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 暖かな太陽が氷を水に変えた。 |
| | 2.10 | 変える | N 1 ガ N 2 ヲ その出会いが彼の人生観を変えた。 |
| かおる | 1.1 | 薫る | N 1 ガ バラの花が薫っている。 |
| | 1.2 | 薫る | N 1 ガ (N 2 デ) 百草園は梅の香で薫っていた。 |
| かかえる | 1.1 | 抱える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は風呂敷包みを小脇に抱えた。 |
| | 1.2 | 抱える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は負債を1億円抱えている。 |
| | 1.3 | 抱える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は病人を抱えている。 |
| | 1.4 | 抱える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 社長は3人目の運転手を抱えた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-------------------------------------|--|
| かかげる | 1.1 | 掲げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 旗手が旗をポールに掲げた。 |
| | 1.2 | 掲げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ その新聞はエネルギー問題を一面に掲げた。 |
| | 1.3 | 掲げる | N 1 ガ N 2 ヲ 某党が公約を掲げた。 |
| | 1.4 | 掲げる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 某党は公約に物価安定を掲げた。 |
| かがやく | 1.1 | 輝く | N 1 ガ 太陽がキラキラ輝いている。 |
| | 1.2 | 輝く | N 1 ガ N 2 ニ 朝日が湖面に輝いている。 |
| | 1.3 | 輝く | N 1 ガ N 2 ニ 草の露が月の光に輝いている。 |
| | 1.4 | 輝く | N 1 ガ (N 2 ニ) 少年の顔は祝福の喜びに輝いていた。 |
| | 1.5 | 輝く | N 1 ガ N 2 ニ チームは連続優勝に輝いた。 |
| かかる | 1.1 | 架かる | (N 1 ニ) N 2 ガ 雨上りの空に虹が掛かった。 |
| | 1.2 | 掛る | (N 1 ニ) N 2 ガ 山頂にもやが掛かっていた。 |
| | 1.3 | 架かる | N 1 ニ N 2 ガ 大井川によろやく鉄橋が架かった。 |
| | 1.4 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ 壁に絵が掛かっている。 |
| | 1.5 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ テーブルにテーブルクロスが掛かっている。 |
| | 1.6 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ この箱にはきれいなリボンが掛かっている。 |
| | 1.7 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ ストープにやかんが掛かっていた。 |
| | 1.8 | 罹る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は肺炎に罹っている。 |
| | 1.9 | 掛る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 彼は歯医者に掛かっている。 |
| | 1.10 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 1羽のうさぎがわなに掛かった。 |
| | 1.11 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は計略に掛かった。 |
| | 1.12 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ 銃の引き金に指が掛かった。 |
| | 1.13 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ その案件が会議に掛かった。 |
| | 1.14 | 係る | N 1 ニ 本件に係る一切のことを弁護士に委ねる。 |
| | 1.15 | 懸る | N 1 ニ N 2 ガ (N 3) この試合には優勝が掛かっている。 |
| | 1.16 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ 彼の足に波のしぶきが掛かった。 |
| | 1.17 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ スパゲティに粉チーズが掛かっている。 |
| | 1.18 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ 彼にも容疑が掛かった。 |
| | 1.19 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は催眠術に掛かった。 |
| | 1.20 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 探検家の船がアマゾン川上流に掛かった。 |
| | 1.21 | 掛る | N 1 ガ 車のエンジンが掛からない。 |
| | 1.22 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ このズボンはアイロンが掛かっている。 |
| | 1.23 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ この調査には時間と金が掛かる。 |
| | 1.24 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は仕事に掛かった。 |
| | 1.25 | 掛る | N 1 ニ (N 2 カラ) N 3 ガ 彼の計画には上司からストップが掛かった。 |
| | 1.26 | 掛る | N 1 ニ N 2 ガ 彼の左腕に重みが掛かっている。 |
| | 1.27 | 掛る | N 1 ガ あの喫茶店ではいつもショパンが掛かっている。 |
| 1.28 | 係かる | N 1 ガ N 2 ニ 関係代名詞 which は直前の名詞に係かる。 | |
| 1.29 | 掛る | N 1 ガ N 2 ニ 試合が後半に掛かった。 | |
| かかわる | 1.1 | 拘る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は事件に関わっていた。 |
| | 1.2 | 拘る | N 1 ガ N 2 ニ この傷は命に拘わる。 |
| | 1.3 | 拘る | N 1 ガ N 2 ニ / ト 子供が悪い友人に関わっている。 |
| かぎる | 1.1 | 限る | N 1 ガ N 2 ヲ 山の稜線が空を限っている。 |
| | 1.2 | 限る | N 1 ガ N 2 ニ 夏は海水浴に限る。 |
| | 1.3 | 限る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 主催者は入場者を成人に限った。 |
| かく | 1.1 | 書く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ (N 4 デ) 新任の先生は黒板に自分の名前を平仮名で書いた。 |
| | 1.2 | 書く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ N 4 ヲ 彼はアメリカから恩師に礼状を書いた。 |
| かく | 2.1 | 欠く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は常識を欠いている。 |
| かく | 3.1 | 掻く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は頭を掻いた。 |
| | 3.2 | 掻く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼が熊手で落葉を掻いた。 |
| | 3.3 | 掻く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が氷を掻いている。 |
| | 3.4 | 掻く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ あひるは水かきで水を掻いている。 |
| | 3.5 | 掻く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は汗を掻いた。 |
| | 3.6 | 掻く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が恥を掻いた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|--|---|
| かぐ | 1.1 | 嗅ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はバラの香を嗅いだ。 |
| かくす | 1.1 | 隠す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は顔を本で隠した。 |
| | 1.2 | 隠す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) その男の子はズボンの汚れを鞆で隠した。 |
| | 1.3 | 隠す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 母はおやつを戸棚に隠した。 |
| | 1.4 | 隠す | N 1 ガ N 2 ヲ 額が壁の汚れを隠している。 |
| | 1.5 | 隠す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 医師は本人に病状を隠している。 |
| かくれる | 1.1 | 隠れる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 彼は押入の中に隠れた。 |
| | 1.2 | 隠れる | N 1 ガ N 2 デ 汚れが額で隠れた。 |
| | 1.3 | 隠れる | N 1 ガ N 2 ニ 月が雲間に隠れた。 |
| | 1.4 | 隠れる | (N 1 ニ) N 2 ガ そこには重要な問題が隠れている。 |
| かける | 1.1 | 欠ける | N 1 ガ コーヒーカップの縁が欠けている。 |
| | 1.2 | 欠ける | N 1 ガ N 2 ニ 彼の主張は一貫性に欠けている。 |
| | 1.3 | 欠ける | N 1 ガ N 2 ティーカップと皿のセットが一客欠けている。 |
| かける | 2.1 | 賭ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼等はマージャンに金を賭けた。 |
| | 2.2 | 賭ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は社の再建に命を賭けた。 |
| かける | 3.1 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は壁に自分のデッサンを掛けた。 |
| | 3.2 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女はやかんを火に掛けた。 |
| | 3.3 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は花に水を掛けた。 |
| | 3.4 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は窓に鍵を掛けた。 |
| | 3.5 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は食卓にテーブルクロスを掛けた。 |
| | 3.6 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は毎日廊下に雑巾を掛けている。 |
| | 3.7 | 掛ける | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼女はプレゼントにリボンを掛けた。 |
| | 3.8 | 掛ける | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼女は首に真珠のネックレスを掛けている。 |
| | 3.9 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ヲ あの喫茶店はモダンジャズを掛けている。 |
| | 3.10 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は椅子に腰を掛けている。 |
| | 3.11 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 豊臣軍は城に火を掛けた。 |
| | 3.12 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼らは砂をふるいに掛けた。 |
| | 3.13 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は娘を医者に掛けた。 |
| | 3.14 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 委員会がその問題を会議に掛けた。 |
| | 3.15 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4) 彼は車に保険を一億円掛けている。 |
| 3.16 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女に声を掛けた。 | |
| 3.17 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 師匠が弟子の一人に目を掛けている。 | |
| 3.18 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は娘に期待を掛けている。 | |
| 3.19 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はいつも妻に心配を掛けている。 | |
| 3.20 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 医者は患者に麻酔を掛けた。 | |
| 3.21 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 獺師はうさぎをわなに掛けた。 | |
| 3.22 | 懸ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼らは老人をべてんに掛けた。 | |
| 3.23 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は復習に時間を掛けた。 | |
| 3.24 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 会社は新製品開発に5年掛けた。 | |
| 3.25 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ その歌人は「秋風が立つ」の「秋」に「飽き」を掛けた。 | |
| 3.26 | 掛ける | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ヲ 彼は求めた面積に2を掛けてしまった。 | |
| 3.27 | 架ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 村人は川につり橋を架けた。 | |
| 3.28 | 掛ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 大工が角材にかんなを掛けた。 | |
| 3.29 | 掛ける | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ヲ トマトにじゃがいもを掛けたものをポマトといいます。 | |
| かける | 4.1 | 駆ける | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ヲ) 彼が馬で野を駆けている。 |
| かこむ | 1.1 | 囲む | N 1 ガ N 2 ヲ 一同がテーブルを囲んだ。 |
| | 1.2 | 囲む | N 1 ガ N 2 ヲ 深い堀が城を囲んでいる。 |
| かさなる | 1.1 | 重なる | N 1 ガ (N 2 ニ) 書類が机の上に何重も重なっている。 |
| | 1.2 | 重なる | (N 1 ガ) N 2 ガ (N 3 ニ / ト) 彼女はリサイクルが試験と重なった。 |
| かさねる | 1.1 | 重ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の本は版を重ねた。 |
| | 1.2 | 重なる | N 1 ガ (N 2 ニ / ト) N 3 ヲ 彼女は小皿を大皿に重ねた。 |
| | 1.3 | 重ねる | N 1 ガ (N 2 ニ / ト) N 3 ヲ 彼らは手に手を重ねて見つめ合った。 |
| かざる | 1.1 | 飾る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は嘘でうわべを飾る。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|---|
| | 1.2 | 飾る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 店員が品物をウィンドウに飾る。 |
| | 1.3 | 飾る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 戦士たちはその勇敢さで祖国の歴史を飾っている。 |
| かじる | 1.1 | 齧る | N 1 ガ N 2 ヲ 鼠が柱を齧った。 |
| | 1.2 | 齧る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はほんの少しフランス語を齧った。 |
| かす | 1.1 | 貸す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4) 銀行は彼に金を 1 0 0 万円貸した。 |
| | 1.2 | 貸す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はその計画に知恵を貸した。 |
| かすむ | 1.1 | 霞む | (N 1 デ) N 2 ガ 霧で空が霞んでいる。 |
| | 1.2 | 翳む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は近頃寄る年波で目が翳む。 |
| | 1.3 | 霞む | N 1 デ N 2 ガ 新人の活躍でベテランが霞んでしまった。 |
| かせぐ | 1.1 | 稼ぐ | N 1 ガ うちの嫁はよく稼ぐ。 |
| | 1.2 | 稼ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はアルバイトで学費を稼いだ。 |
| | 1.3 | 稼ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 彼はアルバイトで 1 0 万円稼いだ。 |
| | 1.4 | 稼ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4) 彼はアルバイトでこづかい銭を 3 万円稼いだ。 |
| かぞえる | 1.1 | 数える | N 1 ガ N 2 ヲ 引率者が人数を数えた。 |
| | 1.2 | 数える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 世間は彼を五大名の一人に数えている。 |
| かたづける | 1.1 | 片付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 子供がおもちゃ箱の中を片付けた。 |
| | 1.2 | 片付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 父親が子供の宿題を片付けた。 |
| | 1.3 | 片付ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 秘書は書類を金庫に片付けた。 |
| | 1.4 | 嫁ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は娘を嫁けた。 |
| かたまる | 1.1 | 固まる | N 1 ガ (N 2 デ) 油が寒さで固まっている。 |
| | 1.2 | 固まる | N 1 ガ 構想が固まる。 |
| | 1.3 | 固まる | N 1 ガ N 2 ニ 子供達が一ヶ所に固まっている。 |
| かたむく | 1.1 | 傾く | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ) 旅客機が乱気流で大きく右に傾いた。 |
| | 1.2 | 傾く | N 1 ガ (N 2 デ) 家運が傾いている。 |
| | 1.3 | 傾く | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 ニ 僕の考えは賛成に傾いている。 |
| かたむける | 1.1 | 傾ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 船が船体を左に傾けた。 |
| | 1.2 | 傾ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼はコップを傾けた。 |
| | 1.3 | 傾ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 道楽息子が放蕩で家を傾けた。 |
| | 1.4 | 傾ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は仕事に全力を傾けた。 |
| かためる | 1.1 | 固める | N 1 ガ N 2 ヲ S ト 皆が彼のことを立派な人だと言う。 |
| | 1.2 | 固める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は荷物を一ヶ所に固めた。 |
| | 1.3 | 固める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは結束を固めた。 |
| | 1.4 | 固める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は会社を一族で固めた。 |
| かたよる | 1.1 | 偏る | (N 1 ガ) N 2 ガ 肥満児は栄養が偏っている。 |
| | 1.2 | 偏る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 飛行機の航路が北に偏った。 |
| | 1.3 | 偏る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の思想は右に偏っている。 |
| かたる | 1.1 | 語る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ N 4 浪曲師が顧客に浪曲を一席語った。 |
| | 1.2 | 語る | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ) (S ト) N 4 ヲ 首相はテレビで国民に必ず減税を行なうと決意の種を語った。 |
| かつ | 1.1 | 勝つ | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) (N 4 デ) (N 5) 城東高校が城南高校に 3 対 0 で勝った。 |
| | 1.2 | 勝つ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ チャンピオンは判定で試合に勝った。 |
| | 1.3 | 勝つ | N 1 ガ N 2 ニ 患者は病に勝った。 |
| | 1.4 | 勝つ | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ガ この紫は青より赤が勝っている。 |
| かなう | 1.1 | 叶う | (N 1 ガ) N 2 ガ 彼は希望が叶った。 |
| | 1.2 | 敵う | N 1 ガ N 2 ニ 太郎は次郎の体力に敵わない。 |
| | 1.3 | 適う | N 1 ガ N 2 ニ 彼の挨拶は時宜に適っている |
| かなしむ | 1.1 | 悲しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 失業者が身の不幸を悲しんだ。 |
| かねる | 1.1 | 兼ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 台所が食堂を兼ねている。 |
| かばう | 1.1 | 庇う | N 1 ガ N 2 ヲ 台所が弟を庇った。 |
| かぶる | 1.1 | 被る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼女は新しい帽子を被った。 |
| | 1.2 | 被る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / カラ) 彼は布団を頭からすっぽり被った。 |
| | 1.3 | 被る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) 彼は火の粉を頭から被った。 |
| | 1.4 | 被る | N 1 ガ N 2 ヲ 弟が兄の罪を被った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-------|--|
| かまう | 1.1 | 構う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は妻に構わない。 |
| | 1.2 | 構う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は妻を構わない。 |
| | 1.3 | 構う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は暇があると隣の犬を構う。 |
| かまえる | 1.1 | 構える | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は郊外に居を構えた。 |
| | 1.2 | 構える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はカメラを構えた。 |
| | 1.3 | 構える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らはストを構えた。 |
| | 1.4 | 構える | N 1 ガ 彼らは横柄に構えている。 |
| かむ | 1.1 | 噛む | N 1 ガ 歯車がうまく噛んだ。 |
| | 1.2 | 噛む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は食べ物をよく噛まない。 |
| | 1.3 | 噛む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は唇を噛んだ。 |
| | 1.4 | 噛む | N 1 ガ N 2 ヲ ライオンがレポーターを噛んだ。 |
| かよう | 1.1 | 通う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ / ヘ 社長はバイクで会社に通う。 |
| | 1.2 | 通う | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 直行便がソウルへ毎日通っている。 |
| | 1.3 | 通う | (N 1 ガ) N 2 ガ 二人は心が通っている。 |
| | 1.4 | 通う | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 太郎は愛犬と心が通っている。 |
| | 1.5 | 通う | N 1 ガ (N 2 ニ) 赤い血が血管に通っている。 |
| からむ | 1.1 | 絡む | N 1 ガ N 2 ニ 彼は人によく絡む。 |
| | 1.2 | 絡む | N 1 ガ N 2 ニ 朝顔が庭の竹垣に絡んでいる。 |
| | 1.3 | 絡む | N 1 ガ N 2 ニ 子供の将来が離婚の調停に絡んでいる。 |
| かりる | 1.1 | 借りる | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ (N 4) 彼は銀行から金を 1 0 0 万円借りた。 |
| | 1.2 | 借りる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 我々はこの計画には彼の助けを借りた。 |
| | 1.3 | 借りる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 神は動物に姿を借りて人間の前に現れる。 |
| かる | 1.1 | 刈る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 床屋はバリカンで彼の髪を刈った。 |
| | 1.2 | 刈る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 父は電動芝刈機で芝生を刈った。 |
| かれる | 1.1 | 枯れる | N 1 ガ 庭の樹木は枯れた。 |
| | 1.2 | 枯れる | N 1 ガ 彼の芸は枯れてきた。 |
| | 1.3 | 涸れる | N 1 ガ (N 2 ガ) この川は水が涸れている。 |
| | 1.4 | 涸れる | N 1 ガ N 2 ガ その作家はすっかり創作力が涸れてしまった。 |
| | 1.5 | 噎れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は声が噎れている。 |
| かわいがる | 1.1 | かわいがる | N 1 ガ N 2 ヲ 娘は小犬をかわいがっている。 |
| かわかす | 1.1 | 乾かす | N 1 ガ (N 2 で) N 3 ヲ 彼女はストーブでぬれた服を乾かした。 |
| かわく | 1.1 | 乾く | N 1 ガ 洗濯物が乾いた。 |
| | 1.2 | 渴く | (N 1 ガ) N 2 ガ 私は喉が渴いた。 |
| | 1.3 | 渴く | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は音楽に渴いている。 |
| かわる | 1.1 | 代る | N 1 ガ N 2 ニ 課長が部長に代って挨拶した。 |
| | 1.2 | 代る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 社長が後藤氏から吉田氏に代わった。 |
| | 1.3 | 代る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はよく仕事を代わる。 |
| | 1.4 | 代る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 彼は彼女と日直を代わった。 |
| かわる | 2.1 | 変る | N 1 ガ 流行はすぐに変わる。 |
| | 2.2 | 変る | (N 1 ガ) N 2 ガ 最近の若者は生活様式が変わってきた。 |
| | 2.3 | 変る | (N 1 ガ) N 2 ガ 彼の会社は定休日が変わった。 |
| | 2.4 | 変る | N 1 ガ (N 2 ガ) あの人は言う事が変わっている。 |
| | 2.5 | 変る | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ガ 彼の言葉で店員は態度が変わった。 |
| | 2.6 | 変る | N 1 ガ N 2 ニ 夜になるとみぞれは雪に変わった。 |
| | 2.7 | 変る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ 電力が火力から原子力に変わった。 |
| かんがえる | 1.1 | 考える | N 1 ガ N 2 ヲ 私は一晩中その問題を考えていた。 |
| | 1.2 | 考える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は他人の気持ちを考えない。 |
| | 1.3 | 考える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はもっと良い方法を考えた。 |
| | 1.4 | 考える | N 1 ガ 我々は友人を選ぶにはよほど考えなければならない。 |
| | 1.5 | 考える | N 1 ガ スト 私は将来は先生になろうと考えています。 |
| | 1.6 | 考える | N 1 ガ スト 私はまさかこんな事になろうとは考えてもみなかった。 |
| | 1.7 | 考える | N 1 ガ スト 私は彼は立派な人だと考えています。 |
| | 1.8 | 考える | N 1 ガ N 2 ヲ スト 私は彼を正直者だと考えています。 |
| | 1.9 | 考える | N 1 ガ スト 僕はどこかに間違いがあるのではないかと考えた。 |
| かんじる | 1.2 | 感じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は空腹を感じた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|-------|------|----------------------------|--|---|
| | 1.2 | 感じる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は腕に焼けるような痛みを感じた。 | |
| | 1.3 | 感じる | N 1 ガ N 2 ヲ 聴衆は講演者の熱意を感じた。 | |
| | 1.4 | 感じる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 教師は生徒に責任を感じた。 | |
| | 1.5 | 感じる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は将来に不安を感じている。 | |
| | 1.6 | 感じる | N 1 ガ N 2 ニ / デ N 3 ヲ 彼は仕事に喜びを感じている。 | |
| | 1.7 | 感じる | N 1 ガ ス ト 彼は親はありがたいものだと感じた。 | |
| | かんする | 1.1 | 関する | (N 1 ガ) N 2 ニ 論文は経済問題に関するものだ |
| がんばる | | 1.1 | 頑張る | N 1 ガ (N 2 ニ) 団員が資金集めに頑張っている。 |
| | | 1.1 | 消える | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 妻の姿が奥へ消えた。 |
| きえる | 1.2 | 消える | N 1 カラ N 2 ガ 彼女から笑顔が消えた。 | |
| | 1.3 | 消える | N 1 ガ 彼の笑顔が消えた。 | |
| | きく | 1.1 | 聞く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はラジオでその事件を聞いた。 |
| 1.2 | | 聞く | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) N ヲ 彼は友人から彼女の婚約を聞いた | |
| 1.3 | | 聞く | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) ス ト 彼女は弟から彼はもう帰国したと聞いた。 | |
| 1.4 | | 聞く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は妻の言う事はなんでも聞く。 | |
| 1.5 | | 聞く | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ (N 4 デ) 彼は友達に宿題の答えを電話で聞いた。 | |
| きく | 1.6 | 聞く | N 1 ガ N 2 ニ ス ト 彼は隣に座った人にお国はどちらですかと聞いた。 | |
| | 2.1 | 利く | (N 1 デ) N 2 ガ 霧で見通しが利かない。 | |
| | 2.2 | 効く | N 1 ガ (N 2 ニ) この薬は腹痛によく効く。 | |
| | 2.3 | 利く | (N 1 ガ) N 2 ガ このスूपは塩が利いている。 | |
| | 2.4 | 利く | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は気が利く。 | |
| | 2.5 | 利く | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は鼻が利く。 | |
| | 2.6 | 利く | N 1 ガ N 2 ガ この靴底は修理が利く。 | |
| | 2.7 | 利く | N 1 ガ / ニ N 2 ガ この治療には保険が利かない。 | |
| | 2.8 | 利く | N 1 ガ N 2 ヲ 病人がやっと口を利いた。 | |
| 2.9 | 利く | N 1 ガ N 2 ガ この車はブレーキが利かない。 | | |
| きこえる | 1.1 | 聞える | (N 1 ニ) N 2 ガ 彼には小川のせせらぎが聞えた。 | |
| | 1.2 | 聞える | N 1 ガ N 2 ニ あの人の冗談は皮肉に聞こえる。 | |
| | 1.3 | 聞える | N 1 ガ N 2 ニ 彼の名声は世に聞こえている。 | |
| | 1.4 | 聞える | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼はその地方の名士として聞こえている。 | |
| きざむ | 1.1 | 刻む | N 1 ガ N 2 ヲ A社の時計は正確に時を刻む。 | |
| | 1.2 | 刻む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はのみだけで仏像を刻んだ。 | |
| | 1.3 | 刻む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は刺身包丁で大根を刻んだ。 | |
| | 1.4 | 刻む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼らはナイフで木に名前を刻んだ | |
| きづく | 1.1 | 築く | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 デ) N 4 ヲ 彼は出入りに椅子でバリケードを築いた。 | |
| | 1.2 | 築く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は不祥事で家名を傷付けた。 | |
| | 1.3 | 築く | N 1 ガ N 2 ヲ 国民の努力が平和を築いた。 | |
| きずつける | 1.1 | 傷付ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は刃物で友だちを傷付けた。 | |
| | 1.2 | 傷付ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は不祥事で家名を傷付けた。 | |
| | 1.3 | 傷付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女の言葉が彼の心を傷付けた。 | |
| きたえる | 1.1 | 鍛える | N 1 ガ N 2 ヲ 刀工が刀を鍛える。 | |
| | 1.2 | 鍛える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 先輩が合宿で後輩たちを鍛えた。 | |
| きづく | 1.1 | 気付く | N 1 ガ N 2 ニ 犬が泥棒に気づいた。 | |
| | きまる | 1.1 | 決る | N 1 ガ (N 2 ニ / ト) 今年度のノーベル文学賞はA氏と決まった。 |
| 1.2 | | 決る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ / ト 4年3組の高橋さんが委員長に決まった。 | |
| 1.3 | | 決る | (N 1 ガ) (ス ト) N 2 ガ 彼は処分が決まった。 | |
| 1.4 | | 決る | N 1 ガ N 2 ガ 彼はノーベル賞受賞が決まった。 | |
| 1.5 | | 決る | (N 1 ガ) (N 2 デ) N 3 ガ 彼は恩師との出会いでその後の人生が決まった。 | |
| | 1.6 | 決る | N 1 ガ (N 2 ニ) スマッシュがコーナーぎりぎりに決まった | |
| | 1.7 | 決る | N 1 ガ N 2 ガ 彼はスーツがびたりと決まっている。 | |
| | 1.8 | 決る | N 1 ガ 祖父のする話はいつも決まっている。 | |
| きめる | 1.3 | 決める | N 1 ガ ス ト (N 2 ヲ) 彼は何が何でもA大学に合格しようと心に決めた。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|------|--|
| | 1.2 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4 ニ / ト) 三年一組はホームルームで当番を一日置きと決めた。 |
| | 1.3 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) S ト (N 3 ヲ) 日本は米国と交渉で自動車輸出は 1 0 0 万台に抑えようと目標を決めた。 |
| | 1.4 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) S ト 娘は生徒達との話し合いで当番は一日置きにしようと決めた。 |
| | 1.5 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ / ト 彼らは投票で A 君を代表に決めた。 |
| | 1.6 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) S ト 委員会は話し合いで委員長は A さんにすると決めた。 |
| | 1.7 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) S ト (N 3 ヲ) 委員会は話し合いでお客を 5 0 0 0 人は集めようと目標を決めた。 |
| | 1.8 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ / ト 審査委員会は決選投票で彼の作品を芥川賞に決めた。 |
| | 1.9 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) S ト 審査会は決選投票で彼の作品の芥川賞にすると決めた。 |
| | 1.10 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ その投手は最後の一球で勝負を決めた。 |
| | 1.11 | 決める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は外角に見事なストレートを決めた。 |
| | 1.12 | 決める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はスカーフをうまく決めている。 |
| | 1.13 | 決める | N 1 ガ S ト 子供達は「父親はいつも帰りが遅い」と決めている。 |
| | 1.14 | 決める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ト 彼女は三時のお茶をミルクティーときめている。 |
| きらう | 1.1 | 嫌う | N 1 ガ N 2 ヲ 太郎は花子を嫌っている。 |
| | 1.2 | 嫌う | N 1 ガ N 2 ヲ 絹は湿気を嫌う。 |
| きらめく | 1.1 | きらめく | N 1 ニ N 2 ガ 額に汗がきらめいている。 |
| きる | 1.1 | 着る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は緑色のセーターを着ている。 |
| | 1.2 | 着る | N 1 ガ N 2 ヲ この人形はきれいな和服を着ている。 |
| きる | 2.1 | 切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 花子はカッターで封筒の口を切った。 |
| | 2.2 | 切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 母はうっかり包丁で指を切ってしまった。 |
| | 2.3 | 切る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 私はあいつと早く縁を切りたい。 |
| | 2.4 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は不意に電話を切った。 |
| | 2.5 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 図書館は本の貸し出し機嫌を二週間と切っている。 |
| | 2.6 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はさっと野菜の水を切った。 |
| | 2.7 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は百メートル競走で十秒を切った。 |
| | 2.8 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 濁流が堤防を切って流れ出した。 |
| | 2.9 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女がトランプを切った。 |
| | 2.10 | 切る | N 1 ガ N 2 ヲ 批判家は彼の新作を切って捨てた。 |
| | 2.11 | 切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 神父は手で十字を切った。 |
| きれる | 1.1 | 切れる | N 1 ガ この先で街並は切れる。 |
| | 1.2 | 切れる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 打球は大きく左に切れた。 |
| | 1.3 | 切れる | N 1 ガ (N 2 デ) 落雷で電線が切れた。 |
| | 1.4 | 切れる | N 1 ガ 暖房が切れた。 |
| | 1.5 | 切れる | N 1 ガ N 2 ト (N 3 デ) N 4 ガ 私はあの会社とは契約切れで縁が切れた。 |
| きんじる | 1.1 | 禁じる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 医者は彼に酒を禁じている。 |
| くう | 1.1 | 食う | N 1 ガ N 2 ヲ 鮫は人を食う。 |
| | 1.2 | 食う | N 1 ガ N 2 デ (N 3 ヲ) 彼は文筆家で飯を食っている。 |
| | 1.3 | 食う | N 1 ガ N 2 ヲ 子役が主役を食ってしまった。 |
| | 1.4 | 食う | N 1 ガ N 2 ヲ 大型冷蔵庫は電気を食う。 |
| | 1.5 | 食う | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 教授が学生に吊し上げを喰った。 |
| くぎる | 1.1 | 区切る | N 1 ガ N 2 ヲ 司会者はひとまず話を区切った。 |
| | 1.2 | 区切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 二人はカーテンで部屋を区切った。 |
| | 1.3 | 区切る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ コンピュータが文を単語に区切る。 |
| くくる | 1.1 | 括る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 木こりは荒縄で薪を括った。 |
| | 1.2 | 括る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ その家の主人は荒縄で強盗を柱に括った。 |
| | 1.3 | 括る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は首を括った。 |
| くぐる | 1.1 | 潜る | N 1 ガ N 2 ヲ 訪問者がバラの垣根を潜った。 |
| | 1.2 | 潜る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は法の網を巧みに潜った。 |
| くさる | 1.1 | 腐る | (N 1 デ) N 2 ガ 暑さで死体が腐りはじめた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|---|
| くずす | 1.2 | 腐る | N 1 ガ 課長は仕事がうまくゆかず腐っている。 |
| | 1.1 | 崩す | N 1 ガ N 2 ヲ 建設会社は丘を崩した。 |
| | 1.2 | 崩す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは列を崩した。 |
| | 1.3 | 崩す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 選手は寒さで体調を崩した。 |
| くずれる | 1.4 | 崩す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は一万円札を千円札に崩した。 |
| | 1.1 | 崩れる | N 1 ガ (N 2 デ) 土手が大雨で崩れた。 |
| | 1.2 | 崩れる | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ガ 選挙の失敗で内閣は基盤が崩れた。 |
| | 1.3 | 崩れる | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ガ 凍傷で彼は手足が崩れた。 |
| くだく | 1.4 | 崩れる | N 1 ガ (N 2 ニ) 一万円札が千円札に崩れた。 |
| | 1.1 | 砕く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はアイスピックで氷を砕いた。 |
| | 1.2 | 砕く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はクロスカウンターで挑戦者の野望を砕いた。 |
| | 1.3 | 砕く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女の一言が彼の夢を砕いた。 |
| くだす | 1.4 | 砕く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は内容を砕いて説明してくれた。 |
| | 1.5 | 砕く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼らは子供の教育に心を砕いた。 |
| | 1.1 | 下す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 判事が被告に判決を下した。 |
| | 1.2 | 下す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はその作品に優れたものだという評価を下した。 |
| くだる | 1.3 | 降す | N 1 ガ N 2 ヲ 織田信長は武田勝頼を下した。 |
| | 1.1 | 下る | N 1 ガ N 2 ヲ 希望者は50人を下らないだろう。 |
| | 1.2 | 下る | N 1 ガ N 2 ニ 西軍が東軍の軍門に下った。 |
| | 1.3 | 下る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ 裁判官から被告に無罪の判決が下った。 |
| くっする | 1.4 | 下る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 登山者が山を下っている。 |
| | 1.1 | 屈する | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は膝を屈した。 |
| | 1.2 | 屈する | N 1 ガ N 2 ニ 反乱軍は戦わずして政府軍に屈した。 |
| | くばる | 1.1 | 配る |
| 1.2 | | 配る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 警察は要所に刑事を配った。 |
| 1.3 | | 配る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はお客の接待に気を配った。 |
| くぼむ | 1.1 | 窪む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は疲労で目が窪んでいる。 |
| | 1.2 | 窪む | (N 1 デ) N 2 ガ 地震で道路が窪んだ。 |
| くみたてる | 1.1 | 組立てる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼がその部品でラジオを組み立てた。 |
| | 1.2 | 組立てる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は部品を車に組み立てた。 |
| | 1.3 | 組立てる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は実話で小説の筋を組み立てた。 |
| くむ | 1.1 | 組む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は足を組んだ。 |
| | 1.2 | 組む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らはいかだを組んだ。 |
| | 1.3 | 組む | N 1 ガ N 2 ヲ 政府は来年度の予算を組んだ。 |
| | 1.4 | 組む | N 1 ガ N 2 ヲ 二人は今度の大会でペアを組む。 |
| | 1.5 | 組む | N 1 ガ N 2 ト 今度の大会で私はあの人とペアを組む。 |
| くむ | 2.1 | 汲む | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) (N 4 デ) N 5 ヲ 彼は井戸から水槽にバケツで水を汲んだ。 |
| | 2.2 | 汲む | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / デ) N 4 ヲ 彼は川からバケツに水を汲んだ。 |
| | 2.3 | 汲む | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / デ) N 4 ヲ 彼は甲板からバケツで海水を汲んだ。 |
| | 2.4 | 汲む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は相手の気持ちを汲んで事務を処理した。 |
| | 2.5 | 汲む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の画風は印象派のの流れを汲んでいる。 |
| くもる | 1.1 | 曇る | N 1 ガ 空が曇っている。 |
| | 1.2 | 曇る | (N 1 デ) N 2 ガ 湯気でガラスが曇った。 |
| | 1.3 | 曇る | N 1 デ N 2 ガ N 3 ガ 涙で彼女は目が曇った |
| | 1.4 | 曇る | N 1 ガ N 2 ニ / デ N 3 ガ 彼女はその知らせで顔が曇った。 |
| くやむ | 1.1 | 悔む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は不勤勉だったことを悔やんでいる。 |
| | 1.2 | 悔む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友の死を悼んだ。 |
| くらす | 1.1 | 暮す | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 デ 彼はわずかな月給で一ヶ月を暮らさなければならない。 |
| | 1.2 | 暮す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は夏休みをぼんやり暮らした。 |
| | 1.3 | 暮す | N 1 ガ N 2 ニ 老人は山奥にひっそりと暮らしている。 |
| くらべる | 1.1 | 比べる | N 1 ガ N 2 ヲ 父は兄と弟の身長を比べた。 |
| | 1.2 | 比べる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼は丁寧な翻訳を原本と比べた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----------------------------|---|
| くりかえす | 1.3 | 比べる | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 僕は君と腕を比べたい。 |
| | 1.1 | 繰返す | N 1 ガ 歴史は繰返す。 |
| | 1.2 | 繰返す | N 1 ガ N 2 ヲ 暴力団は対立抗争を繰返した。 |
| くる | 1.3 | 繰返す | N 1 ガ S ト 首相は「善処します」と繰返した。 |
| | 1.1 | 来る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 毎年たくさんの外国人が世界各地から日本に来る。 |
| | 1.2 | 来る | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 ニ / ヘ) 彼が病院に面会に来た。 |
| | 1.3 | 来る | N 1 カラ N 2 ガ 友達から手紙が来た。 |
| | 1.4 | 来る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 九月になると日本に台風が来る。 |
| | 1.5 | 来る | (N 1 ニ) N 2 ガ 東京に大地震が来るだろうか。 |
| | 1.6 | 来る | N 1 ガ もう約束の時間が来た。 |
| | 1.7 | 来る | N 1 ニ N 2 ガ 村に電気が来た。 |
| | 1.8 | 来る | N 1 ガ N 2 カラ 彼の病気は過労から来ている。 |
| | 1.9 | 来る | N 1 ガ N 2 カラ コンベイトーという言葉はポルトガル語から来ている。 |
| | 1.10 | 来る | N 1 ガ N 2 ニ 交渉は最後の詰めに来ている。 |
| | 1.11 | 来る | N 1 ガ N 2 ガ この機会はもうがたが来ている。 |
| 1.12 | 来る | N 1 ト 野球の話と来ると彼は夢中になって話し出す。 | |
| くるう | 1.1 | 狂う | N 1 ガ 世の中が狂っている。 |
| | 1.2 | 狂う | N 1 ガ N 2 ニ 彼はギャンブルに狂っている。 |
| | 1.3 | 狂う | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ガ 会議で彼は仕事のペースが狂った。 |
| くるしむ | 1.1 | 苦しむ | N 1 ガ N 2 ニ / デ 主婦がアルコール中毒で苦しんでいる。 |
| | 1.2 | 苦しむ | N 1 ガ N 2 ニ 国鉄は財政再建に苦しんでいる。 |
| くれる | 1.1 | くれる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 隣のおばさんが妹にケーキをくれた。 |
| | 1.2 | くれる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼の息子にゲンコツをくれた。 |
| くわえる | 1.1 | 加える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は甘過ぎる料理に塩を加えた。 |
| | 1.2 | 加える | N 1 ガ N 2 ヲ 車はスピードを加えた。 |
| | 1.3 | 加える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 医者が患者に治療を加える。 |
| | 1.4 | 加える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は専門的な部分に説明を加えた。 |
| | 1.5 | 加える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ヲ 生徒は4に3を加えてしまった。 |
| くわだてる | 1.1 | 企てる | N 1 ガ N 2 ヲ 会社は買収を企てた。 |
| くわわる | 1.1 | 加わる | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ガ 床に力が加わる。 |
| | 1.2 | 加わる | (N 1 ニ) N 2 ガ 堅さに強さが加わる。 |
| | 1.3 | 加わる | N 1 ガ N 2 ニ 彼が仲間に加わった。 |
| けす | 1.1 | 消す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼が黒板の字を黒板消しで消した。 |
| | 1.2 | 消す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼女はテーブルからその歌を消した。 |
| | 1.3 | 消す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼がラジオを消した。 |
| | 1.4 | 消す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が邪魔者を消した。 |
| けずる | 1.1 | 削る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はナイフで鉛筆を削った。 |
| | 1.2 | 削る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 政府が福祉予算を削した。 |
| | 1.3 | 削る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼は名簿から妻帯者を削った。 |
| ける | 1.1 | 蹴る | N 1 ガ N 2 ヲ この馬はすぐ人を蹴る。 |
| | 1.2 | 蹴る | N 1 ガ N 2 ヲ 会社は組合の要求を蹴った。 |
| こうじる | 1.1 | 講じる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) A教授は学生に文学を講じている。 |
| | 1.2 | 講じる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 政府は大気汚染に対策を講じた。 |
| こうむる | 1.1 | 被る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 会社は円高で損害を被った。 |
| | 1.2 | 被る | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) N 3 ヲ 彼は隣人から迷惑を被っている。 |
| こえる | 1.1 | 越える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は峠を信州側から越後側へ越えた。 |
| | 1.2 | 超える | N 1 ガ N 2 ヲ 応募者が定員を超えた。 |
| | 1.3 | 超える | N 1 ガ N 2 ヲ 六代目は芸風で五代目を超えた。 |
| | 1.4 | 超える | N 1 ヲ 立場を超えて、意見を述べる。 |
| こえる | 2.1 | 肥える | (N 1 デ) N 2 ガ 新種の肥料で家畜はずいぶん肥えた。 |
| | 2.2 | 肥える | (N 1 デ) N 2 ガ この辺りは土地が肥えている。 |
| | 2.3 | 肥える | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は舌が肥えている。 |
| こおる | 1.1 | 凍る | (N 1 デ) N 2 ガ 寒さで洗濯物が凍ってしまった。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-------|---|
| こぐ | 1.1 | 漕ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 子供がブランコを漕いでいる。 |
| こげる | 1.1 | 焦げる | N 1 ガ (N 2 ニ) パンが真黒に焦げた |
| こころみる | 1.1 | 試みる | N 1 ガ N 2 ヲ 捕虜が脱出を試みた。 |
| こしらえる | 1.1 | 拵える | N 1 ガ N 2 ヲ 母はおにぎりを拵えた。 |
| | 1.2 | 拵える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は言い訳をうまく拵える。 |
| | 1.3 | 拵える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は女を拵えた。 |
| | 1.4 | 拵える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は身なりを拵えている。 |
| こす | 1.1 | 越す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼らは峠をこちらからむこうへ越した。 |
| | 1.2 | 越す | N 1 ガ N 2 ヲ 部屋の広さは 10 畳を越す。 |
| | 1.3 | 越す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは雪の深い冬を越した。 |
| | 1.4 | 越す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 彼は東京から京都に越した。 |
| こする | 1.1 | 擦る | N 1 ガ N 2 ヲ 糊づけしたカラーが首を擦った。 |
| | 1.2 | 擦る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼女はブラシで靴を擦った。 |
| | 1.3 | 擦る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はタオルで体を擦った。 |
| こたえる | 1.1 | 答える | N 1 ガ N 2 ニ (S ト) その子は質問に「知らない」と答えた。 |
| | 1.2 | 答える | N 1 ガ (N 2 ニ) S ト 彼女は友達に「明日行く」と答えた。 |
| | 1.3 | 答える | N 1 ガ N 2 ニ 子供が算数の問題に答える。 |
| | 1.4 | 応える | N 1 ガ N 2 ニ 代表選手は郷土の期待に応えて勝った。 |
| | 1.5 | 応える | N 1 ガ N 2 ニ 息子の死が彼には応えた。 |
| | 1.6 | 堪える | N 1 ガ あんな事をされては誰だって堪えられないだろう。 |
| こだわる | 1.1 | 拘る | N 1 ガ N 2 ニ / デ 彼はつまらない事で拘った。 |
| ことなる | 1.1 | 異なる | N 1 ガ N 2 ト 新聞発表は事実と異なっている。 |
| | 1.2 | 異なる | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 私は彼と意見が異なる。 |
| | 1.3 | 異なる | N 1 ガ ひとりひとり性格が違う。 |
| | 1.4 | 異なる | N 1 ガ N 2 ガ その兄弟は父親が異なっている。 |
| ことわる | 1.1 | 断る | N 1 ガ (N 2 ニ) (S ト) N 3 ヲ 彼は上司に会議への出席を断わった。 |
| | 1.2 | 断る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 解説者は予め視聴者に一部カットして放映する事を断った。 |
| | 1.3 | 断る | N 1 ガ N 2 ニ S ト 彼は彼女に明日は午後から出かける断った。 |
| | 1.4 | 断る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は子供の家庭教師を断った。 |
| このむ | 1.1 | 好む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はアイスクリームを好む。 |
| | 1.2 | 好む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ヲ 彼は日本酒よりウイスキーを好む。 |
| こばむ | 1.1 | 拒む | N 1 ガ N 2 ヲ 軍隊が敵の侵入を拒んだ。 |
| | 1.2 | 拒む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は証言を拒んだ。 |
| こぼれる | 1.1 | 零れる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ) 酒が杯から零れた。 |
| | 1.2 | 零れる | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 ニ / カラ) 彼女はひとりで涙が零れた。 |
| こぼれる | 2.1 | 毀れる | N 1 ガ 鋸の刃が毀れる。 |
| こまる | 1.1 | 困る | N 1 ガ N 2 ニ / デ 友達はいたずら電話に困っている。 |
| | 1.2 | 困る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は返事に困った。 |
| | 1.3 | 困る | N 1 ガ N 2 ニ あの男は金に困っている。 |
| こむ | 1.1 | 混む | N 1 ガ (N 2 デ) 道路が車で込んでいます。 |
| こめる | 1.1 | 込める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は銃に弾丸を込めた。 |
| | 1.2 | 込める | N 1 ガ (N 2 ヲ) 彼が心を込めて作った作品です。 |
| こもる | 1.1 | 籠る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 画家は一日中アトリエに籠っていた。 |
| | 1.2 | 籠る | N 1 ガ N 2 ニ サンマの煙が部屋に籠っている。 |
| | 1.3 | 籠る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の言葉には愛情が籠っている。 |
| こらしめる | 1.1 | 懲らしめる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼はいたずらをした子供を竹刀で懲らしめた。 |
| こりる | 1.1 | 懲りる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は前年の失敗に懲りている。 |
| こる | 1.1 | 凝る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は模型飛行機に凝っている。 |
| | 1.2 | 凝る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 私は勉強のし過ぎで肩が凝った。 |
| | 1.3 | 凝る | N 1 ガ N 2 ガ この絵はタッチが凝っている。 |
| ころがす | 1.1 | 転がす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は槍を倉庫から運搬車の所へ転がした。 |
| | 1.2 | 転がす | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ヲ 力士が土俵に相手を転がした。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|-------|-----|-----|--|--|
| ころがる | 1.1 | 転がる | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) ボールが床の上を足下からドアの向こうへ転がった。 | |
| | 1.2 | 転がる | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) 人に押されて彼は床に転がった。 | |
| ころす | 1.1 | 殺す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 夫が妻を殺した。 | |
| | 1.2 | 殺す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は肺炎で一人息子を殺してしまった。 | |
| | 1.3 | 殺す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は感情を殺して話を続けた。 | |
| | 1.4 | 殺す | N 1 ガ N 2 ヲ 生活の乱れが彼の才能を殺した。 | |
| | 1.5 | 殺す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼女は生姜でサバの臭みを殺した。 | |
| | 1.6 | 殺す | N 1 ガ N 2 ヲ 生姜がサバの臭みを殺した。 | |
| こわす | 1.1 | 壊す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は石で窓ガラスを壊した。 | |
| | 1.2 | 壊す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は時計を壊してしまった。 | |
| | 1.3 | 壊す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は食べ過ぎて胃を壊した。 | |
| | 1.4 | 壊す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は社会の秩序を壊した。 | |
| | 1.5 | 壊す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は一万円を千円札に壊す。 | |
| こわれる | 1.1 | 壊れる | N 1 ガ 机が壊れた。 | |
| | 1.2 | 壊れる | N 1 ガ 時計が壊れた。 | |
| | 1.3 | 壊れる | N 1 ガ 彼の理論体系が壊れた。 | |
| | 1.4 | 壊れる | N 1 ガ 彼女の縁談が壊れた。 | |
| さえぎる | 1.1 | 遮る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 消防士たちは耐熱服で熱を遮った。 | |
| | 1.2 | 遮る | N 1 ガ N 2 ヲ 土砂が川の流れを遮っている。 | |
| | 1.3 | 遮る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は人の話をよく遮る。 | |
| | 1.4 | 遮る | N 1 ガ N 2 ヲ 騒音が話を遮る。 | |
| さえる | 1.1 | 冴える | N 1 ガ 月が冴えている。 | |
| | 1.2 | 冴える | N 1 ガ N 2 ガ 彼は腕が一段と冴えた。 | |
| | 1.3 | 冴える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼はコーヒーで頭が冴えた。 | |
| さかえる | 1.1 | 栄える | N 1 ガ 悪は栄える。 | |
| | さがす | 1.1 | 捜す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は天体望遠鏡で目ざす星座を捜した。 |
| | | 1.2 | 捜す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はライバルのあらを捜した。 |
| | | 1.3 | 捜す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は毎日職を捜した。 |
| さかのぼる | 1.4 | 捜す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はポケットの中を捜した。 | |
| | 1.1 | 遡る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 カラ) (N 5 ニ / ヘ) (N 6) 探検隊は川を丸木舟で下流から上流に 20 km 遡った。 | |
| さからう | 1.2 | 遡る | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) この街の歴史は 500 年前に遡る。 | |
| | 1.1 | 逆らう | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は親に逆らった。 | |
| | 1.2 | 逆らう | N 1 ガ N 2 ニ 船は風に逆らって進んだ。 | |
| さがる | 1.3 | 逆らう | N 1 ガ N 2 ニ 彼は時代に逆らって生きてきた。 | |
| | 1.1 | 下る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) スポンが下に下がった。 | |
| | 1.2 | 下る | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 ニ / ヘ) 彼女が稽古場から下がった。 | |
| | 1.3 | 下る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ) 彼の成績が上位から中位に下がった。 | |
| | 1.4 | 下る | N 1 ガ 時代が下がって 1600 年頃。 | |
| さく | 1.5 | 下る | N 1 ガ (N 2) 円がまた 2 円下がった。 | |
| | 1.1 | 咲く | (N 1 ニ) N 2 ガ 庭にチューリップが咲いている。 | |
| さく | 2.1 | 裂く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼はハンカチを三つに裂いた。 | |
| | 2.2 | 裂く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 被害が大木を二つに裂いてしまった。 | |
| | 2.3 | 裂く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の存在がその夫婦の間を裂いた。 | |
| | 2.4 | 裂く | N 1 ガ N 2 ヲ 母親が娘と婚約者の仲を裂いた。 | |
| | 2.5 | 割く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼は忙しい中から息子の宿題に時間を割いた。 | |
| さぐる | 1.1 | 探る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は会社の秘密を探った。 | |
| | 1.2 | 探る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼が電気のスイッチを探った。 | |
| | 1.3 | 探る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 盲人は杖で道路を探る。 | |
| | 1.4 | 探る | N 1 ガ N 2 ヲ 観光客は晩秋の紅葉を探った。 | |
| さけぶ | 1.1 | 叫ぶ | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は大衆に平和の重要性を叫んだ。 | |
| | 1.2 | 叫ぶ | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ) S ト 彼女はマイクで観衆に「みなさん、どうもありがとう」と叫んだ。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|--------|-----|-----------------------------------|--|
| さける | 1.1 | 避ける | N 1 ガ N 2 ヲ 船はすんでのところで冰山を避けた。 |
| | 1.2 | 避ける | N 1 ガ N 2 ヲ 最近彼女は私を避けている。 |
| | 1.3 | 避ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は危険を避けた。 |
| | 1.4 | 避ける | N 1 ガ N 2 ヲ M氏は疑惑に關しての明言を避けた。 |
| | 1.5 | 避ける | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼女は友人の結婚式には派手な服装を避けた。 |
| | 1.6 | 避ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はラッシュ時を避けた。 |
| さける | 2.1 | 裂ける | N 1 ガ N 2 デ (N 3 ニ) 落雷で木の幹が真二つに裂けた。 |
| さげる | 1.1 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼女は電灯を下に下げた。 |
| | 1.2 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は頭をゆっくり下げた。 |
| | 1.3 | 下げる | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ その猫は首から鈴を下げています。 |
| | 1.4 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 先生は生徒を後方に下げた。 |
| | 1.5 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼女は皿を食卓から下げた。 |
| | 1.6 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 政府は米の価格をキロあたり 5 0 0 円から 4 8 0 円に下げた。 |
| | 1.7 | 下げる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は " Don ' t disturb " の机をドアのところに下げた。 |
| ささえる | 1.1 | 支える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の身体を支えた。 |
| | 1.2 | 支える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女の内職がその一家の生計を支えている。 |
| ささげる | 1.1 | 捧げる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ ファンが歌手に花束を捧げた。 |
| | 1.2 | 捧げる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は恋人に命を捧げた。 |
| ささやく | 1.1 | 囁く | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ 彼は友人に電話で内密の話を囁いた。 |
| さしつかえる | 1.1 | 差支える | N 1 ガ N 2 ニ 夜ふかしは仕事に差し支える |
| さす | 1.1 | 差す | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) 部屋に西日が差している。 |
| | 1.2 | 差す | N 1 ニ N 2 ガ 彼女の頬に赤みが差した。 |
| | 1.3 | 注す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は花器に水を注した。 |
| | 2.1 | 指す | N 1 ガ N 2 ヲ 時計の針が正午を指した。 |
| さす | 2.2 | 指す | N 1 ガ N 2 ヲ 先生が太郎を指してイオウの周期番号を尋ねた。 |
| | 2.3 | 指す | N 1 ガ N 2 ヲ あの言葉は暗に君を指している。 |
| | 2.4 | 指す | N 1 ガ N 2 ヲ 一行は極点を指して進んで行った。 |
| | さす | 3.1 | 刺す |
| 3.2 | | 刺す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 鍼灸師の彼は患者に巧みに鍼を刺した。 |
| 3.3 | | 刺す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ スズメバチが毒針で人を刺した。 |
| 3.4 | | 刺す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は雑巾を刺している。 |
| 3.5 | | 挿す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼が花びんに花を挿した。 |
| 3.6 | | 挿す | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼女は頭にかんざしを挿した。 |
| さずける | 1.1 | 授ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 王は家臣に領地を授けた。 |
| | 1.2 | 授ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 神様はその子に勇気を授けました。 |
| させる | 1.1 | させる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は子供に家事の手伝いをさせている。 |
| さそう | 1.1 | 誘う | N 1 ガ N 2 ヲ 傲慢な態度は反感を誘う。 |
| | 1.2 | 誘う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) ネオンの光が彼を誘う。 |
| | 1.3 | 誘う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は友人を共同研究に誘った。 |
| さだめる | 1.1 | 定める | N 1 ガ N 2 ヲ 地方自治体は自然保護のための条例を定めた。 |
| | 1.2 | 定める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / デ わが国は平和主義を憲法に定めている。 |
| | 1.3 | 定める | N 1 ガ ス ト N 2 ニ / デ わが国は天皇は象徴であると憲法に定めてある。 |
| | 1.4 | 定める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ト) 彼らは住居を世田谷の近辺に定めた。 |
| | 1.5 | 定める | N 1 ガ ス ト N 2 ヲ 協会は「入場者を 2 0 0 0 万人動員する」と目標を定めた。 |
| | 1.6 | 定める | N 1 ガ N 2 ヲ 徳川家康は乱世を定めた。 |
| 1.7 | 定める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼との出会いがその後の彼女の運命を定めた。 | |
| さっする | 1.1 | 察する | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の気持ちを察した。 |
| | 1.2 | 察する | N 1 ガ N 2 ヲ なまずは地震の気配を察する。 |
| さとす | 1.1 | 諭す | N 1 ガ (ス ト) N 2 ヲ 父親が本当の事を言うようにわが子を諭した。 |
| | 1.2 | 諭す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 父親はわが子に不心得を諭した。 |
| | 1.3 | 諭す | N 1 ガ N 2 ヲ 父は息子の心得遣いを諭した。 |
| さとる | 1.1 | 悟る | N 1 ガ N 2 ヲ 僧は人生の無常を悟っている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|--|
| | 1.2 | 悟る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼は人生を無常と悟った。 |
| | 1.3 | 悟る | N 1 ガ S ト 彼は人生は無常だと悟った。 |
| | 1.1 | 捌く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が釣った魚を捌いた。 |
| さばく | 1.2 | 捌く | N 1 ガ N 2 ヲ デパートは夏物衣料を早めに捌いた。 |
| | 1.3 | 捌く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はてきばきと仕事を捌く。 |
| | 1.4 | 捌く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はコピーを取る前に紙を捌いた。 |
| | 1.5 | 裁く | N 1 ガ N 2 ヲ 親が子供のけんかを裁いた。 |
| | 1.1 | 錆びる | N 1 ガ この鉄は錆びている。 |
| さびれる | 1.1 | 寂れる | N 1 ガ 商店街が寂れた。 |
| さます | 1.1 | 醒す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はトマトジュースで酔いを醒ました。 |
| | 1.2 | 覚す | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) N 3 ヲ 病人が風の音で目を覚ました。 |
| | 1.3 | 覚す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 犯人は被害者の言葉で目を覚ました。 |
| | 1.4 | 覚す | N 1 ガ N 2 ヲ 社長の訓示が新入社員の目を覚ました。 |
| | 1.5 | 覚す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 僧は座禅で迷いを覚ました。 |
| さまたげる | 1.1 | 妨げる | N 1 ガ N 2 ヲ 吹雪が我々の前進を妨げた。 |
| | 1.2 | 妨げる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 暴走族が騒音で住民の睡眠を妨げる。 |
| さめる | 1.1 | 覚める | N 1 ガ N 2 ガ 彼は眠気が覚めた。 |
| | 1.2 | 覚める | N 1 ガ N 2 ガ / カラ 彼は夢から覚めた。 |
| | 1.3 | 覚める | N 1 ガ N 2 カラ 彼は眠りから覚めた。 |
| さらす | 1.1 | 晒す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は布を日光に晒した。 |
| | 1.2 | 晒す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 革命政府は王の首を街頭に晒した |
| | 1.3 | 晒す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は自らを銃火に晒した。 |
| | 1.4 | 晒す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は醜態を人前に晒した。 |
| さる | 1.1 | 去る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 彼女は北海道から沖縄へ去った。 |
| | 1.2 | 去る | N 1 ガ N 2 ヲ / カラ 彼はその場を去った。 |
| | 1.3 | 去る | N 1 ガ 苦情が去った。 |
| | 1.4 | 去る | N 1 ガ 夏が去った。 |
| | 1.5 | 去る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は雑念を去るべく仏門に入った。 |
| さわぐ | 1.1 | 騒ぐ | N 1 ガ 台所でねずみが騒いでいる。 |
| | 1.2 | 騒ぐ | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 国民が物価上昇に騒ぐ。 |
| さわる | 1.1 | 触る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ / ヘ 子供が汚い手で私のコートに触った。 |
| | 1.2 | 触る | N 1 ガ N 2 ニ 何か冷たい物が彼女の体に触った。 |
| | 1.3 | 障る | N 1 ガ N 2 ニ 夜ふかしは体に障る。 |
| | 1.4 | 障る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の長期出張が計画の進行に触ると迷惑だ。 |
| | 1.5 | 触る | N 1 ガ N 2 ニ 私は政治的な問題には触りたくない。 |
| しいる | 1.1 | 強いる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 大国は小国に譲歩を強いた。 |
| しいれる | 1.1 | 仕入れる | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 デ) N 4 ヲ 彼は青森県からりんごをトラック便で仕入れた。 |
| | 1.1 | 叱る | N 1 ガ N 2 ヲ (S ト) 先生が生徒を叱った。 |
| しかる | 1.2 | 叱る | N 1 ガ N 2 ヲ 先生が彼の不注意を叱った。 |
| | 1.1 | 敷く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はござを木の下に敷いた。 |
| しく | 1.2 | 敷く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ N 4 ヲ 国鉄が東京から小金井に鉄道を敷いた。 |
| | 1.3 | 布く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 軍事政権が首都に戒厳令を布いた。 |
| | 1.1 | しくじる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は酒で会社をしくじった。 |
| しくじる | 1.2 | しくじる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は数学で試験をしくじった。 |
| | 1.1 | 仕組む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 大工が小川に水軍を仕組んだ。 |
| しくむ | 1.2 | 仕組む | N 1 ガ N 2 ヲ 会計主任が狂言強盗を仕組んだ。 |
| | 1.3 | 仕組む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 作家は事件を劇に仕組んだ。 |
| | 1.1 | 茂る | (N 1 ニ) N 2 ガ 湖畔にアシが茂っている。 |
| しげる | 1.1 | 沈む | N 1 ガ N 2 ニ 船が海底に沈んでいる。 |
| | 1.2 | 沈む | N 1 ガ N 2 ニ 日が西の空に沈んだ。 |
| | 1.3 | 沈む | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼女は物思いに沈んだ。 |
| | 1.4 | 沈む | N 1 ガ N 2 ニ 彼はどん底生活に沈んだ。 |
| したう | 1.1 | 慕う | N 1 ガ N 2 ヲ 子供は母親を慕う。 |
| | 1.2 | 慕う | N 1 ガ N 2 ヲ 修行僧は先進の僧を慕った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|------|-----|-----|--|------------------------------------|
| したがう | 1.1 | 従う | N 1 ガ N 2 ニ 生徒達は引率の先生に従った。 | |
| | 1.2 | 従う | N 1 ガ N 2 ニ 弟は兄の命令に従った。 | |
| | 1.3 | 従う | N 1 ニ 人々は川に従って山を下った。 | |
| | 1.4 | 従う | N 1 ガ N 2 ニ 人々は土木事業に従った。 | |
| | 1.5 | 従う | N 1 ニ 成功するに従って仕事に身が入った。 | |
| したしむ | 1.1 | 親しむ | N 1 ガ N 2 ニ / ト 都会の子供達は田舎の自然に親しんだ。 | |
| | しぬ | 1.1 | 死ぬ | N 1 ガ (N 2 デ) 親が死んだ。 |
| | | 1.2 | 死ぬ | N 1 ガ 彼の目は死んでいる。 |
| しのぐ | 1.1 | 死ぬ | N 1 ガ せっかくのアイディアが死んでいる。 | |
| | 1.1 | 凌ぐ | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 弟は学力で兄を凌いでいる。 | |
| | 1.2 | 凌ぐ | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は木の実で飢えを凌いだ。 | |
| しのぶ | 1.1 | 偲ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友の面影を偲んだ。 | |
| | 1.2 | 忍ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は恥を忍んで告白した。 | |
| | 1.3 | 忍ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は人目を忍んで外出した。 | |
| | 1.4 | 忍ぶ | N 1 ニ N 2 ガ 木の茂みに見張りが忍んでいた。 | |
| しはらう | 1.1 | 支払う | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ 会社が社員に現金で給料を支払った。 | |
| | しばる | 1.1 | 縛る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はひもで小包を縛った。 |
| 1.2 | | 縛る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ / ヘ 彼は縄で賊を柱に縛った。 | |
| 1.3 | | 縛る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は仕事に縛られている。 | |
| 1.4 | | 縛る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 学校は生徒を校則で縛った。 | |
| しびれる | 1.1 | 痺れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は寒さで手が痺れた。 | |
| | 1.2 | 痺れる | N 1 ガ N 2 ニ 顧客は舞台の熱演に痺れた。 | |
| しばる | 1.1 | 絞る | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 カラ) N 4 ヲ 今日の酪農家はミルカーで牛乳を搾る。 | |
| | 1.2 | 絞る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼らは議論を要点だけに絞った。 | |
| | 1.3 | 絞る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 教授が集中講義で学生を絞った。 | |
| | 1.4 | 絞る | N 1 ガ N 2 ヲ ミキサーは音量を絞った。 | |
| | 1.5 | 絞る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は無い知恵を絞った。 | |
| しまる | 1.1 | 閉まる | N 1 ガ ずっと窓が閉まっている。 | |
| | 1.2 | 閉まる | N 1 ガ 銀行は3時に閉まる。 | |
| | 1.3 | 締まる | N 1 ガ N 2 ガ 彼はスポーツマンらしく筋肉が締まっている。 | |
| | 1.4 | 締まる | N 1 ガ ねじがきっちりと締まっている。 | |
| | 1.5 | 締まる | N 1 ガ 彼は父親の自覚がでてきたためかだいたい締まってきた。 | |
| | 1.6 | 締まる | N 1 ガ 彼女は結婚して以来だいたい締まったようだ。 | |
| しみる | 1.1 | 染みる | N 1 ガ N 2 ニ レインコートに雨が染みた。 | |
| | 1.2 | 滲みる | N 1 ガ N 2 ニ チョコレートが虫歯に滲みる。 | |
| | 1.3 | 沁みる | N 1 ガ N 2 ニ 麻の冷気が身に沁みる。 | |
| 示す | 1.1 | 示す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は駅員に定期券を示した。 | |
| | 1.2 | 示す | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 新人投手は大器の片鱗を示した。 | |
| | 1.3 | 示す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4 デ) 知事が議会に今年度の基本政策を文書で示す。 | |
| | 1.4 | 示す | N 1 ガ N 2 ヲ この記号は病院を示す。 | |
| | 1.5 | 示す | N 1 ガ N 2 ヲ 事故率の上昇は事態の深刻さを示している。 | |
| しめる | 1.1 | 閉める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は門を閉めた。 | |
| | 1.2 | 締める | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は頭にはちまきを締めた。 | |
| | 1.3 | 締める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女はコルセットで腰を締めている。 | |
| | 1.4 | 締める | N 1 ガ N 2 ヲ 事務は週末に帳簿を締める。 | |
| | 1.5 | 締める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はビンのふたを締めた。 | |
| しめる | 2.1 | 湿る | (N 1 デ) N 2 ガ 潮風で縁側が湿った。 | |
| しめる | 3.1 | 占める | N 1 ガ N 2 ヲ 机が部屋の半分を占めている。 | |
| | 3.2 | 占める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は重要なポストを占めている。 | |
| | 3.3 | 占める | N 1 ガ N 2 ヲ 与党が過半数を占めている。 | |
| | 3.4 | 占める | N 1 ガ N 2 ヲ その男は漁夫の利を占めた。 | |
| じゅくす | 1.1 | 熟す | N 1 ガ 柿が熟した。 | |
| | 1.2 | 熟す | N 1 ガ 機は熟している。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|------|---|
| しょうじる | 1.3 | 熟す | N 1 ガ N 2 ガ あの役者は芸が熟している。 |
| | 1.1 | 生じる | N 1 ニ N 2 ヲ 壁にひびが生じた。 |
| | 1.2 | 生じる | N 1 カラ N 2 ガ 相互不信から争いが生じた。 |
| | 1.3 | 生じる | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ヲ 両国政府は見解に相違を生じた。 |
| | 1.4 | 生じる | N 1 ニ N 2 ガ このやり方に無理が生じた。 |
| しらせる | 1.1 | 知らせる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ 彼は兄に電話で父の病気を知らせた。 |
| しらべる | 1.1 | 調べる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は部屋の中を調べた。 |
| | 1.2 | 調べる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 会社は事故の原因をコンピュータで調べた。 |
| | 1.3 | 調べる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女が琴を調べる。 |
| しりぞく | 1.1 | 退く | N 1 ガ 優勝候補が一回戦で退いた。 |
| | 1.2 | 退く | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 先頭バッターはピッチャーゴロに退いた。 |
| | 1.3 | 退く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 窓際族が定年で職を退いた。 |
| | 1.4 | 退く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ / ヘ 盲導犬が主人の脇へ退いた。 |
| しる | 1.1 | 知る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 僕は夕方のニュースでその大事件を知った。 |
| | 1.2 | 知る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 日本人は虫の声で秋を知る。 |
| | 1.3 | 知る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は己を知っている。 |
| | 1.4 | 知る | N 1 ガ N 2 ヲ 私はあの人を知っている。 |
| | 1.5 | 知る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は恥というものを全く知らない。 |
| しるす | 1.1 | 印す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は新大陸に第一歩を印した。 |
| | 1.2 | 記す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ニ 彼はその場の情景を心に記した。 |
| | 1.3 | 記す | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) (N 3 デ) N 4 ヲ 彼は手帳にペンで予定を記した。 |
| しんじる | 1.1 | 信じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は彼の無実を信じている。 |
| | 1.2 | 信じる | N 1 ガ S ト 彼女は息子は無実だと信じている。 |
| | 1.3 | 信じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は仏教を信じている。 |
| すう | 1.1 | 吸う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は毒ガスを吸った。 |
| | 1.2 | 吸う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はパイプでタバコを吸っている。 |
| | 1.3 | 吸う | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼はおわんから吸い物を音をたてて吸った。 |
| | 1.4 | 吸う | N 1 ガ N 2 ヲ ジェットエンジンが鳩を吸った。 |
| | 1.5 | 吸う | N 1 ガ N 2 ヲ 赤ん坊が指を吸っている。 |
| | 1.6 | 吸う | N 1 ガ N 2 ヲ 雨でグラウンドは水を吸った。 |
| すえる | 1.1 | 据える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は天体望遠鏡を屋上に据えた。 |
| | 1.2 | 据える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ 委員会は選挙で山田氏を会長に据えた。 |
| | 1.3 | 据える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は岩の上に腰を据えた。 |
| | 1.4 | 据える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は背中にお灸を据える。 |
| すかす | 1.1 | 透す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 植木屋は庭木の枝を透した。 |
| | 1.2 | 透す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はガラスを透して部屋を覗いた。 |
| | 1.3 | 透す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は日にお札を透してみた。 |
| | 1.4 | 空かす | N 1 ガ N 2 ヲ 赤ちゃんがおなかを空かしている。 |
| すぎる | 1.1 | 過ぎる | N 1 ガ 台風が過ぎた。 |
| | 1.2 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は十字路を過ぎて西へ進んだ。 |
| | 1.3 | 過ぎる | N 1 ガ (N 2) 約束の日が三日過ぎた。 |
| | 1.4 | 過ぎる | N 1 ヲ N 2 もう約束の時間が30分過ぎている。 |
| | 1.5 | 過ぎる | N 1 ガ 花盛りが過ぎている。 |
| | 1.6 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ヲ 桜が盛りを過ぎた。 |
| | 1.7 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ガ 彼女はいたずらが過ぎる。 |
| | 1.8 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ニ 君の考えは無責任に過ぎる。 |
| | 1.9 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は私の息子には過ぎた嫁だ。 |
| | 1.10 | 過ぎる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は市井の人に過ぎない。 |
| すく | 1.1 | 透く | N 1 ガ 行間が透いている。 |
| | 1.2 | 空く | N 1 ガ (N 2 デ) 新幹線は運賃の値上げで空いていた。 |
| | 1.3 | 空く | (N 1 ガ) N 2 ガ 私はお腹が空いた。 |
| すくう | 1.1 | 救う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 デ) アフリカの子供らを飢餓から救え。 |
| | 1.2 | 救う | N 1 ガ N 2 ヲ 一杯のコーヒーが一触即発の危機を救った。 |
| | 1.3 | 救う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 デ) 登場順物の特異な行動でこの作品を私の小説に墮ちる事から救っている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|------|------|-----|--------------------------------------|----------------------|
| すぐれる | 1.1 | 優れる | N 1 ガ N 2 ガ | 彼女は近頃健康が優れない。 |
| | 1.2 | 優れる | N 1 ガ N 2 ガ | 彼は音感が優れている。 |
| | 1.3 | 優れる | N 1 ガ N 2 ニ | その会社は染色技術に優れている。 |
| すごす | 1.1 | 過す | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は幼児期を外国で過した。 |
| | 1.2 | 過す | N 1 ガ N 2 ラ | 彼はつい酒を過してしまう。 |
| すすむ | 1.1 | 進む | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) | 彼らはその道を西に進んだ。 |
| | 1.2 | 進む | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ | 彼女は中学から高校で進んだ。 |
| | 1.3 | 進む | N 1 ガ (N 2 ラ) | 社会は陥落の過程を進みつつある。 |
| | 1.4 | 進む | N 1 ガ | 日本の文明は進んでいる。 |
| | 1.5 | 進む | N 1 ガ | 二人の仲は進んでいる。 |
| | 1.6 | 進む | N 1 ガ (N 2 ヨリ) (N 3) | 私の時計は彼女の時計より5分進んでいる。 |
| すすめる | 1.1 | 進める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ / ヘ) | 彼は船を沖へ進めた。 |
| | 1.2 | 進める | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ | 彼は娘を大学に進めた。 |
| | 1.3 | 進める | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は権の準備を進めている。 |
| | 1.4 | 進める | N 1 ガ N 2 ラ | 政府は国の産業を進めている。 |
| | 1.5 | 進める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ヨリ) (N 4) | 私は時計を5分進めた。 |
| すすめる | 2.1 | 勧める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 主人は客に酒を勧めた。 |
| | 2.2 | 薦める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 彼は友人にその映画を薦めた。 |
| | 2.3 | 薦める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 社長は部下に自分の姪を薦めた。 |
| | 2.4 | 勧める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 彼は友人に入会を勧めた。 |
| すたれる | 1.1 | 廃れる | (N 1 デ) N 2 ガ | 都市化の波で昔からの風習が廃れた。 |
| すてる | 1.1 | 捨てる | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) | 弟がゴミを箱に捨てた。 |
| | 1.2 | 捨てる | N 1 ガ N 2 ラ | その男は迷いを捨てた。 |
| | 1.3 | 捨てる | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は妻子を捨てた。 |
| すべる | 1.1 | 滑る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) | 連絡船が海の上を滑っていく。 |
| | 1.2 | 滑る | N 1 ガ (N 2 デ) | 雨で車が滑った。 |
| | 1.3 | 滑る | N 1 ガ (N 2 デ) | 彼はバナナの皮で滑った。 |
| | 1.4 | 滑る | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 デ) | 彼は汗で手が滑った。 |
| | 1.5 | 滑る | N 1 ガ | この床はよく滑る。 |
| | 1.6 | 滑る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は入試試験に滑った。 |
| すます | 1.1 | 済す | N 1 ガ N 2 ラ | 彼女は10時に仕事を済ました。 |
| | 1.2 | 済す | N 1 ガ N 2 ラ N 3 デ | 被害者は交通事故を示唆で済ました。 |
| | 1.3 | 済す | N 1 ガ N 2 デ | 彼は昼抜ききで済ました。 |
| すむ | 1.1 | 済む | N 1 ガ N 2 ガ | 彼は試験が済んだ。 |
| | 1.2 | 済む | N 1 ガ N 2 デ | 彼は僅かな罰金で済んだ。 |
| すむ | 2.1 | 住む | N 1 ガ N 2 ニ | 古代人はほら穴や木の上に住んでいた。 |
| すむ | 3.1 | 澄む | N 1 ガ (N 2 ガ) | この笛は音色が澄んでいる。 |
| | 3.2 | 澄む | N 1 ガ N 2 ガ | 彼女は目が澄んでいる。 |
| ずらす | 1.1 | ずらす | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ / ヘ | 彼は机を右にずらした。 |
| | 1.2 | ずらす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3) | 彼は休暇を一週間ずらした。 |
| する | 1.1 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ | 生徒たちは理科の実験をした。 |
| | 1.2 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ | ライオンは大あくびをした。 |
| | 1.3 | 為る | N 1 ガ N 2 ニ / ト N 3 ラ | 彼は彼女とキスをした。 |
| | 1.4 | 為る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ラ | 彼女は夫とけんかをした。 |
| | 1.5 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ | うちの猫とどこかの猫が大げんかをした。 |
| | 1.6 | 為る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ラ | 彼女はエンゲージ・リングをしている。 |
| | 1.7 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は医者をしている。 |
| | 1.8 | 為る | N 1 ガ | 台所でガスの臭いがした。 |
| | 1.9 | 為る | N 1 ガ | 台所でガスの臭いがした。 |
| | 1.10 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ | 彼女は青い目をしている。 |
| | 1.11 | 為る | N 1 ガ (N 2 ガ) | 私は意識が朦朧としている。 |
| | 1.12 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ | 錬金術氏は鉄を金にした。 |
| | 1.13 | 為る | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ | 彼は自分の子供を弁護士にするつもりだ。 |
| | 1.14 | 為る | N 1 ガ N 2 | このダイヤの指輪は100万円した。 |
| | 1.15 | 為る | N 1 ガ N 2 ニ | 僕はうなぎにする。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-----|--|
| する | 2.1 | 擦る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女はすりこぎでごまを擦った。 |
| | 2.2 | 擦る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4) その代議士は賭博で有り金を全部擦ってしまった。 |
| する | 3.1 | 刷る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼が木版で版画を刷った。 |
| | 3.2 | 刷る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 職人が浴衣地に柄を刷る。 |
| すれちがう | 1.1 | 擦違う | N 1 ガ 二人は街で擦れ違った。 |
| | 1.2 | 擦違う | N 1 ガ N 2 ト トンネルで上り電車が下り電車と擦れ違った。 |
| ずれる | 1.1 | ずれる | N 1 ガ N 2 ガ 彼は時代感覚がずれている。 |
| | 1.2 | ずれる | N 1 ガ N 2 カラ / ト 歌が伴奏とずれている。 |
| | 1.3 | ずれる | N 1 ガ (N 2 デ) 振動で積荷がずれてしまった。 |
| | 1.4 | ずれる | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ その教授は助教授と論点がずれている。 |
| すわる | 1.1 | 座る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は椅子に座った。 |
| | 1.2 | 座る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 彼は選挙で副会長の座に座った。 |
| | 1.3 | 据わる | N 1 ガ N 2 ガ 赤ん坊はようやく首が据わった。 |
| せおう | 1.1 | 背負う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 母親が子供を背負った。 |
| | 1.2 | 背負う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は一家を背負って働いている。 |
| せっする | 1.1 | 接する | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は幼い頃から芸術に接している。 |
| | 1.2 | 接する | N 1 ガ N 2 ニ / ト 被害者は犯人と接しているはずだ。 |
| | 1.3 | 接する | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 彼は彼女と顔を接した。 |
| せまる | 1.1 | 迫る | N 1 ガ N 2 ニ 検察側の取調べが事件の核心に迫ってきた。 |
| | 1.2 | 迫る | N 1 ガ N 2 ニ 神戸の辺りは山が海に迫っている。 |
| | 1.3 | 迫る | N 1 ガ (N 2 ニ) 試験が三日後に迫った。 |
| | 1.4 | 迫る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 組合は会社に回答を迫った。 |
| せめる | 1.1 | 攻める | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 カラ) N 4 ヲ 敵の大群が海から城を攻めた。 |
| せめる | 2.1 | 責める | N 1 ガ (S ト) N 2 ヲ 彼はなぜ約束を破ったのかと友人を責めた。 |
| | 2.2 | 責める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の違約を責めた。 |
| | 2.3 | 責める | N 1 ガ (S ト) N 2 ヲ 債権者が会社の責任者を決めた。 |
| | 2.4 | 責める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 債鬼が債務者を毎夜の電話で責めた。 |
| そう | 1.1 | 沿う | N 1 ガ N 2 ニ この道は川に沿っている。 |
| | 1.2 | 沿う | N 1 ガ N 2 ニ 組合は規定の方針に沿ってデモを決行した。 |
| そえる | 1.1 | 添える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は花束に手紙を添えた。 |
| | 1.2 | 添える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ ダイヤのネックレスが彼女の美しさの輝きを添えた。 |
| ぞくする | 1.1 | 属する | N 1 ガ N 2 ニ 鯨は哺乳類に属する。 |
| そこなう | 1.1 | 損う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は暴飲暴食で健康を損なった。 |
| | 1.2 | 損う | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 企業は公害問題でイメージを損なった。 |
| そだつ | 1.1 | 育つ | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ) 息子が一人前に育つ。 |
| | 1.1 | 育つ | N 1 ガ 音楽家が育つ。 |
| そだてる | 1.1 | 育てる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 親は子供を一人前に育てた。 |
| | 1.2 | 育てる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は音楽家を育てた。 |
| | 1.3 | 育てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは伝統芸能を育てた。 |
| そなえる | 1.1 | 備える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は部屋に百科事典を備えている。 |
| | 1.2 | 具える | N 1 ガ N 2 ヲ 社長は威厳を具えている。 |
| | 1.3 | 備える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は試験に備えている。 |
| | 1.4 | 供える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は仏壇に花を供えた。 |
| そなわる | 1.1 | 備る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 研究室には最新式の設備が備わっている。 |
| | 1.2 | 備る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 彼には品の良さが備わっている。 |
| | 1.3 | 備る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼は容貌に気品が備わっている。 |
| そびえる | 1.1 | 聳える | N 1 ガ (N 2 ニ) お城の天守が森の中に聳えている。 |
| そむく | 1.1 | 背く | N 1 ガ N 2 ニ 彼は国王に叛いた。 |
| そめる | 1.1 | 染める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 夕日が山を暮色に染めている。 |
| | 1.2 | 染める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 祖母はその古い羽織を藍色に染めた。 |
| | 1.3 | 染める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は髪を茶色に染めている。 |
| そらす | 1.1 | 逸す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は何発も射ったのに、全ての的を逸してしまった。 |
| | 1.2 | 逸す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼はわざと弾を逸した。 |
| | 1.3 | 反す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は歩くとき胸を反す。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|--|
| | 1.4 | 逸す | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ヲ 彼は話を逸した。 |
| | 1.5 | 逸す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ ヒッターは現実から国民の注意を巧みに逸した。 |
| | 1.1 | そる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 棚が本の重さで弓形に沿っている。 |
| | 1.1 | それる | N 1 ガ N 2 ヲ この飛行機は航路を逸れている。 |
| | 1.2 | それる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ あの年頃に男の子は脇道に逸れやすい。 |
| そろう | 1.3 | それる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 台風の進路が脇に逸れた。 |
| | 1.4 | それる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 話が脇道に逸れた。 |
| | 1.1 | 揃う | N 1 ガ 箸がきちんと揃っている。 |
| | 1.2 | 揃う | N 1 ガ N 2 ガ 二人は足並みが揃っている。 |
| | 1.3 | 揃う | N 1 ガ N 2 ガ あそこの柳はみな枝の長さが揃っている。 |
| | 1.4 | 揃う | N 1 ガ N 2 ニ 前髪が眉毛の線に揃っている。 |
| | 1.5 | 揃う | N 1 ガ (N 2 ニ) カードが同じサイズに揃っている。 |
| | 1.6 | 揃う | N 1 ガ N 2 ニ / ト 太鼓の音が笛の音と揃っている。 |
| | 1.7 | 揃う | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 労働組合は支援団体と足並みが揃った。 |
| そろえる | 1.8 | 揃う | N 1 ガ / ニ N 2 ガ (N 3) 彼の所には中国の美術品が多数揃っている。 |
| | 1.9 | 揃う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ガ (N 4) この図書館は書庫に漱石の初版本が全部揃っている。 |
| | 1.10 | 揃う | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) 招待客に各界の名士が多数揃った。 |
| | 1.11 | 揃う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 家族が盆休みに郷里の家に揃った。 |
| | 1.12 | 揃う | (N 1 ガ / ニ) N 2 ガ その事件は証拠が揃っている。 |
| | 1.1 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は手で履物を揃えた。 |
| | 1.2 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ デモ隊は足並みを揃えた。 |
| | 1.3 | 揃える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は眉毛の線に前髪を揃えた。 |
| | 1.4 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ト 彼は太鼓の音を笛の音と揃えた。 |
| | 1.5 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 文具メーカーはカードを同形に揃えた。 |
| | 1.6 | 揃える | N 1 ガ N 2 ニ / ト N 3 ヲ 彼女は恋人とTシャツの色を揃えた。 |
| たいする | 1.7 | 揃える | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ (N 4 ニ) 彼は息子とTシャツを同じ色に揃えた。 |
| | 1.8 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト (N 4 ニ / デ) 彼は靴下をシャツと同系色に揃えた。 |
| | 1.9 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4) 彼は靴下とシャツを同系色で揃えた。 |
| | 1.10 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト (N 4 ニ / デ) (N 5) 彼は靴下をシャツと同系色で揃えた。 |
| | 1.11 | 揃える | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ (N 4) この図書館の地下の書庫に漱石の初版本を全部揃えている。 |
| | 1.12 | 揃える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4) 映画会社が出演者にスターを多数揃えた。 |
| | 1.13 | 揃える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は必要な書類を全部揃えた。 |
| たえる | 1.1 | 対する | N 1 ガ N 2 ニ / ト 私の家は丘に対して建っている。 |
| | 1.2 | 対する | N 1 ガ 警察署と学校が道を挟んで対している。 |
| | 1.3 | 対する | N 1 ガ N 2 ニ 我々は全力で敵に対した。 |
| | 1.4 | 対する | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ ここの店員はいつも笑顔で客に対する。 |
| | 1.5 | 対する | N 1 ガ N 2 ニ この商品の品質は値段に対して良いとは言えない。 |
| | 1.6 | 対する | N 1 ガ N 2 ニ 先生は生徒の質問に対して丁寧に答えた。 |
| たおす | 1.1 | 絶える | N 1 ガ あの家の血族は絶えた。 |
| | 2.1 | 耐える | N 1 ガ N 2 ニ 寺が200年の風雪に耐えた。 |
| | 2.2 | 耐える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は心の痛みに耐えた。 |
| | 2.3 | 堪える | N 1 ガ N 2 ニ 彼の作品は万人の鑑賞に堪える。 |
| たおれる | 1.1 | 倒す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は本をテーブルの上に倒した。 |
| | 1.2 | 倒す | N 1 ガ N 2 ヲ 小結が横綱を倒した。 |
| | 1.3 | 倒す | N 1 ガ N 2 ヲ 民衆の力が独裁政権を倒した。 |
| | 1.4 | 倒す | N 1 ガ N 2 ヲ 人切り以蔵は次々と勤皇の志を倒した。 |
| たかまる | 1.1 | 倒れる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) 地震で塀が倒れた。 |
| | 1.2 | 倒れる | N 1 ガ (N 2 デ) 汚職問題で内閣が倒れた。 |
| | 1.3 | 倒れる | N 1 ガ (N 2 ニ) 彼女は病に倒れた。 |
| | 1.4 | 倒れる | N 1 ガ N 2 デ T先生は先週過労で倒れた。 |
| たかまる | 1.1 | 高まる | N 1 ガ N 2 ガ 海は波が高まっていった。 |
| | 1.2 | 高まる | N 1 ガ N 2 ニ 利己的な愛がより高次の愛に高まる。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|---|--|
| たかめる | 1.1 | 高める | N 1 ガ N 2 ヲ 教授自らが大学の品位を高める。 |
| | 1.2 | 高める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 西鶴は劇作を文学にまで高めた。 |
| たがやす | 1.1 | 耕す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 農民が犁で田を耕している。 |
| たく | 1.1 | 焚く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は毎晩香を焚く。 |
| | 1.2 | 焚く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はストーブを焚いた。 |
| | 1.3 | 炊く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は電気釜で飯を炊く。 |
| だく | 1.1 | 抱く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 母親が赤ちゃんを胸に抱いている。 |
| | 1.2 | 抱く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の肩を抱いた。 |
| | 1.3 | 抱く | N 1 ガ N 2 ヲ めんどりが卵を抱いている。 |
| | 1.4 | 抱く | N 1 ガ N 2 ヲ 太郎は初めて女を抱いた。 |
| たくわえる | 1.1 | 貯える | N 1 ガ N 2 ヲ 老婆は小銭を貯えている。 |
| | 1.2 | 蓄える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は今鋭気を蓄えている。 |
| たしかめる | 1.1 | 確かめる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が本の中身を確かめた。 |
| | 1.2 | 確かめる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は代理店に航空券の予約を確かめた。 |
| だす | 1.1 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ (N 4 ニ / ヘ) 母親は子供を部屋から外に出した。 |
| | 1.2 | 出す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 浅間山が噴火口から煙を出している。 |
| | 1.3 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は鼻からタバコの煙を出している。 |
| | 1.4 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は展覧会に絵を出した。 |
| | 1.5 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) 船頭が舟を出す。 |
| | 1.6 | 出す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 隣家が台所から火事を出した。 |
| | 1.7 | 出す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は布団から足を出している。 |
| | 1.8 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ (N 4 ニ / ヘ) 父親は息子を旅行に出した。 |
| | 1.9 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は娘を嫁に出した。 |
| | 1.10 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ヲ 彼は子供を大学まで出した。 |
| | 1.11 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 監督が選手にサインを出した。 |
| | 1.12 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は客に紅茶を出した。 |
| | 1.13 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4) 政府は新プロジェクトの設立に予算を出した。 |
| | 1.14 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 警察は市民に警報を出した。 |
| 1.15 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ 有志が雑誌を出した。 | |
| 1.16 | 出す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は新聞に広告を出した。 | |
| 1.17 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は喜びを顔に出した。 | |
| 1.18 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ 車がスピードを出した。 | |
| 1.19 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ この船は50ノットを出す。 | |
| 1.20 | 出す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼はこの車で200キロを出した。 | |
| 1.21 | 出す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 新人歌手がレコードの売り上げの新記録を出した。 | |
| 1.22 | 出す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は方程式を解いて答えを出した。 | |
| 1.23 | 出す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はサイコロで6の目を出した。 | |
| 1.24 | 出す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼はワックスでたんすに艶を出した。 | |
| 1.25 | 出す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ あの派は今度も自派から首相を出した。 | |
| 1.26 | 出す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 党内最大派閥が自派から首班候補者を出した。 | |
| 1.27 | 出す | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ヲ 彼が駅前通りに喫茶店を出した。 | |
| たすかる | 1.1 | 助かる | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ガ) 病人は手術で命が助かった。 |
| | 1.2 | 助かる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼女は物価の安定で家計が助かった。 |
| たすける | 1.1 | 助ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 デ) 通りかかった船が遭難した漁民をロープで海から助けた。 |
| | 1.2 | 助ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は会社をやめて家事を助けた。 |
| | 1.3 | 助ける | N 1 ガ N 2 ヲ 技術革新は産業の発展を助ける。 |
| たずさわる | 1.1 | 携わる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は教育に携わっている。 |
| たずねる | 1.1 | 訪ねる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 太郎が恩師を母校に訪ねた。 |
| | 1.2 | 訪ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 太郎は父の会社を訪ねた。 |
| | 1.3 | 尋ねる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 母が娘に行き先を尋ねる。 |
| | 1.4 | 尋ねる | N 1 ガ N 2 ニ S ト 彼はその子にどこから来たのかと尋ねた。 |
| | 1.5 | 尋ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はその池の名の由来を尋ねて資料を探し回った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|---|
| | 1.6 | 尋ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 調査隊は幻のニホンオオカミを尋ねて山奥深く分け入った。 |
| たたかう | 1.1 | 戦う | N 1 ガ (N 2 ト) (N 3 デ) 彼は賊と棍棒で戦った。 |
| | 1.2 | 闘う | N 1 ガ N 2 ト 彼は貧困と闘った。 |
| たたく | 1.1 | 叩く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は新聞で蝇を叩いた。 |
| | 1.2 | 叩く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はこぶしでドアをどんと叩いた。 |
| | 1.3 | 叩く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は手で自分の頭を叩いた。 |
| | 1.4 | 叩く | N 1 ガ N 2 ヲ 雨が激しく窓を叩いている。 |
| | 1.5 | 叩く | N 1 ガ N 2 ヲ 各新聞は政府の無策を叩いた。 |
| | 1.6 | 叩く | N 1 ガ N 2 ヲ あの選手はライバルを徹底的に叩いた。 |
| | 1.7 | 叩く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は包丁の背で肉を叩いた。 |
| | 1.8 | 叩く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は千円の品物を叩いて六百円で買った。 |
| ただす | 1.1 | 正す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はいづまいを正した。 |
| | 1.2 | 質す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は相手に意向を質した。 |
| たたむ | 1.1 | 畳む | N 1 ガ N 2 ヲ 蝇は止まるとき羽を畳む。 |
| | 1.2 | 畳む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は傘を畳んだ。 |
| | 1.3 | 畳む | N 1 ガ N 2 ヲ 母は洗濯物を畳んだ。 |
| | 1.4 | 畳む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は店を畳んだ。 |
| ただよう | 1.1 | 漂う | N 1 ガ N 2 ニ 難破船が海に漂っていた。 |
| | 1.2 | 漂う | N 1 ガ N 2 ニ 倦怠感が会議に漂っている。 |
| たちきる | 1.1 | 断切る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ A 国は B 国と外交関係を断ち切った。 |
| | 1.2 | 断切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ A 国は海上封鎖で敵の輸送路を断ち切る。 |
| | 1.3 | 断切る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ 彼は裁断機で紙を半分に断ち切った。 |
| たつ | 1.1 | 立つ | (N 1 ニ) N 2 ガ キャンパスに立て札が立っている。 |
| | 1.2 | 立つ | N 1 ガ (N 2 ニ) 君が玄関前に立つ。 |
| | 1.3 | 建つ | (N 1 ニ) N 2 ガ 駅前にビルが建った。 |
| | 1.4 | 立つ | (N 1 ニ) N 2 ガ 水面に波が立った。 |
| | 1.5 | 発つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは席を立った。 |
| | 1.6 | 立つ | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ニ 彼は壇上で演説に立った。 |
| | 1.7 | 立つ | N 1 ガ N 2 ニ 彼は優位に立った。 |
| | 1.8 | 立つ | N 1 ガ N 2 ニ 彼は法廷で証人に立った。 |
| | 1.9 | 立つ | (N 1 ガ) N 2 ガ 彼は筆が立つ。 |
| | 1.10 | 立つ | N 1 ガ 予定が立った。 |
| | 1.11 | 立つ | N 1 ガ (N 2 デ) これでは生計が立たない。 |
| | 1.12 | 経つ | N 1 ガ (N 2) 時間が経てば問題は解決する。 |
| | 1.13 | 立つ | N 1 ガ N 2 ガ 彼は頭のとっぺんの髪の毛が立っている。 |
| たつ | 2.1 | 絶つ | N 1 ガ N 2 ヲ その作家は筆を絶った。 |
| | 2.2 | 絶つ | N 1 ガ N 2 ヲ 登山者が3日前から消息を絶っている。 |
| | 2.3 | 絶つ | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ A 国は B 国と国交を絶っている。 |
| | 2.4 | 断つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は鎖を断った。 |
| たっする | 1.1 | 達する | N 1 ガ N 2 ニ 別働隊は山頂に達した。 |
| | 1.2 | 達する | N 1 ガ N 2 ニ 両国は貿易交渉において合意に達した。 |
| | 1.3 | 達する | N 1 ガ N 2 ニ デモ行進の総数は数千に達した。 |
| | 1.4 | 達する | N 1 ガ N 2 ニ 彼の技は名人の域に達している |
| | 1.5 | 達する | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ その候補者は今度の当選で目的を達した。 |
| たてる | 1.1 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) コロンブスは卵をテーブルの上に立てた。 |
| | 1.2 | 建てる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は駅前に家を立てた。 |
| | 1.3 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼らは静かな水面に波を立てた。 |
| | 1.4 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は証人を立てた。 |
| | 1.5 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 野党は山田氏を候補に立てた。 |
| | 1.6 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は新説を立てた。 |
| | 1.7 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はなんとか暮らしを立てている。 |
| | 1.8 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ 部下は譲歩する事によって上司の顔を立てた。 |
| | 1.9 | 立てる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は新しい章を立てた。 |
| たとえる | 1.1 | 譬える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 詩人は彼女をバラに譬えた。 |
| たどる | 1.1 | 辿る | N 1 ガ N 2 ヲ 登山者が山道を進んでいる。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|------|---|
| | 1.2 | 辿る | N 1 ガ N 2 ヲ 刑事は犯人の足跡を辿った。 |
| | 1.3 | 辿る | N 1 ガ N 2 ヲ 目撃者は記憶を辿った。 |
| | 1.4 | 辿る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の人生は数奇な運命を辿った。 |
| たのしむ | 1.1 | 楽しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は青春時代を楽しんでいる。 |
| | 1.2 | 楽しむ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はコーヒーの香りを楽しむ。 |
| | 1.3 | 楽しむ | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼はスキーで冬休みを楽しんだ。 |
| たのむ | 1.1 | 頼む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 私は彼に助力を頼んだ。 |
| | 1.2 | 頼む | N 1 ガ N 2 ニ S ト 彼は友人に力を貸してくれと頼んだ。 |
| | 1.3 | 頼む | (N 1 ガ) N 2 ヲ 会は回を追うごとに盛大になってくる。 |
| | 1.4 | 頼む | N 1 ガ N 2 ヲ 母は医者を頼んだ。 |
| | 1.5 | 頼む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 我々は父を一家の柱と頼んでいる。 |
| | 1.6 | 頼む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは数を頼んで強行した。 |
| たべる | 1.1 | 食べる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はそばを食べた。 |
| | 1.2 | 食べる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はアルバイトで食べている。 |
| だます | 1.1 | 騙す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は古い機械を騙しながら使った。 |
| | 1.2 | 騙す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女は男を優しい顔で騙す。 |
| たまる | 1.1 | 溜る | N 1 ガ N 2 ニ 部屋の隅にほこりが溜っている。 |
| | 1.2 | 溜る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 彼の口座には貯金が5万円溜った。 |
| | 1.3 | 溜る | (N 1 ガ / ニ) N 2 ガ N 3 彼は借金が100万円も溜っている。 |
| たまる | 2.1 | 堪る | N 1 ガ こう暑くては彼も堪るまい。 |
| だまる | 1.1 | 黙る | N 1 ガ (N 2 デ) 子供は恐ろしさで黙った。 |
| ためす | 1.1 | 試す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は椅子でナイフの切れ具合を試した。 |
| ためらう | 1.1 | ためらう | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は返事をためらった。 |
| ためる | 1.1 | 溜める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は空きカンに雨水を溜めている。 |
| | 1.2 | 溜める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は口座に金を貯めている。 |
| | 1.3 | 溜める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は毎月の払いを溜めていた。 |
| たもつ | 1.1 | 保つ | N 1 ガ N 2 ヲ この部屋は一定の温度を保っている。 |
| | 1.2 | 保つ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 警官隊がデモ隊との距離を一定に保っている。 |
| | 1.3 | 保つ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 空調機が部屋の温度を一定に保つ。 |
| | 1.4 | 保つ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4 ニ) その自動車メーカーはロボットの導入で車の性能を一定に保っている。 |
| | 1.5 | 保つ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ 彼女はシャワーで肌を清潔に保っている。 |
| たよる | 1.1 | 頼る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は親を頼っている。 |
| | 1.2 | 頼る | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 ニ 彼は学費を親に頼った。 |
| たりる | 1.1 | 足りる | N 1 ガ お金が足りた。 |
| | 1.2 | 足りる | (N 1 ガ) N 2 ニ 彼は信頼するに足りる。 |
| | 1.3 | 足りる | N 1 デ 秋葉原までなら千円で足りる。 |
| たるむ | 1.1 | 弛む | N 1 ガ N 2 ガ 彼は皮膚が弛んでいる。 |
| | 1.2 | 弛む | N 1 ガ (N 2 デ) 洗濯紐が弛んでしまった。 |
| | 1.3 | 弛む | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ガ) 彼は連休あけで気分が弛んでいる。 |
| たれる | 1.1 | 垂れる | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 ヲ) 彼は汗が眉間を垂れている。 |
| | 1.2 | 垂れる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) インクがペン先から紙の上へ垂れている。 |
| | 1.3 | 垂れる | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 木の枝が雪の重みで崖の上から崖下へ垂れている。 |
| | 1.4 | 垂れる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 父親が息子に説教を垂れた。 |
| | 1.5 | 垂れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 犬が恐ろしさで尻尾が垂れた。 |
| | 1.6 | 垂れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼女は乳が垂れている。 |
| ちかう | 1.1 | 誓う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は彼女に禁煙を誓った。 |
| ちがう | 1.1 | 違う | N 1 ガ N 2 ト (N 3 ガ) A国はB国と文化的背景が違う。 |
| | 1.2 | 違う | N 1 ガ N 2 ガ 二つの字は種類が違う。 |
| | 1.3 | 違う | N 1 ガ 番号が違う。 |
| ちかづく | 1.1 | 近づく | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 船は暗闇の中を隆に近付いた。 |
| | 1.2 | 近づく | N 1 ガ (N 2 ニ) 試合が3日後に近づいた。 |
| | 1.3 | 近づく | N 1 ガ N 2 ニ 芝居が終わりに近づいた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|---|
| | 1.4 | 近づく | N 1 ガ N 2 ニ スミスさんの日本語は日本人に近付いてきた。 |
| | 1.5 | 近づく | N 1 ガ N 2 ニ 立候補者たちは町の有力者に近付いた。 |
| ちぢむ | 1.1 | 縮む | N 1 ガ (N 2 デ) 戦線は見方の撤退で縮んだ。 |
| | 1.2 | 縮む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 背広の丈が雨で 40 cm に縮んだ。 |
| | 1.3 | 縮む | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3) 背広の丈が雨で 3 cm 縮んだ。 |
| | 1.4 | 縮む | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3) 彼の背は寄る年派で 3 cm 縮んだ。 |
| | 1.5 | 縮む | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3) 線路が寒さで 3 ミリ縮んだ。 |
| ちぢめる | 1.1 | 縮める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ / デ) 彼は寒さで足を縮めた。 |
| | 1.2 | 縮める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 参謀本部は作戦の変更で戦線を縮めた。 |
| | 1.3 | 縮める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) N 4 ニ 彼は編集長の命令で文の長さを 4 行に縮めた。 |
| | 1.4 | 縮める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) (N 4) 彼は持ち前の持久力で 1.2 秒記録を地占めた。 |
| ちらす | 1.1 | 散す | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼らはトランプをテーブルの上に散らした。 |
| | 1.2 | 散す | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) その医者は彼の盲腸を葉で散らした。 |
| | 1.3 | 散す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ラ 彼はテレビの音で気を散らした。 |
| ちる | 1.1 | 散る | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) 観衆はいつのまにかどこかへ散った。 |
| | 1.2 | 散る | (N 1 デ) N 2 ガ 薬でやっとな痛みが散った。 |
| | 1.3 | 散る | N 1 ガ 桜の花が散った。 |
| つうじる | 1.1 | 通じる | N 1 ガ N 2 ニ 担当者は O A 事情に通じている。 |
| | 1.2 | 通じる | N 1 ガ N 2 ニ 日本人には英語が通じない。 |
| | 1.3 | 通じる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は敵と通じていた。 |
| | 1.4 | 通じる | N 1 ガ N 2 ト N 3 ラ 部長が課長と気脈を通じている。 |
| | 1.5 | 通じる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 電話が山奥にも通じている。 |
| | 1.6 | 通じる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は友人を通じて申し込んだ。 |
| | 1.7 | 通じる | N 1 ガ N 2 ニ その問題は現代に通じる。 |
| | 1.8 | 通じる | N 1 ガ N 2 ラ そのコートは一年を通じて着ることができる。 |
| つかう | 1.1 | 使う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ラ 彼女は料理に砂糖を多く使う。 |
| | 1.2 | 使う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 彼は問題の解決に頭を使った。 |
| | 1.3 | 使う | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は独自の調味料を隠し味に使います。 |
| | 1.4 | 使う | N 1 ガ N 2 ラ (N 3) あの工事は職工を 600 人使っている。 |
| | 1.5 | 使う | N 1 ガ N 2 ラ 彼はドイツ語を上手に使う。 |
| つかえる | 1.1 | 支える | N 1 ガ 電話は今支えています。 |
| | 1.2 | 支える | N 1 ガ N 2 ガ 私は今仕事が支えている。 |
| | 1.3 | 支える | N 1 ニ N 2 ガ 溝に泥が支えている。 |
| | 1.4 | 支える | N 1 デ N 2 ガ 泥で溝が支えている。 |
| | 1.5 | 支える | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ あの男は頭が天井を支えた。 |
| | 1.6 | 支える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼はのどに餅を支えた。 |
| | 1.7 | 支える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は餅でのどを支えた。 |
| | 1.8 | 支える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は詩の暗誦に支えてしまう。 |
| つかまえる | 1.1 | 捕まえる | N 1 ガ N 2 ラ 刑事が犯人を捕まえた。 |
| | 1.2 | 捕まえる | N 1 ガ N 2 ラ かれは相手の襟首を捕まえた。 |
| つかむ | 1.1 | 掴む | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 彼はボールを素手で掴んだ。 |
| | 1.1 | 掴む | N 1 ガ N 2 ラ 彼は思わぬ大金を掴んだ。 |
| つかれる | 1.1 | 掴む | N 1 ガ N 2 ラ 彼は難しい役柄をしっかりと掴んでいる。 |
| | 1.1 | 疲れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は生活に疲れている。 |
| | 1.2 | 疲れる | N 1 ガ N 2 デ 彼は残業で疲れた。 |
| | 1.3 | 疲れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は接待で神経が疲れた。 |
| | 1.4 | 疲れる | N 1 ガ 彼の背広はだいたい疲れた感じだ。 |
| | 1.1 | 付きあう | N 1 ガ N 2 ニ 彼はよく上司に付き合う。 |
| | 1.2 | 付きあう | N 1 ガ N 2 ニ 彼は妻の買い物に付き合った。 |
| | 1.3 | 付きあう | N 1 ガ N 2 ト 彼は外国人と付き合っている。 |
| | 1.1 | つきる | (N 1 ガ) N 2 ガ 彼は命脈が尽きた。 |
| | 1.2 | つきる | N 1 ガ N 2 ニ 彼の魅力はその誠実な心に尽きる。 |
| | 1.1 | つく | N 1 ガ 電気が点いた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|------|------|-----|---------------------------------|--------------------------|
| | 1.2 | 着く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ | 調査団は現場に着いた。 |
| | 1.3 | 着く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼女は自分の席に着いた。 |
| | 1.4 | 就く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は帰国の途に就いた。 |
| | 1.5 | 着く | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ | 彼の息子は頭が鴨居に着く。 |
| | 1.6 | 就く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ | 彼は重役のポストに就いた。 |
| | 1.7 | 付く | N 1 ニ N 2 ガ | 出張には手当てが付く。 |
| | 1.8 | 付く | N 1 ニ N 2 ガ | 雪の上に足跡が付いた。 |
| | 1.9 | 付く | N 1 ガ N 2 ニ | パック旅行は高いものに付いた。 |
| | 1.10 | 付く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ | 彼は腹に贅肉が付いている。 |
| | 1.11 | 付く | (N 1 ガ) N 2 ガ N 3 ニ | 彼は黒板の汚れが目が付いた。 |
| | 1.12 | 付く | N 1 ガ / ニ N 2 ガ | 彼は英語の力が付いてきた。 |
| | 1.13 | 憑く | N 1 ニ N 2 ガ | 彼に狐が憑いている。 |
| | 1.14 | 付く | N 1 ガ N 2 ニ | S P が首相にぴったり付いている。 |
| | 1.15 | 付く | N 1 ガ N 2 ニ | 嫁姑の喧嘩で彼は妻の方に付いた。 |
| | 1.16 | 付く | N 1 ガ N 2 ニ | 人事異動の結果彼はA課長の下に付くことになった。 |
| | 1.17 | 付く | N 1 ガ / ニ N 2 ガ | 試合はようやく勝負が付いた。 |
| | 1.18 | 付く | N 1 ガ / ニ N 2 ガ | 彼はその事について想像が付いていた。 |
| | 1.19 | 付く | N 1 ニ N 2 ガ | 彼女にはパトロンが付いている。 |
| | 1.20 | 就く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は大学院ではO教授に就いた。 |
| | 1.21 | 付く | N 1 ニ N 2 ガ | このアパートにはお風呂が付いている。 |
| つく | 2.1 | 突く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 猟師は鎧で魚を突いた。 |
| | 2.2 | 突く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼女は羽子板で羽根を突いた。 |
| | 2.3 | 搗く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 戦時中、母は棒で米を搗いた。 |
| | 2.4 | 搗く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は杵と臼で餅を搗いた。 |
| | 2.5 | 突く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ | 彼は重要書類に判を突いた。 |
| | 2.6 | 突く | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 彼女は畳に三つ指を突いた。 |
| | 2.7 | 突く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は問題の核心を突いた。 |
| | 2.8 | 突く | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼の指摘は論文の盲点を突いていた。 |
| | 2.9 | 突く | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は闇を突いて走った。 |
| | 2.10 | 突く | N 1 ガ N 2 ヲ | 異様な臭気が鼻を衝いた。 |
| つぐ | 1.1 | 継ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ | 母が着物の綻びを継いでくれた。 |
| | 1.2 | 継ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は叔父の財産を継いだ。 |
| | 1.3 | 接ぐ | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 彼は盆栽の白梅に紅梅の枝を接いだ。 |
| つくす | 1.1 | 尽す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ | 警察は犯人逮捕に全力を尽くした。 |
| | 1.2 | 尽す | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼らは十分に論議を尽くした。 |
| | 1.3 | 尽す | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は条理を尽くして説得した。 |
| つくる | 1.1 | 作る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ | 杜氏が米からよい酒を造った。 |
| | 1.2 | 作る | N 1 ガ (N 2 ニ) (N 3 デ) N 4 ヲ | 彼は裏山に丸太で小屋を造った。 |
| | 1.3 | 作る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 彼は畑に野菜を作った。 |
| | 1.4 | 作る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 社長は会社に野球チームを作った。 |
| | 1.5 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | 馬が群れを作っている。 |
| | 1.6 | 作る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 市は放置自転車対策に条例を作った。 |
| | 1.7 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 魚屋は鮪を刺身に作った。 |
| | 1.8 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) | 彼女は髪型を松田聖子風にした。 |
| | 1.9 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は上司の冗談に無理に笑顔を作った。 |
| | 1.10 | 作る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | あの人はひとつのアイデアで財産を作った。 |
| | 1.11 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は新しい会社を作った。 |
| | 1.12 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | 厳しい風土が彼の粘り強い性格を作った。 |
| | 1.13 | 作る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は両手で頭の上に輪を作った。 |
| | 1.14 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | たくさんの石が直線を作っている。 |
| | 1.15 | 作る | N 1 ガ N 2 ヲ | 政府は民主的な国を作った。 |
| つくるう | 1.1 | 繕う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 母はミシンで私の上着の綻びを繕ってくれた。 |
| | 1.2 | 繕う | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は何とか体面を繕った。 |
| | 1.3 | 繕う | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は上役の前を繕った。 |
| つける | 1.1 | 付ける | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼女は電灯を点けた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|--|
| | 1.2 | 着ける | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 彼は駅の正面にタクシーを着けた。 |
| | 1.3 | 着ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼女はイヤリングを着けている。 |
| | 1.4 | 就ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 社長は娘婿を取締役に就けた。 |
| | 1.5 | 付ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は顔を水面に付けた。 |
| | 1.6 | 付ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は本棚を壁に付けた。 |
| | 1.7 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 旅行社はツアーにガイドを付けた。 |
| | 1.8 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は肉に味を付けた。 |
| | 1.9 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はレコードに傷を付けてしまった。 |
| | 1.10 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女にいらぬ知恵を付けた。 |
| | 1.11 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は商品に値段を付けた。 |
| | 1.12 | 付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は毎晩家計簿を付けている。 |
| | 1.13 | 付ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ト N 4 ヲ 彼は子供に一郎と名前を付けた。 |
| | 1.14 | 付ける | N 1 ガ N 2 ヲ 刑事が犯人の後を付けた。 |
| つげる | 1.1 | 告げる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ チャイムの音が来館者に閉館時刻を告げている。 |
| | 1.2 | 告げる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ 監督が主審に選手の交代を告げた。 |
| つたえる | 1.1 | 伝える | N 1 ガ N 2 ヲ 銅は熱を伝える。 |
| | 1.2 | 伝える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 町並が昔の情緒を現代に伝える。 |
| | 1.3 | 伝える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4 デ) 警察が家族に悲報を電話で伝えた。 |
| | 1.4 | 伝える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4 デ) 師匠は弟子に秘伝を口頭で伝えた。 |
| | 1.5 | 伝える | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ N 4 ヲ ザビエルは日本へキリスト教を伝えた。 |
| つたわる | 1.1 | 伝わる | N 1 ガ N 2 ヲ 猿が木の枝を伝わっている。 |
| | 1.2 | 伝わる | N 1 ガ N 2 ヲ 電気は銅線を伝わる。 |
| | 1.3 | 伝わる | N 1 ガ N 2 ニ 二階の騒音が階下に伝わってきた。 |
| | 1.4 | 伝わる | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ 大統領亡命のニュースが現地から世界中に伝わった。 |
| | 1.5 | 伝わる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ) 立派な茶道具が先祖から子孫に伝わっている。 |
| | 1.6 | 伝わる | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 ニ / ヘ) 仏教は百済から日本に伝わった。 |
| つづく | 1.1 | 続く | N 1 ガ N 2 ニ 子供達は先生に続いた。 |
| | 1.2 | 続く | N 1 ガ (N 2) 調査が一週間続いた。 |
| | 1.3 | 続く | N 1 ガ 見渡す限り麦畑が続いている。 |
| | 1.4 | 続く | N 1 ガ N 2 ニ この川は湖に続いている。 |
| | 1.5 | 続く | (N 1 ガ) N 2 ニ 大阪は東京に続く大都市である。 |
| つづける | 1.1 | 続ける | N 1 ガ N 2 ヲ 景気回復が足踏み状態を続けている。 |
| | 1.2 | 続ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼はその仕事を一生続けた。 |
| つっこむ | 1.1 | 突込む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ その小学生は教科書を鞆に突っ込んだ。 |
| | 1.2 | 突込む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は手をポケットに突っ込んだ。 |
| | 1.3 | 突込む | N 1 ガ N 2 ヲ 野党が政府の不手際を突っ込んだ。 |
| | 1.4 | 突込む | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ トラックが人家へ突っ込んだ。 |
| つつしむ | 1.1 | 慎む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は言葉を慎んだ。 |
| つつむ | 1.1 | 包む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / デ 彼はふるしきに本を包んだ。 |
| | 1.2 | 包む | N 1 ガ N 2 ニ / デ N 3 ヲ 彼女は黒い服に全身を包んでいた。 |
| | 1.3 | 包む | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) (N 4) 彼は大工に祝儀を1万円包んだ。 |
| | 1.4 | 包む | N 1 ガ N 2 ヲ ぼのおが建物全体を包んだ。 |
| つとめる | 1.1 | 務める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が補佐役を務める。 |
| | 1.2 | 努める | N 1 ガ N 2 ニ ドライバーは安全運転に努めた。 |
| | 1.3 | 勤める | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) 彼は会社に勤めている。 |
| つながる | 1.1 | 繋る | N 1 ガ N 2 デ 来年この2つの駅は地下道で繋る。 |
| | 1.2 | 繋る | N 1 ガ N 2 ト (N 3 デ) このビルはあのビルと地下道で繋がっている。 |
| | 1.3 | 繋る | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ 私は彼と血が繋がっている。 |
| | 1.4 | 繋る | N 1 ガ N 2 ニ ミスは敗北に繋る。 |
| つなぐ | 1.1 | 繋ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ 飼主は鎖で犬を柱に繋いだ。 |
| | 1.2 | 繋ぐ | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ N 4 ト デパートは連絡通路で新館を本館と繋いだ。 |
| | 1.3 | 繋ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 海底トンネルが本州と北海道を繋いでいる。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 | |
|------|-----|-----|---------------------------|---------------------------|------------------|
| | 1.4 | 繋ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ | 大人と子供が手を繋いだ。 | |
| | 1.5 | 繋ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ | 同業者同士が手を繋いでいる。 | |
| | 1.6 | 繋ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 交換手は電話を会議室に繋いだ。 | |
| | 1.7 | 繋ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 失業者は売り食い命を繋いだ。 | |
| | つぶす | 1.1 | 潰す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は包丁の柄でんにくを潰した。 |
| | | 1.2 | 潰す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ (N 4) | 彼らはマージャンで時間を潰した。 |
| | | 1.3 | 潰す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4) | 彼らは準備に時間を潰した。 |
| 1.4 | | 潰す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | 彼は賭博で身体を潰した。 | |
| 1.5 | | 潰す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | 軍部は策略でその政治団体を潰した。 | |
| 1.6 | | 潰す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼はその事故で目を潰してしまった。 | |
| 1.7 | | 潰す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 課長はその一件で顔を潰した。 | |
| つぶれる | 1.1 | 潰れる | N 1 ガ (N 2 デ) | 地震で家が潰れた。 | |
| | 1.2 | 潰れる | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 デ) | 彼は事故で片足の指が潰れてしまった。 | |
| | 1.3 | 潰れる | (N 1 デ) N 2 ガ | 客の相手で半日が潰れた。 | |
| | 1.4 | 潰れる | N 1 ガ N 2 デ | 不景気であの店は潰れてしまった。 | |
| | 1.5 | 潰れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ | 彼は計画の失敗で面目が潰れてしまった。 | |
| つまづく | 1.1 | 躓く | N 1 ガ (N 2 ニ) | 彼は石に躓いた。 | |
| | 1.2 | 躓く | N 1 ガ N 2 ニ / デ | 彼は事業拡大に躓いた。 | |
| | 1.3 | 躓く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は人生に躓いた。 | |
| つまむ | 1.1 | 摘む | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 彼は悪臭に鼻を摘んだ。 | |
| | 1.2 | 摘む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼がゴミを摘んだ。 | |
| | 1.3 | 摘む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼はすしを摘んだ。 | |
| つまる | 1.1 | 詰る | N 1 ガ | 下水が詰った。 | |
| | 1.2 | 詰る | N 1 ニ N 2 ガ | パイプにごみが詰っている。 | |
| | 1.3 | 詰る | N 1 ガ N 2 ガ | 彼女は鼻が詰っている。 | |
| | 1.4 | 詰る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ | 彼は餅が喉に詰ってしまった。 | |
| | 1.5 | 詰る | N 1 ガ N 2 デ | 新聞の紙面は字が詰まっている。 | |
| | 1.6 | 詰る | N 1 ガ | 今月は仕事が詰っている。 | |
| | 1.7 | 詰る | N 1 ガ N 2 ニ | 大臣は答弁に詰まった。 | |
| つむ | 1.1 | 摘む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼女は野原の花を摘んだ。 | |
| つむ | 2.1 | 積む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ | 彼は机の上に本を積んだ。 | |
| | 2.2 | 積む | N 1 ガ N 2 ヲ | あのトラックは野菜を積んでいる。 | |
| | 2.3 | 積む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は10年の経験を積んでいる。 | |
| | 2.4 | 積む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は保釈金を積んだ。 | |
| | 2.5 | 積む | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は積み立て預金を毎月一万円ずつ積んでいる。 | |
| つめる | 1.1 | 詰める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 彼は荷物を鞆に詰めた。 | |
| | 1.2 | 詰める | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | 彼女は粘土で壁の穴を詰めた。 | |
| | 1.3 | 詰める | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼はできるだけ字間を詰めた。 | |
| | 1.4 | 詰める | N 1 ガ N 2 ニ | 彼はこの日曜日にも会社に詰めている。 | |
| | 1.5 | 詰める | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼らは生活を詰めた。 | |
| | 1.6 | 詰める | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は考えを詰めた。 | |
| | 1.7 | 詰める | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は着物の丈を詰めた。 | |
| つもる | 1.1 | 積る | N 1 ガ | 借金が積もった。 | |
| | 1.2 | 積る | N 1 ガ (N 2 ニ) (N 3) | 雪が屋根に1メートル積もった。 | |
| つよまる | 1.1 | 強まる | (N 1 ガ) N 2 ガ | 病人は回復の兆が強まった。 | |
| つよめる | 1.1 | 強める | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼はジョギングで足腰を強めている。 | |
| | 1.2 | 強める | N 1 ガ N 2 ヲ | 紛争は長期化の様相を強めている。 | |
| | 1.3 | 強める | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) N 3 ヲ | 彼はその仕事に自信を強めている。 | |
| | 1.4 | 強める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ | 会社は組合員に働き掛けを強めた。 | |
| | 1.5 | 強める | N 1 ガ N 2 ヲ | A社とB社が連帯を強めている。 | |
| つらぬく | 1.1 | 貫く | N 1 ガ N 2 ヲ | 弾丸が犯人の胸を貫いた。 | |
| | 1.2 | 貫く | N 1 ガ N 2 ヲ | 運河が市の中央を貫いている。 | |
| | 1.3 | 貫く | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | 彼は銃で自分の胸を貫いた。 | |
| | 1.4 | 貫く | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ | 彼はナイフで相手の胸を貫いた。 | |
| | 1.5 | 貫く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は論文で主張を貫いた。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|------|---|
| | 1.6 | 貫く | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は反骨精神で一生を貫いた。 |
| つりあう | 1.1 | 釣合う | N 1 ガ (N 2 ガ) 二人は年が釣り合っている。 |
| | 1.2 | 釣合う | N 1 ガ N 2 ト (N 3 ガ) 彼の服装は彼女の服装と色調が釣り合っている。 |
| | 1.3 | 釣合う | N 1 ガ N 2 ニ / ト アクセサリーが洋服とよく釣り合っている。 |
| つる | 1.1 | 釣る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はミミズで魚を釣る。 |
| | 1.2 | 釣る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ セールスマンはうまい話で客を釣る。 |
| | 1.3 | 吊る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ 彼は棚を金具で壁に吊った。 |
| | 1.4 | 攀る | (N 1 ガ) N 2 ガ 彼は足が攀った。 |
| であう | 1.1 | 出会う | N 1 ガ N 2 ニ ジャングルの中で探検隊は猿の群れに出会った。 |
| | 1.2 | 出会う | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼女はバーゲンでばったり昔の友達と出会った。 |
| でかける | 1.1 | 出掛ける | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ニ 主婦はスーパーマーケットへ買物に出掛けた。 |
| | 1.2 | 出掛ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ / ヘ 彼はバスで大阪へ出掛けた。 |
| できあがる | 1.1 | 出来上る | N 1 ガ 家がようやく出来上がった。 |
| できする | 1.1 | 適する | N 1 ガ N 2 ニ この職業は女性に適している。 |
| | 1.2 | 適する | N 1 ガ N 2 ニ 彼が最も議長に適している。 |
| できる | 1.1 | 出来る | N 1 ニ N 2 ガ 道路に水溜りが出来た。 |
| | 1.2 | 出来る | N 1 ニ N 2 ガ 彼に急用が出来た。 |
| | 1.3 | 出来る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 彼は英語が出来る。 |
| | 1.4 | 出来る | (N 1 ニ) N 2 ガ 最近新しい法律が出来た。 |
| てつだう | 1.1 | 手伝う | N 1 ガ N 2 ヲ 妻は夫の仕事を手伝っている。 |
| | 1.2 | 手伝う | N 1 ニ N 2 ガ 彼の病気には過労が手伝っている。 |
| てらす | 1.1 | 照す | N 1 ガ N 2 ヲ 月の光が室内を照らしていた。 |
| | 1.2 | 照す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 警備艇はサーチライトで迎いを照らした。 |
| | 1.3 | 照す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 警備艇がサーチライトを迎いに照らした。 |
| | 1.4 | 照す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 当局はその事件を法に照らした。 |
| てる | 1.1 | 照る | N 1 ガ 今日は日がかんかんと照っている。 |
| でる | 1.1 | 出る | N 1 ガ N 2 カラ (N 3 ニ / ヘ) 彼が部屋から玄関に出た。 |
| | 1.2 | 出る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が部屋を出る。 |
| | 1.3 | 出る | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 汗が額から出ている。 |
| | 1.4 | 出る | N 1 ガ N 2 ヲ 汽車は駅を出た。 |
| | 1.5 | 出る | N 1 ガ N 2 カラ 火事は隣家から出た。 |
| | 1.6 | 出る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ガ 彼女はドレスから肩が出ている。 |
| | 1.7 | 出る | N 1 ガ N 2 ガ 彼はお腹が出ている。 |
| | 1.8 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 彼は谷間に出た。 |
| | 1.9 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 ニ / ヘ) 彼は買物に街へ出た。 |
| | 1.10 | 出る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はこの三月に大学を出た。 |
| | 1.11 | 出る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ニ 手当が当局から職員に出る。 |
| | 1.12 | 出る | N 1 ニ N 2 ガ 夕食にごちそうが出た。 |
| | 1.13 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ 津波警報が太平洋沿岸に出た。 |
| | 1.14 | 出る | N 1 ガ 彼の新作がやっと出た。 |
| | 1.15 | 出る | N 1 ガ この品はよく出る。 |
| | 1.16 | 出る | N 1 ニ N 2 ガ 今朝の新聞に彼の名前が出ている。 |
| | 1.17 | 出る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ 彼はすぐに気分が顔に出る。 |
| | 1.18 | 出る | N 1 ガ N 2 ガ 彼は勇気が出た。 |
| | 1.19 | 出る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 この車はスピードが 200 キロ出る。 |
| | 1.20 | 出る | N 1 デ N 2 ガ 崖崩れで大きな被害が出た。 |
| | 1.21 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の性格が作品に出ている。 |
| | 1.22 | 出る | N 1 カラ N 2 ニ N 3 ガ 消費者から会社に苦情が出た。 |
| | 1.23 | 出る | N 1 ガ 何時間もの議論の末、やっと結論が出た。 |
| | 1.24 | 出る | N 1 デ N 2 ガ サイコロで 6 の目が出た。 |
| | 1.25 | 出る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 最近の彼の作品には重厚さが出てきた。 |
| | 1.26 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は会議に出た。 |
| | 1.27 | 出る | N 1 カラ N 2 ガ この地方から文化人が多く出ている。 |
| | 1.28 | 出る | N 1 ニ N 2 ガ あの廃屋にはお化けが出る。 |
| | 1.29 | 出る | N 1 ガ 失くしたと思っていた指輪が出てきた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|--|
| | 1.30 | 出る | N 1 ガ N 2 カラ この諺は中国の古典から出ている。 |
| | 1.31 | 出る | N 1 ガ N 2 ラ 彼女の年は五十を出ている。 |
| | 1.32 | 出る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は思い上がった態度に出た。 |
| とう | 1.1 | 問う | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ラ 担当者が応募者に電話で住所氏名を問うた。 |
| | 1.2 | 問う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 野党は首相に行革失敗の責任を問うた。 |
| | 1.3 | 問う | (N 1 ガ) N 2 ラ その会社は採用にあたって年齢を問わない。 |
| とおす | 1.1 | 通す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 彼女が針に糸を通した。 |
| | 1.2 | 通す | N 1 ガ N 2 ラ このコートは雨を通さない。 |
| | 1.3 | 通す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 彼は料理に火を通した。 |
| | 1.4 | 通す | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ / ヘ) 彼は客を部屋に通した。 |
| | 1.5 | 通す | N 1 ガ N 2 ラ 門番はその男を通さなかった。 |
| | 1.6 | 通す | N 1 ラ 窓口を通して人と会う。 |
| | 1.7 | 通す | N 1 ガ N 2 ラ 彼は信念を通した。 |
| | 1.8 | 通す | N 1 ガ N 2 デ 彼女は一年中和服で通している。 |
| | 1.9 | 通す | N 1 ガ N 2 ラ 国会はその法案を通した。 |
| | 1.10 | 通す | N 1 ラ 一生涯を通して変わらぬ愛情。 |
| とおる | 1.1 | 通る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 大名行列が橋の上を通っている。 |
| | 1.2 | 通る | (N 1 ニ) N 2 ガ この町に鉄道がやっと通った。 |
| | 1.3 | 通る | N 1 ガ N 2 ラ 糸が針穴を通った。 |
| | 1.4 | 通る | N 1 ガ (N 2 ニ) 私の意見が通った。 |
| | 1.5 | 通る | N 1 ガ N 2 ニ 客が部屋に通った。 |
| | 1.6 | 通る | N 1 ガ N 2 ガ その文章は意味が通らない。 |
| | 1.7 | 通る | N 1 ガ N 2 ガ 彼女はつまっていた鼻がやっと通った。 |
| | 1.8 | 通る | N 1 ガ N 2 デ 彼は律儀者で通っている。 |
| | 1.9 | 通る | N 1 ガ N 2 ラ 彼は予選を通った。 |
| | 1.10 | 通る | N 1 ガ N 2 ニ その受験生は簡単に試験に通った。 |
| とがす | 1.1 | 溶す | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼女は塩を水に溶かした。 |
| | 1.2 | 溶す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 画家は油で絵具を溶かした。 |
| | 1.3 | 梳す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼女はブラシで妹の髪を梳かした。 |
| とがめる | 1.1 | 咎める | N 1 ガ N 2 ガ 彼は良心が咎める。 |
| | 1.2 | 咎める | N 1 ガ N 2 ラ 母は私の不作法を咎めた。 |
| | 1.3 | 咎める | N 1 ガ N 2 ラ (S ト) 警官があやしい男を「そこで何をしているんだ」と咎めた。 |
| とがる | 1.1 | 尖る | N 1 ガ N 2 ガ この鉄は先が尖っている。 |
| とく | 1.1 | 解く | N 1 ガ N 2 ラ 彼女が包みを解いた。 |
| | 1.2 | 解く | N 1 ガ N 2 ラ 当局は戒厳令を解いた。 |
| | 1.3 | 解く | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ラ 彼女の説明で彼は誤解を解いた。 |
| | 1.4 | 解く | N 1 ガ N 2 ラ 彼の説明が彼女の誤解を解いた。 |
| | 1.5 | 解く | N 1 ガ N 2 ラ 学生が問題を解いている。 |
| | 1.6 | 解く | N 1 ガ N 2 ラ 社長は営業部長の任を解いた。 |
| | 1.7 | 梳く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 彼女は髪をくしで梳いた。 |
| | 1.8 | 溶く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 彼は絵の具を油で溶いた。 |
| | 1.9 | 溶く | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼女はメリケン粉を水に溶いた。 |
| とぐ | 1.1 | 研ぐ | N 1 ガ N 2 ラ 彼は鏡を研いだ。 |
| | 1.2 | 研ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 猫は柱で爪を研いだ。 |
| とける | 1.1 | 解ける | N 1 ガ ひもが解けた。 |
| | 1.2 | 解ける | N 1 ガ 封鎖が解けた。 |
| | 1.3 | 解ける | N 1 ガ 彼女の緊張が解けた。 |
| | 1.4 | 解ける | N 1 ガ 難問がやっと解けた。 |
| | 1.5 | 解ける | N 1 ガ N 2 ガ 彼はこの4月大臣の任が解ける。 |
| | 1.6 | 溶ける | N 1 ガ 氷が溶けた。 |
| | 1.7 | 溶ける | N 1 ガ N 2 ニ 塩は水に溶ける。 |
| とげる | 1.1 | 遂げる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は思いを遂げた。 |
| | 1.2 | 遂げる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は名誉の戦死を遂げた。 |
| とじる | 1.1 | 綴じる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ラ 彼は糸でバラバラになりそうな本を綴じた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|-----|---|
| とじる | 1.2 | 綴じる | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ / ヘ 彼は配布資料をバインダーに綴じた。 |
| | 2.1 | 閉じる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は本を閉じた。 |
| | 2.2 | 閉じる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は目を閉じた。 |
| | 2.3 | 閉じる | N 1 ガ N 2 ラ 彼は会を閉じた。 |
| | 2.4 | 閉じる | N 1 ガ その家のカーテンが閉じている。 |
| とどく | 1.1 | 届く | N 1 ガ N 2 ニ 雪が屋根に届いてしまった。 |
| | 1.2 | 届く | N 1 ニ N 2 ガ 彼の真心がやっと彼女に届いた。 |
| | 1.3 | 届く | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ニ 結婚祝いが友達から妹に届いた。 |
| | 1.4 | 届く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 保母さんは大勢の子供達に目が届かない。 |
| とどける | 1.1 | 届ける | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ラ ファンが人気歌手に花束を届けた。 |
| | 1.2 | 届ける | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ / ヘ 彼は盗難を交番へ届けた。 |
| ととのう | 1.1 | 整う | N 1 ガ パーティの準備が整っている。 |
| | 1.2 | 整う | N 1 ガ N 2 ガ 彼は目鼻立ちが整っている。 |
| | 1.3 | 整う | (N 1 ガ) N 2 ガ 船団は隊列が見事に整っていた。 |
| | 1.4 | 整う | N 1 ガ N 2 ガ 彼は旅行の準備がすっかり整った。 |
| | 1.5 | 整う | N 1 ガ N 2 ガ あの実験室は設備が整っている。 |
| | 1.6 | 整う | N 1 ガ N 2 ガ 太郎と花子は婚約が整った。 |
| ととのえる | 1.1 | 整える | N 1 ガ N 2 ラ 彼は服装を整えた。 |
| | 1.2 | 調える | N 1 ガ N 2 ラ 彼女は旅装を調えた。 |
| とどまる | 1.1 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) 彼は現職に三年間留まっている。 |
| | 1.2 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) 彼は博多に3ヶ月留まった。 |
| | 1.3 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ 損害は百万円程度に留まっている。 |
| | 1.4 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ この習慣は一部の地方に留まる。 |
| | 1.5 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ 彼の悲しみは一時の感傷に留まった。 |
| | 1.6 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ この本は単なる入門書に留まる。 |
| | 1.7 | 留まる | N 1 ガ N 2 ニ 彼の悪事は二三に留まらない。 |
| とどめる | 1.1 | 留める | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は妻子を郷里に留めた。 |
| | 1.2 | 留める | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は弟を留守番に留めた。 |
| | 1.3 | 留める | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) その事件は強烈な印象を彼の心に留めた。 |
| | 1.4 | 留める | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 政府は予算を5兆円以内に留めた。 |
| | 1.5 | 留める | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は話を大略の説明に留めた。 |
| とばす | 1.1 | 飛ばす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 子供が紙飛行機を飛ばしている。 |
| | 1.2 | 飛ばす | N 1 ガ N 2 ラ 暴走族がオートバイを飛ばした。 |
| | 1.3 | 飛ばす | N 1 ガ N 2 ラ 受験生は難しい問題を飛ばした。 |
| | 1.4 | 飛ばす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) マスコミ関係者がデマを飛ばした。 |
| | 1.5 | 飛ばす | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ / ヘ 社長は課長を僻地へ飛ばした。 |
| とぶ | 1.1 | 飛ぶ | N 1 ガ (N 2 ラ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 飛行機が空を飛んでいる。 |
| | 1.2 | 飛ぶ | N 1 ガ (N 2 ラ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 矢が空中をうなるように飛んだ。 |
| | 1.3 | 飛ぶ | N 1 ガ N 2 デ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 帽子が風で飛んだ。 |
| | 1.4 | 飛ぶ | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 油がフライパンから飛んだ。 |
| | 1.5 | 飛ぶ | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 犯人は外国に飛んだ。 |
| | 1.6 | 飛ぶ | N 1 ガ 編目が飛んでいる。 |
| | 1.7 | 跳ぶ | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は高い跳び箱を跳んだ。 |
| | 1.8 | 飛ぶ | N 1 ガ N 2 ニ 監督の厳しい声がチームに飛んだ。 |
| | 1.9 | 飛ぶ | N 1 ガ 近頃、地震が起こるといふデマが飛んでいる。 |
| とまる | 1.1 | 止る | N 1 ガ N 2 ニ 車が玄関の前に停まった。 |
| | 1.2 | 止る | N 1 ガ N 2 ニ とんぼが帽子に止まった。 |
| | 1.3 | 止る | N 1 ガ モーターが止まった。 |
| | 1.4 | 留る | N 1 ガ N 2 ニ 印象がいつまでも心に留まっている。 |
| | 1.5 | 止る | N 1 ガ 最近太ったので、ホックが止まらない。 |
| とむ | 1.1 | 富む | N 1 ガ 家が富む。 |
| | 1.2 | 富む | N 1 ガ N 2 ニ この土地は起伏に富んでいる。 |
| とむらう | 1.1 | 弔う | N 1 ガ N 2 ラ 彼は遺族を弔った。 |
| | 1.2 | 弔う | N 1 ガ N 2 ラ 遺族が亡き人を弔う。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|--------|------|------|--|
| とめる | 1.1 | 止める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は車を止めた。 |
| | 1.2 | 止める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は足を止めた。 |
| | 1.3 | 止める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 医者が注射で患者の痛みを止めた。 |
| | 1.4 | 留める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は掲示板にポスターを留めた。 |
| | 1.5 | 留める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女はいつも髪の毛を白いリボンで留めている。 |
| | 1.6 | 留める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は彼女の発言を心に留めた。 |
| | 1.7 | 止める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は二人のけんかを止めた。 |
| ともなう | 1.1 | 伴う | N 1 ニ インフレに伴って生活が苦しくなる。 |
| | 1.2 | 伴う | N 1 ガ N 2 ヲ この仕事は責任を伴なう。 |
| | 1.3 | 伴う | N 1 ガ N 2 ガ この仕事には危険が伴う。 |
| | 1.4 | 伴う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 母親は3人の子供を海外旅行に伴った。 |
| とらえる | 1.1 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) カメレオンはみごとに舌で蛾を捕えた。 |
| | 1.2 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ 警官は右手で賊の襟首を捕えた。 |
| | 1.3 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼のバットはボールを真芯で捕えた。 |
| | 1.4 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ 疑惑の念が彼女を捕えた。 |
| | 1.5 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 記者はその惨状を映像に捕えた。 |
| | 1.6 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ その記事は真相を捉えている。 |
| | 1.7 | 捕える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はすぐに人の言葉尻を捕える。 |
| とられる | 1.1 | 捕われる | N 1 ガ N 2 ニ 彼はいつも外見に捕われる。 |
| | 1.2 | 捕われる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は地下牢に捕われている |
| とりあげる | 1.1 | 取上げる | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼がテーブルから雑誌を取り上げた。 |
| | 1.2 | 取上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 会社が彼の企画を取り上げた。 |
| | 1.3 | 取上げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 今日の会議はその問題を議題に取り上げた。 |
| | 1.4 | 取上げる | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 刑事は犯人から武器を取り上げた。 |
| | 1.5 | 取上げる | N 1 ガ N 2 ヲ 助産婦が船の中で男の子を取り上げた。 |
| とりあつかう | 1.1 | 取扱う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は商品を丁寧に取扱っている。 |
| | 1.2 | 取扱う | N 1 ガ N 2 ヲ 君は部下を丁寧に取扱ってやるべきだ。 |
| | 1.3 | 取扱う | N 1 ガ N 2 ヲ この店は文房具を取扱っていない。 |
| | 1.4 | 取扱う | N 1 ガ N 2 ヲ その小説は社会問題を取扱っている。 |
| | 1.5 | 取扱う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / デ 彼はその問題を自分の小説で取扱った。 |
| とりかえる | 1.1 | 取替える | N 1 ガ N 2 ヲ 姉と妹はスカートを取り替えた。 |
| | 1.2 | 取替える | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 彼は友だちとセーターを取り替えた。 |
| | 1.3 | 取替える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ト) 彼は乾電池を新しい物と取り替えた。 |
| とりくむ | 1.1 | 取組む | N 1 ガ 今日は両横綱が取り組む。 |
| | 1.2 | 取組む | N 1 ガ N 2 ト 小結が大関と取り組む。 |
| | 1.3 | 取組む | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は税金問題と取り組んでいる。 |
| とりけす | 1.1 | 取消す | N 1 ガ N 2 ヲ 警察は悪質ドライバーの免許を取り消す。 |
| とりしまる | 1.1 | 取締る | N 1 ガ N 2 ヲ 上司が部下の行動を取り締まっている。 |
| | 1.2 | 取締る | N 1 ガ N 2 ヲ 警察はスピード違反を取り締まった。 |
| | 1.3 | 取締る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 警察がドライバーを条例で取り締まる。 |
| とりのぞく | 1.1 | 取除く | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 カラ) N 4 ヲ 彼は庭の雑草を取り除いた。 |
| | 1.2 | 取除く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は御祓いで不安を取り除いた。 |
| とりまく | 1.1 | 取巻く | N 1 ガ N 2 ヲ 聴衆が演台を取り巻いた。 |
| | 1.2 | 取巻く | N 1 ガ N 2 ヲ ファンが人気俳優を取り巻いている。 |
| | 1.3 | 取巻く | N 1 ガ N 2 ヲ 厳しい国際情勢がわが国を取り巻いている。 |
| とる | 1.1 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ すりが彼の財布を取った。 |
| | 1.2 | 捕る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は銚で魚を獲った。 |
| | 1.3 | 取る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は打合せに十分な時間を取った。 |
| | 1.4 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 資料集めが意外に時間を取ってしまった。 |
| | 1.5 | 採る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は土手で土筆を採った。 |
| | 1.6 | 採る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) (N 4 ニ) 会社は大卒の新人を10人採った。 |
| | 1.7 | 採る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 政府はインフレに積極策を採った。 |
| | 1.8 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は電話器を取った。 |
| | 1.9 | 取る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は濡れ雑巾で壁の汚れを取った。 |
| | 1.10 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は祝賀会の指揮を取った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|------|------|-----|---|--|
| 見出し | 1.11 | 取る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は鎮痛剤で痛みを取った。 | |
| | 1.12 | 取る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は帽子を取った。 | |
| | 1.13 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は朝 8 時に食事を取る。 | |
| | 1.14 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は特急の座席指定券を取った。 | |
| | 1.15 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 会社は彼の言動を不謹慎と取った。 | |
| | 1.16 | 取る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女はノートにメモを取った。 | |
| | 1.17 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は運転免許を取った。 | |
| | 1.18 | 取る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 国は喫煙者から税金を取っている。 | |
| | 1.19 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が責任を取った。 | |
| | 1.20 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 教師はまず出席を取った。 | |
| | 1.21 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は新聞を 2 紙取っている。 | |
| | 1.22 | 取る | (N 1 ガ) N 2 カラ N 3 ヲ 島の人々は菜種から油を取る。 | |
| | 1.23 | 撮る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は植物の写真を撮った。 | |
| | 1.24 | 撮る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は北海道の自然を記録映画に撮った。 | |
| | 1.25 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ ミロのピーナスはヘレニズムの様式を取っている。 | |
| | 1.26 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ 今日の試合は今年のベストバウトだとの評判を取った。 | |
| | 1.27 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ヲ 彼は名より実を取った。 | |
| | 1.28 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は本棚の本を取った。 | |
| | 1.29 | 取る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) そのマンションは家賃を 1 5 万円取っている。 | |
| | とれる | 1.1 | 取れる | N 1 カラ N 2 ガ 佐渡の山から金が採れた。 |
| | | 1.2 | 取れる | (N 1 ガ) (N 2 デ) N 3 ガ その赤ん坊は薬で熱が取れた。 |
| | | 1.3 | 取れる | (N 1 ガ) (N 2 カラ) N 3 ガ 服からボタンが取れた。 |
| | | 1.4 | 取れる | (N 1 デ) N 2 ガ 長年の風雨で岩山の凸凹がすっかり取れた。 |
| | | 1.5 | 取れる | (N 1 ガ) N 2 ガ 指定券が取れた。 |
| | | 1.6 | 取れる | N 1 ガ N 2 ニ この文はそういう意味にも取れる。 |
| | なおす | 1.1 | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は壊れたテレビを直した。 |
| | | 1.2 | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は胸元のスカーフを直した。 |
| | | 1.3 | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は死ぬ思いでアルコール依存症を直した。 |
| | | 1.4 | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ 母親は娘の言葉遣いを直した。 |
| 1.5 | | 治す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は卵酒で風邪を直した。 | |
| 1.6 | | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はスペイン語を日本語に直した。 | |
| 1.7 | | 直す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ 彼は論文を日本語から英語に直した。 | |
| 1.8 | | 治す | N 1 ガ N 2 ヲ 奥さんの愛情が彼の病気を直した。 | |
| なおる | 1.1 | 治る | N 1 ガ N 2 ガ 愛犬の病気が治った。 | |
| | 1.2 | 直る | N 1 ガ 壊れた時計が直った。 | |
| | 1.3 | 直る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は本採用に直った。 | |
| ながす | 1.1 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 工場は汚水を川に流した。 | |
| | 1.2 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 カラ) (N 5 ニ / ヘ) 彼は汚水をバケツで川に流した。 | |
| | 1.3 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 幕府は多くの政治犯を八丈島に流した。 | |
| | 1.4 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 豪雨が家を流した。 | |
| | 1.5 | 流す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は頬に涙を流した。 | |
| | 1.6 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ 軍隊では部下が上官の背中を流す。 | |
| | 1.7 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼らは世間によからぬ噂を流した。 | |
| | 1.8 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは研究会を流した。 | |
| | 1.9 | 流す | N 1 ガ N 2 ヲ タクシーが市内を流している。 | |
| ながめる | 1.1 | 眺める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は娘の顔を眺めた。 | |
| | 1.2 | 眺める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は富士山を眺めた。 | |
| | 1.3 | 眺める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は事件の成り行きを客観的に眺めていた。 | |
| ながれる | 1.1 | 流れる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 笹舟が小川を上流から下流に流れている。 | |
| | 1.2 | 流れる | N 1 ガ N 2 ヲ / ニ 額に汗が流れた。 | |
| | 1.3 | 流れる | (N 1 ニ) N 2 ガ (N 3 カラ) 世間によからぬ噂が流れた。 | |
| | 1.4 | 流れる | N 1 ガ 時が流れた。 | |
| | 1.5 | 流れる | N 1 ガ 会が流れた。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|--|
| なく | 1.6 | 流れる | N 1 ガ N 2 ヲ / ニ 売れなくなったホステスが場末のキャバレーに流れた。 |
| | 1.1 | 泣く | N 1 ガ 赤ちゃんが泣いている。 |
| | 1.2 | 泣く | N 1 ガ N 2 ニ 投手は九回裏の失投に泣いた。 |
| なぐさめる | 1.3 | 鳴く | N 1 ガ 犬がワンワン鳴いている。 |
| | 1.1 | 慰める | N 1 ガ N 2 ヲ (S ト) 彼は泣いている子供をもう大丈夫だよと慰めた。 |
| | 1.2 | 慰める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は友達の不幸を慰めた。 |
| | 1.3 | 慰める | N 1 ガ N 2 ヲ 街路樹の緑が彼の心を慰めた。 |
| なげく | 1.4 | 慰める | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は音楽で心を慰めた。 |
| | 1.1 | 嘆く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は道徳の退廃を嘆いている。 |
| なげる | 1.1 | 投げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ ピッチャーはボールを一塁に投げた。 |
| | 1.2 | 投げる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は途中で試合を投げた。 |
| | 1.3 | 投げる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は仲間に疑問を投げた。 |
| なだめる | 1.1 | 宥める | N 1 ガ N 2 ヲ 母親が泣きわめく子供を宥めている。 |
| | 1.2 | 宥める | N 1 ガ N 2 ヲ 母は父の怒りを宥めた。 |
| なでる | 1.1 | 撫でる | N 1 ガ N 2 ヲ 親は子供の頭を撫でた。 |
| | 1.2 | 撫でる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は顎ひげを撫でた。 |
| | 1.3 | 撫でる | N 1 ガ N 2 ヲ そよ風が頬を撫でた。 |
| なめる | 1.1 | 嘗める | N 1 ガ N 2 ヲ 猫が傷口を舐めている。 |
| | 1.2 | 嘗める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は飴を嘗めている。 |
| | 1.3 | 嘗める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は散々苦杯を舐めてきた。 |
| | 1.4 | 嘗める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は教師を嘗めている。 |
| | 1.5 | 嘗める | N 1 ガ N 2 ヲ 火は町の北側一帯を嘗めつくした。 |
| なやむ | 1.1 | 悩む | N 1 ガ N 2 ニ / デ 彼は恋愛問題で悩んでいる。 |
| ならう | 1.1 | 倣う | N 1 ガ N 2 ニ 子は親に倣う。 |
| | 1.2 | 倣う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 委員会は式次第を前例に倣った。 |
| | 1.3 | 習う | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) N 3 ヲ 彼はイギリス人に英語を習った。 |
| ならず | 1.1 | 鳴す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は思いきってその家のベルを鳴らした。 |
| | 1.2 | 鳴す | N 1 ガ N 2 ヲ 猫が喉を鳴らしている。 |
| | 1.3 | 鳴す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) その大泥棒は悪名を天下に鳴らした。 |
| | 1.4 | 鳴す | N 1 ガ N 2 デ 彼は高校時代は名投手で鳴らした。 |
| | 1.5 | 鳴す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は同僚にいつも不平を鳴らしている。 |
| ならぶ | 1.1 | 並ぶ | (N 1 ニ) N 2 ガ 両側に古い建物が並んでいる。 |
| | 1.2 | 並ぶ | (N 1 ニ) N 2 ガ 校庭に生徒達が並んだ。 |
| | 1.3 | 並ぶ | N 1 ガ N 2 ト 奈良は京都と並ぶ観光都市である。 |
| ならべる | 1.1 | 並べる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 彼女はスヌーピーの人形をウッドストックの人形と並べた。 |
| | 1.2 | 並べる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は品物を店先に並べた。 |
| | 1.3 | 並べる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は名前を五十音順に並べた。 |
| | 1.4 | 並べる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は不平を並べた。 |
| なりたつ | 1.1 | 成立つ | N 1 ガ N 2 カラ 水は酸素と水素から成り立っている。 |
| | 1.2 | 成立つ | N 1 ガ (N 2 デ) こんな給料では生活が成り立たない。 |
| なる | 1.1 | なる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は弁護士になった。 |
| | 1.2 | なる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は胃炎になってしまった。 |
| | 1.3 | なる | 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は甥の身元保証人になった。 |
| | 1.4 | なる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 水是水蒸気になって蒸発する。 |
| | 1.5 | なる | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ 彼は課長から部長になった。 |
| | 1.6 | なる | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ / ト 彼はジョギングが習慣になった。 |
| | 1.7 | なる | N 1 ガ N 2 ニ 彼の財産が灰になってしまった。 |
| | 1.8 | なる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼らの出発は6時になった。 |
| | 1.9 | なる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は就職する事になった。 |
| | 1.10 | なる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 彼は今年20才になる。 |
| | 1.11 | なる | N 1 ガ N 2 ニ この草は解熱剤になる。 |
| | 1.12 | なる | (N 1 ガ) N 2 ニ ようやく春になった。 |
| | 1.13 | なる | N 1 ガ N 2 ト N 3 ニ 彼は上司と口論になった。 |
| | 1.14 | なる | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ 私は彼女が好きになった。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-----|------|-----|---|
| | 1.15 | なる | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ 父の会社は経営が上向きになってきた。 |
| | 1.16 | なる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は不機嫌になった。 |
| | 1.17 | 成る | N 1 ガ N 2 ガ その店は明日新装がなる。 |
| | 1.18 | 成る | N 1 ガ N 2 カラ 水は酸素と水素から成る。 |
| | 1.19 | 成る | N 1 ガ N 2 ニ この刀は名工の手になるものだ。 |
| | 1.20 | 生る | (N 1 ニ) N 2 ガ 庭の公孫樹に銀杏がなった。 |
| なる | 2.1 | 鳴る | N 1 ガ 授業の終わりにベルが鳴る。 |
| | 2.2 | 鳴る | N 1 ガ N 2 ガ 私はお腹が鳴ってしまった。 |
| | 2.3 | 鳴る | N 1 ガ N 2 ニ 名声が天下に鳴る。 |
| なれる | 1.1 | 馴れる | N 1 ガ N 2 ニ 豹は人に馴れない。 |
| | 1.2 | 狎れる | N 1 ガ N 2 ニ 子供が先生に狎れて尊敬しない。 |
| | 1.3 | 慣れる | N 1 ガ N 2 ニ 靴が足に慣れてきた。 |
| | 1.4 | 慣れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は貧困に慣れている。 |
| | 1.5 | 熟れる | N 1 ガ (N 2 ガ) みそは3年もおくと味が熟れる。 |
| にあう | 1.1 | 似合う | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 母には着物が似合う |
| | 1.2 | 似合う | N 1 ガ N 2 ニ このシャツはそのスーツには似合わない。 |
| におう | 1.1 | 匂う | N 1 ガ 桃の花が匂う。 |
| にがす | 1.1 | 逃す | N 1 ガ N 2 ラ その事務員は昇進のチャンスを逃がした。 |
| | 1.2 | 逃す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ラ (N 4 ニ / ヘ) 子供は籠から鳥を空へ逃した。 |
| にぎる | 1.1 | 握る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼は手にボールを握った。 |
| | 1.2 | 握る | N 1 ガ N 2 ラ 彼は久しぶりに絵筆を握った。 |
| | 1.3 | 握る | N 1 ガ N 2 ラ 彼は手をゆるく握った。 |
| | 1.4 | 握る | N 1 ガ N 2 ラ 彼はついに政権を握った。 |
| | 1.5 | 握る | N 1 ガ N 2 ラ 彼女はおにぎりを握った。 |
| にくむ | 1.1 | 憎む | N 1 ガ N 2 ラ 彼女は夫を憎んでいる。 |
| にげる | 1.1 | 逃げる | N 1 ガ N 2 カラ 虎が檻から逃げた。 |
| | 1.2 | 逃げる | N 1 ガ (N 2 ラ) N 3 ニ / ヘ 犯人は夜道を山の方へ逃げた。 |
| | 1.3 | 逃げる | N 1 ガ N 2 カラ 彼は困難な状況から逃げた。 |
| | 1.4 | 逃げる | N 1 ガ N 2 ラ リーダーは嫌な仕事を逃けている。 |
| にごる | 1.1 | 濁る | N 1 ガ (N 2 ガ) この湖は水が濁っている。 |
| | 1.2 | 濁る | N 1 ガ (N 2 ニ) 「く」が「ぐ」に濁る。 |
| にじむ | 1.1 | 滲む | N 1 ガ N 2 デ 地図がところどころ染みで滲んでいる。 |
| | 1.2 | 滲む | N 1 ニ N 2 ガ 用紙にインクが滲んでいる。 |
| | 1.3 | 滲む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼の額に汗が滲んでいる。 |
| になう | 1.1 | 担う | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼は籠を肩に担った。 |
| | 1.2 | 担う | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼は国中の期待を双肩に担っている。 |
| にぶる | 1.1 | 鈍る | N 1 ガ (N 2 デ) 刀の切れ味が血で鈍った。 |
| | 1.2 | 鈍る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は練習不足で腕が鈍った。 |
| | 1.3 | 鈍る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ その工場はストで製品の出荷が鈍った。 |
| にらむ | 1.1 | 睨む | N 1 ガ N 2 ラ 彼は対戦相手を睨んだ。 |
| | 1.2 | 睨む | N 1 ガ N 2 ラ 彼は政治情勢を睨んでいる。 |
| | 1.3 | 睨む | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ト 彼は彼女の出身地を関西と睨んでいる。 |
| にる | 1.1 | 煮る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼女は鍋で大根を煮た。 |
| にる | 2.1 | 似る | N 1 ガ (N 2 ガ) 彼と彼女は生活環境が似ている。 |
| | 2.2 | 似る | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 ニ / ト 彼は体つきが父親に似ている。 |
| | 2.3 | 似る | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 ヨリ N 4 ニ 彼は性格が兄より姉に似ている。 |
| ぬう | 1.1 | 縫う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 母がミシンで洋服を縫っている。 |
| | 1.2 | 縫う | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 母が黄八丈を着物に縫ってくれた。 |
| | 1.3 | 縫う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ (N 4) 医者は彼の頭を六針縫った。 |
| | 1.4 | 縫う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼女は刺繍針で綺麗な刺繍を縫った。 |
| | 1.5 | 縫う | N 1 ガ N 2 ラ 矢が鎧を縫った。 |
| | 1.6 | 縫う | N 1 ガ N 2 ラ 彼は人ごみを縫って歩いていった。 |
| ぬく | 1.1 | 抜く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ラ 彼女はタイヤから空気を抜いた。 |
| | 1.2 | 抜く | N 1 ガ N 2 ラ 彼はきのう昼食を抜いた。 |
| | 1.3 | 抜く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼らはドリルで壁を抜いた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|-----|---|
| | 1.4 | 抜く | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 日本は先端技術でアメリカを抜いた。 |
| | 1.5 | 抜く | N 1 ガ N 2 ヲ その山は周辺の群峰を抜いている。 |
| | 1.6 | 抜く | N 1 ガ N 2 ヲ ボールは左中間を抜いた。 |
| ぬぐ | 1.1 | 脱ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 子供が洋服を脱いだ。 |
| | 1.2 | 脱ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 蛇が皮を脱いだ。 |
| ぬぐう | 1.1 | 拭う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は手で埃を拭った。 |
| | 1.2 | 拭う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は雑巾で足を拭った。 |
| | 1.3 | 拭う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はその言葉で周りの疑いを拭った。 |
| ぬける | 1.1 | 抜ける | N 1 ガ ナイフの柄が抜けた。 |
| | 1.2 | 抜ける | (N 1 ガ) N 2 ガ (N 3) その男は前歯が1本抜けている。 |
| | 1.3 | 抜ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 太郎は花子の言葉で気が抜けてしまった。 |
| | 1.4 | 抜ける | N 1 ガ N 2 ガ この風船は空気が抜けてしまった。 |
| | 1.5 | 抜ける | N 1 ガ N 2 ヲ 電車がトンネルを抜けた。 |
| | 1.6 | 抜ける | N 1 ガ N 2 カラ 彼はその仕事から抜けた。 |
| | 1.7 | 抜ける | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ この道は神社の裏手へ抜ける。 |
| | 1.8 | 抜ける | N 1 ニ / カラ N 2 ガ 彼の話には肝心な所が抜けている。 |
| ぬすむ | 1.1 | 盗む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼等は人目を盗んで会っていた。 |
| | 1.2 | 盗む | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 昨夜泥棒が金庫から金を盗んでいった。 |
| | 1.3 | 盗む | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ スリが彼から財布を盗んだ。 |
| | 1.4 | 盗む | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は他人のデザインを盗んだ。 |
| ぬらす | 1.1 | 濡す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / デ) 彼はお金を水に濡してしまった。 |
| | 1.2 | 濡す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / デ 彼女は服を夜露に濡した。 |
| | 1.3 | 濡す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / デ) 彼は手を水に濡した。 |
| | 1.4 | 濡す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女は頬を涙で濡した。 |
| ぬる | 1.1 | 塗る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ (N 4 デ) 彼女は毎朝顔にファンデーションを塗る。 |
| | 1.2 | 塗る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は壁を好きな色で塗った。 |
| ぬれる | 1.1 | 濡れる | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 服が夜露で濡れてしまった。 |
| | 1.2 | 濡れる | (N 1 ガ) N 2 ガ (N 3 デ) 彼女は髪が夜露で濡れた。 |
| ねがう | 1.1 | 願う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 太郎は弟の合格を天神様に願った。 |
| | 1.2 | 願う | N 1 ガ スト (N 2 ニ) 彼はどうか試験に合格しますようにと天神様に願った。 |
| | 1.3 | 願う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 女子学生が企業に男女平等を願う。 |
| ねじる | 1.1 | 捻じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は後ろにある物を取ろうとして体を捻じた。 |
| | 1.2 | 捻じる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 ニ) 彼は水道の栓を右に捻じた。 |
| ねたむ | 1.1 | 妬む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の成功を妬んだ。 |
| ねっする | 1.1 | 熱する | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 生徒達はアルコールランプで鉄を熱した。 |
| | 1.2 | 熱する | (N 1 ガ) N 2 ヲ 太陽が大地を熱した。 |
| ねばる | 1.1 | 粘る | N 1 ガ この餅はよく粘る。 |
| | 1.2 | 粘る | N 1 ガ 彼はあきらめずに最後まで粘った。 |
| | 1.3 | 粘る | N 1 ガ N 2 デ N 3 彼はコーヒー1杯で3時間粘った。 |
| ねむる | 1.1 | 眠る | N 1 ガ (N 2 デ) 彼は睡眠薬でぐっすり眠った。 |
| | 1.2 | 眠る | N 1 ガ (N 2 ニ) 先祖がこの墓地に眠っている。 |
| | 1.3 | 眠る | N 1 ニ N 2 ガ 海底に資源が眠っている。 |
| ねらう | 1.1 | 狙う | N 1 ガ N 2 ヲ ライオンが獲物を狙っている。 |
| | 1.2 | 狙う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は優勝を狙っている。 |
| | 1.3 | 狙う | N 1 ガ N 2 ヲ 事務長は事務経費の節減を狙った。 |
| ねる | 1.1 | 寝る | N 1 ガ N 2 ニ 彼はベッドに寝た。 |
| | 1.2 | 寝る | N 1 ガ (N 2 デ) 髪の毛が寝ている。 |
| | 1.3 | 寝る | N 1 ガ N 2 彼はベッドで寝ている。 |
| | 1.4 | 寝る | N 1 ガ それでは資本が寝てしまう。 |
| | 1.5 | 寝る | N 1 ガ N 2 ト 彼は夕べ若い女と寝た。 |
| ねる | 2.1 | 練る | N 1 ガ N 2 ヲ 委員会は選挙対策を練っている。 |
| | 2.2 | 練る | N 1 ガ N 2 ヲ 刀鍛冶が刀を練っている。 |
| | 2.3 | 練る | N 1 ガ N 2 ヲ 祭りの行列が街を練って歩いた。 |
| のこす | 1.1 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は海外勤務のために家族を日本に残す。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|-----|-----|-----|---|--|
| | 1.2 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は弟を留守番に残した。 | |
| | 1.3 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は部下を警備に残した。 | |
| | 1.4 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は昼御飯を少し残した。 | |
| | 1.5 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ 我々は試合日まであと5日を残している。 | |
| | 1.6 | 残す | N 1 ガ N 2 ヲ この辺りは昭和初期の雰囲気を残している。 | |
| | 1.7 | 遺す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は妻に莫大な財産を遺した。 | |
| | 1.8 | 残す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は最後の一球に悔いを残した。 | |
| | のこる | 1.1 | 残る | N 1 ガ N 2 ニ 学生が会場に残った。 |
| 1.2 | | 残る | N 1 ガ (N 2 ニ) 金が財布に残っている。 | |
| 1.3 | | 残る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ 彼女は子供の頃の面影が残っている。 | |
| 1.4 | | 残る | N 1 ガ N 2 ニ 彼はトップグループに残った。 | |
| 1.5 | | 残る | N 1 ガ N 2 ニ 私の姉はまだ実家に残っている。 | |
| 1.6 | | 残る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の名は永く人々の心に残った。 | |
| のせる | 1.1 | 乗せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 運転手は客を車に乗せた。 | |
| | 1.2 | 乗せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 父親が息子を膝に乗せた。 | |
| | 1.3 | 乗せる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 外交官は相手を自分のペースに乗せた。 | |
| | 1.4 | 載せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 企業は求人広告を新聞に載せた。 | |
| | 1.5 | 乗せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 琵琶法師は平家物語を琵琶の調べに乗せて吟じた。 | |
| のぞく | 1.1 | 除く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 彼は知らない人の名前を名簿から除いた。 | |
| | のぞく | 2.1 | 覗く | N 1 カラ N 2 ガ 彼のポケットからハンカチが覗いていた。 |
| | | 2.2 | 覗く | N 1 ガ N 2 ヲ 変な男が家の中を覗いていた。 |
| | | 2.3 | 覗く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は望遠鏡を覗いた。 |
| | | 2.4 | 覗く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は暇があると古本屋を覗く。 |
| | | 2.5 | 覗く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼女は崖の上から谷底を覗いた。 |
| | | 2.6 | 覗く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は何かにつけ他人の私生活を覗く。 |
| のぞむ | 1.1 | 望む | N 1 ガ N 2 ヲ 国民は政府の防災対策を望んでいる。 | |
| | 1.2 | 望む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 国民は政府に防災対策を望んでいる。 | |
| | 1.3 | 望む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 両親は息子の嫁に良家の子女を望んでいる。 | |
| | 1.4 | 望む | N 1 ガ N 2 ヲ 誰もが平和を望んでいる。 | |
| | 1.5 | 望む | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は窓から海を望んだ。 | |
| | 1.6 | 臨む | N 1 ガ N 2 ニ 知事が開会式に来賓として臨んだ。 | |
| | 1.7 | 臨む | N 1 ガ N 2 ニ 彼は難局に臨んでいる。 | |
| | 1.8 | 臨む | N 1 ガ N 2 ニ 部屋が海に臨んでいる。 | |
| | 1.9 | 望む | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 山荘は正面に森を望んでいる。 | |
| のばす | 1.1 | 伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はひげを伸ばしている。 | |
| | 1.2 | 伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 我々は今年度の売り上げを5倍に伸ばした。 | |
| | 1.3 | 伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) その暴力団は勢力を関東に伸ばした。 | |
| | 1.4 | 伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼はペンキをシンナーで伸ばした。 | |
| | 1.5 | 伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は服のしわをアイロンできれいに伸ばした。 | |
| | 1.6 | 伸ばす | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼女は窓から手を伸ばした。 | |
| | 1.7 | 延ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 委員会は決定を翌日に延ばした。 | |
| | 1.8 | 延ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は出発を三時間延ばした。 | |
| のびる | 1.1 | 伸びる | N 1 ガ (N 2) 身長が5センチ伸びた。 | |
| | 1.2 | 伸びる | N 1 ガ このクリームはよく伸びる。 | |
| | 1.3 | 伸びる | N 1 ガ (N 2) 店の売り上げが10%伸びた。 | |
| | 1.4 | 延びる | N 1 ガ N 2 ニ 会議が来週に延びた。 | |
| | 1.5 | 延びる | N 1 ガ (N 2) 会議が1時間延びた。 | |
| | 1.6 | 延びる | N 1 ガ N 2 ニ 鉄道はその都市に延びた。 | |
| | 1.7 | 伸びる | N 1 ガ そばが伸びる。 | |
| | 1.8 | 伸びる | N 1 ガ (N 2 デ) 彼は旅の疲れで伸びた。 | |
| のべる | 1.1 | 述べる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ (ス ト) N 4 ヲ 彼は電話で友人にありがとうと礼を述べた。 | |
| のぼる | 1.1 | 上る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼らは坂道を上った。 | |
| | 1.2 | 登る | N 1 ガ N 2 ニ 彼女は穂高岳に登った。 | |
| | 1.3 | 昇る | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 ニ) 月が中天に昇る。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 | |
|------|------|-----|--|--------------------------|-------------|
| | 1.4 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ | 事業総額は1億円に上った。 | |
| | 1.5 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼らの事が噂に上った。 | |
| | 1.6 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ | 秀吉は関白の位に上った。 | |
| | 1.7 | 上る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ | 祖父は単身東京に上った。 | |
| | のむ | 1.1 | 飲む | N 1 ガ N 2 ヲ | 父はよく胃腸薬を飲む。 |
| | | 1.2 | 呑む | N 1 ガ N 2 ヲ | 波が船を呑んだ。 |
| 1.3 | | 呑む | N 1 ガ N 2 ヲ | そのチームは優勝戦独特の雰囲気呑まれてしまった。 | |
| 1.4 | | 呑む | N 1 ガ N 2 ヲ | 国はゲリラ側の要求を呑んだ。 | |
| 1.5 | | 呑む | N 1 ガ N 2 ヲ | 恨みを呑む。 | |
| のる | 1.1 | 乗る | (N 1 ニ) N 2 ガ | この紙にはインクがよく乗る。 | |
| | 1.2 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は毎日自転車に乗る。 | |
| | 1.3 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は踏み台に乗った。 | |
| | 1.4 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は友達の相談に乗った。 | |
| | 1.5 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は彼女の甘い言葉に乗った。 | |
| | 1.6 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は最近調子に乗っている。 | |
| | 1.7 | 載る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼の写真が新聞に載った。 | |
| | 1.8 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ | 聴取者の声が電波に乗った。 | |
| | 1.9 | 乗る | N 1 ニ N 2 ガ | 書類の上に辞書が乗っている。 | |
| | 1.10 | 乗る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ | 彼女は家事には気が乗らない。 | |
| はいる | 1.1 | 入る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ | 彼は後ろの入口から教室に入った。 | |
| | 1.2 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | 冷蔵庫の中にケーキが入っている。 | |
| | 1.3 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ | 彼女は芸能界に入った。 | |
| | 1.4 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ N 3 | この会場には観客が5万人入る。 | |
| | 1.5 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | このコーヒーには砂糖が入っています。 | |
| | 1.6 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | 研究所に大型コンピュータが入った。 | |
| | 1.7 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | 本屋に新刊本が入った。 | |
| | 1.8 | 入る | N 1 ガ / ニ (N 2 カラ) N 3 ガ (N 4) | 彼に加害者から示談金が100万円入った。 | |
| | 1.9 | 入る | N 1 ガ / ニ N 2 デ N 3 ガ (N 4) | 彼はアパート経営で家賃が月々30万円入る。 | |
| | 1.10 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | 部屋に暖房が入った。 | |
| | 1.11 | 入る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ | すきま風が部屋に入った。 | |
| | 1.12 | 入る | N 1 ガ | お茶が入りました。 | |
| | 1.13 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | 魚の腹に包丁が入った。 | |
| | 1.14 | 入る | N 1 ガ / ニ N 2 ガ | 千円札に透かしが入っている。 | |
| | 1.15 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ | 鯨は哺乳類に入る。 | |
| | 1.16 | 入る | N 1 ニ N 2 ガ | この答申には彼の意見がかなり入っている。 | |
| | 1.17 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ | 噂が彼女の耳に入った。 | |
| | 1.18 | 入る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ガ | 彼は勉強に身が入らない。 | |
| | 1.19 | 入る | N 1 カラ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ガ | 学校から父兄に連絡が入った。 | |
| | 1.20 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は独走態勢に入った。 | |
| | 1.21 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ | 会議はまとめの段階に入った。 | |
| | 1.22 | 入る | N 1 ガ N 2 ニ | 彼はけんかの仲裁に入った。 | |
| はう | 1.1 | 這う | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) | 蛇が床を這っている。 | |
| | 1.2 | 這う | N 1 ガ N 2 ニ | つたが壁に這っている。 | |
| はえる | 1.1 | 生える | N 1 ニ N 2 ガ | 庭に雑草が生えた。 | |
| | 1.2 | 生える | N 1 ニ N 2 ガ | 赤ん坊に歯が生えてきた。 | |
| | 1.3 | 生える | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ガ | 彼は顎にひげが生えている。 | |
| はがす | 1.1 | 剥す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ | 彼女は足からサロンパスを剥した。 | |
| | 1.2 | 剥す | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 カラ) N 4 ヲ | 彼はやかんの湯気で封筒から切手を剥した。 | |
| はかどる | 1.1 | 捗る | N 1 ガ (N 2 デ) | OAの導入で仕事が捗る。 | |
| はかる | 1.1 | 計る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は子猫の重さを計っている。 | |
| | 1.2 | 計る | N 1 ガ N 2 ヲ | 対戦者は相手の意図を計りかねた。 | |
| | 1.3 | 図る | N 1 ガ N 2 ヲ | 犯人は逃亡を図った。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|-----|--|
| | 1.4 | 謀る | N 1 ガ N 2 ヲ 太郎は友人を謀った。 |
| | 1.5 | 諮る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 文相は教育の改善案を専門委員会に諮った。 |
| はがれる | 1.1 | 剥れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 カラ ポスターが雨で壁から剥れた。 |
| はく | 1.1 | 掃く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女はほうきでごみを掃いた。 |
| | 1.2 | 掃く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はほうきで玄関を掃いた。 |
| | 1.3 | 掃く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼女は頬に白粉を掃いた。 |
| はく | 2.1 | 穿く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼女はいつもスカートを穿いている。 |
| | 2.2 | 履く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はいつも下駄を履いている。 |
| | 2.3 | 佩く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) その武者人形は腰に長い太刀を佩いていた。 |
| はく | 3.1 | 吐く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は食べた物を吐いた。 |
| | 3.2 | 吐く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 三原山が噴火口から噴煙を吐いている。 |
| | 3.3 | 吐く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼がついに弱音を吐いた。 |
| はげます | 1.1 | 励ます | N 1 ガ N 2 ヲ 観客は選手を励ました。 |
| はげむ | 1.1 | 励む | N 1 ガ N 2 ニ 彼はスポーツに励んでいる。 |
| はこぶ | 1.1 | 運ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) (N 5 デ) オーストラリア政府はコアラを日本へチャーター機で運んだ。 |
| | 1.2 | 運ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 風が匂いを海から岸へ運んだ。 |
| | 1.3 | 運ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 議長は話を最終的な結論へ運んだ。 |
| | 1.4 | 運ぶ | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 話がどンドン都合のいい方向に運んでいる。 |
| はさまる | 1.1 | 挟る | N 1 ガ N 2 ニ チーズがパンに挟まっている。 |
| | 1.2 | 挟る | N 1 ガ N 2 ニ 子供の指がドアに挟まった。 |
| | 1.3 | 挟る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼は歯に食べ物が挟まった。 |
| | 1.4 | 挟る | N 1 ガ N 2 ニ その国は二大国の間に挟まっている。 |
| はさむ | 1.1 | 挟む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼が葉を本の間に挟んだ。 |
| | 1.2 | 挟む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はドアに指を挟んだ。 |
| | 1.3 | 挟む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は左脇に体温計を挟んだ。 |
| | 1.4 | 挟む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は箸で豆を挟んだ。 |
| | 1.5 | 挟む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 男は女の話に言葉を挟んだ。 |
| | 1.6 | 挟む | (N 1 ガ) N 2 ヲ 道を挟んで二軒の家が建っている。 |
| | 1.7 | 挟む | N 1 ガ N 2 ヲ 会議は休憩を挟んで5時間かかった。 |
| はじく | 1.1 | 弾く | N 1 ガ N 2 ヲ 水鳥の羽は水を弾く。 |
| | 1.2 | 弾く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は指でギターを弾いた。 |
| はじまる | 1.1 | 始る | N 1 ガ 一日が始まる。 |
| | 1.2 | 始る | N 1 ガ N 2 ニ / デ お別れ会は主賓の挨拶で始まった。 |
| | 1.3 | 始る | N 1 ガ N 2 ニ 我々の友情はバりに始まった。 |
| | 1.4 | 始る | N 1 ガ N 2 カラ その争いは誤解から始まった。 |
| はじめる | 1.1 | 始める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは食事を始めた。 |
| | 1.2 | 始める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 教師が授業を第5課から始めた。 |
| はしる | 1.1 | 走る | N 1 ガ (N 2 ヲ) (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼はマラソンでトップを走っている。 |
| | 1.2 | 走る | N 1 ガ N 2 ヲ / ニ 稲妻が夜空を走った。 |
| | 1.3 | 走る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は金策に走った。 |
| | 1.4 | 走る | N 1 ガ N 2 ニ 彼の友人は悪の道に走った。 |
| はずす | 1.1 | 外す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は錠前を外した。 |
| | 1.2 | 外す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼は壁から絵を外した。 |
| | 1.3 | 外す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は彼の視線を外した。 |
| | 1.4 | 外す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼はやっと彼女から視線を外した。 |
| | 1.5 | 外す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 監督は彼を先発メンバーから外した。 |
| | 1.6 | 外す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は私用で席を外している。 |
| はずむ | 1.1 | 弾む | N 1 ガ このゴムまりはよく弾む。 |
| | 1.2 | 弾む | N 1 ガ N 2 ガ 彼は息が弾んでいる。 |
| | 1.3 | 弾む | N 1 ガ N 2 ガ 彼は心が弾んでいる。 |
| | 1.4 | 弾む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はウェ이터にチップを弾んだ。 |
| はずれる | 1.1 | 外れる | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 デ) うちの電話は地震で受話器が外れた。 |
| | 1.2 | 外れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼は当てが外れた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 | |
|------|------|-----|--|--------------------------|
| | 1.3 | 外れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼の歌は調子が外れている。 | |
| | 1.4 | 外れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼のやり方は人の道に外れる。 | |
| | 1.5 | 外れる | N 1 ガ N 2 ヲ / カラ 人工衛星が軌道を外れた。 | |
| | 1.6 | 外れる | N 1 ガ N 2 ニ / カラ 彼の発言は議題から外れている。 | |
| | 1.7 | 外れる | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ / カラ 彼は委員選挙で選に外れた。 | |
| はたす | 1.1 | 果す | N 1 ガ N 2 ヲ 政治家は公約を果さない。 | |
| | はたらく | 1.1 | 働く | N 1 ガ 彼は工場ですっと働いている。 |
| | | 1.2 | 働く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は何度もすりを働いた。 |
| はなす | 1.3 | 働く | N 1 ガ (N 2 ニ) 地球には引力が働いている。 | |
| | 1.1 | 話す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ (N 4 デ) 彼は用件を先方に電話で話した。 | |
| | 1.2 | 話す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは貿易摩擦問題を話した。 | |
| はなす | 1.3 | 話す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は英語をうまく話す。 | |
| | 1.4 | 話す | N 1 ガ N 2 ニ ス ト 彼は母に明日出発すると話した。 | |
| | 2.1 | 離す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 彼はストーブを壁から離した。 | |
| はなす | 2.2 | 離す | N 1 ガ N 2 ヲ 生徒達は机と机を離した。 | |
| | 3.1 | 放す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼はハンドルから手を放した。 | |
| はなす | 3.2 | 放す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は小鳥を鳥籠から放してやった。 | |
| | 1.1 | 離れる | N 1 ガ (N 2 ガ) N 3 姉と妹は年齢が5才離れている。 | |
| はなれる | 1.2 | 離れる | N 1 ガ N 2 カラ 話が本筋から離れている。 | |
| | 1.3 | 離れる | N 1 ガ N 2 ヲ / カラ 彼は田舎を離れた。 | |
| | 1.4 | 離れる | N 1 ガ N 2 ト 彼は家族と離れて一人で暮している。 | |
| | 1.1 | 跳ねる | N 1 ガ 馬が跳ねた。 | |
| はねる | 1.2 | 跳ねる | N 1 ガ 油が跳ねた。 | |
| | 1.3 | 跳ねる | N 1 ガ 栗が跳ねた。 | |
| | 1.4 | 跳ねる | N 1 ガ 芝居は10時に跳ねた。 | |
| | 2.1 | 刎ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 役人が囚人の首を刎ねる。 | |
| はねる | 2.2 | 撥ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 急行電車が子供を撥ねた。 | |
| | 2.3 | 撥ねる | N 1 ガ N 2 ヲ 係員が不良品を撥ねた。 | |
| | 1.1 | 省く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は細かい所を省いた。 | |
| はぶく | 1.2 | 省く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は時間の無駄を省いた。 | |
| | 1.1 | 嵌る | N 1 ガ (N 2 ニ) ボタンがシャツに嵌っている。 | |
| はまる | 1.2 | 嵌る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 自転車が溝に嵌ってしまった。 | |
| | 1.3 | 嵌る | N 1 ガ N 2 ニ 太郎が次郎の計略に嵌った。 | |
| | 1.4 | 嵌る | N 1 ガ N 2 ニ あの役者はハムレットの役に嵌っている。 | |
| | 1.1 | 嵌める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼女は薬指に指輪を嵌めている。 | |
| はめる | 1.2 | 嵌める | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 太郎は窓に網戸を嵌めた。 | |
| | 1.3 | 嵌める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ スパイが敵をわなに嵌めた。 | |
| | 1.1 | はやる | N 1 ガ 今年の夏はミニスカートがはやっている。 | |
| はやる | 1.2 | はやる | N 1 ガ この店はとてもはやっている。 | |
| | 1.3 | はやる | (N 1 デ) N 2 ガ 冬の寒さでインフルエンザがはやっている。 | |
| | 1.1 | 払う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は庭の垣根を払った。 | |
| はらう | 1.2 | 払う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 武士は刀を右に払った。 | |
| | 1.3 | 払う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は下宿を払った。 | |
| | 1.4 | 払う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 協会が職員に給料を払った。 | |
| | 1.5 | 払う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はその問題に注意を払った。 | |
| | 1.1 | 張る | N 1 ニ N 2 ガ 湖に氷が張った。 | |
| はる | 1.2 | 張る | (N 1 ニ) N 2 ガ 物置にクモの巣が張っていた。 | |
| | 1.3 | 張る | N 1 ガ N 2 ガ 彼は仕事で肩が張った。 | |
| | 1.4 | 張る | N 1 ガ N 2 ガ この壺は値が張る。 | |
| | 1.5 | 張る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は出入口に幕を張った。 | |
| | 1.6 | 張る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は浴槽に水を張った。 | |
| | 1.7 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は肘を張っている。 | |
| | 1.8 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はいつも意地を張る。 | |
| | 1.9 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 家康は三方ヶ原に陣を張った。 | |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-------------------------------------|--|
| | 1.10 | 貼る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は壁にポスターを貼った。 |
| | 1.11 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 教師が生徒の横つらを張った。 |
| | 1.12 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 刑事が容疑者を張っている。 |
| | 1.13 | 張る | N 1 ガ N 2 ヲ 老大工が天井を張った。 |
| はれる | 1.1 | 晴れる | (N 1 ガ) 霧が晴れた。 |
| | 1.2 | 晴れる | N 1 ガ N 2 ガ 彼はやっと心の曇りが晴れた。 |
| はんする | 1.1 | 反する | N 1 ガ N 2 ニ 彼の行為は規則に反する。 |
| | 1.2 | 反する | N 1 ガ N 2 ニ 調査結果は初めの予測に反していた。 |
| ひえる | 1.1 | 冷える | (N 1 デ) N 2 ガ 寒さでエンジンが冷えた。 |
| | 1.2 | 冷える | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は寒さで体が冷えた。 |
| | 1.3 | 冷える | N 1 ガ 今夜は冷える。 |
| | 1.4 | 冷える | (N 1 デ) N 2 ガ その事件で彼女の気持ちが冷えた。 |
| ひかえる | 1.1 | 控える | N 1 ガ N 2 ニ 盲導犬は主人の横に控えている。 |
| | 1.2 | 控える | N 1 ガ N 2 ニ 彼の背後には暴力団が控えている。 |
| | 1.3 | 控える | N 1 ガ N 2 ヲ 政府は即断を控えた。 |
| | 1.4 | 控える | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は手帳に彼女の電話番号を控えた。 |
| | 1.5 | 控える | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は試験を3日後に控えている。 |
| ひかる | 1.1 | 光る | N 1 ガ (N 2 ニ) 夜空に星が光っている。 |
| | 1.2 | 光る | N 1 ガ (N 2 ニ) 猫の目が暗闇にららんと光っている。 |
| | 1.3 | 光る | N 1 ガ 新入社員の中で彼女はとくに光っている。 |
| ひきいる | 1.1 | 率いる | N 1 ガ N 2 ヲ 将軍自らが全軍を率いた。 |
| ひきうける | 1.1 | 引受ける | N 1 ガ N 2 ヲ 私が宣伝を引き受けた。 |
| | 1.2 | 引受ける | N 1 ガ N 2 ヲ 私が敵を一手に引き受ける。 |
| ひきおこす | 1.1 | 引起す | N 1 ガ N 2 ヲ 放射能が遺伝子の変異を引き起した。 |
| ひきかえす | 1.1 | 引返す | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 彼は急いで学校から家へ引き返した。 |
| | 1.2 | 引返す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は山道を1キロほど引き返した。 |
| ひきとる | 1.1 | 引取る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はその場を早々に引き取った。 |
| | 1.2 | 引取る | N 1 ガ N 2 ヲ 母がぼくの話を引き取って説明してくれた。 |
| | 1.3 | 引取る | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼は施設から友人の遺児を引き取った。 |
| ひきのばす | 1.1 | 引伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は撮った写真を等身大に引き伸ばした。 |
| | 1.2 | 引伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼はまがった針金をペンチで引き伸ばした。 |
| | 1.3 | 引伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 彼は文章を四行引き伸ばした。 |
| | 1.4 | 引伸ばす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3) 議長は審議を5分引き伸ばした。 |
| ひく | 1.1 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼女はカーテンを手前に引いた。 |
| | 1.2 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が老人の手を引いた。 |
| | 1.3 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は自宅に電話を引いた。 |
| | 1.4 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は彼女の気を惹いた。 |
| | 1.5 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は漱石の言葉を例に引いた。 |
| | 1.6 | 引く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は自分の作品に漱石の言葉を引いた。 |
| | 1.7 | 引く | (N 1 ガ) N 2 カラ N 3 ヲ 経理が月給から年金の積み立て金を引いた。 |
| | 1.8 | 引く | N 1 ガ N 2 ヲ 船が航跡を引いた。 |
| | 1.9 | 引く | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 生徒がグラウンドに白線を引いた。 |
| | 1.10 | 引く | (N 1 カラ) N 2 ガ 潮が引いた。 |
| | 1.11 | 曳く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は裾を引いている。 |
| 1.12 | 退く | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 信長は京から兵を退いた。 | |
| 1.13 | 引く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ おばさんが鉄板に油を引いた。 | |
| 1.14 | 惹く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は一目で彼女に惹かれた。 | |
| ひそむ | 1.1 | 潜む | N 1 ガ N 2 ニ 小さな獣がじっと茂みに潜んでいる。 |
| | 1.2 | 潜む | N 1 ガ N 2 ニ 彼は東京に潜んでいる。 |
| | 1.3 | 潜む | N 1 ガ N 2 ニ 悪魔が彼の心の中に潜んでいた。 |
| ひたす | 1.1 | 浸す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は足を清水に浸した。 |
| | 1.2 | 浸す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は脱脂綿をヨードチンキに浸した。 |
| | 1.3 | 浸す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 母が消毒液をガーゼに浸した。 |
| | 1.4 | 浸す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は感傷に身を浸している。 |
| ひたる | 1.1 | 浸る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 患者が薬湯に浸っている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|------|------|-------|----------------------------------|----------------------|
| | 1.2 | 浸る | N 1 ガ N 2 ニ | 子供は両親の愛情に浸った。 |
| | 1.3 | 浸る | N 1 デ N 2 ガ | 洪水で田畑が浸った。 |
| | 1.1 | 引っこめる | N 1 ガ N 2 ラ | 水の音で亀が頭を引っ込めた。 |
| | 1.2 | 引っこめる | N 1 ガ N 2 ラ | 彼はボールペンの芯を引っ込めた。 |
| | 1.3 | 引っこめる | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) (N 4 ニ) | 妻は子供を奥の部屋に引っ込めた。 |
| | 1.4 | 引っこめる | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は提案を引っ込めた。 |
| ひっぱる | 1.1 | 引張る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ (N 4 ニ) | 彼女たちは両手で綱をこちらに引っ張った。 |
| | 1.2 | 引張る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 彼らは警察に犯人を引っ張っていった。 |
| | 1.3 | 引張る | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ | 彼は女性ばかりを我々の仲間に引っ張った。 |
| | 1.4 | 引張る | N 1 ガ N 2 ラ | この探偵小説は読者を最後まで引っ張った。 |
| | 1.5 | 引張る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 彼は自分の部屋に電話を引っ張った。 |
| | 1.6 | 引張る | N 1 ガ N 2 ラ | 彼女は最後の音を引っ張った。 |
| ひねる | 1.1 | 捻る | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) (N 4 ニ) | 彼は水道の栓を左に捻った。 |
| | 1.2 | 捻る | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は腰を捻って後を見た。 |
| | 1.3 | 捻る | N 1 ガ N 2 ラ | あの大学の出題者は問題をよく捻る。 |
| ひびく | 1.1 | 響く | N 1 ガ (N 2 ニ) | 歌声が空に響いた。 |
| | 1.2 | 響く | N 1 ガ N 2 ニ | ジェット機の爆音がガラス戸に響いた。 |
| | 1.3 | 響く | N 1 ガ N 2 ニ | 運賃値上げが家計に響く。 |
| | 1.4 | 響く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼女の美しさは国中に響いていた。 |
| ひやす | 1.1 | 冷す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ | 彼は冷蔵庫でビールを冷やした。 |
| | 1.2 | 冷す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ | 彼は湿布で足を冷やした。 |
| | 1.3 | 冷す | N 1 ガ N 2 ラ | シベリア寒気団が上空の大気を冷やした。 |
| ひらく | 1.1 | 開く | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は自らの運命を開いた。 |
| | 1.2 | 開く | N 1 ガ N 2 ラ | 出版社は有名作家のサイン会を開いた。 |
| | 1.3 | 開く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ | 彼はビルの一階に店を開いた。 |
| | 1.4 | 拓く | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は荒れた土地を開いた。 |
| | 1.5 | 開く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) | 母は油揚げを包丁で上手に開く。 |
| | 1.6 | 開く | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は目を開いた。 |
| | 1.7 | 開く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ | 彼はハサミで包みを開いた。 |
| | 1.8 | 開く | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は新しい流派を開いた。 |
| | 1.9 | 開く | (N 1 ガ) N 2 ラ | 1 6 を開くと 4 になる。 |
| | 1.10 | 開く | N 1 ガ | 戸が音もなく開いた。 |
| | 1.11 | 開く | N 1 ガ | 銀行は朝 9 時に開く。 |
| | 1.12 | 開く | N 1 ガ N 2 ト N 3 ガ | 彼はライバルと差が開いてしまった。 |
| | 1.13 | 開く | N 1 ガ N 2 ガ | その壺は口が大きく開いている。 |
| ひらめく | 1.1 | 閃く | (N 1 ニ) N 2 ガ | 暗闇に稲妻が閃いた。 |
| | 1.2 | 閃く | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 ニ) | 彼はあるアイディアが閃いた。 |
| ひろう | 1.1 | 捨う | N 1 ガ N 2 ラ | 彼女は海岸で貝殻を捨てている。 |
| | 1.2 | 捨う | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ラ | 彼は新聞記事から新語を捨てている。 |
| | 1.3 | 捨う | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) | 我々は相手のミスで勝ちを捨てた。 |
| ひろがる | 1.1 | 広がる | N 1 ガ | 風でスカートが広がる。 |
| | 1.2 | 広がる | N 1 ニ N 2 ガ | 一面に牧草地が広がる。 |
| | 1.3 | 広がる | N 1 ガ (N 2 ニ) | 悪い噂はすぐに広がる。 |
| | 1.4 | 広がる | N 1 ガ N 2 ニ | 火事は町中に広がった。 |
| | 1.5 | 広がる | N 1 ガ | 道幅が広がった。 |
| | 1.6 | 広がる | N 1 ガ | その歌手の観客層は広がっている。 |
| ひろげる | 1.1 | 広げる | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は本を広げた。 |
| | 1.2 | 広げる | N 1 ガ N 2 ラ | 学校はグラウンドを広げた。 |
| | 1.2 | 広げる | N 1 ガ N 2 ラ | 彼は最近人間の幅を広げた。 |
| ひろまる | 1.1 | 広まる | (N 1 ニ) N 2 ガ | 世間に噂が広まる。 |
| ひろめる | 1.1 | 広める | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ラ | 彼は世に科学的知識を広めた。 |
| ふえる | 1.1 | 増える | N 1 ガ N 2 ガ | その学説は年々信奉者が殖えている。 |
| | 1.2 | 増える | N 1 ガ (N 2 ニ) | この近所にも随分商店が増えた。 |
| | 1.3 | 増える | N 1 ガ N 2 ニ | 予算は一千万円に増えた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|--|
| | 1.4 | 増える | N 1 ガ N 2 デ (N 3) 社長の英断で予算が500万円殖えた。 |
| ふく | 1.1 | 吹く | N 1 ガ (N 2 カラ)(N 3 ニ / ヘ) 微風が東から吹く。 |
| | 1.2 | 吹く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 彼はスープを吹いてさました。 |
| | 1.3 | 吹く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 吹奏隊はファンファーレを吹いた。 |
| | 1.4 | 吹く | N 1 ガ N 2 ラ 彼は偽小判を吹いた。 |
| | 1.5 | 吹く | N 1 ニ N 2 ガ 干柿に粉が吹いた。 |
| | 1.6 | 吹く | N 1 ガ N 2 ラ 干柿が粉を吹いた。 |
| | 1.7 | 噴く | N 1 ガ ごはんが噴いている。 |
| ふく | 2.1 | 拭く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼はハンカチでズボンの汚れを拭いた。 |
| | 2.2 | 拭く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼はハンカチで眼鏡を拭いた。 |
| | 2.3 | 拭く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼はバスタオルで手を拭いた。 |
| ふく | 3.1 | 噴く | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 カラ) 阿蘇山が火口から赤い火を噴いている。 |
| ふくむ | 1.1 | 含む | N 1 ガ N 2 ラ N 3 ニ 彼は酒を口に含んだ。 |
| | 1.2 | 含む | N 1 ガ N 2 ラ 煙草は発ガン性の物質を含んでいる。 |
| | 1.3 | 含む | N 1 ガ N 2 ラ 彼女の表情は陰りを含んでいた。 |
| ふくめる | 1.1 | 含める | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 会社は請求書に駐車料金を含めた。 |
| ふくらむ | 1.1 | 膨む | N 1 ガ N 2 ガ 桜もつぼみが膨んできた。 |
| | 1.2 | 膨む | N 1 ガ (N 2 デ) 帆が風で脹んだ。 |
| | 1.3 | 膨む | N 1 ガ N 2 デ 赤字が不景気で膨んだ。 |
| | 1.4 | 膨む | N 1 ガ N 2 ニ / デ 彼の胸は希望に膨んでいる。 |
| ふくれる | 1.1 | 膨れる | N 1 ガ (N 2 デ) ポケットが小銭で膨れている。 |
| | 1.2 | 膨れる | N 1 ガ (N 2 ニ) 会員が1000名に膨れた。 |
| | 1.3 | 膨れる | N 1 ガ (N 2 デ) 彼女は些細なことで膨れる。 |
| | 1.4 | 膨れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 私はスイカで腹が膨れた。 |
| ふさがる | 1.1 | 塞がる | N 1 ガ N 2 デ 往来は群衆で塞がっていた。 |
| | 1.2 | 塞がる | N 1 ガ N 2 ガ N 3 デ 私はちょっと仕事で手が塞がっています。 |
| ふさぐ | 1.1 | 塞ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 学生たちはバリケードで往来を塞いだ。 |
| | 1.2 | 塞ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼は彼女の口を塞いでおしゃべりをやめさせた。 |
| | 1.3 | 塞ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼は入試失敗で気分が塞いでしまった。 |
| ふせぐ | 1.1 | 防ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼らは敵の侵入を防いだ。 |
| | 1.2 | 防ぐ | N 1 ガ N 2 ラ 上流のダムが洪水を防いだ。 |
| ふせる | 1.1 | 伏せる | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ラ 彼はテーブルにコップを伏せた。 |
| | 1.2 | 伏せる | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ラ 彼は草むらに身を伏せた。 |
| | 1.3 | 伏せる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ラ 彼は羞恥で目を伏せた。 |
| | 1.4 | 伏せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ラ 彼はT氏に事情を伏せている。 |
| ぶつかる | 1.1 | ぶつかる | N 1 ガ N 2 ニ ボールが壁にぶつかった。 |
| | 1.2 | ぶつかる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は散歩していてその事件にぶつかった。 |
| | 1.3 | ぶつかる | N 1 ガ この件について二人の意見がぶつかった。 |
| | 1.4 | ぶつかる | N 1 ガ その晩は二つのパーティがぶつかった。 |
| | 1.5 | ぶつかる | N 1 ガ N 2 その晩はパーティが二つぶつかった。 |
| | 1.6 | ぶつかる | N 1 ガ N 2 ニ / ト 今年の文化の日は日曜とぶつかります。 |
| ふとる | 1.1 | 太る | N 1 ガ (N 2 デ)(N 3) 彼女は食べ過ぎで5キロ太った。 |
| ふみきる | 1.1 | 踏切る | N 1 ガ N 2 ラ 選手が跳躍板を踏み切った。 |
| | 1.2 | 踏切る | N 1 ガ N 2 ニ 政府は公害対策基本法の制定に踏み切った。 |
| ふむ | 1.1 | 踏む | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ) 彼は力強くペダルを踏んだ。 |
| | 1.2 | 踏む | N 1 ガ N 2 ラ 彼は久し振りに故郷の土を踏んだ。 |
| | 1.3 | 踏む | N 1 ガ N 2 ラ 市民団体は市長のリコールのための手続を踏んだ。 |
| | 1.4 | 踏む | N 1 ガ (N 2 ラ) S ト 彼は実行は到底不可能と踏んだ。 |
| ふやす | 1.1 | 増やす | N 1 ガ N 2 ラ 彼の努力が生産台数を増やした。 |
| | 1.2 | 増やす | N 1 ガ N 2 ラ その学説は年々信奉者を殖やしている。 |
| | 1.3 | 増やす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 行政当局はこの辺りに老人ホームを増やした。 |
| | 1.4 | 増やす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 ニ) 彼は財産を5倍に増やした。 |
| | 1.5 | 増やす | N 1 ガ N 2 ラ (N 3 デ)(N 4) 学会は宣伝で会員を五百人増やした。 |
| ふりかえる | 1.1 | 振返る | N 1 ガ (N 2 ラ) 彼は今までは歩いてきた道を振り返った。 |
| | 1.2 | 振返る | N 1 ガ N 2 ラ 選手たちは今日の試合を振り返った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|------|---|
| ふりこむ | 1.1 | 振込む | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は銀行口座に代金を振り込んだ。 |
| | 1.1 | 降る | N 1 ガ 雨が降っている。 |
| ふる | 2.1 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は旗を左右に振った。 |
| | 2.2 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は手を左右に振った。 |
| | 2.3 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼はさいころを盤上に振った。 |
| | 2.4 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は魚に塩を振った。 |
| | 2.5 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は自分の地位をあっさりとした。 |
| | 2.6 | 振る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は恋人を振った。 |
| | 2.7 | 振る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は漢字に読み仮名を振った。 |
| | ふるう | 1.1 | 奮う |
| 1.2 | | 振う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はなぎなたを振った。 |
| 1.3 | | 振う | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は妻に暴力を振るった。 |
| 1.4 | | 振う | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は料理に腕を振るった。 |
| ふるえる | 1.1 | 震える | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) (N 3 ガ) 彼は寒さで膝が震えた。 |
| | 1.2 | 震える | N 1 ガ N 2 デ 地震で窓ガラスが震えた。 |
| ふるまう | 1.1 | ふるまう | N 1 ガ かれは人の家でも勝手に振舞う。 |
| | 1.2 | ふるまう | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は客に豪華な食事を振舞った。 |
| ふれる | 1.1 | 触れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は彼女の肩に触れた。 |
| | 1.2 | 触れる | N 1 ガ N 2 ニ 冷気が肌に触れた。 |
| | 1.3 | 触れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は事件の真相に触れた。 |
| | 1.4 | 触れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼は人生の機微に触れた。 |
| | 1.5 | 触れる | N 1 ガ N 2 ニ そのような行為は法に触れる。 |
| | 1.6 | 触れる | N 1 ガ 危険を知らせるため彼はあちこちに触れて回った。 |
| へだたる | 1.1 | 隔る | N 1 ガ (N 2 カラ) 彼の感覚は現代感覚から隔たっている。 |
| | 1.2 | 隔る | N 1 ガ N 2 ト N 3 この町はあの町と20キロ隔たっている。 |
| | 1.3 | 隔る | N 1 ガ N 2 カラ / N 3 最も近い町はここから10キロ隔たっている。 |
| へだてる | 1.1 | 隔てる | N 1 ガ N 2 ヲ 2軒の家は道を隔てて向かい合っている。 |
| | 1.2 | 隔てる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト ピレネー山脈はスペインをフランスと隔てている。 |
| | 1.3 | 隔てる | N 1 ガ N 2 5メートルほど隔てて外に水飲み場がある。 |
| へらす | 1.1 | 減す | N 1 ガ N 2 ヲ あそこの子供達はいつも腹を減らしています。 |
| | 1.2 | 減す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 政府は軍事費の削減で経費を減した。 |
| へる | 1.1 | 減る | N 1 ガ (N 2) 人口が5千人減った。 |
| | 1.2 | 減る | N 1 ガ N 2 ニ A市の人口は80万人に減った。 |
| へる | 2.1 | 経る | N 1 ガ N 2 ヲ 書類が課長を経て部長に渡った。 |
| | 2.2 | 経る | N 1 ガ N 2 ヲ 法案は諮問委員会の審議を経ている。 |
| | 2.3 | 経る | N 1 ヲ 十年の歳月を経て二人は再会した。 |
| ほうむる | 1.1 | 葬る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は妻の亡骸を菩提寺に葬った。 |
| | 1.2 | 葬る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 彼は加害者を社会から葬った。 |
| | 1.3 | 葬る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 権力者が事件を闇から闇に葬った。 |
| ほえる | 1.1 | 吠える | N 1 ガ (N 2 ニ) 番犬が泥棒に吠えた。 |
| ほかす | 1.1 | 量す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ その画家はスプレーで濃淡の境を量した。 |
| | 1.2 | 量す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は冗談で話の重要な点を量した。 |
| ほこる | 1.1 | 誇る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は同僚に自分の技量を誇った。 |
| | 1.2 | 誇る | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ A社は生産管理システムを世界に誇っている。 |
| ほす | 1.1 | 干す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼女は布団を日なたに干した。 |
| | 1.2 | 干す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は久しぶりに布団を日に干した。 |
| | 1.3 | 干す | N 1 ガ N 2 ヲ 清掃局は池の水を干した。 |
| | 1.4 | 干す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ヲ 彼らは池から水を干した。 |
| ほどこす | 1.1 | 施す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 農民は稲に肥料を施した。 |
| | 1.2 | 施す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 教会が貧しい人々に食べ物に施した。 |
| | 1.3 | 施す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 篤志家が恵まれない子たちに恵みを施した。 |
| | 1.4 | 施す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 医師は患者に応急手当を施した。 |
| | 1.5 | 施す | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) N 4 ヲ 彼女はハンカチに金糸で刺繍を施した。 |
| ほめる | 1.1 | 褒める | N 1 ガ N 2 ヲ (S ト) あの先生は生徒をよく褒める。 |
| | 1.2 | 褒める | N 1 ガ N 2 ヲ 画商はAさんの絵を褒めた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-----|-----|---|
| ほる | 1.1 | 掘る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 農民は鋤で地面を掘っていた。 |
| | 1.2 | 掘る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 鉱夫はツルハシで石炭を掘った。 |
| | 1.3 | 掘る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼はブルドーザーで地面に大きな穴を掘った。 |
| | 1.4 | 彫る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は木版を彫った。 |
| | 1.5 | 彫る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はのみで仏像を彫った。 |
| ほろびる | 1.1 | 滅びる | N 1 ガ 豊臣家は大坂城と共に滅びた。 |
| ほろぼす | 1.1 | 滅す | N 1 ガ N 2 ヲ 核戦争は人類を滅ぼすだろう。 |
| | 1.2 | 滅す | N 1 ガ N 2 ヲ 酒は若者を滅ぼす。 |
| | 1.3 | 滅す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼は酒で身を滅ぼした。 |
| まう | 1.1 | 舞う | N 1 ガ (N 2 ヲ) 彼女は日本舞踊を舞う。 |
| | 1.2 | 舞う | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 木の葉が風に舞う。 |
| | 1.3 | 舞う | N 1 ガ (N 2 ニ) 小雪が空に舞う。 |
| まかせる | 1.1 | 任せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は女中に子供を任せた。 |
| | 1.2 | 任せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は運を天に任せた。 |
| まかなう | 1.1 | 賄う | N 1 ガ N 2 ヲ 3人の職員が100人分の昼食を賄っている。 |
| | 1.2 | 賄う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 党は活動資金を寄付で賄っている。 |
| まがる | 1.1 | 曲る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 列車は山角を北の方へ曲がった。 |
| | 1.2 | 曲る | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 デ) 彼は年のせいで腰が曲がっている。 |
| | 1.3 | 曲る | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ / ヘ) 黄河は東方に曲がっている。 |
| | 1.4 | 曲る | N 1 ガ N 2 ガ あの人は根性が曲がっている。 |
| まぎれる | 1.1 | 紛れる | N 1 ガ N 2 ニ 彼の姿が人ごみに紛れてしまった。 |
| | 1.2 | 紛れる | N 1 ガ N 2 ニ 話が冗談に紛れた。 |
| | 1.3 | 紛れる | N 1 ガ N 2 ニ / デ N 3 ガ 彼は忙しさと悲しみが紛れた。 |
| まく | 1.1 | 蒔く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ その事件は世間に恐怖の種を蒔いた。 |
| | 1.2 | 撒く | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ) N 4 ヲ 農協は飛行機から畑に農薬を撒いた。 |
| まく | 2.1 | 巻く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は時計のねじを巻いた。 |
| | 2.2 | 巻く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼女は指に包帯を巻いた。 |
| | 2.3 | 巻く | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ 彼女は首をマフラーで巻いた。 |
| | 2.4 | 巻く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼女は子供の傷口をハンカチで巻いた。 |
| | 2.5 | 巻く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女はおにぎりにのりを巻いた。 |
| | 2.6 | 巻く | N 1 ガ (N 2 デ) (N 3 ニ) N 4 ヲ 彼は両手で棒に紙を巻いた。 |
| | 2.7 | 巻く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4 ニ) 警官たちは放水車でデモ隊を遠巻きに巻いた。 |
| まける | 1.1 | 負ける | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) (N 4 で) (N 5) 慶応は明治に5対3で負けた。 |
| | 1.2 | 負ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ 彼は判定で試合に負けた。 |
| | 1.3 | 負ける | N 1 ガ N 2 ニ (N 3) 日本はアメリカに先端技術で3年負けている。 |
| | 1.4 | 負ける | N 1 ガ N 2 ニ 彼はいつも誘惑に負けてしまう。 |
| まげる | 1.1 | 曲げる | N 1 ガ N 2 ヲ ガリレオはとうとう自説を曲げた。 |
| | 1.2 | 曲げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は針金を内側に曲げた。 |
| | 1.3 | 曲げる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 熱が鉄の棒をくの字に曲げた。 |
| まさる | 1.1 | 増さる | N 1 ガ いとおしさが一層増さった。 |
| | 1.2 | 勝る | N 1 ガ N 2 ニ / ヨリ 兄の能力は弟より勝っている。 |
| | 1.3 | 勝る | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ / ヨリ 兄は能力が弟に勝っている。 |
| | 1.4 | 勝る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ / ヨリ 兄は能力で弟に勝っている。 |
| まじえる | 1.1 | 交える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は公務に私情を交えた。 |
| | 1.2 | 交える | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 彼は息子と言葉を交えた。 |
| | 1.3 | 交える | N 1 ガ N 2 ヲ 味がかすかな甘味を交えている。 |
| まじる | 1.1 | 混る | N 1 ガ N 2 ニ 大人は子供達に混じって遊んでいる。 |
| | 1.2 | 混る | N 1 ガ / N 2 ガ N 3 彼には中国人の血が4分の1混っている。 |
| | 1.3 | 混る | N 1 ニ N 2 ガ 酒に水が混じった。 |
| まじわる | 1.1 | 交わる | N 1 ガ 二直線が交わる。 |
| | 1.2 | 交わる | N 1 ガ N 2 ニ 三直線が一点に交わる。 |
| | 1.3 | 交わる | N 1 ガ N 2 ト この道路は国道一号線とこの先で交わる。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|--|
| | 1.4 | 交わる | N 1 ガ N 2 ニ ノ ト 我々は自然にもっと交わるべきだ。 |
| | 1.5 | 交わる | N 1 ガ (N 2 ト) その小説家は昔から彼らと親しく交わっている。 |
| | 1.6 | 交わる | N 1 ガ N 2 ト 彼は情婦と交わった。 |
| ます | 1.1 | 増す | N 1 ガ (N 2) 川の水かさが2メートル増した。 |
| | 1.2 | 増す | N 1 ガ N 2 ヲ 街路樹は都市の美観を増す。 |
| まぜる | 1.1 | 交ぜる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女はごはんに麦を混ぜた。 |
| | 1.2 | 交ぜる | N 1 ガ N 2 ヲ 画家は絵具の色を混ぜた。 |
| | 1.3 | 交ぜる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 画家は青の絵の具を赤の絵の具と混ぜた。 |
| またがる | 1.1 | 跨る | N 1 ガ N 2 ニ 子供が父親に跨っている。 |
| | 1.2 | 跨る | N 1 ガ N 2 ニ この調査は2年に跨っている。 |
| | 1.3 | 跨る | N 1 ガ N 2 ニ 油田地帯はイランとイラクの国境に跨っている。 |
| まちがう | 1.1 | 間違う | N 1 ガ 招待状の宛名が間違っている。 |
| | 1.2 | 間違う | N 1 ガ N 2 ヲ 経理が給与計算を間違った。 |
| | 1.3 | 間違う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト 新入社員は社長を平社員と間違った。 |
| まつ | 1.1 | 待つ | N 1 ガ N 2 ヲ 乗客が列車を待っている。 |
| | 1.2 | 待つ | N 1 ガ N 2 ニ 病人の全快は体力の回復に待つ所が多い。 |
| | 1.3 | 待つ | N 1 ガ N 2 ヲ 私は相手の出方を待った。 |
| まつる | 1.1 | 祭る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は祖先の霊を祀った。 |
| | 1.2 | 祭る | N 1 ガ N 2 ヲ 乃木神社は乃木大将を祀っている。 |
| | 1.3 | 祭る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) あの神社は鏡を御神体として社殿に祀っている。 |
| まとまる | 1.1 | 纏まる | N 1 ガ ようやく荷物が纏まった。 |
| | 1.2 | 纏まる | (N 1 デ) N 2 ガ ドライヤーでやっと髪が纏まった。 |
| | 1.3 | 纏まる | N 1 ガ ようやく党内の意見が纏まった。 |
| | 1.4 | 纏まる | N 1 ガ 報告書がやっと纏まった。 |
| | 1.5 | 纏まる | N 1 ガ N 2 ニ 長年の研究の成果がようやく著書に纏まった。 |
| まとめる | 1.1 | 纏める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は荷物を纏めた。 |
| | 1.2 | 纏める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 ニ) 彼女は長い髪をおさげに纏めている。 |
| | 1.3 | 纏める | N 1 ガ N 2 ヲ 二人が商談を纏めた。 |
| | 1.4 | 纏める | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は手際よく報告書を纏めた。 |
| | 1.5 | 纏める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は要旨を400字に纏めた。 |
| まどわす | 1.1 | 惑わす | N 1 ガ N 2 ヲ デマが国民を惑わした。 |
| | 1.2 | 惑わす | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ プレイボーイは甘い言葉で人妻を惑わした。 |
| まなぶ | 1.1 | 学ぶ | N 1 ガ (N 2 ニ / カラ) N 3 ヲ 彼はA氏に柔道の精神を学んだ。 |
| | 1.2 | 学ぶ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はテレビで外国語を学んでいる。 |
| | 1.3 | 学ぶ | N 1 ガ N 2 ニ / カラ (N 3 ヲ) 彼はアリの知恵に人生を学んだ。 |
| まにあう | 1.1 | 間に合う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は仕事に間に合った。 |
| | 1.2 | 間に合う | N 1 ガ (N 2 ニ) 鉄鋼の生産は需要に間に合っている。 |
| | 1.3 | 間に合う | N 1 デ (N 2 ニ) 今ある機で会議には十分間に合う。 |
| まぬがれる | 1.1 | 免れる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は時効で罪を免れた。 |
| | 1.2 | 免れる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の家は類焼を免れた。 |
| まねく | 1.1 | 招く | N 1 ガ N 2 ヲ 工事の手抜きが惨事を招いた。 |
| | 1.2 | 招く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ A大学が彼を講師に招いた。 |
| | 1.3 | 招く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 大学が彼を集中講義に招いた。 |
| | 1.4 | 招く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ (N 4 ニ / ヘ) 客は手でボーイを自分の席へ招いた。 |
| | 1.5 | 招く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ N 4 ニ / ヘ 彼は電話で友人を自宅に招いた。 |
| まもる | 1.1 | 守る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 カラ 彼女は子供を熊から守った。 |
| | 1.2 | 守る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はずっと沈黙を守っている。 |
| | 1.3 | 守る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は必ず約束を守る。 |
| まよう | 1.1 | 迷う | N 1 ガ N 2 ニ 太郎は職業の選択に迷っている。 |
| | 1.2 | 迷う | N 1 ガ (N 2 ニ) 私は道に迷った。 |
| | 1.3 | 迷う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は巧言令色に迷った。 |
| まわす | 1.1 | 回す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼はハンドルを右に回した。 |
| | 1.2 | 回す | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ヲ (N 4) 彼は体の後ろに手を回した。 |
| | 1.3 | 回す | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ 彼は隣の家に回覧を回した。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|-----|--|
| | 1.4 | 回す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼女は余った金を預金に回した。 |
| まわる | 1.1 | 回る | N 1 ガ (N 2 デ) モーターが自家発電で回っている。 |
| | 1.2 | 回る | N 1 ガ N 2 ヲ 人工衛星が地球の周りを回っている。 |
| | 1.3 | 回る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は湖の岸を自転車で回った。 |
| | 1.4 | 回る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ 彼は得意先を自転車で挨拶に回った。 |
| | 1.5 | 回る | N 1 ガ N 2 ニ 順番が彼に回った。 |
| | 1.6 | 回る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 風が南に回った。 |
| | 1.7 | 回る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 彼は帰りに会計課へ回った。 |
| | 1.8 | 回る | N 1 ガ N 2 デ N 3 ニ 彼は公害問題で聞き役に回った。 |
| | 1.9 | 回る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼の帰宅はいつも午前 0 時を回っている。 |
| | 1.10 | 回る | N 1 ガ N 2 ガ (N 3 ニ) 彼は毒が全身に回ってしまった。 |
| みあう | 1.1 | 見合う | N 1 ガ N 2 ニ 賃金が物価に見合っている。 |
| | 1.2 | 見合う | N 1 ガ N 2 ヲ 二人は互いに相手の目を見合った。 |
| | 1.3 | 見合う | N 1 ガ 両力士は土俵上で見合った。 |
| みえる | 1.1 | 見える | (N 1 カラ) N 2 ガ この窓から富士山がよく見える。 |
| | 1.2 | 見える | N 1 ニ N 2 ガ 病人の症状には腸チフスの兆候が見えた。 |
| | 1.3 | 見える | N 1 ガ N 2 ニ 彼は 3 0 歳ぐらいに見える。 |
| | 1.4 | 見える | N 1 ガ (N 2 ニ) 明日お客様が家に見える。 |
| | 1.5 | 見える | S ト 飼い主が犬にえさをやらないと見える。 |
| | 1.6 | 見える | N 1 ガ このメガネは良く見える。 |
| みおくる | 1.1 | 見送る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は恩師を見送った。 |
| | 1.2 | 見送る | N 1 ガ N 2 ヲ 組合はストライキを見送った。 |
| みがく | 1.1 | 研ぐ | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 刀工が刀を磨いた。 |
| | 1.2 | 磨く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はモップで床を磨いた。 |
| | 1.3 | 研ぐ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は随分と将棋の腕を磨いた。 |
| みせる | 1.1 | 見せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は娘に芝居を見せた。 |
| | 1.2 | 見せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は医者に患部を見せた。 |
| | 1.3 | 見せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 会社は被害者に誠意を見せた。 |
| | 1.4 | 見せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 母親は子供を主治医に見せた。 |
| | 1.5 | 見せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼はやっと大学に顔を見せた。 |
| | 1.6 | 見せる | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 ニ 金持ちは自分を貧乏に見せたがる。 |
| | 1.7 | 見せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 趣味のよいドレスが彼女を上品に見せている。 |
| | 1.8 | 見せる | N 1 ガ N 2 ヲ 投手はもう疲れを見せている。 |
| | 1.9 | 見せる | N 1 ガ N 2 ヲ 景気が回復の兆しを見せている。 |
| | 1.10 | 見せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 政府は教育問題に積極的姿勢を見せた。 |
| | 1.11 | 見せる | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は親に悲しい目を見せた。 |
| みたす | 1.1 | 満す | N 1 ガ N 2 デ N 3 ヲ その手品師は水でコップを満たした。 |
| | 1.2 | 満す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ その手品師はコップに水を満たした。 |
| | 1.3 | 満す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 会社側は生産倍増で需要を充たした。 |
| みだす | 1.1 | 乱す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は列を乱した。 |
| | 1.2 | 乱す | N 1 ガ N 2 ヲ 風が髪を乱した。 |
| | 1.3 | 乱す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼の行為が校内の秩序を乱した。 |
| みだれる | 1.1 | 乱れる | N 1 ガ (N 2 デ) ダイヤが雨で乱れた。 |
| | 1.2 | 乱れる | N 1 ガ N 2 ニ / デ 彼女の心は悲しみで乱れた。 |
| みちびく | 1.1 | 導く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ (N 5 デ) 避難する群衆を安全な場所に放送で導いた。 |
| | 1.2 | 導く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ ビーコンが飛行機を正しい進路に導いている。 |
| | 1.3 | 導く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) N 4 ニ / ヘ 彼がチームを好守備で勝利に導いた。 |
| | 1.4 | 導く | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ あの時の小さな失敗が事業全体を破滅に導いた。 |
| | 1.5 | 導く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 神が迷える人々を導いた。 |
| みちる | 1.1 | 満ちる | N 1 ガ 潮が満ちてきた。 |
| | 1.2 | 満ちる | N 1 ガ N 2 ニ 新入生は希望に満ちている。 |
| | 1.3 | 満ちる | N 1 ニ N 2 ガ 池に水が満ちている。 |
| | 1.4 | 満ちる | N 1 ガ N 2 ニ / デ 部屋は花の香りに満ちている。 |
| みつかる | 1.1 | 見付る | N 1 ガ 迷子がやっと見付かった。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|------|------|------|----------------------------|------------------------|
| | 1.2 | 見付ける | N 1 ガ | 解決策が見付かった。 |
| | 1.3 | 見付ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) | 子供がいたずらを親に見付かった。 |
| みつける | 1.1 | 見付ける | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 子供が戸棚にお菓子をみつけた。 |
| | 1.2 | 見付ける | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 彼は答案に間違いを見付けた。 |
| | 1.3 | 見付ける | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼女は効果的なダイエットを見付けた。 |
| みつめる | 1.1 | 見詰める | N 1 ガ N 2 ヲ | 少女は夏の海をじっと見つめていた。 |
| みとめる | 1.1 | 認める | N 1 ガ N 2 ヲ | 社長は彼の実力を認めた。 |
| | 1.2 | 認める | N 1 ガ N 2 ヲ | 対立候補は敗北を認めた。 |
| | 1.3 | 認める | N 1 ガ N 2 ヲ | 親が娘の外泊を認めた。 |
| | 1.4 | 認める | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ | 医師は次郎の肺にちょっとした異常を認めた。 |
| | 1.5 | 認める | N 1 ガ S ト | 彼は自分が間違っていたと認めた。 |
| | 1.6 | 認める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト | 彼はその子供を自分の子と認めた。 |
| みなす | 1.1 | 見做す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト | その教師は遅刻者を欠席と見做した |
| みぬく | 1.1 | 見抜く | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は部下の隠れた才能を見抜いた。 |
| みのがす | 1.1 | 見逃す | N 1 ガ N 2 ヲ | 本屋は万引きの少年を見逃した。 |
| | 1.2 | 見逃す | N 1 ガ N 2 ヲ | 医師が患者の異常を見逃した。 |
| みのる | 1.1 | 実る | (N 1 ニ) N 2 ガ | 隣の家の木に柿が実っている。 |
| | 1.2 | 実る | (N 2 ガ) N 2 ガ | 彼は長年の苦勞が実った。 |
| みまう | 1.1 | 見舞う | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は病人を見舞った。 |
| | 1.2 | 見舞う | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ N 3 ヲ | 父が私の頭へ拳骨を見舞った。 |
| みまわる | 1.1 | 見回る | N 1 ガ N 2 ヲ | 警官が夜の街を見回る。 |
| みる | 1.1 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 少年は海を見ていた。 |
| | 1.2 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 生徒達は社会の時間にテレビで国会中継を見た。 |
| | 1.3 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 学生は辞書を見た。 |
| | 1.4 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼女は煮物の味を見た。 |
| | 1.5 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 易者は彼の運勢を見た。 |
| | 1.6 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は相手の出方を見た。 |
| | 1.7 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 主婦が老人を看ている。 |
| | 1.8 | 診る | N 1 ガ N 2 ヲ | 医者が患者を診ている。 |
| | 1.9 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 工員は機械の調子を見た。 |
| | 1.10 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ S ト | 私は彼を戦後最大の芸術家だと見ている。 |
| | 1.11 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は彼女を甘く見た。 |
| | 1.12 | 見る | N 1 ガ S ト | 彼は機が熟したと見た。 |
| | 1.13 | 見る | N 1 ガ N 2 ヲ | その工事は多くの犠牲者を見た。 |
| むかう | 1.1 | 向う | N 1 ガ N 2 ニ | あの生徒は朝の六時から机に向かっている。 |
| | 1.2 | 向う | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ | この飛行機は東京から大阪へ向かう。 |
| | 1.3 | 向う | N 1 ガ N 2 ニ | 彼らは素手で敵に向かった。 |
| | 1.4 | 向う | N 1 ガ N 2 ニ | 問題は解決に向かっている。 |
| むかえる | 1.1 | 迎える | N 1 ガ N 2 ヲ | 父は60歳の誕生日を迎えた。 |
| | 1.2 | 迎える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 彼は専門家を講師に迎えた。 |
| | 1.3 | 迎える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ | 彼は専門家を講演会に迎えた。 |
| | 1.4 | 迎える | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ | 彼女は客をパーティーに迎えた。 |
| むく | 1.1 | 向く | N 1 ガ N 2 ヲ | 彼は下を向いた。 |
| | 1.2 | 向く | N 1 ガ N 2 ニ | 家は森の方に向いている。 |
| | 1.3 | 向く | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は学問に向いている。 |
| むく | 2.1 | 剥く | N 1 ガ N 2 ヲ | ライオンが牙を剥いた。 |
| | 2.2 | 剥く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ | 彼は包丁でリンゴの皮を剥いた。 |
| むくいる | 1.1 | 報いる | N 1 ガ N 2 ニ | 彼は友情に報いた。 |
| | 1.2 | 報いる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) | 彼は敵に奇襲作戦で報いた。 |
| | 1.3 | 報いる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) | 国王は功勞者に記念碑建設で報いた。 |
| | 1.4 | 報いる | N 1 ガ N 2 ニ (N 3 デ) | 大学は彼の功績に記念碑建設で報いた。 |
| むける | 1.1 | 向ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 彼女は背中を上に向けた。 |
| | 1.2 | 向ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ | 社長は代理の者を会場へ向けた。 |
| | 1.3 | 向ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ | 経理は予備費を会議費に向けた。 |
| | 1.4 | 向ける | N 1 ニ | 夏に向けて新作の水着を発表する。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 | 文例 |
|-------|-----|--------|-------------------|-------------------------|
| むす | 1.1 | 蒸す | N1ガ(N2デ)N3ヲ | 彼女はせいろうでまんじゅうを蒸した。 |
| | 1.2 | 蒸す | N1ガ | 今夜はひどく蒸す。 |
| むすぶ | 1.1 | 結ぶ | N1ガN2ヲ | 彼女は風呂敷をしっかりと結んだ。 |
| | 1.2 | 結ぶ | N1ガN2ヲN3ニ | 彼はひもを木の枝に結んだ。 |
| | 1.3 | 結ぶ | N1ガN2ヲN3ト | 東北新幹線が盛岡を東京と結んだ。 |
| | 1.4 | 結ぶ | N1ガN2トN3ヲ | A国はB国と同盟を結んだ。 |
| | 1.5 | 結ぶ | N1ガN2ヲ | 二人は運命によって結ばれている。 |
| | 1.6 | 結ぶ | N1ガN2デN3ヲ | 彼は感謝の言葉でスピーチを結んだ。 |
| | 1.7 | 結ぶ | N1ガN2ヲ | 彼は軽く口を結んでいる。 |
| | 1.8 | 結ぶ | N1ガ | 柿の実が結んだ。 |
| | 1.9 | 結ぶ | N1ガN2ヲ | 柿の木が実を結んだ。 |
| むらがる | 1.1 | 群がる | N1ガN2ニ | たくさんの主婦がバーゲンセールに群がった。 |
| | 1.2 | 群がる | N1ガ(N2ニ) | 花が群がって咲く。 |
| めいじる | 1.1 | 命じる | N1ガN2ニN3ヲ | 本国政府は大使に帰国を命じた。 |
| | 1.2 | 命じる | N1ガN2ニN3ヲ | 会社は彼に課長を命じた。 |
| | 1.3 | 命じる | N1ガN2ヲN3ニ | 会社は彼を課長に命じた。 |
| | 1.4 | 命じる | N1ガN2ヲN3ト | 祖母は孫を花子と命じた。 |
| めぐまれる | 1.1 | 恵まれる | N1ガN2ニ | 彼は友人に恵まれている。 |
| めくる | 1.1 | 捲る | N1ガ(N2デ)N3ヲ | チンパンジーが足でトランプを捲った。 |
| めぐる | 1.1 | 巡る | N1ガ | 季節が巡る。 |
| | 1.2 | 巡る | N1ガN2ヲ(N3デ) | 彼は名所をバスで巡った。 |
| | 1.3 | 巡る | N1ガN2ヲ | 血液が体内を巡っている。 |
| | 1.4 | 巡る | N1ガN2ヲ | 堀が城を巡っている。 |
| | 1.5 | 巡る | N1ガN2ヲ | 五人の女が主人公を巡って争った。 |
| めざす | 1.1 | 目指す | N1ガN2ヲ | 青年は荒野を目指す。 |
| めだつ | 1.1 | 目立つ | N1ガ/N2ニ2ガ | 彼は最近白髪が目立つ。 1.2 |
| | 目立つ | N1ガN2ガ | ねずみ色はほこりが目立つ。 | |
| | 1.3 | 目立つ | N1ガ | 彼は仲間内で目立っている。 |
| もうかる | 1.1 | 儲る | N1ガ(N2デ)(N3ガ)(N4) | 彼は株でお金が50万儲かった。 |
| もうける | 1.1 | 儲ける | N1ガ(N2ヲ)(N3) | N4デ 彼はパチンコでお金を一万円儲けた。 |
| | 1.2 | 儲ける | N1ガ(N2ヲ)(N3) | (N4デ) 阪神はエラーで一点儲けた。 |
| | 1.3 | 設ける | N1ガ(N2ニ)N3ヲ | 会社は大阪に事務所を設けた。 |
| | 1.4 | 設ける | N1ガ(N2ニ)N3ヲ | 取引先が料亭に宴席を設けた。 |
| | 1.5 | 設ける | N1ガ(N2ニ)N3ヲ | 政府は予算設定に一定の枠を設けている。 |
| | 1.6 | 儲ける | N1ガ(N2ニ)N3ヲ | 彼は先妻との間に二児を儲けた。 |
| もうしこむ | 1.1 | 申込む | N1ガN2ニ(N3デ)N4ヲ | A中学の野球部はB中学に練習試合を申し込んだ。 |
| | 1.2 | 申込む | N1ガN2ニ(N3デ)N4ヲ | 彼は旅行社に電話でツアー参加を申し込んだ。 |
| もうしでる | 1.1 | 申出る | N1ガN2ニ | 参加希望の方は受付に申し出て下さい。 |
| | 1.2 | 申出る | N1ガN2ニN3ヲ | 篤志家が大学に寄付を申し出た。 |
| もえる | 1.1 | 燃える | N1ガ | 隣家が燃えた。 |
| | 1.2 | 燃える | N1ガ | 炎が真赤に燃えている。 |
| | 1.3 | 燃える | N1ガN2ニ | 彼は向学心に燃えている。 |
| | 1.4 | 萌える | (N1ニ)N2ガ | 春の野に若葉が萌える。 |
| もぐる | 1.1 | 潜る | N1ガN2ニ | もぐらは土に潜った。 |
| | 1.2 | 潜る | N1ガN2ニ/へ | 猫はベッドの下へ潜った。 |
| | 1.3 | 潜る | (N1ガ)N2ガN3ニ/へ | その子供は靴が雪の中へ潜ってしまった。 |
| もちあがる | 1.1 | 持上る | N1ニN2ガ | 会社に騒動が持ち上がった。 |
| | 1.2 | 持上る | N1ガN2デ(N3) | 大地震で地盤が10cm持ち上がった。 |
| もちいる | 1.1 | 用いる | N1ガN2ヲ | チームは奇襲攻撃を用いた。 |
| | 1.2 | 用いる | N1ガN2ニN3ヲ | 医者が患者に新薬を用いた。 |
| | 1.3 | 用いる | N1ガN2ヲN3ニ | 社長は新入社員の一人を秘書に用いた。 |
| もつ | 1.1 | 持つ | N1ガ(N2ニ)N3ヲ | 彼は右手に筆を持った。 |
| | 1.2 | 持つ | N1ガN2ヲ | 彼はポケットにハンカチを持っている。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|------|------|--|
| | 1.3 | 持つ | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼は田舎に田畑を持っている。 |
| | 1.4 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は十人並以上の容姿を持っている。 |
| | 1.5 | 持つ | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 私は将来に希望を持っている。 |
| | 1.6 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は勇気を持っている。 |
| | 1.7 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ この絵は大変な価値を持っている。 |
| | 1.8 | 持つ | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ A 国は B 国と国交関係を持っていない。 |
| | 1.9 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は非常勤の仕事を持っている。 |
| | 1.10 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 彼が費用を持った。 |
| | 1.11 | 持つ | N 1 ガ N 2 ヲ 中国は長い歴史を持つ。 |
| | 1.12 | 持つ | N 1 ガ N 2 この魚は3日ぐらい持つだろう。 |
| もつれる | 1.1 | 纏れる | (N 1 デ) N 2 ガ 風で髪が纏れた。 |
| | 1.2 | 纏れる | (N 1 ガ) N 2 ガ 選手は足が纏れた。 |
| | 1.3 | 纏れる | (N 1 デ) N 2 ガ 利害感情で交渉は纏れた。 |
| もてなす | 1.1 | もてなす | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼女は彼を手料理でもてなした。 |
| もどす | 1.1 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) 彼は借りた本を図書館に戻した。 |
| | 1.2 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ お針子が糸のよりを戻した。 |
| | 1.3 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼が話を振り出しに戻した。 |
| | 1.4 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は茶色に染めた髪を以前の黒い髪に戻した。 |
| | 1.5 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 料理人はしいたけを水で戻した。 |
| | 1.6 | 戻す | N 1 ガ N 2 ヲ 赤ちゃんがミルクを戻した。 |
| もとづく | 1.1 | 基づく | N 1 ガ N 2 ニ 両国の争いは誤解に基づく。 |
| もとめる | 1.1 | 求める | N 1 ガ N 2 ヲ 失業者が職を求めている。 |
| | 1.2 | 求める | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 投書者は国鉄当局に回答を求めた。 |
| | 1.3 | 求める | N 1 ガ N 2 ヲ 花子はその店で贈り物を求めた。 |
| | 1.4 | 求める | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 光源氏は藤壺の宮の面影を紫の上求めた。 |
| もどる | 1.1 | 戻る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 落し物が持ち主に戻った。 |
| | 1.2 | 戻る | N 1 ガ N 2 カラ 彼は出張から戻った。 |
| | 1.3 | 戻る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 教師は職員室に戻った。 |
| | 1.4 | 戻る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は元来た道に戻った。 |
| | 1.5 | 戻る | N 1 ガ (N 2 ニ) 寒さが関東地方に戻ってきた。 |
| | 1.6 | 戻る | N 1 ガ N 2 ニ 二人の関係が元に戻った。 |
| | 1.7 | 戻る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は仕事に戻った。 |
| もむ | 1.1 | 揉む | N 1 ガ N 2 ヲ 息子が母の肩を揉んでいる。 |
| | 1.2 | 揉む | N 1 ガ N 2 ヲ 試合の後彼は手足をよく揉んだ。 |
| | 1.3 | 揉む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 妻が塩できゅうりを揉んでいる。 |
| | 1.4 | 揉む | N 1 ガ N 2 ヲ 波は頻りに船を揉んだ。 |
| | 1.5 | 揉む | N 1 ガ N 2 ヲ 将棋の世界では兄弟子が弟子を揉む。 |
| | 1.6 | 揉む | N 1 ガ N 2 ヲ 我々は今少しこの議題を揉むつもりだ。 |
| もめる | 1.1 | 揉める | N 1 ガ N 2 デ 兄弟が遺産相続で揉めた。 |
| もやす | 1.1 | 燃す | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は集めた落葉を燃やした。 |
| | 1.2 | 燃す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 新入社員は仕事に情熱を燃やしている。 |
| もよおす | 1.1 | 催す | N 1 ガ N 2 ヲ A 大学は B 氏の講演会を催した。 |
| | 1.2 | 催す | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 彼はその光景に哀れを催した。 |
| もらう | 1.1 | 貰う | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ヲ 彼は良家から妻を貰った。 |
| | 1.2 | 貰う | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ 彼は父に時計を貰った。 |
| | 1.3 | 貰う | N 1 ガ N 2 ニ / カラ N 3 ヲ (N 4) 彼は客から猶予を3日貰った。 |
| もらす | 1.1 | 漏す | N 1 ガ N 2 ヲ 子供がおしっこを漏らした。 |
| | 1.2 | 漏す | N 1 ガ (N 2 ニ) N 3 ヲ 庶民は酷税に不平を漏らした。 |
| | 1.3 | 漏す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 彼は秘密を妻に漏らしてしまった。 |
| もる | 1.1 | 盛る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は皿に果物を盛った。 |
| | 1.2 | 盛る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ クレジット会社は例外規定を規約に盛った。 |
| もれる | 1.1 | 漏れる | N 1 カラ N 2 ガ (N 3 ニ / ヘ) 戸のすきまから光が漏れている。 |
| | 1.2 | 漏れる | N 1 ガ (N 2 カラ) (N 3 ニ / ヘ) 極秘情報がある部署から敵国に漏れた。 |
| | 1.3 | 洩れる | N 1 ガ N 2 ニ / カラ その作品は選に漏れた。 |
| やく | 1.1 | 焼く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は庭でごみを焼いた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|---|
| | 1.2 | 焼く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は壺を焼いている。 |
| | 1.3 | 焼く | N 1 ガ N 2 ヲ 亭主がサンマを焼いている。 |
| | 1.4 | 焼く | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼女は砂浜で肌を焼いた。 |
| | 1.5 | 妬く | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女は二人の仲を妬いた。 |
| | やける | 1.1 | 焼ける |
| 1.2 | | 焼ける | N 1 ガ (N 2 ガ) (N 3 ニ) 彼は鼻が焼けている。 |
| 1.3 | | 焼ける | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ 彼は肌が日に焼けている。 |
| 1.4 | | 焼ける | N 1 ガ (N 2 ニ) パンがきつね色に焼けた。 |
| 1.5 | | 焼ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 私は食べ過ぎで胸が焼けた。 |
| 1.6 | | 妬ける | N 1 ガ N 2 ガ 彼女はふたりの仲が妬けた。 |
| やしなう | | 1.1 | 養う |
| | 1.2 | 養う | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はトレーニングで体力を養った。 |
| やすむ | 1.1 | 休む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは仕事を休んだ。 |
| | 1.2 | 休む | N 1 ガ (N 2 ニ) 雀が電線に休んでいる。 |
| | 1.3 | 休む | N 1 ガ (N 2 ヲ) 心臓が三分間も働きを休んでいる。 |
| やせる | 1.1 | 痩せる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ うちの犬は病気で以前より痩せた。 |
| | 1.2 | 痩せる | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ この辺りは肥料のやり過ぎで土地が痩せてしまった。 |
| やとう | 1.1 | 雇う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女はお手伝いさんを雇った。 |
| | 1.2 | 雇う | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 会社は学生を運転手に雇った。 |
| | 1.3 | 雇う | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は船を遊覧用に雇った。 |
| やぶる | 1.1 | 破る | N 1 ガ N 2 ヲ 子供が障子を破った。 |
| | 1.2 | 破る | N 1 ガ N 2 ヲ 警笛が静けさを破った。 |
| | 1.3 | 破る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは約束を破った。 |
| | 1.4 | 破る | N 1 ガ N 2 ヲ 我チームは優勝候補のチームを破った。 |
| やぶれる | 1.1 | 破れる | N 1 ガ (N 2 デ) ノートが消しゴムで破れた。 |
| | 1.2 | 破れる | N 1 ガ (N 2 デ) その失敗で彼の夢が破れた。 |
| | 1.3 | 破れる | N 1 ガ (N 2 デ) A 国の軍事介入で均衡が破れた。 |
| やむ | 1.1 | 止む | N 1 ガ 雨が止んだ。 |
| やめる | 1.1 | 止める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は飲酒運転を止めた。 |
| | 1.2 | 辞める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は使い込みで会社を止めた。 |
| やる | 1.1 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は息子を大学へやった。 |
| | 1.2 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は子供をお使いにやった。 |
| | 1.3 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼は会社の書類をどこかへやってしまった。 |
| | 1.4 | 遣る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は友の顔に目をやった。 |
| | 1.5 | 遣る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は毎日に花に水をやる。 |
| | 1.6 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ 叔父は駅前で本屋をやっている。 |
| | 1.7 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は大学で文学をやっていた。 |
| | 1.8 | 遣る | N 1 ガ (N 2 ヲ) N 3 今度一杯やりましょう。 |
| | 1.9 | 遣る | N 1 ガ N 2 デ 彼は毎月10万円でやっている。 |
| | 1.10 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はまだはしかをやっていない。 |
| | 1.11 | 遣る | N 1 ガ N 2 ヲ その政治家は右翼にやられた。 |
| ゆがむ | 1.1 | 歪む | N 1 ガ (N 2 デ) 風でネクタイが歪んだ。 |
| | 1.2 | 歪む | N 1 ガ (N 2 デ) 飛行機の通過でテレビの画面が歪んだ。 |
| | 1.3 | 歪む | N 1 ガ N 2 ガ N 3 ニ / デ 彼はあまりの頭痛に顔が歪んだ。 |
| | 1.4 | 歪む | N 1 ガ N 2 ガ N 3 カラ / デ 彼は複雑な家庭環境で性格が歪んだ。 |
| ゆきづまる | 1.1 | 行詰る | N 1 ガ N 2 ニ 彼は説明に行き詰まった。 |
| | 1.2 | 行詰る | N 1 ガ (N 2 デ) 事業は資金不足で行き詰まった。 |
| ゆく | 1.1 | 行く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ (N 3 デ) 彼は自転車で学校へ行く。 |
| | 1.2 | 行く | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は山道を行った。 |
| | 1.3 | 行く | N 1 ガ (N 2 ニ / ヘ) N 3 ニ 彼はデパートへ買物に行った。 |
| | 1.4 | 行く | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 彼は某大学へ行っている。 |
| | 1.5 | 行く | N 1 ガ 雲が行く。 |
| | 1.6 | 行く | N 1 カラ N 2 ニ N 3 ガ 会社から家族に連絡が行った。 |
| | 1.7 | 行く | N 1 ガ N 2 ガ それを聞いて彼は納得が行った。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|------|-------|-------|---|
| | 1.8 | 行く | N 1 ガ 計画はうまく行くだろう。 |
| | 1.9 | 行く | N 1 ガ もう3年目の月日が行った。 |
| | 1.10 | 行く | N 1 ト / デ 今夜は鍋料理と行こう。 |
| ゆずる | 1.1 | 譲る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ (N 5) 家元は遺言で息子に家元の名を譲った。 |
| | 1.2 | 譲る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は大事な一戦で後輩に勝ちを譲った。 |
| | 1.3 | 譲る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 委員会は決定を後日に譲った。 |
| | 1.4 | 譲る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 彼は一億円で知人に別荘を譲った。 |
| ゆるす | 1.1 | 許す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 医師は患者に外泊を許した。 |
| | 1.2 | 許す | N 1 ガ N 2 ヲ みんなは彼の気まぐれを許した。 |
| | 1.3 | 許す | N 1 ガ N 2 ヲ 家庭の事情が彼の進学を許さない。 |
| | 1.4 | 許す | N 1 ガ N 2 ヲ 頭が痛いので夜勤を許して下さい。 |
| ゆるむ | 1.1 | 緩む | N 1 ガ (N 2 デ) 湖の氷が気温の上昇で緩んだ。 |
| | 1.2 | 緩む | N 1 ガ (N 2 デ) 彼女の包帯が激しい動作で緩んだ。 |
| | 1.3 | 緩む | (N 1 デ) N 2 ガ 貿易黒字の増加で輸入制限が緩んだ。 |
| | 1.4 | 緩む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼が寝冷えで腹が緩んだ。 |
| | 1.5 | 緩む | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 彼女は暑さで気が緩んだ。 |
| ゆるめる | 1.1 | 緩める | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼はドライバーでねじを緩めた。 |
| | 1.2 | 緩める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はエンジブレーキで車のスピードを緩めた。 |
| | 1.3 | 緩める | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 保安当局は命令系統の混乱で監視の目を緩めてしまった。 |
| ゆれる | 1.1 | 揺れる | N 1 ガ (N 2 ニ) 木の葉が風に揺れている。 |
| | 1.2 | 揺れる | (N 1 デ) N 2 ガ 地震で本棚が揺れた。 |
| | 1.3 | 揺れる | (N 1 デ) N 2 ガ 贈収賄事件で政界が揺れた。 |
| | 1.4 | 揺れる | (N 1 デ) N 2 ガ N 3 ガ 女性問題で彼は心が揺れている。 |
| よう | 1.1 | 酔う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は乗り物に酔う。 |
| | 1.2 | 酔う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は酒に酔った。 |
| | 1.3 | 酔う | N 1 ガ N 2 デ 彼はウイスキーで酔った。 |
| | 1.4 | 酔う | N 1 ガ N 2 ニ 彼は勝利に酔っている。 |
| ようする | 1.1 | 要する | (N 1 ガ) N 2 ニ N 3 ヲ 旅行するには金を要する。 |
| | 1.2 | 要する | N 1 ガ N 2 ヲ 事態は急を要する。 |
| よける | 1.1 | 除ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は煙で害虫を除けた。 |
| | 1.2 | 避ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 船はレーダーで暴風雨を避けた。 |
| | 1.3 | 避ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 カラ N 4 ヲ 彼はすばやい行動で車から身を避けた。 |
| よこぎる | 1.1 | 横切る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 二輪車が線路を横切っている。 |
| | 1.2 | 横切る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ / ヘ) 鳥が目の前を向こう側へ横切った。 |
| よごす | 1.1 | 汚す | N 1 ガ N 2 ヲ タンカーの煙が空気を汚した。 |
| | 1.2 | 汚す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ タンカーが煙で空気を汚した。 |
| よごれる | 1.1 | 汚れる | N 1 ガ (N 2 ニ / デ) 手足が泥で汚れた。 |
| | 1.1 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ / ヘ 彼が本をテーブルの端へ寄せた。 |
| よせる | 1.2 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 乳児が母親の胸もとに顔を寄せた。 |
| | 1.3 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は額にしわを寄せた。 |
| | 1.4 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 読者が新聞社に意見を寄せた。 |
| | 1.5 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女が彼に好意を寄せた。 |
| | 1.6 | 寄せる | N 1 ガ N 2 ニ 波が岸に寄せている。 |
| | よびかける | 1.1 | 呼び掛ける |
| 1.2 | | 呼び掛ける | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ニ N 4 ヲ 市の防災課は街頭スピーカーで住民に注意を呼び掛けた。 |
| よぶ | 1.1 | 呼ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ト (N 4 デ) この現象を専門用語でブラウン運動と呼ぶ。 |
| | 1.2 | 呼ぶ | N 1 ガ (S ト) N 2 ヲ 妻が夫を「あなた」と呼んだ。 |
| | 1.3 | 呼ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ (N 5 デ) 彼は援軍を本社から渋谷支店に電話で呼んだ。 |
| | 1.4 | 呼ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) (N 4 ニ / ヘ) N 5 ニ 彼は友達をパーティーに呼んだ。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|------|-----|---|
| よむ | 1.5 | 呼ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ 塩は湿気を呼ぶ。 |
| | 1.1 | 読む | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) 彼は教科書を大声で読んだ。 |
| | 1.2 | 読む | N 1 ガ N 2 ヲ 私は新聞で彼の記事を読んだ。 |
| | 1.3 | 読む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は票を読んだ。 |
| | 1.4 | 読む | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は相手の心理を読んだ。 |
| | 1.5 | 詠む | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 詩人は花の美しさを一編の詩に詠んだ。 |
| よる | 1.6 | 詠む | N 1 ガ N 2 ヲ 一茶は数多くの俳句を詠んだ。 |
| | 1.1 | 因る | N 1 ガ N 2 ニ 昇進は勤続年数に因る。 |
| | 1.2 | 因る | N 1 ニ 専門家に因れば近々地震が起こる。 |
| よる | 1.3 | 因る | N 1 ガ N 2 ニ 幸福は考えように因る。 |
| | 2.1 | 寄る | N 1 ガ (N 2) 女が二人寄れば着物の品定めだ。 |
| | 2.2 | 寄る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ この船は途中方々の港へ寄る。 |
| よるこぶ | 2.3 | 寄る | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼女は笑うと目尻にしわが寄る。 |
| | 1.1 | 喜ぶ | N 1 ガ N 2 ヲ 母親は息子の無事を喜んだ。 |
| よわる | 1.1 | 弱る | (N 1 ガ) N 2 ニ 彼の話好きには弱った。 |
| | 1.2 | 弱る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ガ 病人は暑さですっかり足腰が弱った。 |
| ろんじる | 1.1 | 論じる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 教授が学生に哲学を論じる。 |
| | 1.2 | 論じる | N 1 ガ N 2 ヲ 彼らは深夜まで文学を論じた。 |
| | 1.3 | 論じる | N 1 ガ S ト 彼は大体この世の中がおかしいんだと一人で論じていた。 |
| わかす | 1.1 | 沸す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は今でも薪で風呂を沸している。 |
| | 1.2 | 沸す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼はやかんで湯を沸した。 |
| | 1.3 | 沸す | N 1 ガ N 2 ヲ 両チームの熱戦は観衆を沸した。 |
| | 1.4 | 沸す | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 両チームが接戦で観衆を沸した。 |
| わかる | 1.1 | 分る | N 1 ガ / N 2 ニ ガ あなたはその問題が分かりますか。 |
| | 1.2 | 分る | (N 1 ガ / N 2) N 2 ガ 他の人々は事情が分かっていた。 |
| | 1.3 | 分る | N 1 ガ / N 2 ニ ガ 彼はものの道理が分からない。 |
| | 1.4 | 分る | N 1 ガ / N 2 ガ 私はシェンベルクは解らない。 |
| | 1.5 | 分る | (N 1 ガ / N 2) N 2 ガ 人間には未来は分からない。 |
| わかれる | 1.1 | 別れる | N 1 ガ N 2 ト 私は駅で友達と別れた。 |
| | 1.2 | 別れる | N 1 ガ N 2 カラ / ト 私は妻と別れた。 |
| | 1.3 | 分れる | N 1 ガ N 2 ニ 出席者は三つのグループに分かれた。 |
| | 1.4 | 分れる | N 1 ガ N 2 ニ 意見が真二つに分かれた。 |
| | 1.5 | 分れる | N 1 ガ N 2 カラ / ト この道は本道から分かれている。 |
| | 1.6 | 分れる | N 1 ガ N 2 ニ 枝が二つに分かれている。 |
| | 1.7 | 分れる | N 1 ガ N 2 ニ 昆虫の体は頭・胸・腹に分かれている。 |
| わきまえる | 1.1 | 弁える | N 1 ガ N 2 ヲ 彼は道理を弁えている。 |
| わく | 1.1 | 沸く | N 1 ガ 風呂が沸いた。 |
| | 1.2 | 沸く | N 1 ガ 湯が沸いた。 |
| | 1.3 | 沸く | N 1 ニ / デ N 2 ガ 彼の演説で場内が沸いた。 |
| | 1.4 | 涌く | N 1 ニ N 2 ガ 干物にうじが湧いている。 |
| | 1.5 | 涌く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼は胸に新たな希望が湧いた。 |
| | 1.6 | 涌く | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ガ 彼は言語学に興味が湧いてきた。 |
| わける | 1.1 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はりんごを二つに分けた。 |
| | 1.2 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼はりんごを産地別に分けた。 |
| | 1.3 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼は髪を七三に分けている。 |
| | 1.4 | 分ける | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼女は近所にお土産に分けた。 |
| | 1.5 | 分ける | N 1 ガ N 2 ト N 3 ヲ 兄は弟とお菓子を分けた。 |
| | 1.6 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 彼女は料理を小皿に分けた。 |
| | 1.7 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 出資者が利益に分けた。 |
| | 1.8 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ 上司が部下達のけんかを分けた。 |
| | 1.9 | 分ける | N 1 ヲ 彼は人波を分けながら銀座を歩いた。 |
| | 1.10 | 分ける | N 1 ガ N 2 ヲ 運命が二人を分けた。 |
| わすれる | 1.1 | 忘れる | N 1 ガ N 2 ヲ 老人は昔の事を忘れた。 |
| | 1.2 | 忘れる | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 ニ) 彼は電車の中に傘を忘れた。 |
| | 1.3 | 忘れる | N 1 ガ N 2 ヲ 子供が宿題を忘れた。 |

| 見出し | 番号 | 表記 | 文型 文例 |
|-------|-----|------|---|
| わたす | 1.1 | 渡す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 業者が川に橋を渡した。 |
| | 1.2 | 渡す | N 1 ガ N 2 カラ N 3 ニ / ヘ N 4 ヲ 彼は枝から枝へ綱を渡した。 |
| | 1.3 | 渡す | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 カラ) N 4 ニ / ヘ 船頭は船を向こう岸へ渡した。 |
| | 1.4 | 渡す | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は彼女に本を渡した。 |
| わたる | 1.1 | 渡る | N 1 ガ N 2 ヲ (N 3 デ) (N 4 カラ) (N 5 ニ / ヘ) 青年がヨットで大西洋を渡った。 |
| | 1.2 | 渡る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 雁がシベリアを渡る。 |
| | 1.3 | 渡る | N 1 ガ N 2 ニ / ヘ 仏教は6世紀に日本へ渡った。 |
| | 1.4 | 渡る | N 1 ガ N 2 ヲ 風が木立ちを渡る。 |
| | 1.5 | 渡る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はひとりで世間を渡っている。 |
| | 1.6 | 渡る | N 1 ガ (N 2 カラ) N 3 ニ / ヘ 屋敷が債権者に渡った。 |
| わたる | 2.1 | 亘る | N 1 ガ N 2 ニ 調査は3年に亘った。 |
| | 2.2 | 亘る | N 1 ガ N 2 ニ 調査は多岐に亘った。 |
| わびる | 1.1 | 詫びる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 彼は友人に無沙汰を詫びた。 |
| わらう | 1.1 | 笑う | N 1 ガ 彼は大声で笑った。 |
| | 1.2 | 笑う | N 1 ガ N 2 ヲ 彼女が彼の態度を笑った。 |
| わりあてる | 1.1 | 割当てる | N 1 ガ N 2 ニ N 3 ヲ 母が子供達に家の仕事を割り当てた。 |
| わる | 1.1 | 割る | N 1 ガ (N 2 デ) N 3 ヲ 彼は窓ガラスを割った。 |
| | 1.2 | 割る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼は掛かった費用を人数で割った。 |
| | 1.3 | 割る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 ニ 学校は六年生を4クラスに割った。 |
| | 1.4 | 割る | N 1 ガ N 2 ヲ 今年の大学受験者総数は50万人を割った。 |
| | 1.5 | 割る | N 1 ガ N 2 ヲ N 3 デ 彼女はいつもウイスキーをコーラで割る。 |
| | 1.6 | 割る | N 1 ガ N 2 ヲ 彼はタクシーを待つ人の列を割って子供を入れた。 |
| われる | 1.1 | 割れる | (N 1 デ) N 2 ガ 地震でガラスが割れた。 |
| | 1.2 | 割れる | (N 1 デ) N 2 ガ (N 3 ニ) 会議で意見が三つに割れた。 |

参考文献

ここでは、I P A L 作成の関係者が発表した論文のみを収録した。一般の図書・論文はそれぞれの論文において参照されているので、改めて記載しない。

〔外部発表〕

- 村田賢一、村木新次郎 「日本語処理汎用レキシコン」、『情報処理学会第25回全国大会論文集』, pp.1119-1120, (1982.10)
- 仁田善雄 「動詞とアスペクト—語彙論的統語論の観点から—」, 『計量国語学』, Vol.14, No.3, pp113-128, (1983)
- 村木新次郎, 青山文啓, 六条範俊, 村田賢一 「辞書における格情報の記述」, 『情報処理学会自然言語処理研究会資料 46-3』, pp1-8, (1984.12)
- 村木新次郎 「述語素による動詞の分類」, 『情報処理学会自然言語処理研究会資料 48-5』, pp1-6, (1985.3)
- 村田賢一, 村木新次郎 「日本語基本動詞辞書」, 『情報処理学会第31回全国大会論文集』, pp.1373-1374, (1985-9)
- 村田賢一, 村木新次郎, 須田直英, 橋本三奈子 「計算機用日本語基本動詞辞書について—その分析と評価—」, 『情報処理学会第32回全国大会論文集』, pp.1575-1578, (1986.3)
- 村田賢一, 須田直英, 橋本三奈子 「計算機用自然言語辞書実用化の諸問題」, 『情報処理学会第33回全国大会論文集』, pp1819-1820, (1986.10)

〔技術センター発表会〕

- 六条範俊, 加藤三奈子, 村田賢一 「計算機用日本語辞書における構文・意味情報の述語素による記述」, 『情報処理振興事業協会技術センター第3回発表会論文集』, pp.35-39, (1984.10)
- 六条範俊 「I P A における計算機用日本語基本動詞辞書の試作」, 『情報処理振興事業協会技術センター第4回発表会論文集』, pp135-141, (1985.10)
- 須田直英, 小島幸子 「サ変動詞をめぐる2, 3の考案—計算機用辞書に収録する観点から—」, 『情報処理振興事業協会技術センター第5回発表会論文集』, pp.132-141, (1986.11)

〔技術センター報告書〕

『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—1』, STC 56 調-001, (1982)

- 荻野綱男 「名詞と動詞の結合の数理的取り扱い—「～を～する」をめぐる—」 pp.3-10
- 久保進 「自然言語処理用汎用辞書編集の要件」, pp.11-14.
- 外池滋生 「文法におけるレキシコンと計算機用レキシコン」, pp.15-18.
- 成田徹男 「格 (Case) をめぐって」, pp.19-21.
- 仁田義雄 「動詞の辞書記述に向けて」, pp.22-25.
- 村木新次郎 「辞書における見出しのレベルと Syntagmatic な特徴について」, pp.26-28.

『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究—5—計算機用レキシコンのために—』 56 枝-029, (1983)

- 荻野綱男 「シソーラスについて」, pp.1-62,
- 久保進 「選別副詞と動詞(句)の分類」, pp63-92.
- 外池滋生 「辞書と空範疇—日本語における痕跡—」, pp.93-116.
- 外池滋生 「態を軸とした動詞分類試案」, pp.117-132.
- 中道知子 「形容詞の諸特性」, pp.133-158.
- 成田徹男 「格による動詞分類の試み—自然言語処理用レキシコンのために—」, pp.159-182.

- 仁田義雄 「アスペクトについての動詞小レキシコン」, pp.183-228.
村木新次郎 「現代日本語形態論(1)」, pp.229-314.
山本清隆 「複合語の構造とシンタクス」, pp.315-380.

「ソフトウェア文書のための日本語処理の研究— 7 — 計算機用レキシコンのために(2)
—」 60 枝-060, (1986)

- 村木新次郎 「述語素について」, pp.1-102.
仁田義雄 「格体制と動詞のタイプ」, pp.103-214.
久保進 「メタ言語による機械翻訳用二言語併用辞書の作成」, pp.215-262.
外池滋生 「名詞句の解釈」, pp.263-288.
荻野綱男 「シソーラスの作成法」, pp.289-340.
中道知子 「形容詞をめぐる二,三の問題について」, pp.341-352.
青山文啓 「体言と用言の結ぶ二つの関係：態格性と対称性」, pp.353-380.

「ソフトウェア文書のための日本語処理研究— 8 — I P A L 補完文法—」
61 枝-072, (1987)

- 村木新次郎 「動詞の文法的カテゴリー」, pp.1-22.
外池滋生 「ヴィオスについて」, pp.23-48.
仁田義雄 「テンス・アスペクトの文法」, pp.49-136.
久保進 「ムードの文法」, pp.137-170.
成田徹男 「ムードについて—「概言」を中心に—」, pp.171-190.
井口厚夫 「格形式の交替」, pp.191-204.
荻野綱男 「名詞辞書に含まれるべき見出しの範囲—特に複合名詞の扱いをめぐ
つて—」, pp.205-222.

あとがき

I P A L は、わずか 8 6 1 語の動詞を収録した小辞書であり、内容的にも荒削りで、細部に問題点も少なくない状態ではありますが、与えられた研究期間が終了したので、公開することになりました。

本辞書の利用者におかれては、これがあくまで試作品であることを御理解の上、有効利用をお願い致します。

本辞書の意義は幸いにして多くの方々にお認めいただき、今後動詞の数もふやし、他の品詞、特に名詞の辞書も試作するようにと多数の要望と激励をうけました。

しかしながら、情報処理振興事業協会技術センターにおける研究の基本的性格の制約上、本辞書に関する作業はこの時点で打ち切られることになりました。われわれは、現在、次のステップとして、本辞書では取り扱わなかった、計算機向きのフォーマルな意味記述の研究に専念しています。なお、本辞書を有効に利用するための補完的文法については、引き続き研究を行い、その成果の一部は昭和 6 2 年 3 月に一冊の報告書として出版しました。更に、昭和 6 1 年度の研究の一部として、漢語サ変動詞約 5 0 0 語についての記述の試作を行い、われわれの枠組みで容易に記述が行えることを確認しました。

わずかこれだけの辞書ですが、試作にあたってはそれなりの苦労がありました。最近「電子化辞書」等々の名称で計算機用辞書への関心が高まっており、今後いろいろところでわれわれがやったような作業が行われる模様なので、他山の石としていただけるように、われわれの体験を思いつくままに極く簡潔に述べておきます。

(1) 辞書記述の枠組み作成

文法理論と辞書は相互補完的存在であって、両者が揃ってはじめて一つの言語の文法的記述が可能になります。大変不幸なことには、十分な記述能力をもち、かつ、多数の研究者を納得させるに足る有力な日本語の文法理論は、未だに存在しません。われわれは、学問的立場も伝統も異なる研究者と共に、皆が納得できるような記述の枠組みを模索し、多大の労力を費しました。委員会形式の制約もあって、この作業のために全期間の半分近くを要しました。

(2) 学際研究の困難さ

「云うは易く行うは難し」の見本の第一に学際研究をあげるべきでしょう。学問的伝統の相違によって、用語の違いは云うに及ばず、価値観の相違もあって、長期にわたって学際研究を行い、何らかの成果を産み出すには多大の困難がありました。

(3) 言語を記述することの困難さ

langue と parole の古典的な対立関係からも考えられるように、個々の執筆者の過去・現在の言語環境の影響があって、客観的な記述を得るには複数人によるチェックなど種々の工夫を必要としました。

(4) データの不足

われわれは 1 8 0 0 万字程度のデータ（新聞記事、教科書、参考書、文法書等）を収集し、各種の分析を試みましたが、データに基づいて辞書をつくるということに関しては甚だ不十分であったと反省しています。

(5) 有能な執筆者確保の困難さ

これには (a) 執筆者の供給不足、(b) 執筆者の適正な処遇の 2 つの問題があります。後者に関しては、臨時ワーキング委員制度を設けていただき、何とか切り抜けることができました。なお、この制度は前例のないものであり、その導入と運用にあたっては当協会に大変お世話になりました。

(6) 社会的評価

大変不幸なことに辞書の業績に対する社会的評価は我国に於てはあまり高くありません。学問的な業績としても辞書は普通考慮されないようです。情報処理産業においてもプログラム一般とは異なるので、その取り扱いにとまどいがみられます。

このような社会の一般的風潮の中にあつて、本プロジェクトの意義を積極的に評価し、推進していただいた通産省及びIPAの各位に感謝致します。

なお、本書の冒頭でも述べたように、本辞書は実に多くの方々の御指導と御協力によって出来上がったものであり、末尾になりましたが、これらの方々に改めてお礼を申し上げます。

特別研究員 村田賢一
研究員 須田直英
研究員 橋本三奈子

不許複製 禁無断転載

© 情報処理振興事業協会 1987

昭和62年3月初版第1刷 発行

昭和62年6月初版第2刷 発行

定価 1,300円

発行者 〒105 東京都港区芝公園三丁目1番38号

秀和芝公園三丁目ビル6階

情報処理振興事業協会

技術センター

電話番号 (03) 437-2301

報告書番号 61枝-073